

2023/12

・ハイベースNEO工法
 (角形鋼管柱用□450~□550)

採用	適用柱	ハイベースNEO型式		アンカーボルト	回転バネ定数 X10 ⁴ kl・m/rad	寸法 (mm)											質量 (kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎柱形の設計例(Fc27) < 側・隅柱用 >		基礎柱形の設計例(Fc27) < 中柱用(4方向から基礎梁が取り付けられる場合のみを示す。) >													
						A C1 C2 C3 - - - t2											アンカー	部品	セット質量			Iゾーン		Iゾーン		鉄筋の定着長さ Lt (mm)	Iゾーン		Iゾーン		鉄筋の定着長さ Lt (mm)						
						h(mm)	hc(mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋			柱形 b (mm)	主筋量	帯筋													
	□450	9~40	KB450-8-42	8-M42	297	730	620	400	-	-	-	70	293	141	434	840	160	1100以上	200	950	24-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	630	950	24-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	630	
	□500	9~40	KB500-12-42	12-M42	467	820	680	650	400	-	-	70	370	207	577	840	160	1100以上	200	1050	20-D29	4-D16@100	1050	32-D29	4-D16@100	570	1050	20-D29	4-D16@100	1050	32-D29	4-D16@100	570	1050	20-D29	4-D16@100	570
	□550	9~40	KB550-12-42	12-M42	606	870	730	700	450	-	-	70	416	208	624	840	160	1100以上	200	1100	24-D29	4-D16@100	1100	32-D29	4-D16@100	570	1100	24-D29	4-D16@100	1100	32-D29	4-D16@100	570	1100	24-D29	4-D16@100	570

高強度柱適用タイプ(KB型式)を追加

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
 注 1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注 2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
 注 3) 表中の鉄筋量は基礎梁上がりがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに準じ、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注 4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のおぼろげな筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。
 注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

大臣認定 MSLT-0566,0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート)
 MBLT-0042~0046 (アンカーボルトセット)
 BCJ認定 BCJ認定-ST0058 (Gタイプ)
 BCJ認定-ST0059 (Eコタイプ、高強度柱適用タイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計施工ハンドブックに準拠する。

2023/12 高強度柱適用タイプ(KB型式)を追加

1. 材質
 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
 Eコタイプ(EB型式、EM型式、EH型式) 高強度柱適用タイプ(KB型式)

規格	ベースプレート Eコタイプ 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト HAB (大臣認定取得材)	エコナット Eコナット (大臣認定取得材)	ナット JIS B1181 (六角ナット)	座金 JIS G3106	定着板 JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B,C	TMCP385B,C 降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A	SS400

Eコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。
 Gタイプ(GB型式、GM型式、GH型式)

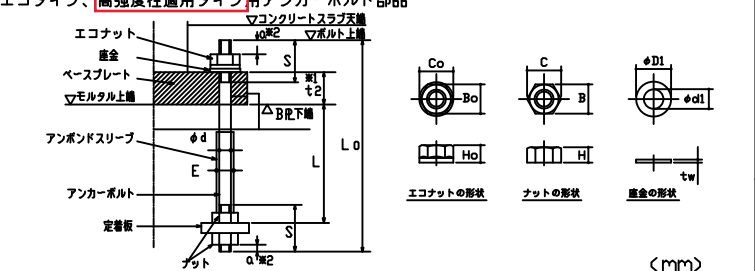
規格	ベースプレート Hコタイプ (大臣認定取得材)	アンカーボルト HAB (大臣認定取得材)	ナット JIS B1181 (六角ナット)	座金 JIS G3106	定着板 JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5(二重ナット時) 強度区分6(一重ナット時)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定(MSLT-0566, 0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定(MBLT-0042~0046)
 ※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル
 後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル*
 中心塗部分モルタル O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル(NX-2000及びクイック3は使用不可。)
 O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

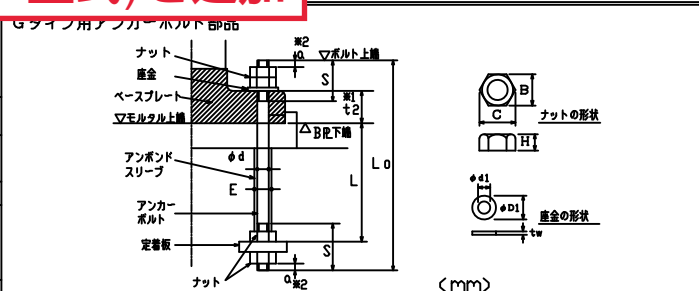
(3) 基礎・基礎ばり
 コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
 O設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$
 鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
 柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		エコナット		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	30	24	30	24	30	24	30	24	30
M30	30	35	30	35	30	35	30	35	30	35
M36	36	40	36	40	36	40	36	40	36	40
M42	42	45	42	45	42	45	42	45	42	45
M48	48	50	48	50	48	50	48	50	48	50
M56	56	55	56	55	56	55	56	55	56	55
M64	64	60	64	60	64	60	64	60	64	60
M72	72	65	72	65	72	65	72	65	72	65

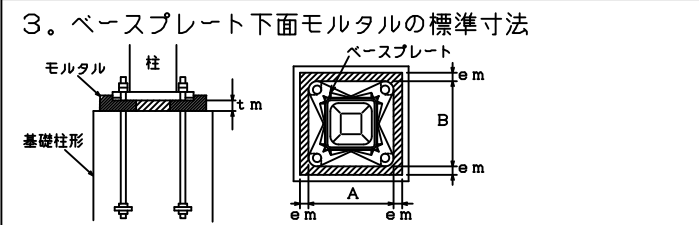
※1 t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
 ※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
 施工時は、ねじが最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
 ※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、Eコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。
 △注意
 ・Eコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしており、ゆるみ止め処理としてコンクリートスラブで保護してください。
 ・コンクリートによる腐蝕を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処理が必要です。
 ・その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセクシアにご相談ください。
 ・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	30	24	30	24	30	24	30
M30	30	35	30	35	30	35	30	35
M36	36	40	36	40	36	40	36	40
M42	42	45	42	45	42	45	42	45
M48	48	50	48	50	48	50	48	50
M56	56	55	56	55	56	55	56	55
M64	64	60	64	60	64	60	64	60
M72	72	65	72	65	72	65	72	65

△注意
 ・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処理が必要です。
 ・(一重ナットとする場合は、セクシアにご相談ください。)

ねじの呼び	4本タイプ用		8本タイプ用		12本タイプ用	
	長さ	径	長さ	径	長さ	径
M24	16	70	27	—	—	—
M30	16	90	33	9	180	65
M36	19	100	39	9	215	75
M42	22	120	45	9	240	85
M48	25	140	52	9	270	95
M56	28	160	60	9	305	110
M64	32	180	68	12	340	130
M72	—	—	—	16	380	145



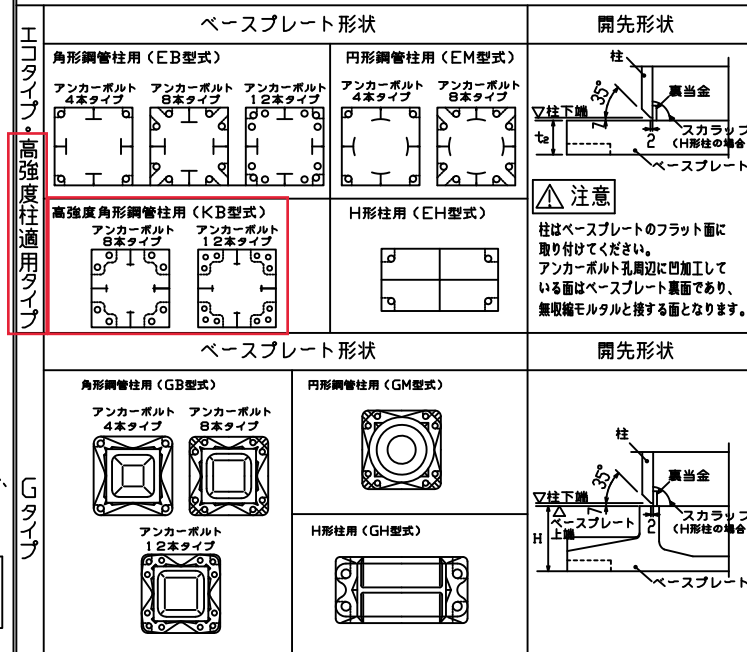
各部分名称	寸法	備考
中心塗部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e)	e ≥ 30mm	許容範囲 e ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)
 △注意
 基礎柱形主筋の定着長さ (L_t) は、定着板上面に境にして上下とも確保する必要があります。

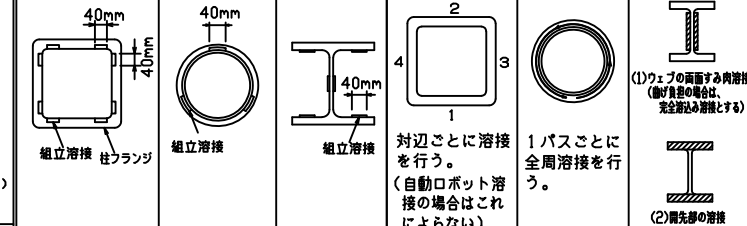
工場加工

1. 溶接材料
 被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
 ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する
 ※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



3. 組立溶接
 角形鋼管 円形鋼管 H形
 4. 本溶接の手順
 角形鋼管 円形鋼管 H形

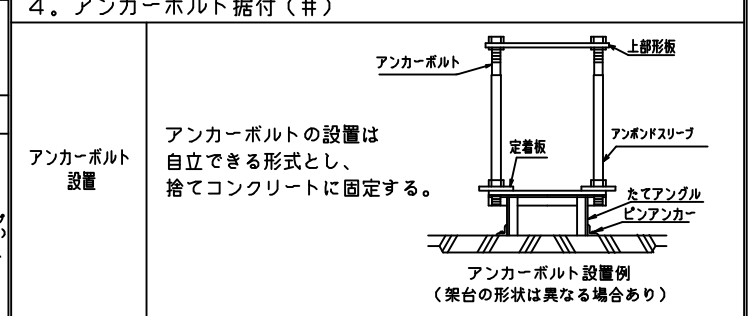


5. 溶接施工一般
 予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
 余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。
 H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

6. 検査
 方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
 不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

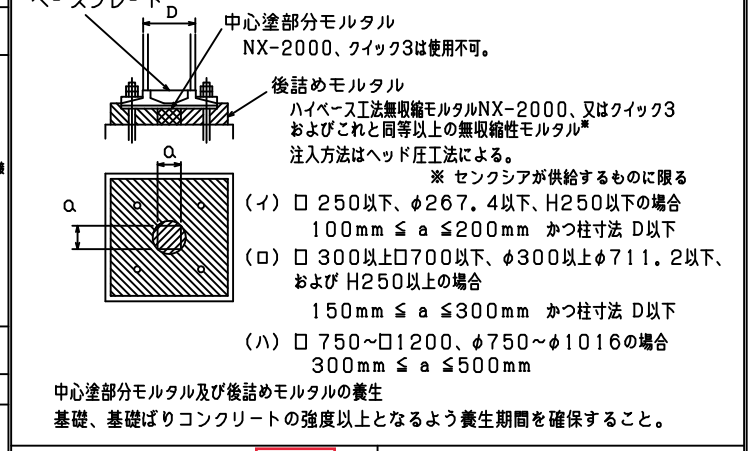
現場施工 (※): セクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
 2. 墨出し
 3. アンカーボルト搬入 (＃)
 4. アンカーボルト据付 (＃)



アンカーボルト設置
 アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。
 アンカーボルト設置例 (架台の形状は異なる場合あり)
 アンカーボルト設置精度の目標値
 基準高さよりの誤差 eh
 $-3\text{mm} \leq eh \leq 10\text{mm}$
 (形板芯にて検査)

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
 6. 基礎コンクリート打設
 基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。
 7. 中心塗部分モルタル施工

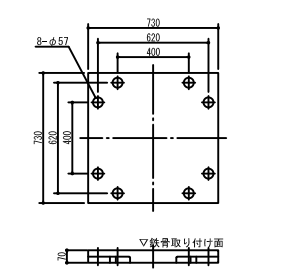
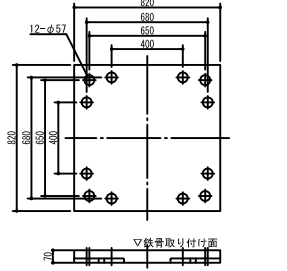
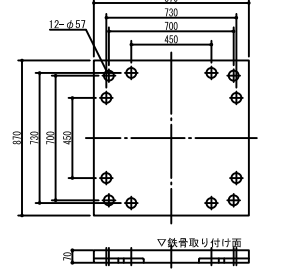
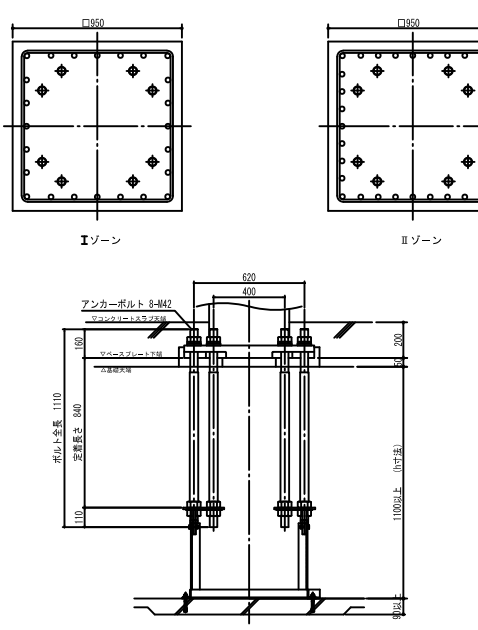
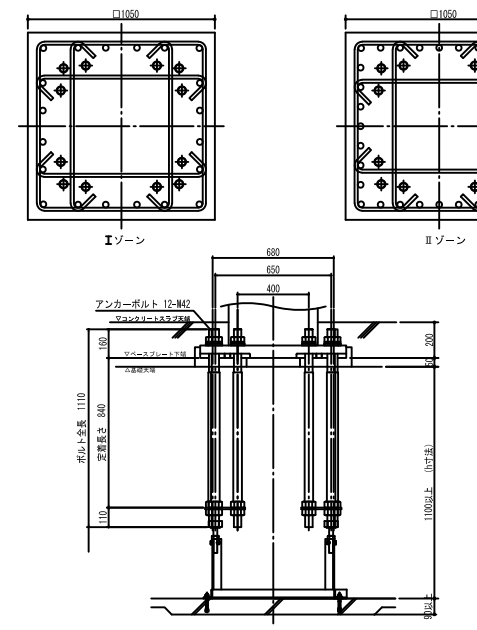
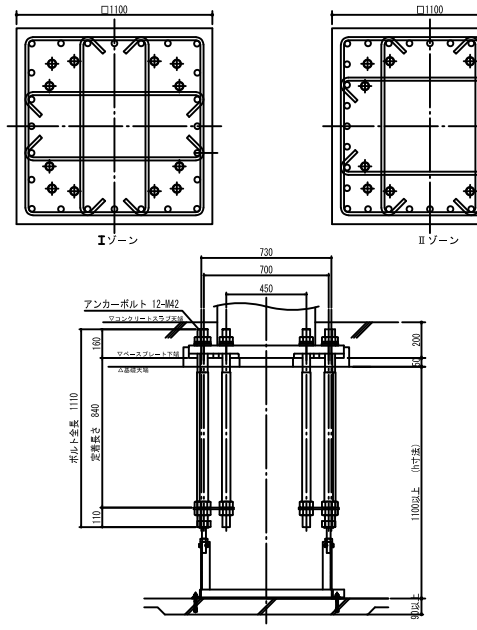


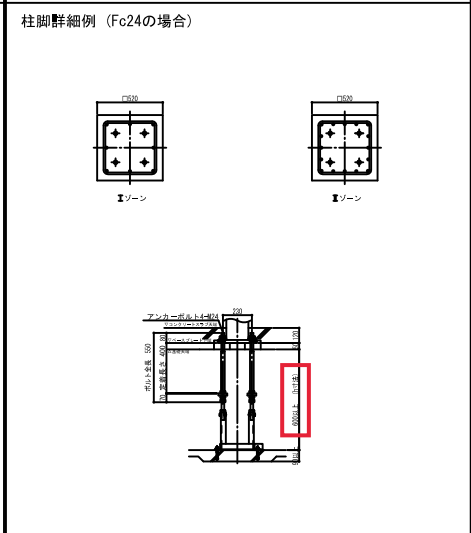
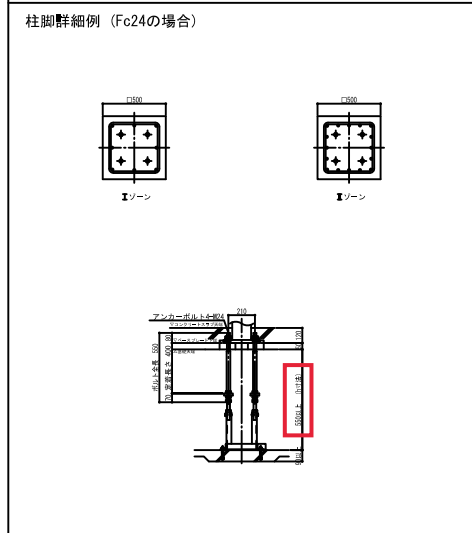
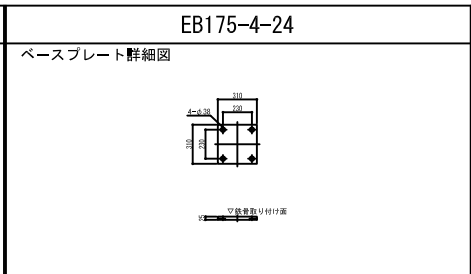
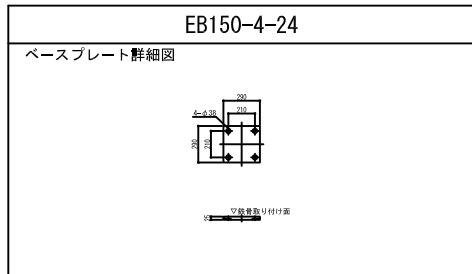
後詰めモルタル
 ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル*
 注入方法はヘッド圧工法による。
 ※ セクシアが供給するものに限る
 (イ) □ 250以下、φ 267、4以下、H 250以下の場合
 $100\text{mm} \leq a \leq 200\text{mm}$ かつ柱寸法 D 以下
 (ロ) □ 300以上φ 700以下、φ 300以上φ 711、2以下、および H 250以上の場合
 $150\text{mm} \leq a \leq 300\text{mm}$ かつ柱寸法 D 以下
 (ハ) □ 750~□ 1200、φ 750~φ 1016の場合
 $300\text{mm} \leq a \leq 500\text{mm}$
 中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方
 アンカーボルト締付
 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締付けを行う。
 9. モルタル注入枠設置 (＃)
 後詰めモルタル充填 (＃)
 アンカーボルト締付確認 (＃)
 ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。
 10. アンカーボルト締付 (＃)
 予備締め
 マーキング
 ナット回転法による本締め
 $(30^\circ \text{回転、許容差: } +10^\circ)$
 11. モルタル注入枠取り外し
 施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

セクシア株式会社 URL <https://www.senqcia.co.jp/>
 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

△注意
 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、セクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの認定で義務付けられています。)
 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
 3. 設置後のアンカーボルトのねじは打ちきりやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
 4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

KB450-8-42	KB500-12-42	KB550-12-42																																																																																																																															
<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 																																																																																																																															
<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 																																																																																																																															
<table border="1"> <tr> <td>適用柱</td> <td colspan="6">角形鋼管柱 □450 (板厚範囲: 9~40mm)</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td colspan="6">8-M12</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">Iゾーン</td> <td colspan="3">IIゾーン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>950</td> <td>24-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> <td>950</td> <td>32-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>950</td> <td>24-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> <td>950</td> <td>32-D25 (SD345)</td> <td>■-D13#100 (SD295)</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をD13#250として算定しています。あはら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱	角形鋼管柱 □450 (板厚範囲: 9~40mm)						アンカーボルト	8-M12							Iゾーン			IIゾーン				柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	<側・隅柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	<中柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	<table border="1"> <tr> <td>適用柱</td> <td colspan="6">角形鋼管柱 □500 (板厚範囲: 9~40mm)</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td colspan="6">12-M12</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">Iゾーン</td> <td colspan="3">IIゾーン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1050</td> <td>20-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1050</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1050</td> <td>20-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1050</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をD13#250として算定しています。あはら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱	角形鋼管柱 □500 (板厚範囲: 9~40mm)						アンカーボルト	12-M12							Iゾーン			IIゾーン				柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	<側・隅柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	<中柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	<table border="1"> <tr> <td>適用柱</td> <td colspan="6">角形鋼管柱 □550 (板厚範囲: 9~40mm)</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td colspan="6">12-M12</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">Iゾーン</td> <td colspan="3">IIゾーン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> <td>柱形</td> <td>基礎柱形主筋</td> <td>帯筋</td> </tr> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1100</td> <td>24-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1100</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1100</td> <td>24-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> <td>1100</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>■-D16#100 (SD295)</td> </tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をD13#250として算定しています。あはら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱	角形鋼管柱 □550 (板厚範囲: 9~40mm)						アンカーボルト	12-M12							Iゾーン			IIゾーン				柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	<側・隅柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	<中柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	
適用柱	角形鋼管柱 □450 (板厚範囲: 9~40mm)																																																																																																																																
アンカーボルト	8-M12																																																																																																																																
	Iゾーン			IIゾーン																																																																																																																													
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋																																																																																																																											
<側・隅柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)																																																																																																																											
<中柱用>	950	24-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)	950	32-D25 (SD345)	■-D13#100 (SD295)																																																																																																																											
適用柱	角形鋼管柱 □500 (板厚範囲: 9~40mm)																																																																																																																																
アンカーボルト	12-M12																																																																																																																																
	Iゾーン			IIゾーン																																																																																																																													
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋																																																																																																																											
<側・隅柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											
<中柱用>	1050	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1050	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											
適用柱	角形鋼管柱 □550 (板厚範囲: 9~40mm)																																																																																																																																
アンカーボルト	12-M12																																																																																																																																
	Iゾーン			IIゾーン																																																																																																																													
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋																																																																																																																											
<側・隅柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											
<中柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)																																																																																																																											



適用柱		角型鋼管柱 □150 (板厚鋼管4.5~12mm)					
アンカーボルト		4-φ24					
アンカーボルト	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要長さ (L1)	
		柱径	基礎柱形主筋	柱径	基礎柱形主筋		
〈棟・梁柱用〉	500	φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	500	1φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	200
〈中柱用〉	500	φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	500	1φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	200

注1) Iゾーン分についてはハイベース(配筋)ハンドブックの各型式の配筋図を参照下さい。
 注2) 重中鉄筋量は基礎立ち上りのない場合、基礎が完成した状態が一致する場合の配筋例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎径のあがら範囲(100mm)として算定しています。あがら範囲面積がこれよりも小さくなる場合、あがら範囲がこれより大きくなる場合は、基礎径の鉄筋量として下さい。
 注4) H寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は重中H寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは、軸間距離は一律です。アンカーボルトサイズ等の詳細な仕様と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、重中の寸法以上確保して下さい。(上節下節共通)

適用柱		角型鋼管柱 □175 (板厚鋼管4.5~12mm)					
アンカーボルト		4-φ24					
アンカーボルト	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要長さ (L1)	
		柱径	基礎柱形主筋	柱径	基礎柱形主筋		
〈棟・梁柱用〉	520	φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	520	1φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	190
〈中柱用〉	520	φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	520	1φ-016 (S2295)	D13φ150 (S2295)	190

注1) Iゾーン分についてはハイベース(配筋)ハンドブックの各型式の配筋図を参照下さい。
 注2) 重中鉄筋量は基礎立ち上りのない場合、基礎が完成した状態が一致する場合の配筋例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎径のあがら範囲(100mm)として算定しています。あがら範囲面積がこれよりも小さくなる場合、あがら範囲がこれより大きくなる場合は、基礎径の鉄筋量として下さい。
 注4) H寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は重中H寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは、軸間距離は一律です。アンカーボルトサイズ等の詳細な仕様と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、重中の寸法以上確保して下さい。(上節下節共通)

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外部基礎はりタイプ

はり主筋	2	3	4	5
D16	230~290	290~330	330~380	380~440
D19	240~290	290~340	340~390	390~440
D22	250~300	300~350	350~400	400~450

柱形中心基礎はりタイプ

はり主筋	2	3	4	5
D16	230~290	290~330	330~380	380~440
D19	240~290	290~340	340~390	390~440
D22	240~300	300~350	350~400	400~450

注1) 上野柱主筋について、柱主筋はIゾーンの鉄筋量です。
 鉄筋上、IIゾーンの鉄筋量となる場合は、柱主筋と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

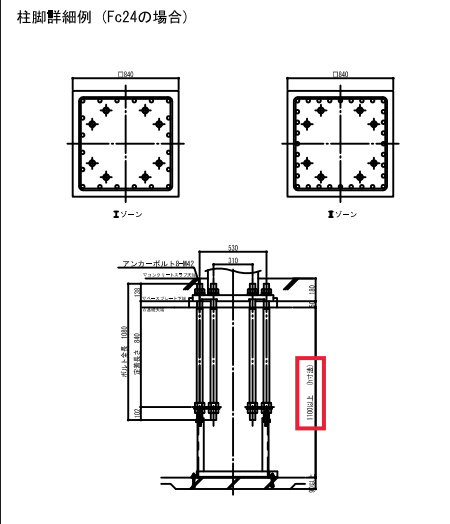
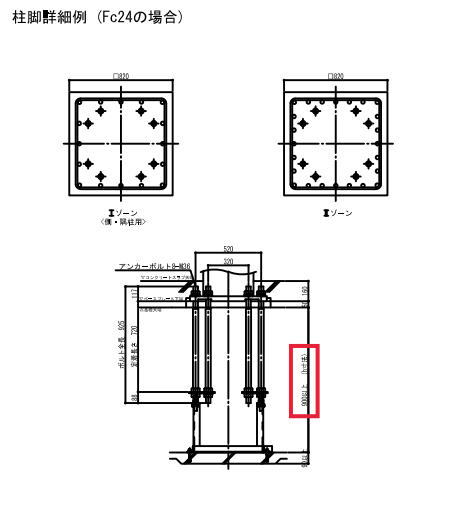
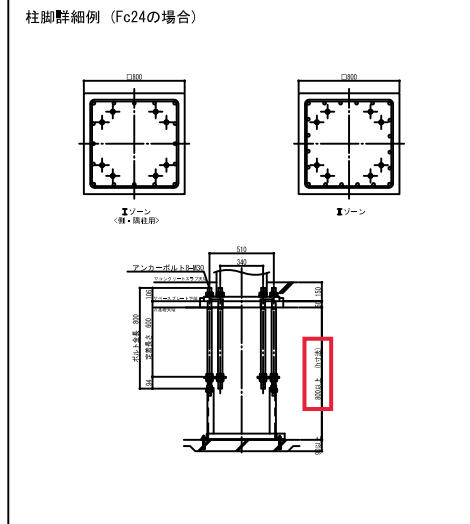
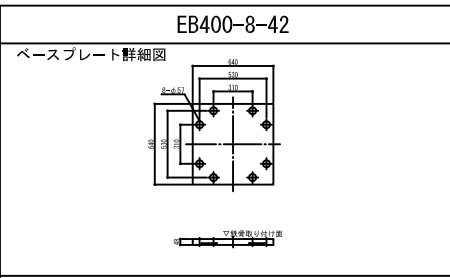
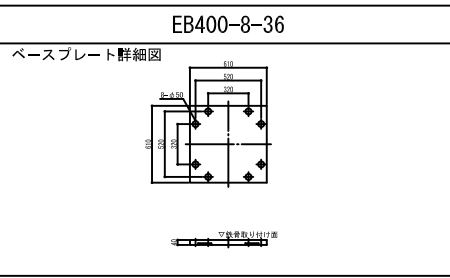
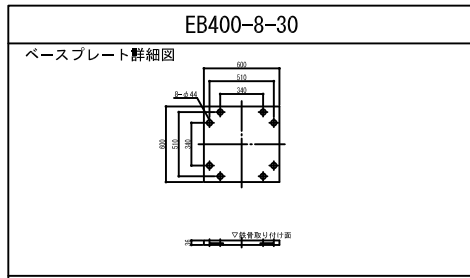
柱形外部基礎はりタイプ

はり主筋	2	3	4	5
D16	230~290	290~330	330~380	380~440
D19	240~290	290~340	340~390	390~440
D22	250~300	300~350	350~400	400~450

柱形中心基礎はりタイプ

はり主筋	2	3	4	5
D16	230~290	290~330	330~380	380~440
D19	240~290	290~340	340~390	390~440
D22	240~300	300~350	350~400	400~450

注1) 上野柱主筋について、柱主筋はIIゾーンの鉄筋量です。
 鉄筋上、Iゾーンの鉄筋量となる場合は、柱主筋と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。



通用柱		角形鋼管柱 □400 (壁厚範囲：9~25mm)					
アンカーボルト		h=400					
種別	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定尺長さ(L)	
		縦横柱筋	等筋	縦横柱筋	等筋		
〈棟・間柱筋〉	400	16-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	800	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	450
〈中柱筋〉	800	12-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	800	20-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	450

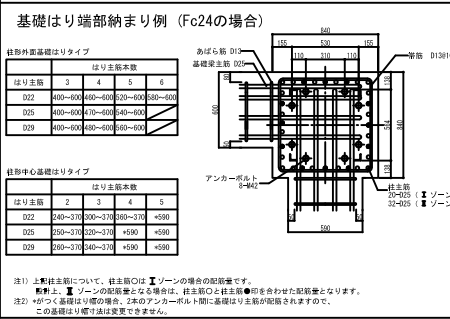
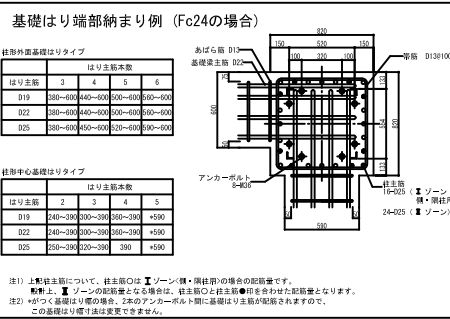
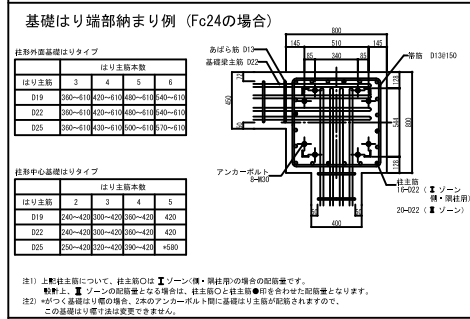
注1) Ⅰゾーン分についてはハイバース(縦横)ハンドフランクの各型別の詳細図を参照下さい。
 注2) 中柱筋の筋間距離は筋径以上の値を、(筋径×定尺)と規定する場合があります。筋径に準じた配筋を行ってください。
 注3) 中柱筋等の筋間距離は、基礎内の筋径の100%以上と規定しています。あはら筋間距離がこれよりも小さくなる場合は、あはら筋間距離を大きくする必要があります。筋径以上の筋間距離として下さい。
 注4) h寸法は筋がない場合は、柱がある場合は中柱の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離が一律です。アンカーボルトサイズは他の物種と同等条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上階下部鉄筋)

通用柱		角形鋼管柱 □400 (壁厚範囲：9~25mm)					
アンカーボルト		h=400					
種別	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定尺長さ(L)	
		縦横柱筋	等筋	縦横柱筋	等筋		
〈棟・間柱筋〉	400	16-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	820	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	530
〈中柱筋〉	820	12-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	820	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	530

注1) Ⅰゾーン分についてはハイバース(縦横)ハンドフランクの各型別の詳細図を参照下さい。
 注2) 中柱筋の筋間距離は筋径以上の値を、(筋径×定尺)と規定する場合があります。筋径に準じた配筋を行ってください。
 注3) 中柱筋等の筋間距離は、基礎内の筋径の100%以上と規定しています。あはら筋間距離がこれよりも小さくなる場合は、あはら筋間距離を大きくする必要があります。筋径以上の筋間距離として下さい。
 注4) h寸法は筋がない場合は、柱がある場合は中柱の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離が一律です。アンカーボルトサイズは他の物種と同等条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上階下部鉄筋)

通用柱		角形鋼管柱 □400 (壁厚範囲：9~25mm)					
アンカーボルト		h=442					
種別	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定尺長さ(L)	
		縦横柱筋	等筋	縦横柱筋	等筋		
〈棟・間柱筋〉	400	20-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	840	32-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	680
〈中柱筋〉	840	20-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	840	32-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	680

注1) Ⅰゾーン分についてはハイバース(縦横)ハンドフランクの各型別の詳細図を参照下さい。
 注2) 中柱筋の筋間距離は筋径以上の値を、(筋径×定尺)と規定する場合があります。筋径に準じた配筋を行ってください。
 注3) 中柱筋等の筋間距離は、基礎内の筋径の100%以上と規定しています。あはら筋間距離がこれよりも小さくなる場合は、あはら筋間距離を大きくする必要があります。筋径以上の筋間距離として下さい。
 注4) h寸法は筋がない場合は、柱がある場合は中柱の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離が一律です。アンカーボルトサイズは他の物種と同等条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上階下部鉄筋)



柱筋中心基礎はりタイプ		はり主筋本数	
はり主筋	2	3	4
D19	240~420	300~420	360~420
D22	240~420	300~420	360~420
D25	240~420	300~420	360~420

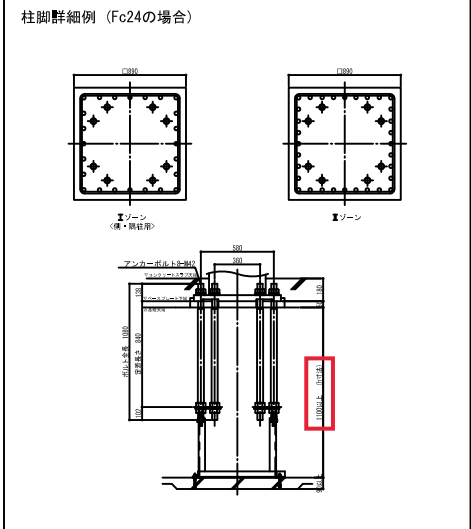
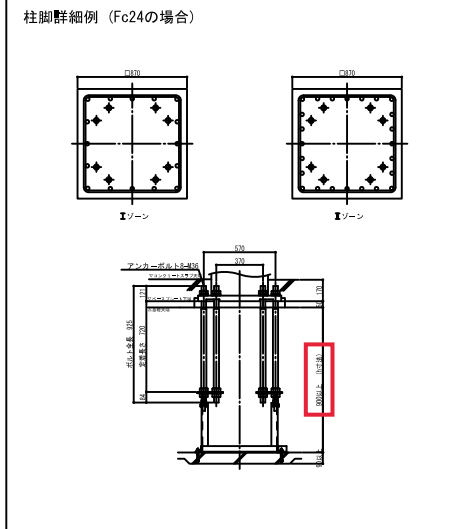
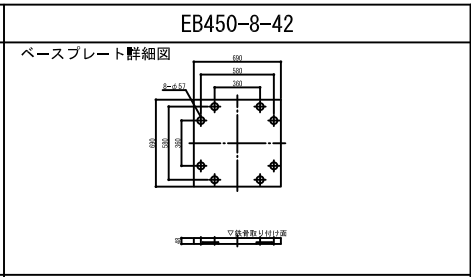
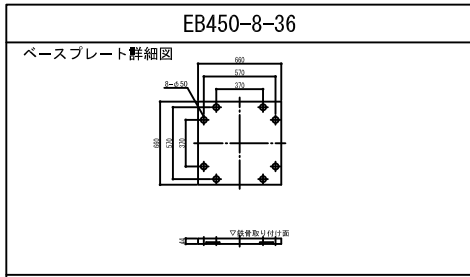
注1) 上階柱筋について、柱主筋はⅠゾーン(棟・間柱筋)の場合の配筋とします。
 注2) 中柱筋の筋間距離は、基礎内の筋径の100%以上と規定しています。あはら筋間距離がこれよりも小さくなる場合は、あはら筋間距離を大きくする必要があります。筋径以上の筋間距離として下さい。
 この基礎はり端部納まり法は変更できません。

柱筋中心基礎はりタイプ		はり主筋本数	
はり主筋	2	3	4
D19	240~390	300~390	360~390
D22	240~390	300~390	360~390
D25	240~390	300~390	360~390

注1) 上階柱筋について、柱主筋はⅠゾーン(棟・間柱筋)の場合の配筋とします。
 注2) 中柱筋の筋間距離は、基礎内の筋径の100%以上と規定しています。あはら筋間距離がこれよりも小さくなる場合は、あはら筋間距離を大きくする必要があります。筋径以上の筋間距離として下さい。
 この基礎はり端部納まり法は変更できません。

柱筋中心基礎はりタイプ		はり主筋本数	
はり主筋	2	3	4
D22	240~370	300~370	360~370
D25	250~370	320~370	390~370
D29	260~370	340~370	390~370

注1) 上階柱筋について、柱主筋はⅠゾーン(棟・間柱筋)の場合の配筋とします。
 注2) 中柱筋の筋間距離は、基礎内の筋径の100%以上と規定しています。あはら筋間距離がこれよりも小さくなる場合は、あはら筋間距離を大きくする必要があります。筋径以上の筋間距離として下さい。
 この基礎はり端部納まり法は変更できません。



適用柱 角形鋼管柱 □450 (板厚範囲：9~25mm)

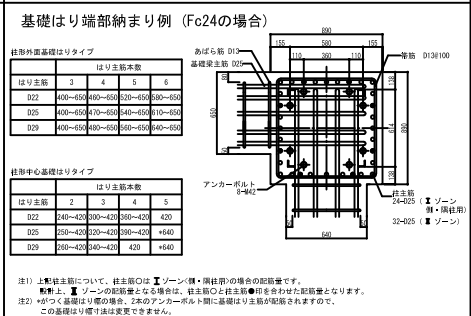
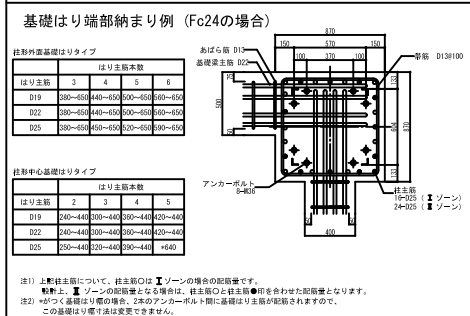
アンカーボルト	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 長さ (L1)		
	柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋			
〈棟・階柱用〉	870	16-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	870	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	520
〈中柱用〉	870	16-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	870	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	520

注1) 【Iゾーン】についてはハイパス組(軟弱)ハンドブックの各製品の配筋図を参照下さい。
 注2) 鉄筋の定尺長は基礎土のり面の寸法に、基礎土のり面と基礎柱の中心との距離を考慮し、立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイパス組(軟弱)ハンドブック第4編に、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を付けて下さい。
 注3) 中柱用時の鉄筋量は、基礎土のり面の寸法として決定しています。あはら筋鋼管柱がこれよりも小さくなる場合、あはら筋鋼管柱の寸法を大きくする必要がある場合があります。
 注4) h寸法は柱がない場合です。柱がある場合は厚手の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離は一律です。アンカーボルトサイズは他の規格など特許条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長は、厚手の寸法以上確保して下さい。(上階下部共通)

適用柱 角形鋼管柱 □450 (板厚範囲：9~25mm)

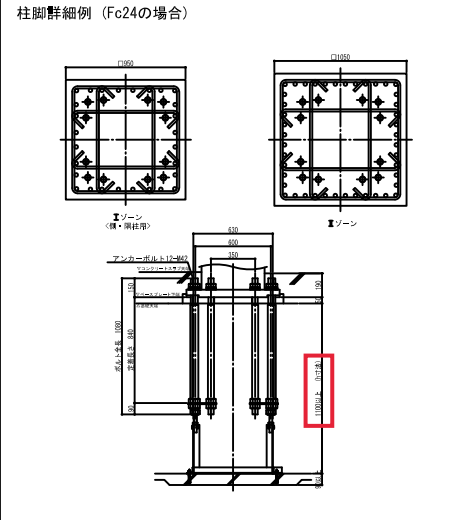
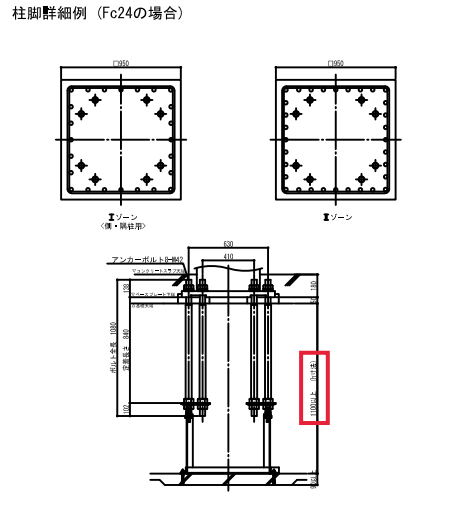
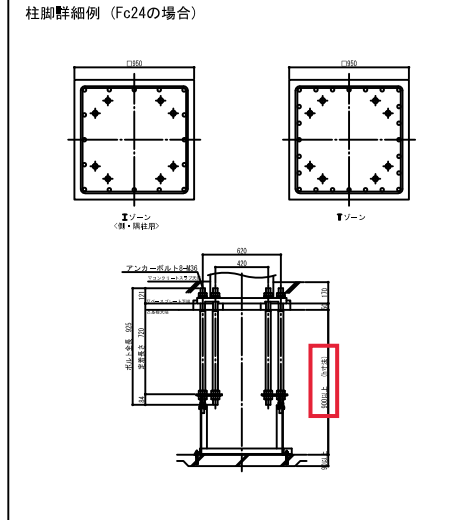
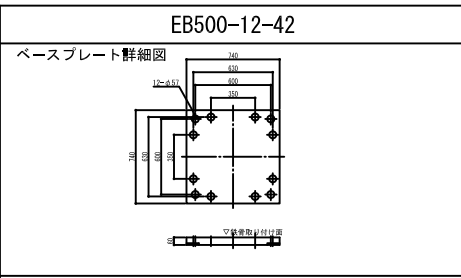
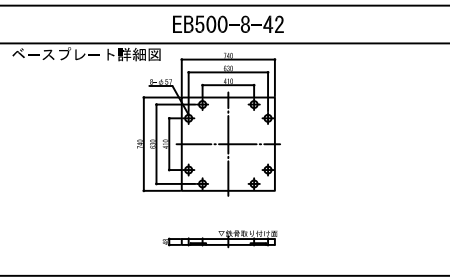
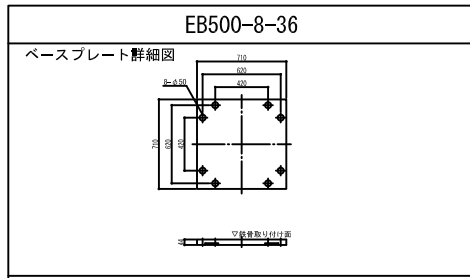
アンカーボルト	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 長さ (L1)		
	柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋			
〈棟・階柱用〉	890	24-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	890	32-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	670
〈中柱用〉	890	20-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	890	32-025 (S3045)	D13#100 (S2095)	670

注1) 【Iゾーン】についてはハイパス組(軟弱)ハンドブックの各製品の配筋図を参照下さい。
 注2) 鉄筋の定尺長は基礎土のり面の寸法に、基礎土のり面と基礎柱の中心との距離を考慮し、立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイパス組(軟弱)ハンドブック第4編に、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を付けて下さい。
 注3) 中柱用時の鉄筋量は、基礎土のり面の寸法として決定しています。あはら筋鋼管柱がこれよりも小さくなる場合、あはら筋鋼管柱の寸法を大きくする必要がある場合があります。
 注4) h寸法は柱がない場合です。柱がある場合は厚手の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離は一律です。アンカーボルトサイズは他の規格など特許条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長は、厚手の寸法以上確保して下さい。(上階下部共通)



注1) 上階柱主筋について、柱主筋は【Iゾーン】の場合の配筋です。
 注2) 中柱用時の鉄筋量は、基礎土のり面の寸法として決定しています。あはら筋鋼管柱がこれよりも小さくなる場合、あはら筋鋼管柱の寸法を大きくする必要がある場合があります。
 この基礎はり配筋は変更できません。

注1) 上階柱主筋について、柱主筋は【IIゾーン(棟・階柱用)】の場合の配筋です。
 注2) 中柱用時の鉄筋量は、基礎土のり面の寸法として決定しています。あはら筋鋼管柱がこれよりも小さくなる場合、あはら筋鋼管柱の寸法を大きくする必要がある場合があります。
 この基礎はり配筋は変更できません。



通用柱		角形鋼管柱 C500 (板厚範囲：9~28mm)					
アンカーボルト		s=462					
柱種	基礎柱主筋	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定尺長さ(L)	
		柱筋	基礎柱主筋	柱筋	基礎柱主筋		
＜棟・階柱筋＞	950	16-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	660
＜中柱筋＞	950	12-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	660

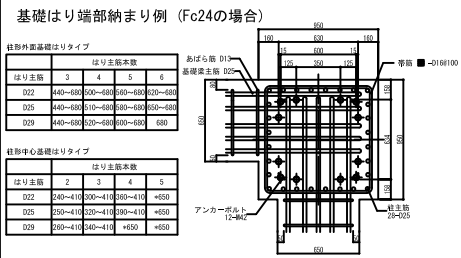
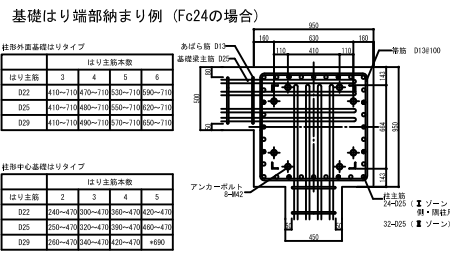
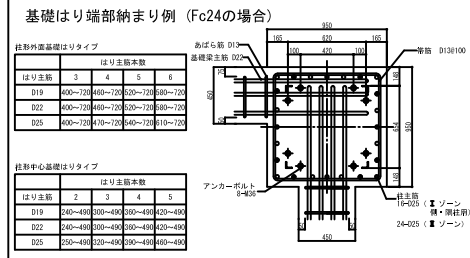
注1) Iゾーン分についてはハイバース(配筋)ハンドブックの各表の配筋図を参照下さい。
 注2) 重中・超重量基礎は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 注3) <中柱筋>の筋筋量は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 注4) 1/2法は筋がない場合です。筋がある場合は重中・超重量の筋の配筋図として決定して下さい。
 注5) アンカーボルトは、基礎内には埋め込まないで下さい。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、重中の寸法以上確保して下さい。(上階下部鉄筋)

通用柱		角形鋼管柱 C500 (板厚範囲：9~28mm)					
アンカーボルト		s=462					
柱種	基礎柱主筋	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定尺長さ(L)	
		柱筋	基礎柱主筋	柱筋	基礎柱主筋		
＜棟・階柱筋＞	950	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	32-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	660
＜中柱筋＞	950	20-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	950	32-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	660

注1) Iゾーン分についてはハイバース(配筋)ハンドブックの各表の配筋図を参照下さい。
 注2) 重中・超重量基礎は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 注3) <中柱筋>の筋筋量は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 注4) 1/2法は筋がない場合です。筋がある場合は重中・超重量の筋の配筋図として決定して下さい。
 注5) アンカーボルトは、基礎内には埋め込まないで下さい。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、重中の寸法以上確保して下さい。(上階下部鉄筋)

通用柱		角形鋼管柱 C500 (板厚範囲：9~28mm)					
アンカーボルト		s=462					
柱種	基礎柱主筋	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定尺長さ(L)	
		柱筋	基礎柱主筋	柱筋	基礎柱主筋		
＜棟・階柱筋＞	950	24-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	1050	44-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	600
＜中柱筋＞	950	20-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	1050	44-025 (S3045)	D13#100 (S2295)	600

注1) Iゾーン分についてはハイバース(配筋)ハンドブックの各表の配筋図を参照下さい。
 注2) 重中・超重量基礎は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 注3) <中柱筋>の筋筋量は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 注4) 1/2法は筋がない場合です。筋がある場合は重中・超重量の筋の配筋図として決定して下さい。
 注5) アンカーボルトは、基礎内には埋め込まないで下さい。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、重中の寸法以上確保して下さい。(上階下部鉄筋)



柱筋中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋	2	3	4	5		
D19	240~490	300~490	360~490	420~490	+650	
D22	240~490	300~490	360~490	420~490	+650	
D25	250~490	320~490	390~490	460~490	+650	

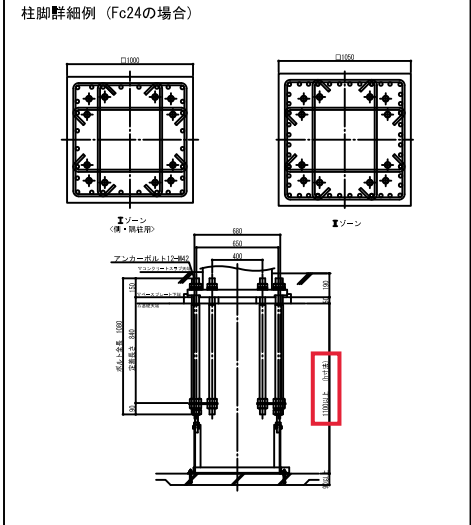
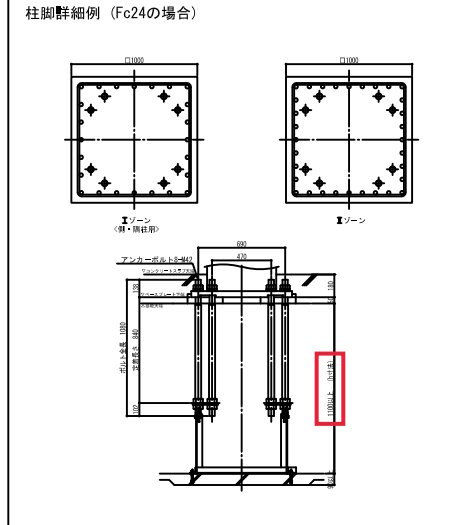
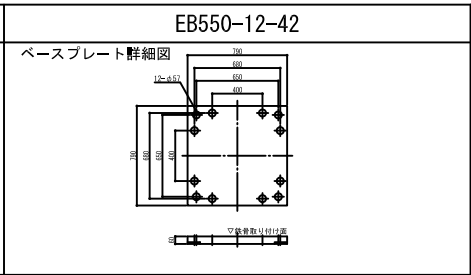
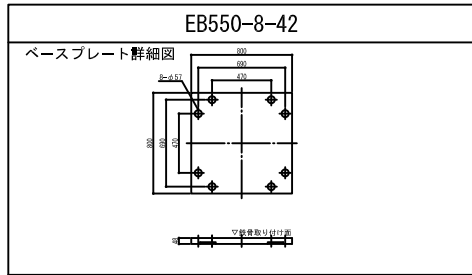
柱筋中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋	2	3	4	5		
D22	240~490	300~490	360~490	420~490	+650	
D25	250~490	320~490	390~490	460~490	+650	
D29	260~490	340~490	420~490	+650		

柱筋中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋	2	3	4	5		
D22	240~490	300~490	360~490	420~490	+650	
D25	250~490	320~490	390~490	460~490	+650	
D29	260~490	340~490	420~490	+650		

注1) 上階柱主筋については、柱主筋はIゾーン(棟・階柱筋)の場合の配筋図です。
 注2) かつく基礎は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 この基礎はり端部納まり例は変更できません。

注1) 上階柱主筋については、柱主筋はIIゾーン(棟・階柱筋)の場合の配筋図です。
 注2) かつく基礎は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 この基礎はり端部納まり例は変更できません。

注1) 上階柱主筋については、柱主筋はIゾーン(棟・階柱筋)の場合の配筋図です。
 注2) かつく基礎は、基礎内の筋の配筋図として決定して下さい。
 この基礎はり端部納まり例は変更できません。

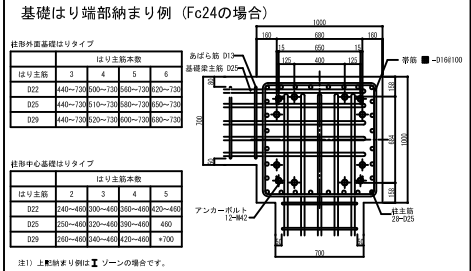
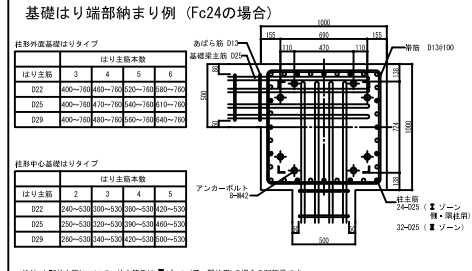


適用柱		角形鋼管柱 □550 (板厚範囲：9~28mm)					
アンカーボルト		8-M42					
	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要長さ (L1)	
		基礎柱径主筋	等筋	基礎柱径主筋	等筋		
＜棟・階柱部＞	1000	24-025 (S2345)	D13#100 (S2295)	1000	32-025 (S2345)	D13#100 (S2295)	650
＜中柱部＞	1000	20-025 (S2345)	D13#100 (S2295)	1000	32-025 (S2345)	D13#100 (S2295)	650

注1) Iゾーン分付についてはハイバース(配筋)ハンドブックの各章の配筋図を参照下さい。
 注2) 等筋の鉄筋量は基礎土上りのない場合、基礎土実定と基礎柱径が一致する場合の参考値です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイバース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) <中柱部>の鉄筋量は、基礎梁のあがら筋の1/20として算定しています。あがら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あがら筋面積がこれより大きくなる場合は、基礎中の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は鉄筋の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離が一律です。アンカーボルトサイズは他の種別と同様条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、鉄筋の寸法以上確保して下さい。(上階下部共通)

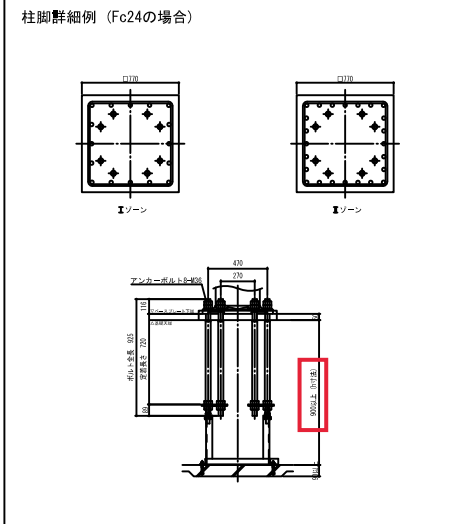
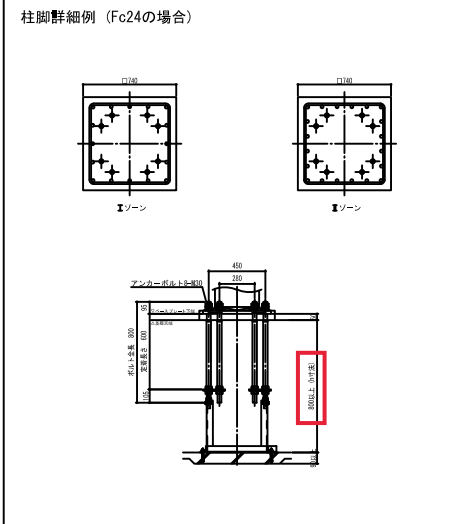
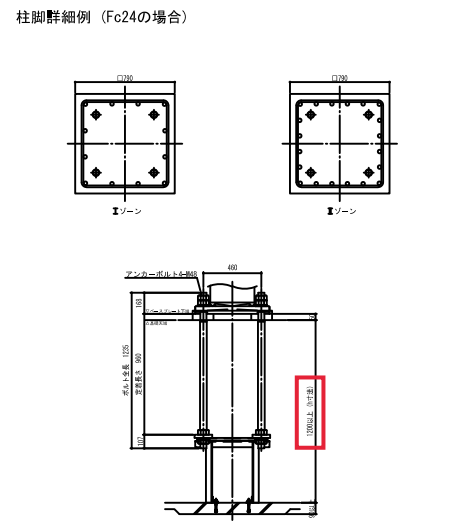
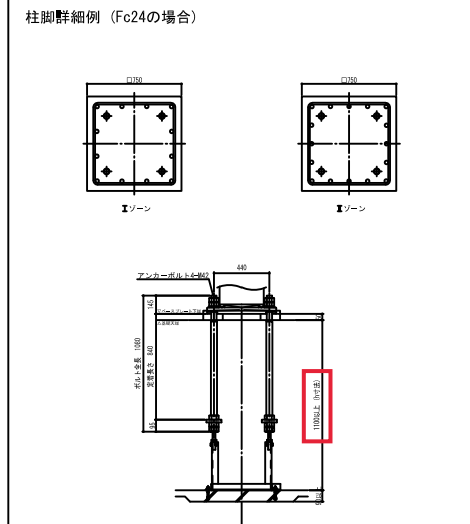
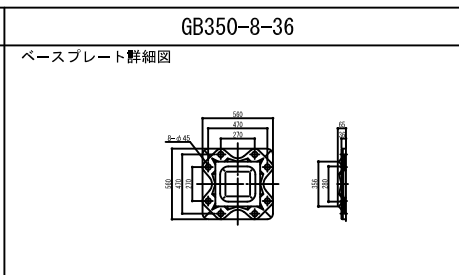
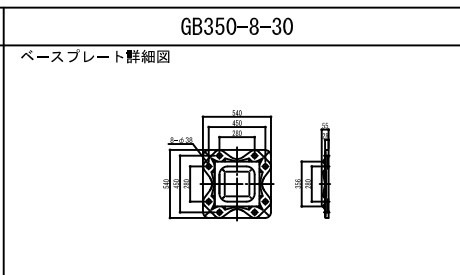
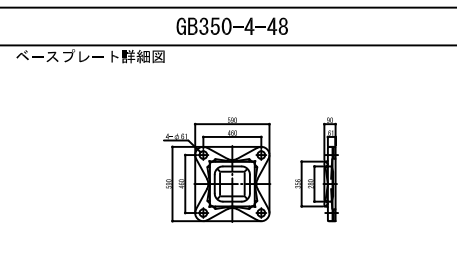
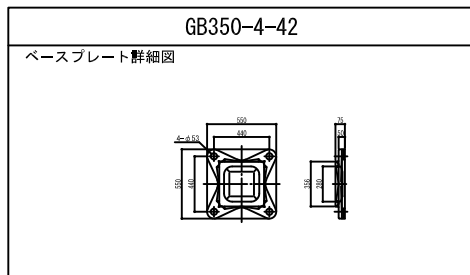
適用柱		角形鋼管柱 □550 (板厚範囲：9~28mm)					
アンカーボルト		12-M42					
	柱径	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 必要長さ (L1)	
		基礎柱径主筋	等筋	基礎柱径主筋	等筋		
＜棟・階柱部＞	1000	26-025 (S2345)	■-016#100 (S2295)	1050	44-025 (S2345)	■-016#100 (S2295)	600
＜中柱部＞	1000	20-025 (S2345)	■-016#100 (S2295)	1050	44-025 (S2345)	■-016#100 (S2295)	600

注1) Iゾーン分付についてはハイバース(配筋)ハンドブックの各章の配筋図を参照下さい。
 注2) 等筋の鉄筋量は基礎土上りのない場合、基礎土実定と基礎柱径が一致する場合の参考値です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイバース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) <中柱部>の鉄筋量は、基礎梁のあがら筋の1/20として算定しています。あがら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あがら筋面積がこれより大きくなる場合は、基礎中の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は鉄筋の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは軸間距離が一律です。アンカーボルトサイズは他の種別と同様条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、鉄筋の寸法以上確保して下さい。(上階下部共通)



注1) 上配筋はりタイプは、柱主筋のみは Iゾーン(棟・階柱部)の場合の配筋表です。
 注2) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は、柱主筋の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注3) この基礎はりタイプは、基礎土実定と基礎柱径が一致する場合の参考値です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイバース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。

注1) 上配筋はりタイプは、柱主筋のみは Iゾーン(棟・階柱部)の場合の配筋表です。
 注2) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は、柱主筋の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注3) この基礎はりタイプは、基礎土実定と基礎柱径が一致する場合の参考値です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイバース(配筋)ハンドブック第4編に依り、日本建築学会等の標準・指針に準拠した配筋を行って下さい。



通用柱

アンカーボルト	角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)						鉄筋の 定尺長さ (L1)
	Iゾーン			IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	750	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	750	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	480
・中柱部	750	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	750	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	480

注1) 注I) ゾーン分けについてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱の鉄筋は基礎より上の鉄筋を、(基礎より実定と基礎柱形主筋が一致する部分) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に、自定義学会等の規準・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部への鉄筋量は、基礎部のおおよそ100%以上と定めています。おおよそ筋面面積がこれより小さくなる場合、おおよそ筋面面積がこれより大きくなる場合も、柱立部の鉄筋量を定めています。
 注4) 寸法は概算となります。取付がある場合は実寸の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは敷設管径が一律です。アンカーボルトサイズ等の詳細な仕様と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、実寸の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱

アンカーボルト	角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)						鉄筋の 定尺長さ (L1)
	Iゾーン			IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	790	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	790	20-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	580
・中柱部	790	12-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	790	20-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	580

注1) 注I) ゾーン分けについてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱の鉄筋は基礎より上の鉄筋を、(基礎より実定と基礎柱形主筋が一致する部分) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に、自定義学会等の規準・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部への鉄筋量は、基礎部のおおよそ100%以上と定めています。おおよそ筋面面積がこれより小さくなる場合、おおよそ筋面面積がこれより大きくなる場合も、柱立部の鉄筋量を定めています。
 注4) 寸法は概算となります。取付がある場合は実寸の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは敷設管径が一律です。アンカーボルトサイズ等の詳細な仕様と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、実寸の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱

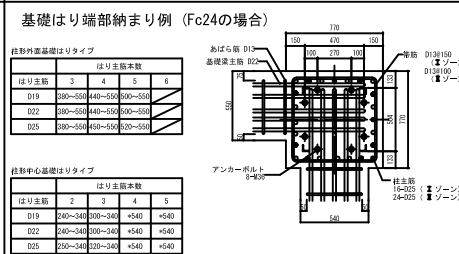
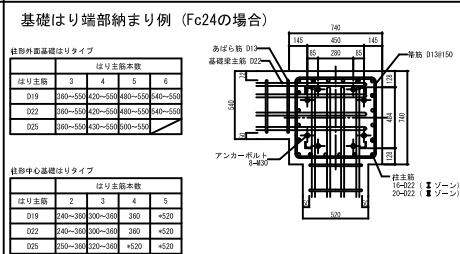
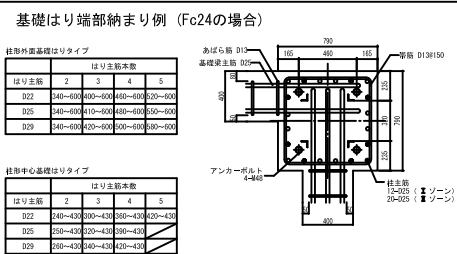
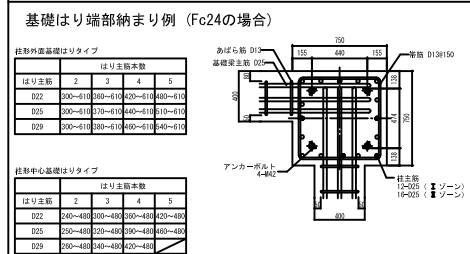
アンカーボルト	角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)						鉄筋の 定尺長さ (L1)
	Iゾーン			IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	740	16-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	740	20-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	470
・中柱部	740	16-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	740	20-022 (S3045)	D13#150 (S2095)	470

注1) 注I) ゾーン分けについてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱の鉄筋は基礎より上の鉄筋を、(基礎より実定と基礎柱形主筋が一致する部分) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に、自定義学会等の規準・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部への鉄筋量は、基礎部のおおよそ100%以上と定めています。おおよそ筋面面積がこれより小さくなる場合、おおよそ筋面面積がこれより大きくなる場合も、柱立部の鉄筋量を定めています。
 注4) 寸法は概算となります。取付がある場合は実寸の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは敷設管径が一律です。アンカーボルトサイズ等の詳細な仕様と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、実寸の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)

通用柱

アンカーボルト	角形鋼管柱 C350 (板厚範囲: 9~25mm)						鉄筋の 定尺長さ (L1)
	Iゾーン			IIゾーン			
	柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形	基礎柱形主筋	等筋	
・棟・階柱部	770	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	770	24-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	560
・中柱部	770	16-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	770	24-025 (S3045)	D13#150 (S2095)	560

注1) 注I) ゾーン分けについてはハイベース配筋型ハンドブックの各型の配筋図を参照下さい。
 注2) 中柱の鉄筋は基礎より上の鉄筋を、(基礎より実定と基礎柱形主筋が一致する部分) の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック第4編に、自定義学会等の規準・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部への鉄筋量は、基礎部のおおよそ100%以上と定めています。おおよそ筋面面積がこれより小さくなる場合、おおよそ筋面面積がこれより大きくなる場合も、柱立部の鉄筋量を定めています。
 注4) 寸法は概算となります。取付がある場合は実寸の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトは敷設管径が一律です。アンカーボルトサイズ等の詳細な仕様と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、実寸の寸法以上確保して下さい。(上階下階共通)



注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は Iゾーンの配筋の配筋です。
 取付上、IIゾーンの配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端部は変更できません。

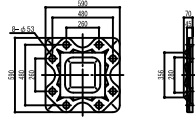
注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は IIゾーンの配筋の配筋です。
 取付上、Iゾーンの配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端部は変更できません。

注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は Iゾーンの配筋の配筋です。
 取付上、IIゾーンの配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端部は変更できません。

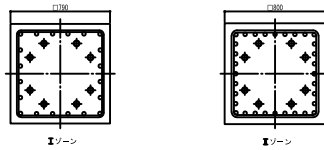
注1) 上階柱主筋について、柱主筋○は IIゾーンの配筋の配筋です。
 取付上、Iゾーンの配筋となる場合は、柱主筋○と柱主筋●を合わせた配筋となります。
 注2) かつく基礎はり端部の場合、2階のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端部は変更できません。

GB350-8-42

ベースプレート詳細図

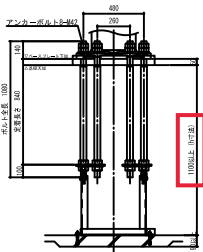


柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン

IIゾーン



適用柱		角形鋼管柱 □350 (配管範囲: 9~25mm)				
アンカーボルト		φ-φ42				
柱径	基礎柱径主筋	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 表示長さ (L1)
		等筋	等筋	等筋	等筋	
790	20-D25 (S2345)	D13φ100 (S2345)	800	32-D25 (S2345)	D16φ100 (S2345)	610
790	20-D25 (S2345)	D13φ100 (S2345)	800	32-D25 (S2345)	D16φ100 (S2345)	610

注1) I、IIゾーン区分についてはハイベース(軟弱)ハンドブックの各型式の断面図を参照下さい。
 注2) 鉄筋の配筋量は基礎立ち上りのない場合、基礎より実高と基礎柱径が一致する場合は、の標準例です。立ち上がりがある場合、柱立ち上がり部の鉄筋量は、基礎内の上り筋の1/20として算定して下さい。また、材料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 本仕様書の鉄筋量は、基礎内の上り筋の1/20として算定しています。あはら筋断面積がこれより小さくなる場合、あはら筋断面積がこれより大きくなる場合は、柱径内の筋数を調整して下さい。
 注4) 寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋位置は一律です。アンカーボルトサイズ等の異なる標準仕様により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の表示長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上筋下筋共通)

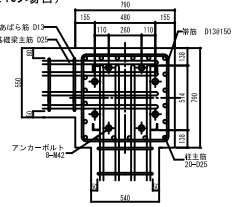
基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外周基礎はりタイプ

はり主筋	2	3	4	5
D02	240~300	300~360	360~420	420~480
D05	240~300	300~360	360~420	420~480
D09	240~300	300~360	360~420	420~480

注形外周基礎はりタイプ

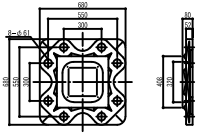
はり主筋	2	3	4	5
D22	240~320	320~400	+540	+540
D25	240~320	320	+540	+540
D29	240~320	+540	+540	



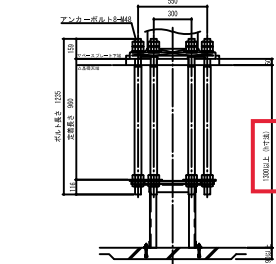
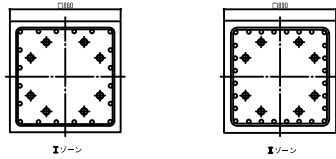
注1) 上層柱主筋について、柱主筋はIゾーンの柱径の配筋です。
 注2) φが寸法は基礎はり端の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端寸法は変更できません。

GB400-8-48

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc24の場合)



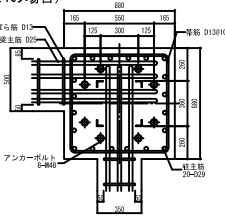
適用柱		角形鋼等柱 □400 (板厚範囲：9~32mm)			
アンカーボルト		φ-φ48			
	I ソール		Z ソール		鉄筋の 表示長さ (L1)
	柱径	基礎柱形主筋 等筋	柱径	基礎柱形主筋 等筋	
〈棟・端柱部〉	φ90	2φ-D29 (SD390) D138100 (SD295)	φ90	2φ-D29 (SD390) D160100 (SD295)	790
〈中柱部〉	φ90	2φ-D29 (SD390) D138100 (SD295)	φ90	2φ-D29 (SD390) D160100 (SD295)	790

注1) I、Z ソール分付についてはハイベース(鉄骨)ハンドブックの各製品の針形断面を参照下さい。
 注2) 裏面の鉄筋数は基礎立ち上りのない場合、基礎より実測と基礎柱径が一致する場合は、のり算例です。立ち上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース(鉄骨)ハンドブック第3章に記して、日本建築学会等の規準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 〈中柱部〉の鉄筋量は、基礎面内のあばら筋φ100として算定しています。あばら筋断面径がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は、柱径内の鉄筋数を調整して下さい。
 注4) 寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの軸間距離は一律です。アンカーボルトサイズ他の特長など照会条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定尺長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上節下部共通)

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外周基礎はりタイプ		あばら筋 φ100	
はり主筋	はり主筋本数	基礎梁主筋	等筋 D138100
D02	2	2	0
D02	430~610	400~610	550~610
D05	430~610	500~610	700~610
D29	430~610	710~610	900~610

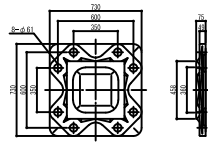
柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数	
はり主筋	2	3	4
D22	240~360	300~360	350
D25	250~360	320~360	+500
D29	260~360	340~360	+500



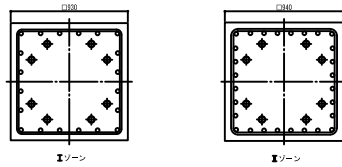
注1) 上敷柱主筋について、柱主筋φは I ソールの場合は配筋せず。
 注2) φが寸基礎はり端の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端寸法は変更できません。

GB450-8-48

ベースプレート詳細図

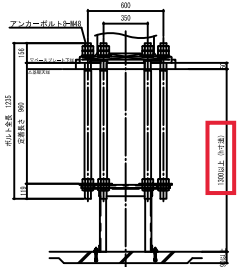


柱脚詳細例 (Fc24の場合)



I-Iゾーン

II-IIゾーン



適用柱		角形鋼等柱 □450 (板厚範囲：9~36mm)					
アンカーボルト		φ-φ48					
		Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の 表出長さ (L1)	
		柱径	基礎柱径主筋 等筋	柱径	基礎柱径主筋 等筋		
〈棟・階柱部〉	930	20-219 (SD390)	D138(100) (SD295)	940	20-219 (SD390)	D160(100) (SD295)	710
〈中柱部〉	930	20-219 (SD390)	D138(100) (SD295)	940	20-219 (SD390)	D160(100) (SD295)	710

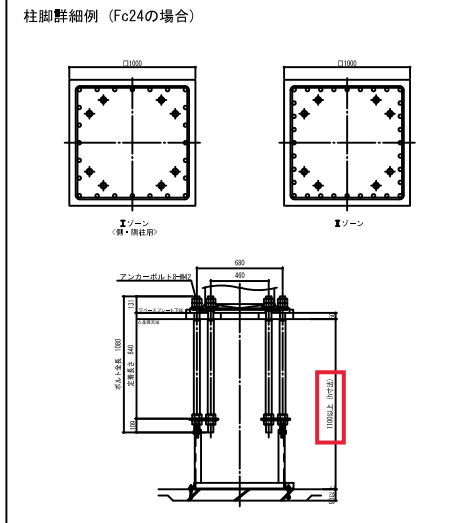
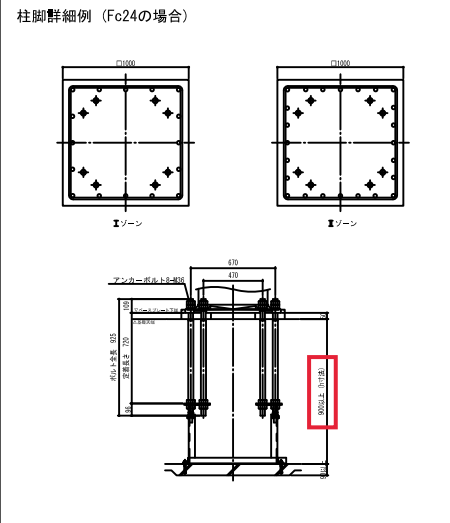
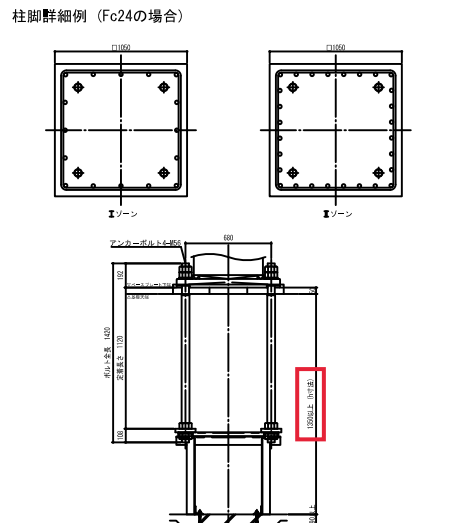
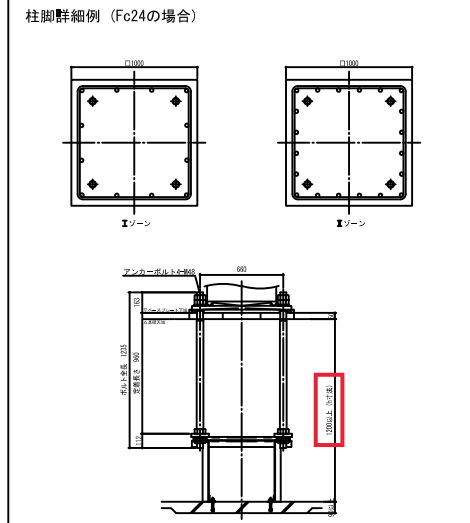
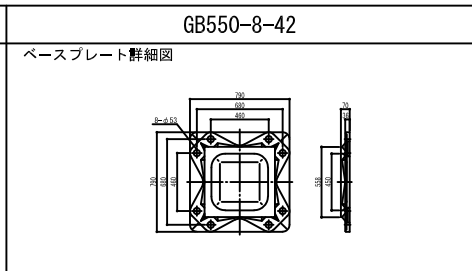
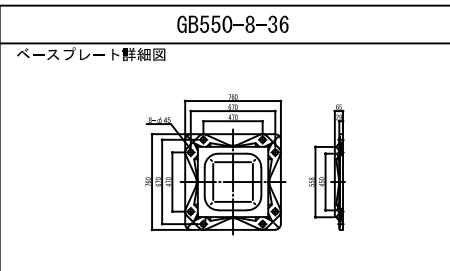
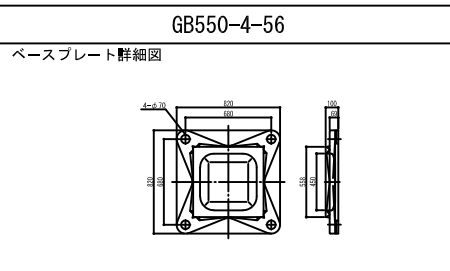
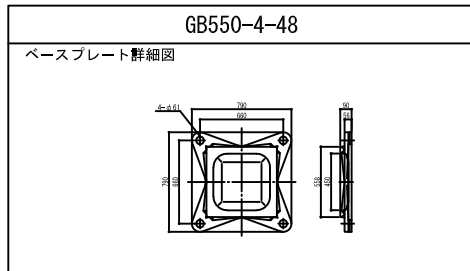
注1) Iゾーン分についてはハイベース(配筋)ハンドブックの各型式の配筋断面を参照下さい。
 注2) 鉄筋の表出長さは鉄筋立上りのない場合、基礎より突出部(一致する場合)の等筋例です。立上りがある場合、柱立上り部は、ハイベース(配筋)ハンドブック第3章に準じて、日本建築学会等の規準・指針に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) 中柱部への鉄筋量は、基礎面内のあはら筋径の1/20として算定しています。あはら筋断面積がこれより小さくなる場合、あはら筋断面積をこれより大きくする等筋径を中・階柱部の鉄筋径として下さい。
 注4) 寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの埋設箇所は一律です。アンカーボルトサイズ等の異なる等筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定置長さとは、表中の寸法以上確保して下さい。(上階下部共通)

基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)

柱形外周基礎はりタイプ		あはら筋 D12	
はり主筋	はり主筋本数	基礎外周主筋 φ20	等筋 D138(100)
D22	2	2	2
D25	2	2	2
D29	2	2	2

柱形中心基礎はりタイプ		あはら筋 D12	
はり主筋	はり主筋本数	基礎外周主筋 φ20	等筋 D138(100)
D22	2	2	2
D25	2	2	2
D29	2	2	2

注1) 上階柱主筋について、柱主筋φは Iゾーンの柱径の配筋径です。
 注2) φが寸法基礎はり端の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり端寸法は変更できません。



適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	460
●(横・縦柱径)	1000	12-025 (S3045)	D16#150 (S2026)	1000	20-025 (S3045)	
●(中柱径)	1000	12-025 (S3045)	D16#150 (S2026)	1000	20-025 (S3045)	D16#150 (S2026)

注1) ● Iゾーンについてはハイベース配筋型ハンドブックの各表の脚注を参照下さい。
 注2) 真中の鉄筋は基礎立上りの場合、(基礎は実定と基礎柱径を一致させる場合)の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック表に扱い、柱立基礎等の現場・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 注4) h寸法は筋がない場合です。筋がある場合は表の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は表に示す通りです。アンカーボルトサイズ等の筋の形状と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、表の寸法に上書きして下さい。(上書き無効)

適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	580
●(横・縦柱径)	1050	16-025 (S3045)	D16#150 (S2026)	1050	20-025 (S3045)	
●(中柱径)	1050	16-025 (S3045)	D16#150 (S2026)	1050	20-025 (S3045)	D16#150 (S2026)

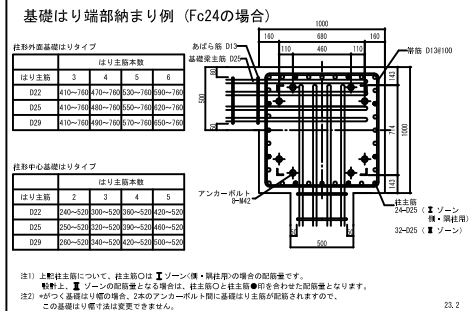
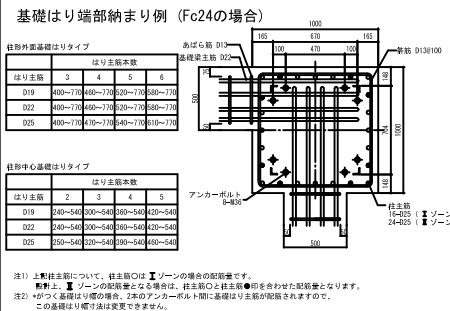
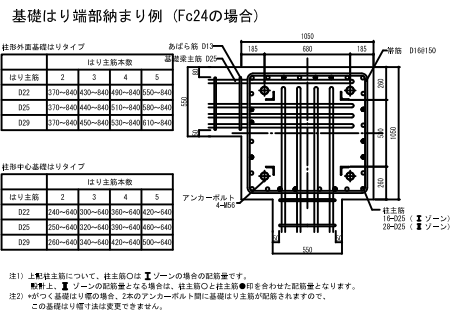
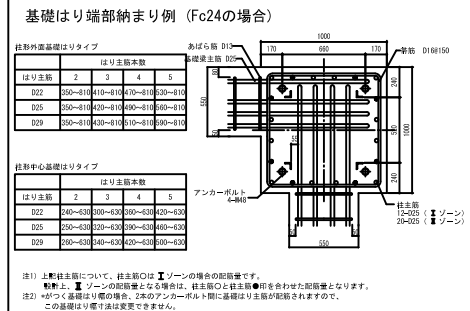
注1) ● Iゾーンについてはハイベース配筋型ハンドブックの各表の脚注を参照下さい。
 注2) 真中の鉄筋は基礎立上りの場合、(基礎は実定と基礎柱径を一致させる場合)の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック表に扱い、柱立基礎等の現場・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 注4) h寸法は筋がない場合です。筋がある場合は表の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は表に示す通りです。アンカーボルトサイズ等の筋の形状と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、表の寸法に上書きして下さい。(上書き無効)

適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	500
●(横・縦柱径)	1000	16-025 (S3045)	D13#100 (S2026)	1000	24-025 (S3045)	
●(中柱径)	1000	16-025 (S3045)	D13#100 (S2026)	1000	24-025 (S3045)	D13#100 (S2026)

注1) ● Iゾーンについてはハイベース配筋型ハンドブックの各表の脚注を参照下さい。
 注2) 真中の鉄筋は基礎立上りの場合、(基礎は実定と基礎柱径を一致させる場合)の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック表に扱い、柱立基礎等の現場・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 注4) h寸法は筋がない場合です。筋がある場合は表の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は表に示す通りです。アンカーボルトサイズ等の筋の形状と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、表の寸法に上書きして下さい。(上書き無効)

適用柱		角形鋼管柱 C150 (板厚範囲: 9~40mm)				鉄筋の 定長さ (L1)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
柱径	基礎柱径主筋	等筋	柱径	基礎柱径主筋	等筋	650
●(横・縦柱径)	1000	24-025 (S3045)	D13#100 (S2026)	1000	32-025 (S3045)	
●(中柱径)	1000	20-025 (S3045)	D13#100 (S2026)	1000	32-025 (S3045)	D13#100 (S2026)

注1) ● Iゾーンについてはハイベース配筋型ハンドブックの各表の脚注を参照下さい。
 注2) 真中の鉄筋は基礎立上りの場合、(基礎は実定と基礎柱径を一致させる場合)の配筋例です。立上りがある場合、柱立基礎の場合は、ハイベース配筋型ハンドブック表に扱い、柱立基礎等の現場・資料に準拠した配筋を行って下さい。
 注3) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 注4) h寸法は筋がない場合です。筋がある場合は表の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトの配筋は表に示す通りです。アンカーボルトサイズ等の筋の形状と配筋条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定長さL1は、表の寸法に上書きして下さい。(上書き無効)



柱径外部基礎はりタイプ		あはら筋 D16	
はり主筋	はり主筋本数	2	3
D02	250~310	410~470	470~530
D05	310~370	470~530	530~590
D09	370~430	530~590	590~650

注1) 上製柱主筋について、柱主筋は● Iゾーンのみの場合の配筋例です。
 注2) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 この基礎はり配筋法は変更できません。

柱径外部基礎はりタイプ		あはら筋 D16	
はり主筋	はり主筋本数	2	3
D02	370~430	430~490	490~550
D05	430~490	490~550	550~610
D09	490~550	550~610	610~670

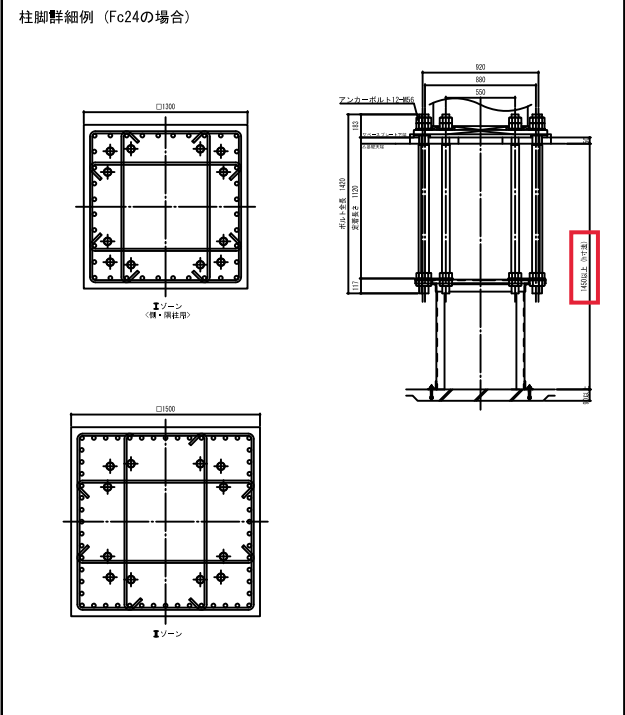
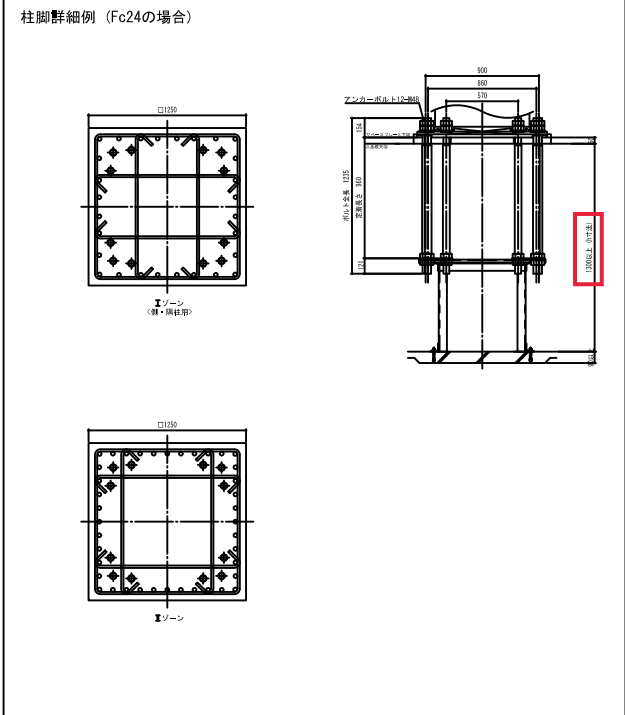
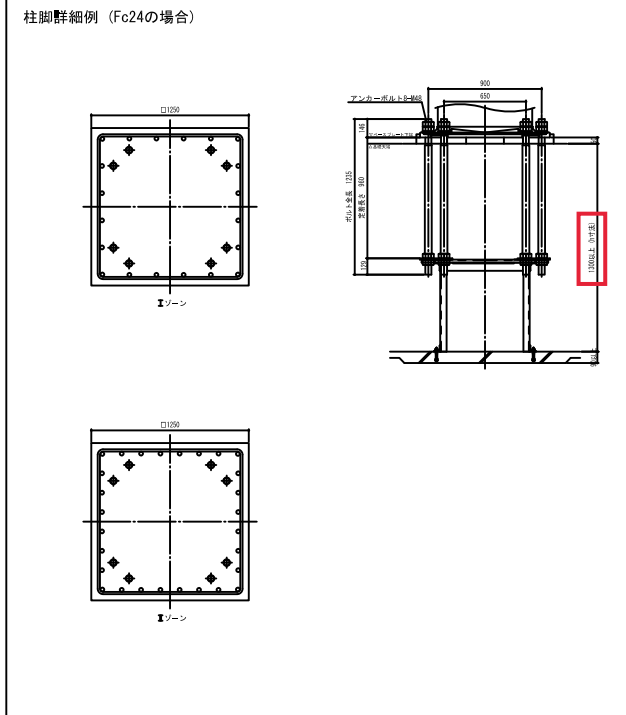
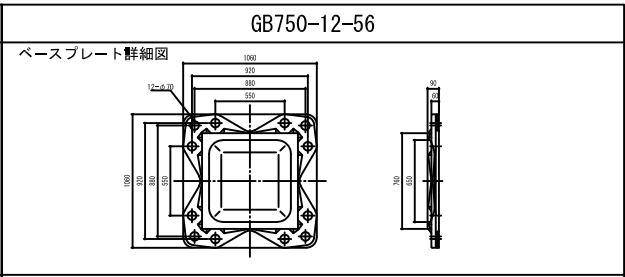
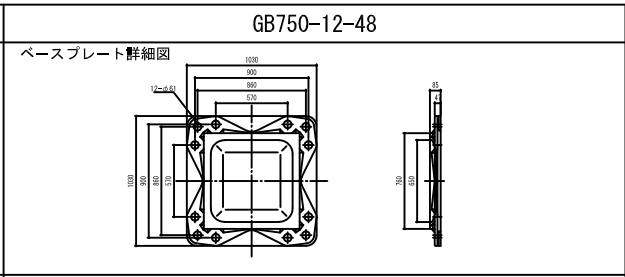
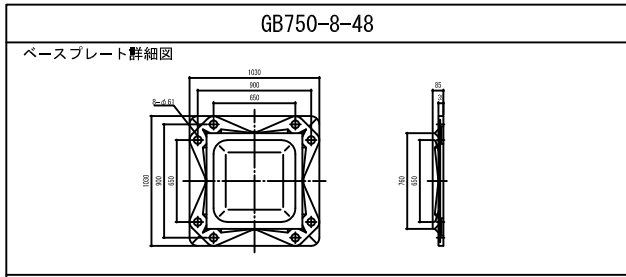
注1) 上製柱主筋について、柱主筋は● Iゾーンのみの場合の配筋例です。
 注2) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 この基礎はり配筋法は変更できません。

柱径外部基礎はりタイプ		あはら筋 D16	
はり主筋	はり主筋本数	3	4
D10	400~460	460~520	520~580
D02	460~520	520~580	580~640
D05	520~580	580~640	640~700

注1) 上製柱主筋について、柱主筋は● Iゾーンのみの場合の配筋例です。
 注2) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 この基礎はり配筋法は変更できません。

柱径外部基礎はりタイプ		あはら筋 D16	
はり主筋	はり主筋本数	3	4
D02	410~470	470~530	530~590
D05	470~530	530~590	590~650
D09	530~590	590~650	650~710

注1) 上製柱主筋について、柱主筋は● Iゾーン(横・縦柱径)のみの場合の配筋例です。
 注2) ●中柱径の鉄筋は、基礎内の筋の配筋例として規定して下さい。あはら筋面積がこれよりも小さくなる場合、あはら筋面積がこれより大きくなる場合も同様として下さい。
 この基礎はり配筋法は変更できません。



角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)							
アンカーボルト							
B=480							
アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Ld)
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈横・縦柱筋〉	1250	20-229 (S3300)	D16#150 (S2295)	1250	20-229 (S3300)	D16#150 (S2295)	760
〈中柱筋〉	1250	20-229 (S3300)	D16#150 (S2295)	1250	20-229 (S3300)	D16#150 (S2295)	760

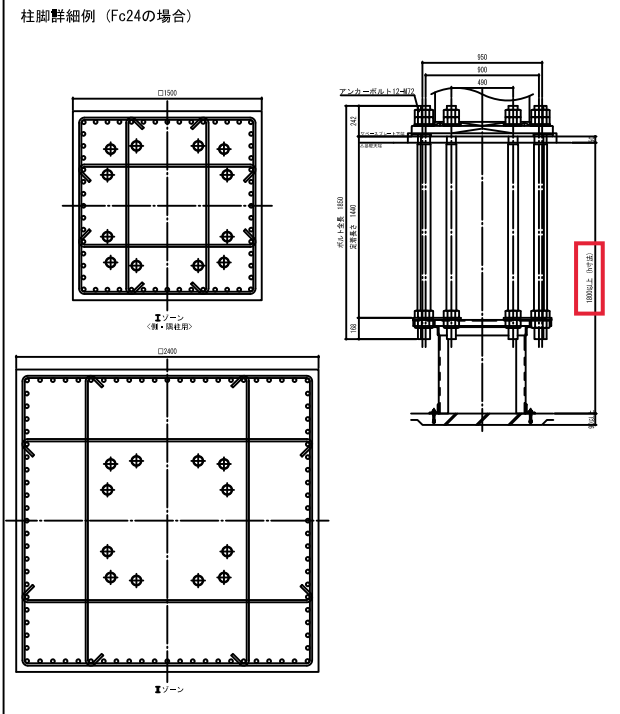
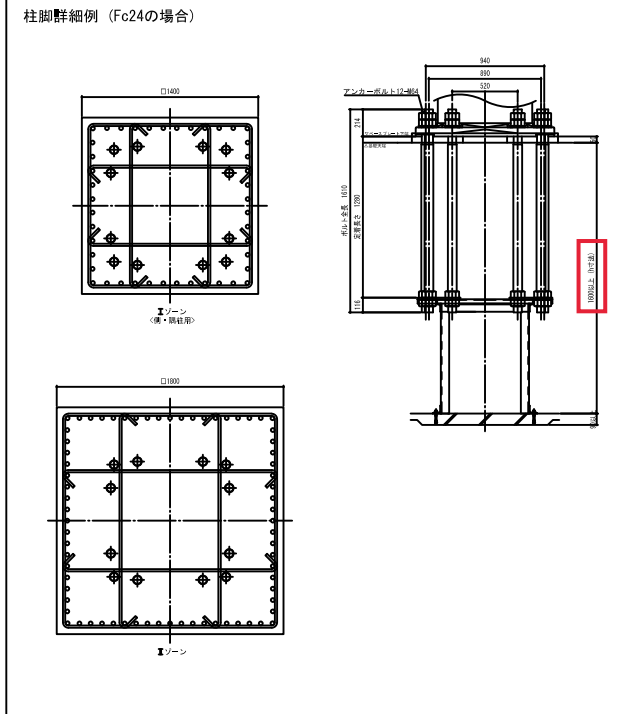
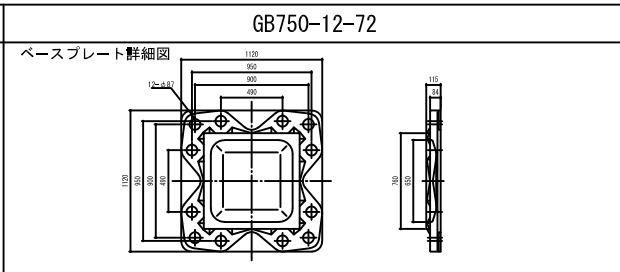
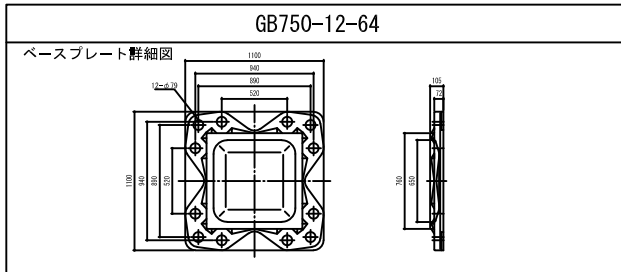
注1) Iゾーン分についてはハイベース配筋のハンドブックの各章の設計例を参照して下さい。
 注2) 鉄筋の定着長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形主筋が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース配筋のハンドブックの設計例に、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) 〈中柱筋〉の鉄筋量は、基礎筋の筋量から筋量30%として算定して下さい。筋量から筋量算出がこれより小さくなる場合、筋量から筋量算出がこれより大きくなる場合は〈横・縦柱筋〉の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は柱がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎筋は同一径です。アンカーボルトサイズと基礎筋径は同一径でなければなりません。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)							
アンカーボルト							
12=480							
アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Ld)
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈横・縦柱筋〉	1250	20-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	1250	40-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	760
〈中柱筋〉	1250	20-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	1250	40-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	760

注1) Iゾーン分についてはハイベース配筋のハンドブックの各章の設計例を参照して下さい。
 注2) 鉄筋の定着長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形主筋が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース配筋のハンドブックの設計例に、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) 〈中柱筋〉の鉄筋量は、基礎筋の筋量から筋量30%として算定して下さい。筋量から筋量算出がこれより小さくなる場合、筋量から筋量算出がこれより大きくなる場合は〈横・縦柱筋〉の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は柱がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎筋は同一径です。アンカーボルトサイズと基礎筋径は同一径でなければなりません。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)							
アンカーボルト							
12=456							
アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Ld)
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈横・縦柱筋〉	1300	20-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	1500	56-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	990
〈中柱筋〉	1300	20-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	1500	56-229 (S3300)	D16#100 (S2295)	990

注1) Iゾーン分についてはハイベース配筋のハンドブックの各章の設計例を参照して下さい。
 注2) 鉄筋の定着長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形主筋が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース配筋のハンドブックの設計例に、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) 〈中柱筋〉の鉄筋量は、基礎筋の筋量から筋量30%として算定して下さい。筋量から筋量算出がこれより小さくなる場合、筋量から筋量算出がこれより大きくなる場合は〈横・縦柱筋〉の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は柱がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎筋は同一径です。アンカーボルトサイズと基礎筋径は同一径でなければなりません。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

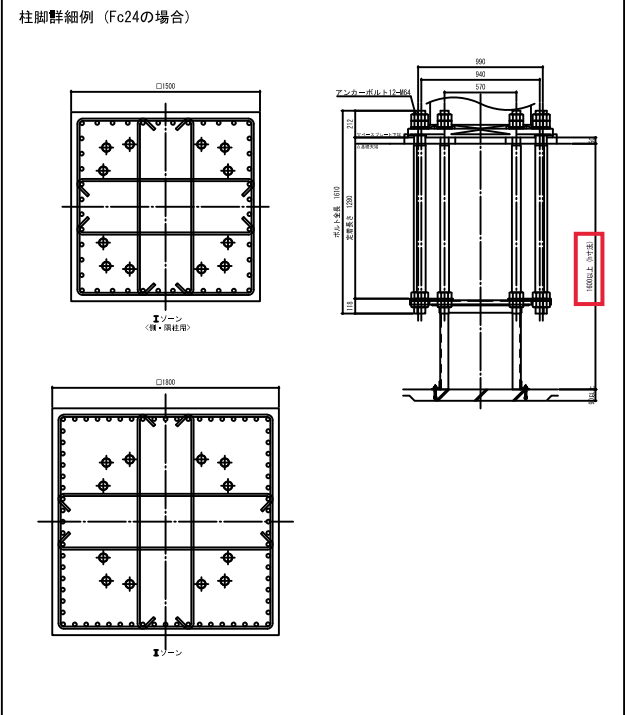
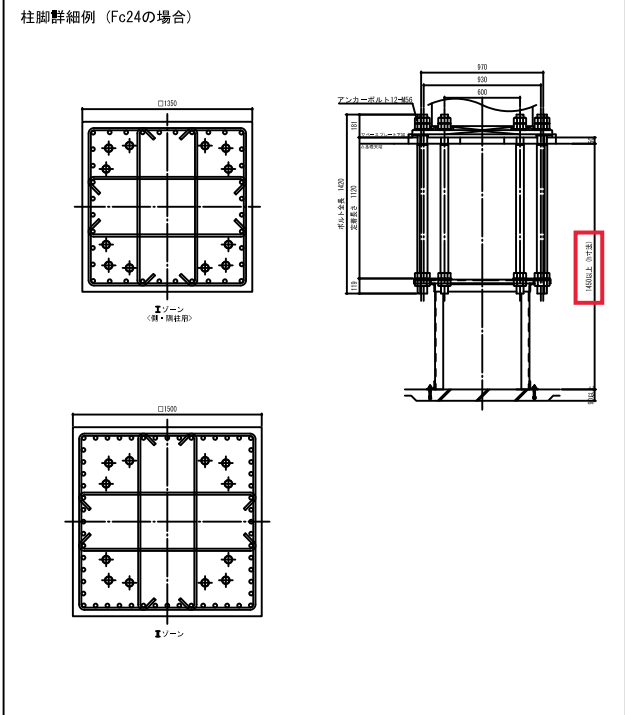
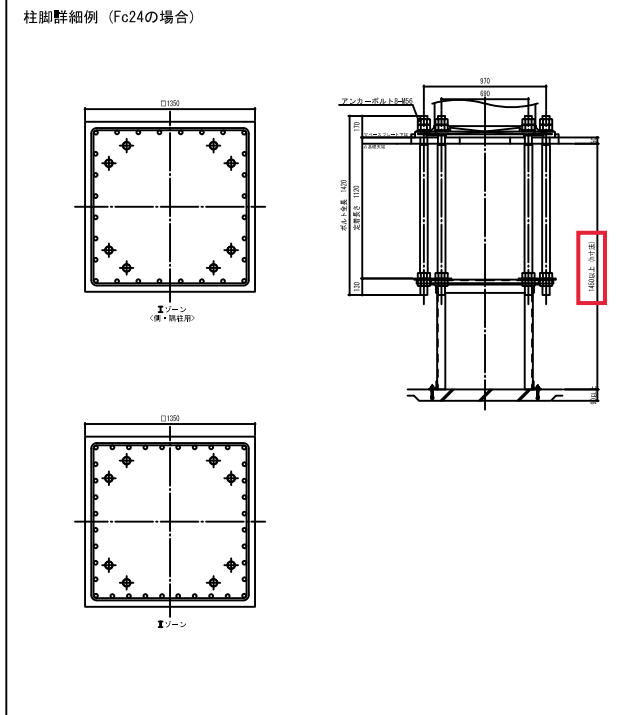
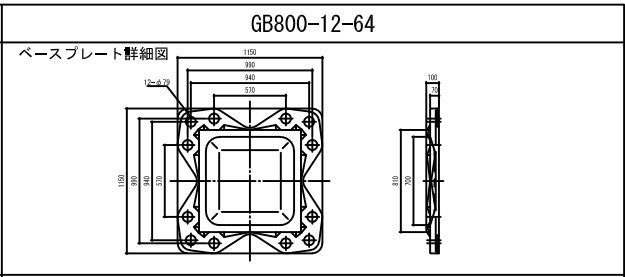
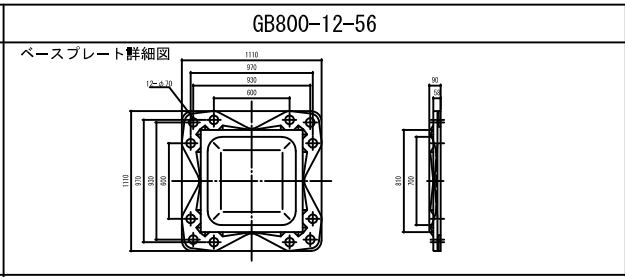
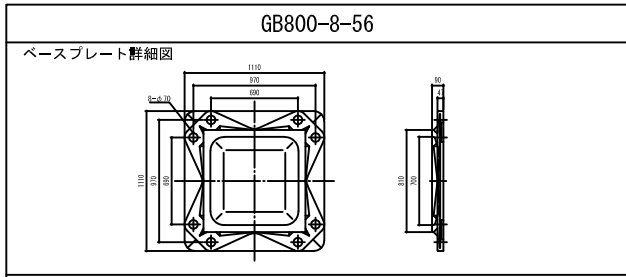


角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)							
アンカーボルト 12-64							
	■ゾーン						
柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	鉄筋の 定数表 (L1)	
＜横・隅柱形＞	1400	44-229 (S239)	■-0168100 (S236)	1800	72-229 (S239)	■-016880 (S236)	1130
＜中柱形＞	1400	36-229 (S239)	■-0168100 (S236)	1500	72-229 (S239)	■-016880 (S236)	1130

注1) ■ゾーン分付についてはハイベース鋼管製ハンドブラックの各型式の設計標準を参照下さい。
 注2) 帯筋の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎が天端と基礎柱天端が一線となる場合）の配筋例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース鋼管製ハンドブラック取組に準じ、日本建築学会等の標準・指針に準じた配筋を行って下さい。
 注3) ＜中柱形＞の鉄筋量は、基礎形状の異なる別図として規定しています。おぼら筋筋面積がこれよりも小さくなる場合、おぼら筋面積がこれより大きくなる場合は＜横・隅柱形＞の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎鋼管は同一径です。アンカーボルトサイズが鉄管異なる配筋により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定数表は、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

角形鋼管柱 □750 (板厚範囲：16~40mm)							
アンカーボルト 12-72							
	■ゾーン						
柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	鉄筋の 定数表 (L1)	
＜横・隅柱形＞	1500	54-229 (S239)	■-0168100 (S236)	2400	88-229 (S239)	■-016880 (S236)	1260
＜中柱形＞	1500	48-229 (S239)	■-0168100 (S236)	2400	88-229 (S239)	■-016880 (S236)	1260

注1) ■ゾーン分付についてはハイベース鋼管製ハンドブラックの各型式の設計標準を参照下さい。
 注2) 帯筋の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎が天端と基礎柱天端が一線となる場合）の配筋例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース鋼管製ハンドブラック取組に準じ、日本建築学会等の標準・指針に準じた配筋を行って下さい。
 注3) ＜中柱形＞の鉄筋量は、基礎形状の異なる別図として規定しています。おぼら筋筋面積がこれよりも小さくなる場合、おぼら筋面積がこれより大きくなる場合は＜横・隅柱形＞の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルトと基礎鋼管は同一径です。アンカーボルトサイズが鉄管異なる配筋により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定数表は、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）



角形鋼管柱 □300 (取付範囲: 16~40mm)		角形鋼管柱 □300 (取付範囲: 16~40mm)	
アンカーボルト B-465		アンカーボルト B-465	
Iゾーン		IIゾーン	
柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形
〈横・縦柱形〉	1350	24-229 (S2390)	D16(100) (S2295)
〈中柱形〉	1350	24-229 (S2390)	D16(100) (S2295)

鉄筋の定尺長さ (L)
900

注1) Iゾーン分についてはハイベース組立の取付範囲を参照下さい。
注2) 鉄筋の定尺長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱天端が一線となる場合) の取付例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース組立のハンドブック第4巻に準じ、日本建築学会等の取組・指針に準拠した取付を行って下さい。
注3) 〈中柱形〉の鉄筋量は、基礎筋の筋間隔を筋径の1/30として算定しています。筋間隔がこれより小さくなる場合、筋間隔がこれより大きくなる場合は〈横・縦柱形〉の鉄筋量として下さい。
注4) h寸法は筋がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
注5) アンカーボルトは取付範囲は一律です。アンカーボルトサイズや取付位置などは取付により形状が異なります。
注6) 鉄筋の定尺長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上節下部共通)

角形鋼管柱 □300 (取付範囲: 16~40mm)		角形鋼管柱 □300 (取付範囲: 16~40mm)	
アンカーボルト B-465		アンカーボルト B-465	
Iゾーン		IIゾーン	
柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形
〈横・縦柱形〉	1350	24-229 (S2390)	D16(100) (S2295)
〈中柱形〉	1350	24-229 (S2390)	D16(100) (S2295)

鉄筋の定尺長さ (L)
999

注1) Iゾーン分についてはハイベース組立の取付範囲を参照下さい。
注2) 鉄筋の定尺長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱天端が一線となる場合) の取付例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース組立のハンドブック第4巻に準じ、日本建築学会等の取組・指針に準拠した取付を行って下さい。
注3) 〈中柱形〉の鉄筋量は、基礎筋の筋間隔を筋径の1/30として算定しています。筋間隔がこれより小さくなる場合、筋間隔がこれより大きくなる場合は〈横・縦柱形〉の鉄筋量として下さい。
注4) h寸法は筋がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
注5) アンカーボルトは取付範囲は一律です。アンカーボルトサイズや取付位置などは取付により形状が異なります。
注6) 鉄筋の定尺長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上節下部共通)

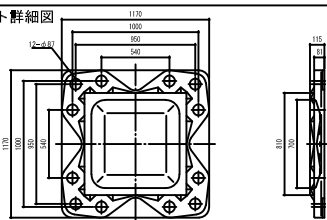
角形鋼管柱 □300 (取付範囲: 16~40mm)		角形鋼管柱 □300 (取付範囲: 16~40mm)	
アンカーボルト B-465		アンカーボルト B-465	
Iゾーン		IIゾーン	
柱形	基礎柱形主筋	等筋	柱形
〈横・縦柱形〉	1500	44-229 (S2390)	D16(100) (S2295)
〈中柱形〉	1500	44-229 (S2390)	D16(100) (S2295)

鉄筋の定尺長さ (L)
1130

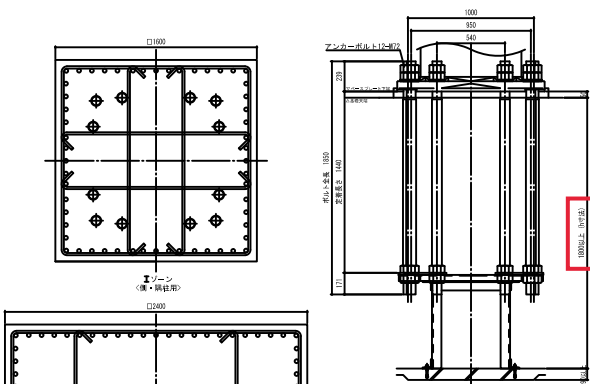
注1) Iゾーン分についてはハイベース組立の取付範囲を参照下さい。
注2) 鉄筋の定尺長さは基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱天端が一線となる場合) の取付例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベース組立のハンドブック第4巻に準じ、日本建築学会等の取組・指針に準拠した取付を行って下さい。
注3) 〈中柱形〉の鉄筋量は、基礎筋の筋間隔を筋径の1/30として算定しています。筋間隔がこれより小さくなる場合、筋間隔がこれより大きくなる場合は〈横・縦柱形〉の鉄筋量として下さい。
注4) h寸法は筋がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
注5) アンカーボルトは取付範囲は一律です。アンカーボルトサイズや取付位置などは取付により形状が異なります。
注6) 鉄筋の定尺長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上節下部共通)

GB800-12-72

ベースプレート詳細図



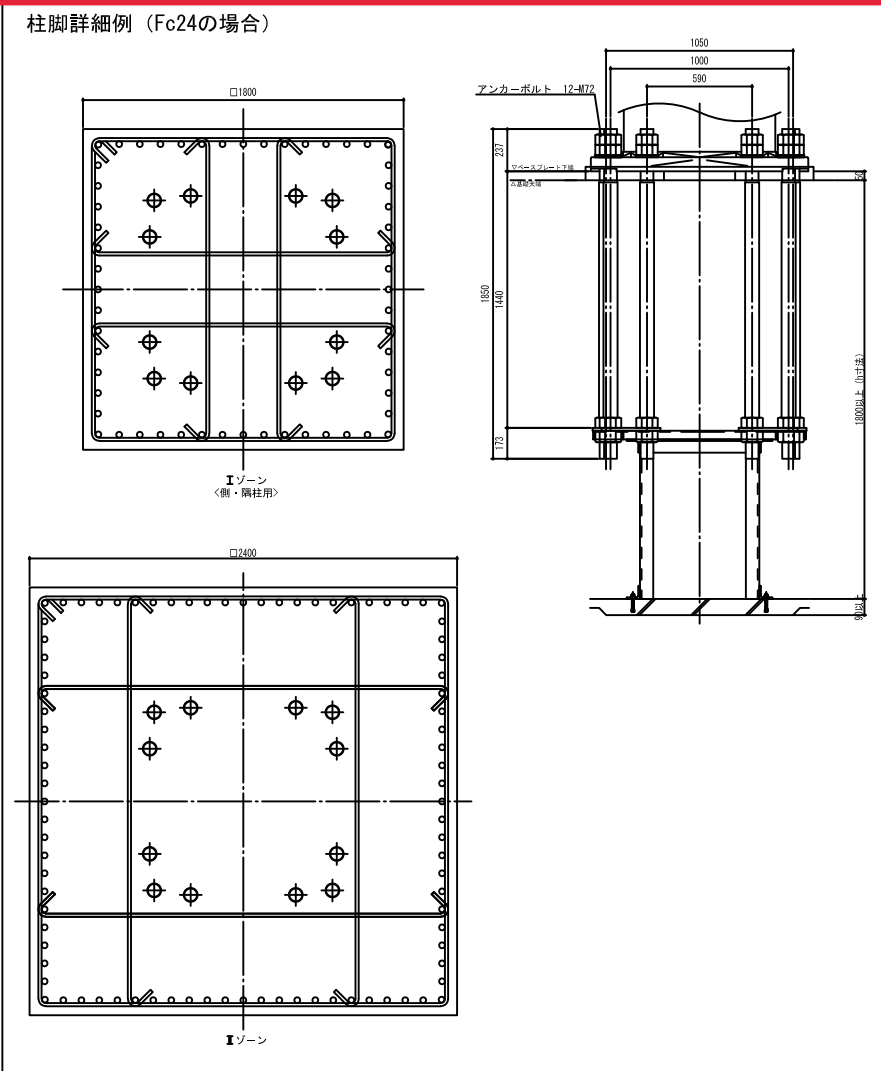
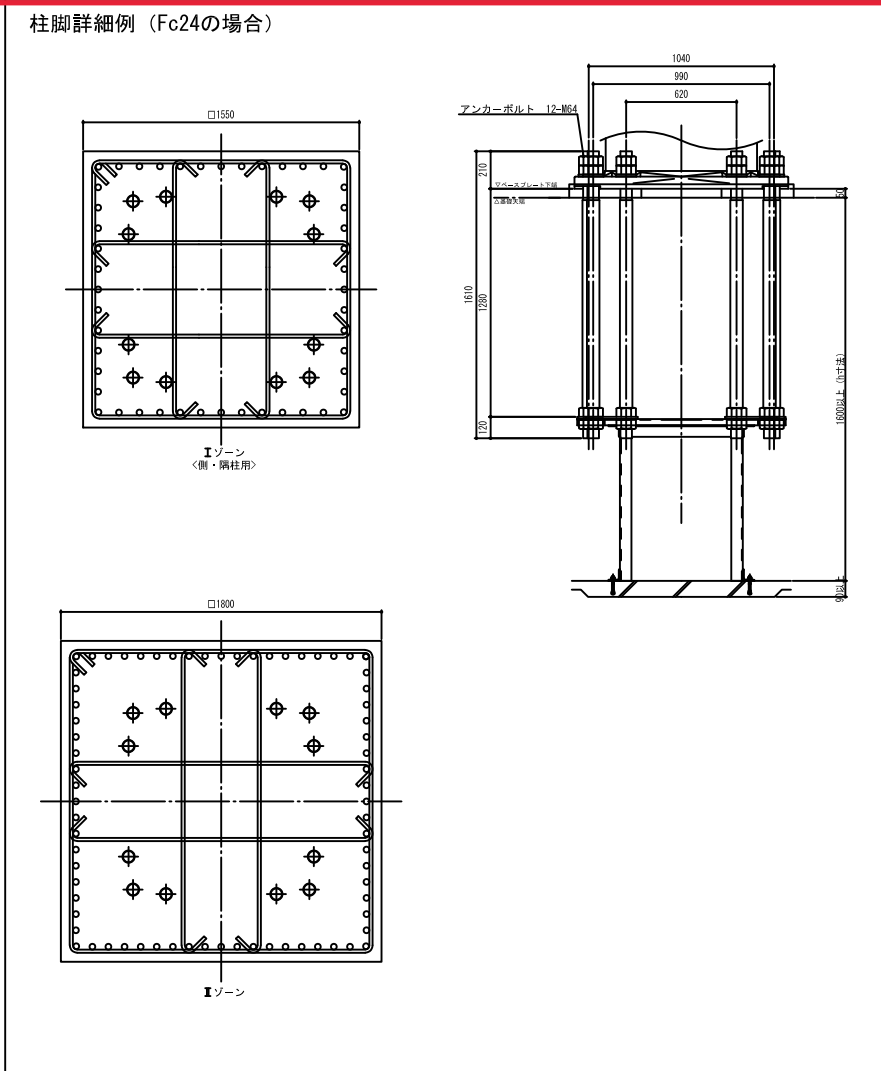
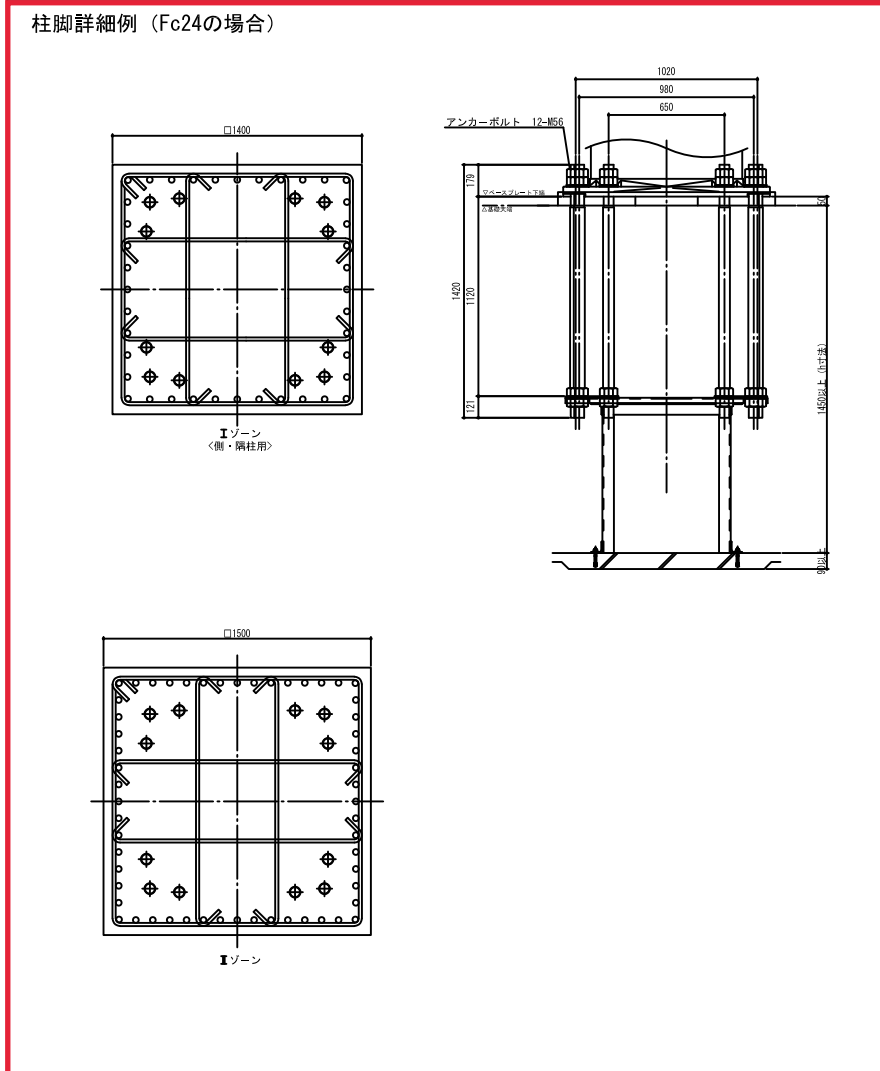
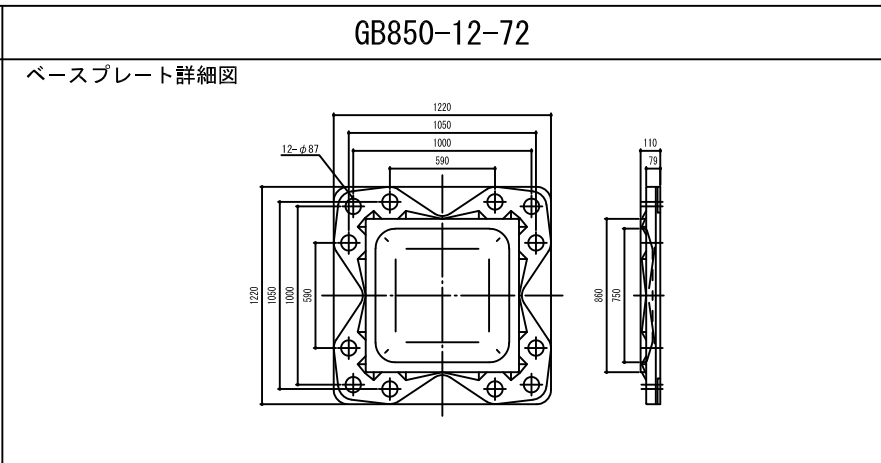
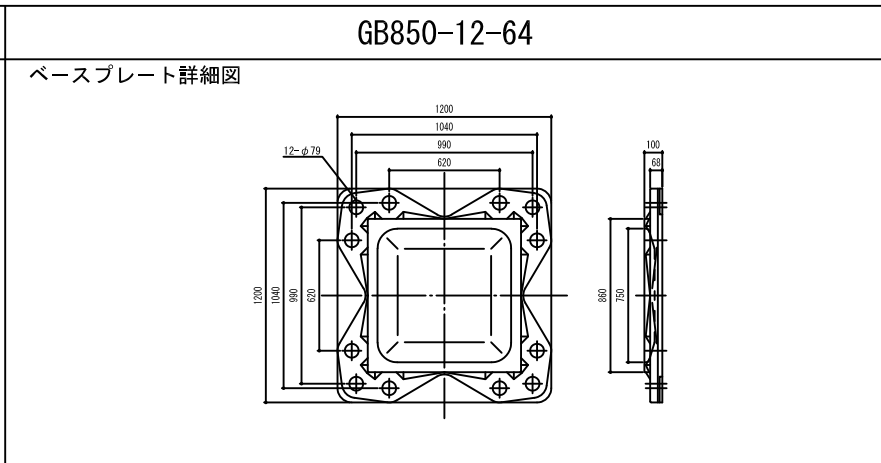
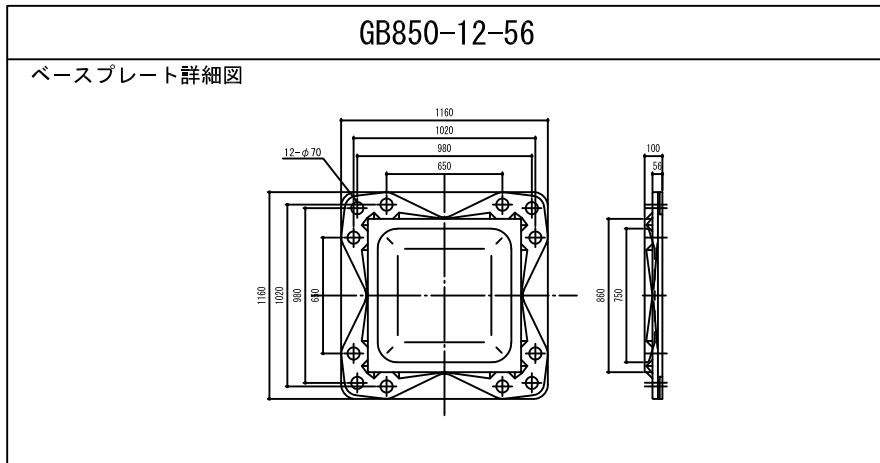
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



角形鋼管柱 □300 (軸間距離: 16~40mm)							
アンカーボルト							
12-402							
アンカーボルト	Iゾーン			IIゾーン		鉄筋の 実高(表) (L1)	
	柱径	基礎柱形主筋	帯筋	柱径	基礎柱形主筋		帯筋
〈横・縦柱形〉	1600	56-429 (S239)	■-D16(100) (S235)	2400	88-229 (S239)	■-D16(80) (S235)	1260
〈中柱形〉	1600	48-229 (S239)	■-D16(100) (S235)	2400	88-229 (S239)	■-D16(80) (S235)	1260

注1) Iゾーン分については、ベースプレートと鋼管柱との接合部の形式の取付位置を参照下さい。
 注2) 帯筋の筋間距離は基礎立上りのない場合(基礎がり天端と基礎柱形主筋が一線となる場合)の取付例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイペース(奥側)ハンドブック第4巻に、日本建築学会等の規準・指針に準拠した取付を行って下さい。
 注3) 〈中柱形〉の筋間距離は、基礎厚の約半分(約100mm)として算定しています。おぼろ筋間距離がこれより大きくなる場合、おぼろ筋間距離がこれより大きくなる場合は、筋間距離がこれより大きくなる場合は、筋間距離をこの値として下さい。
 注4) 寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法に100mm以上繰上して下さい。
 注5) アンカーボルトの取付位置は二線です。アンカーボルトの寸法は、鋼管柱の規格により異なります。
 注6) 鉄筋の実高(表)は、表中の寸法以上繰上して下さい。(上欄下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



適用柱		角形鋼管柱 □850 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M56					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (Lt)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1400	40-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	990
<中柱用>	1400	32-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	990

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

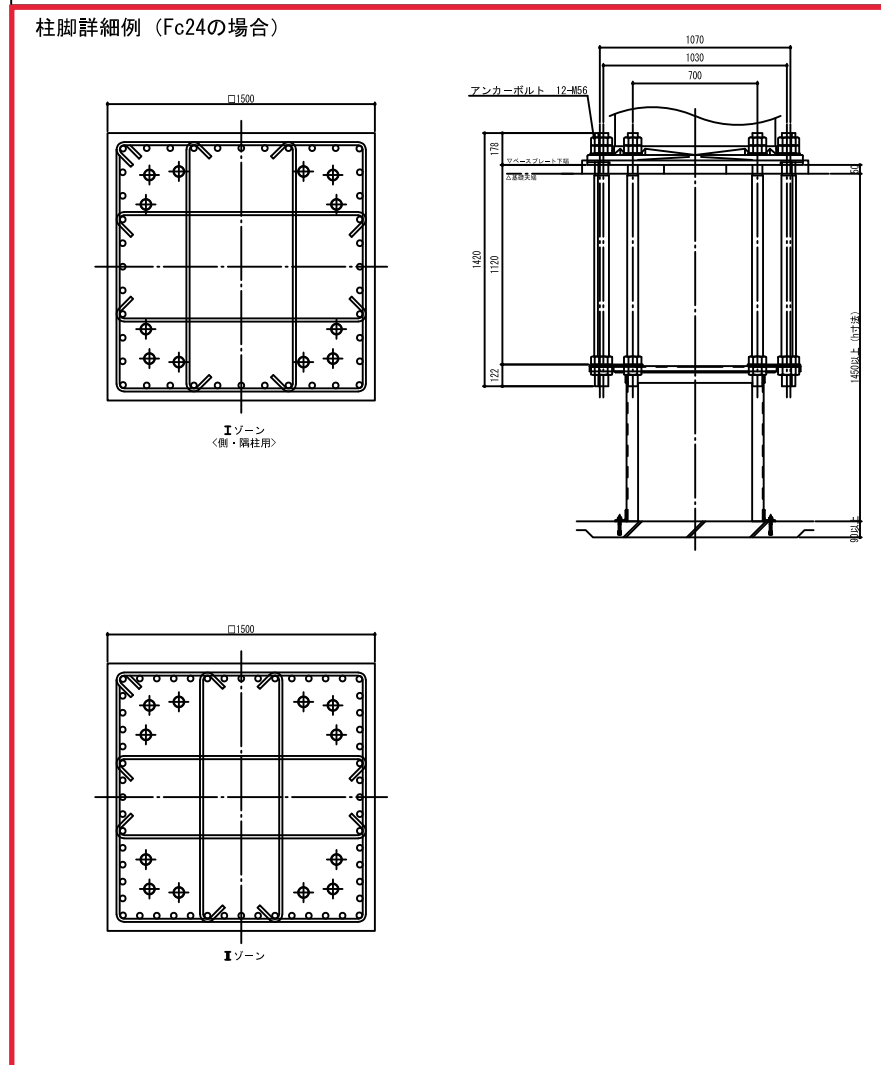
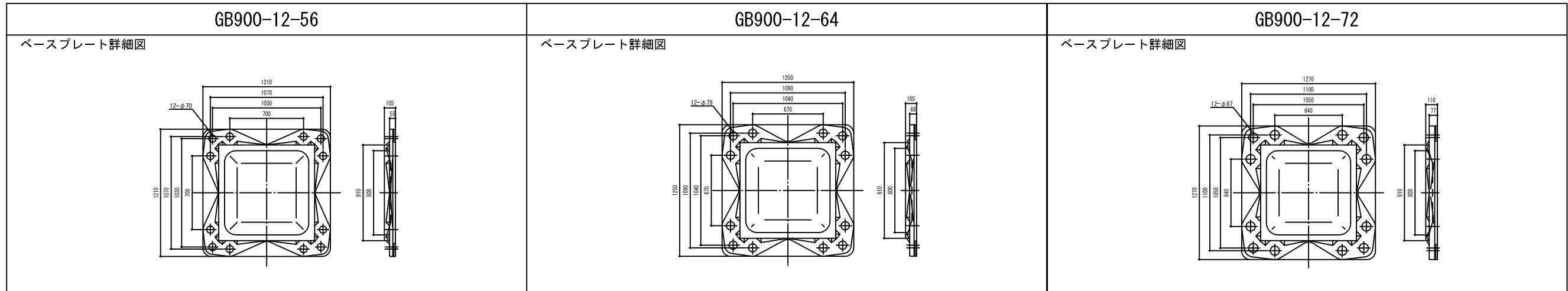
適用柱		角形鋼管柱 □850 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M64					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (Lt)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1550	48-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1130
<中柱用>	1550	40-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1130

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱		角形鋼管柱 □850 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M72					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (Lt)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1800	56-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1260
<中柱用>	1800	48-D29 (SD390)	■-D16H100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16H80 (SD295)	1260

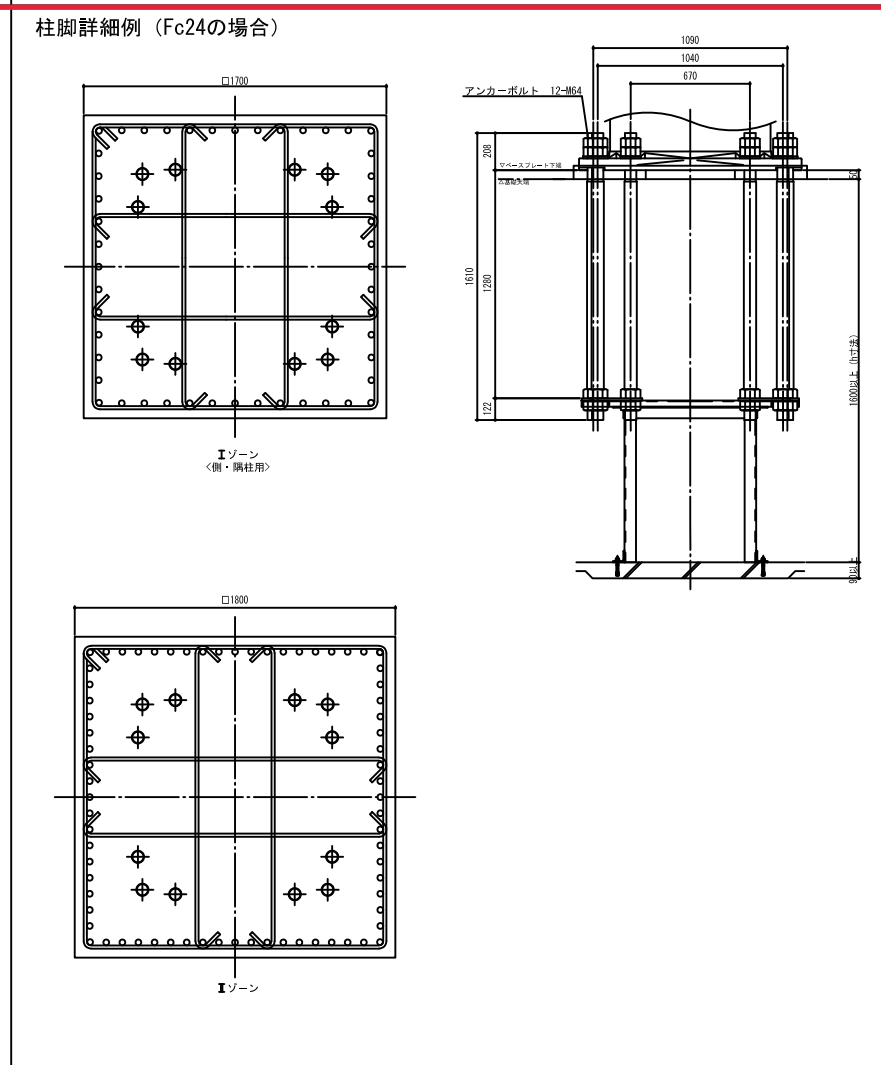
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄がない場合です。鉄がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



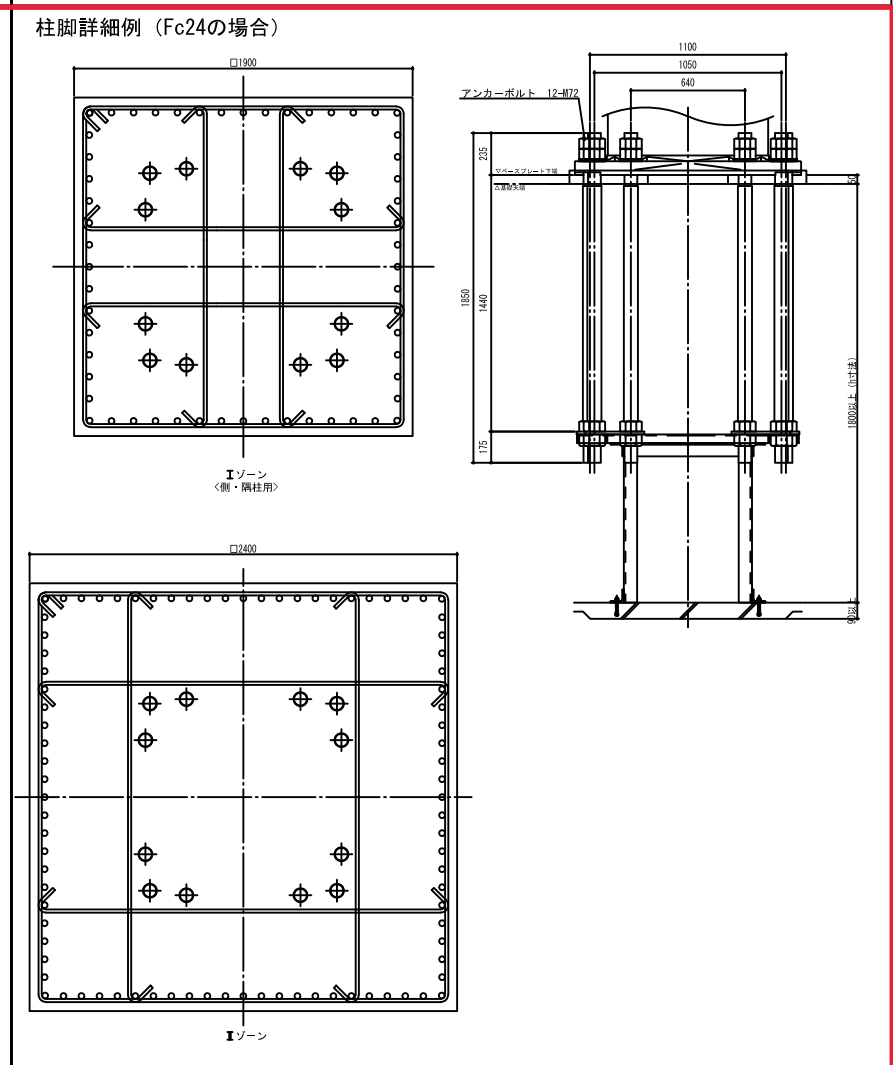
適用柱		角形鋼管柱 □900 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋			
<側・隅柱用>	1500	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	990	
<中柱用>	1500	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	990	

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一部です。アンカーボルトサイズや鉄筋の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □900 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋			
<側・隅柱用>	1700	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130	
<中柱用>	1700	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130	

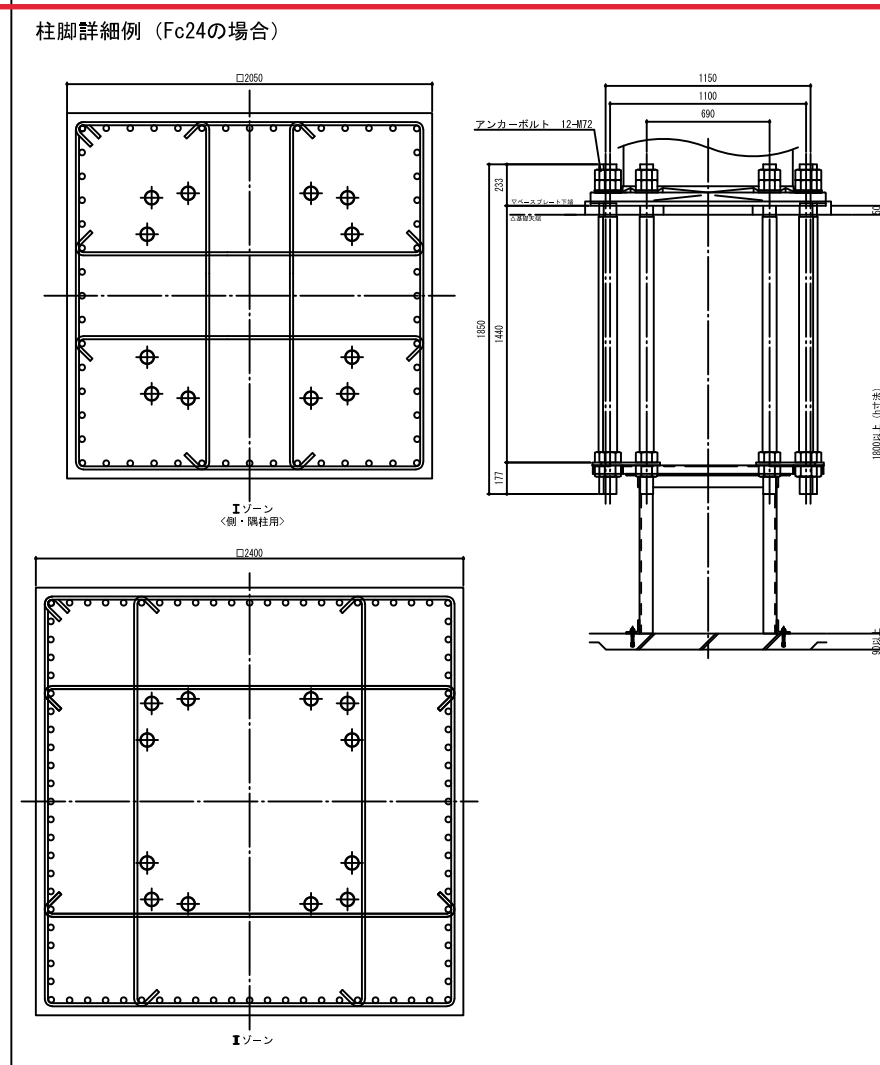
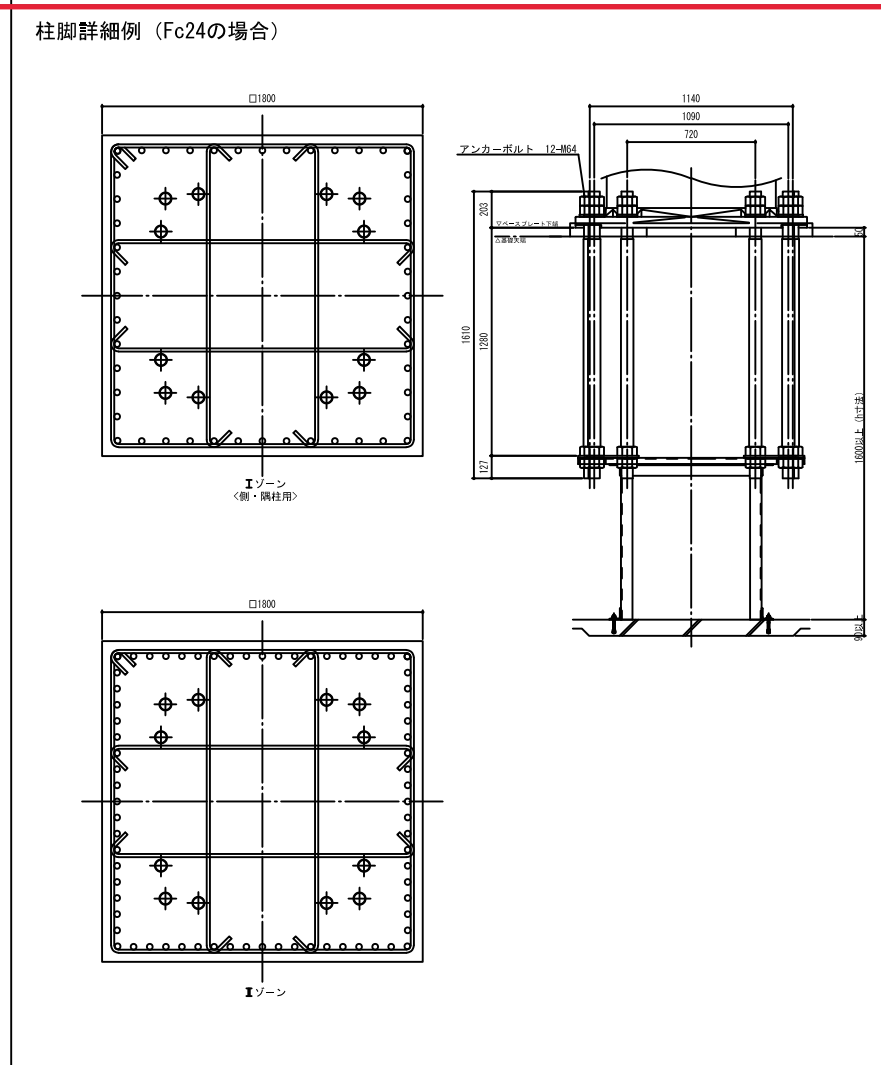
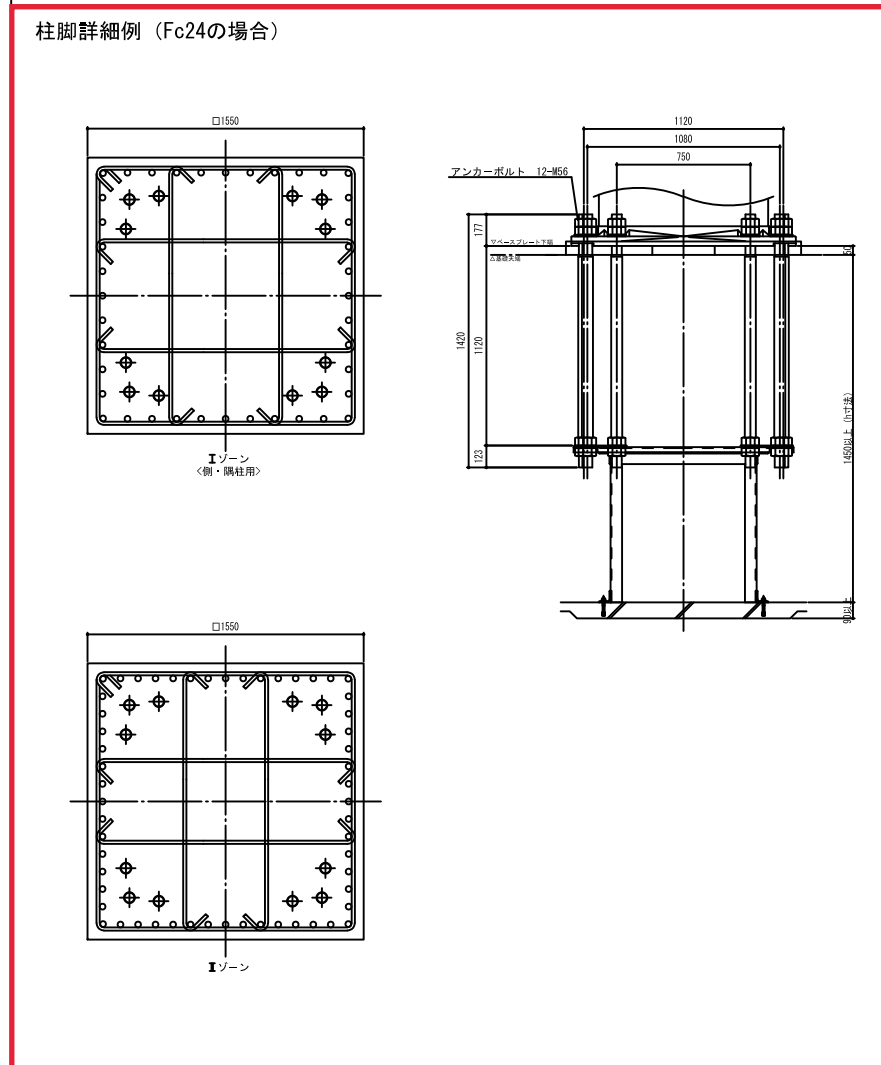
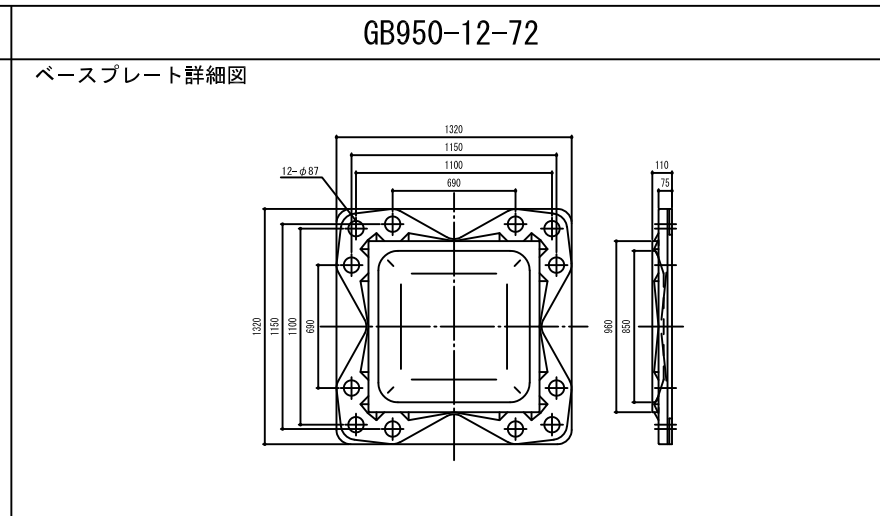
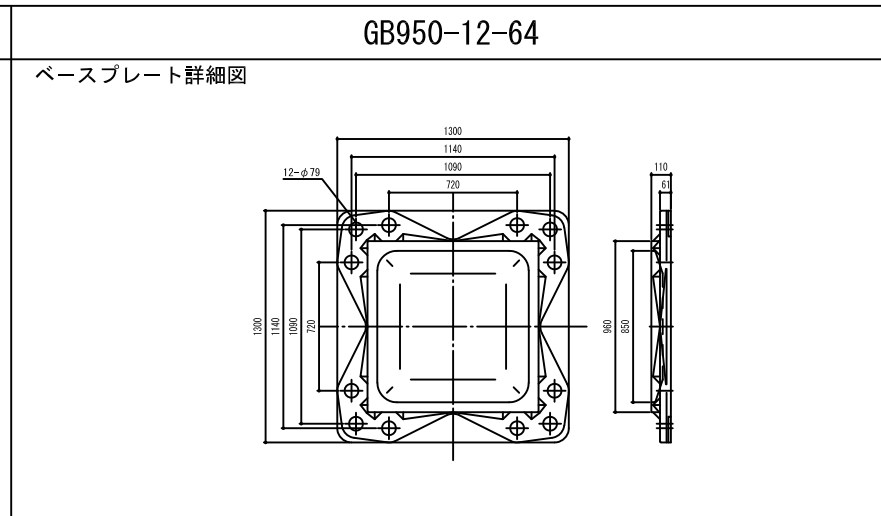
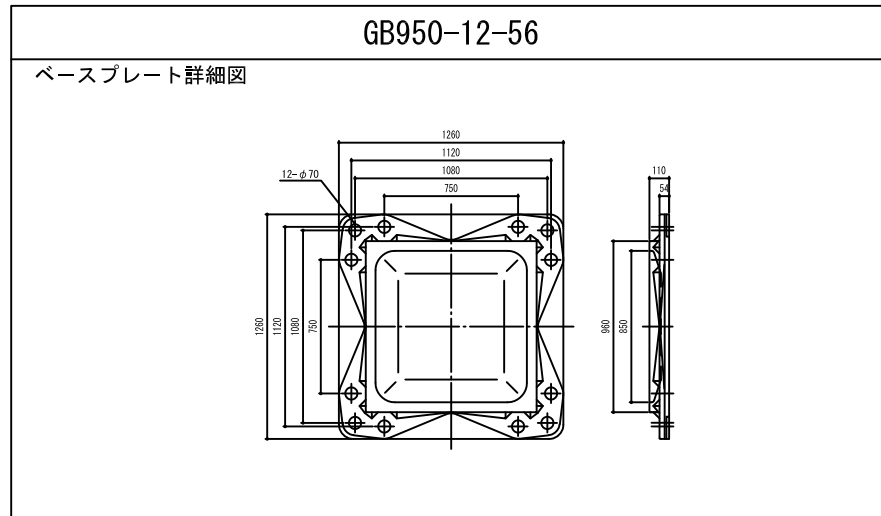
注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一部です。アンカーボルトサイズや鉄筋の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □900 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋			
<側・隅柱用>	1900	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260	
<中柱用>	1900	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260	

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一部です。アンカーボルトサイズや鉄筋の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



適用柱		角形鋼管柱 □950 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M56			12-M64		
	鉄筋の定着長さ(L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	1550	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1550	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	980
<中柱用>	1550	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1550	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	980

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

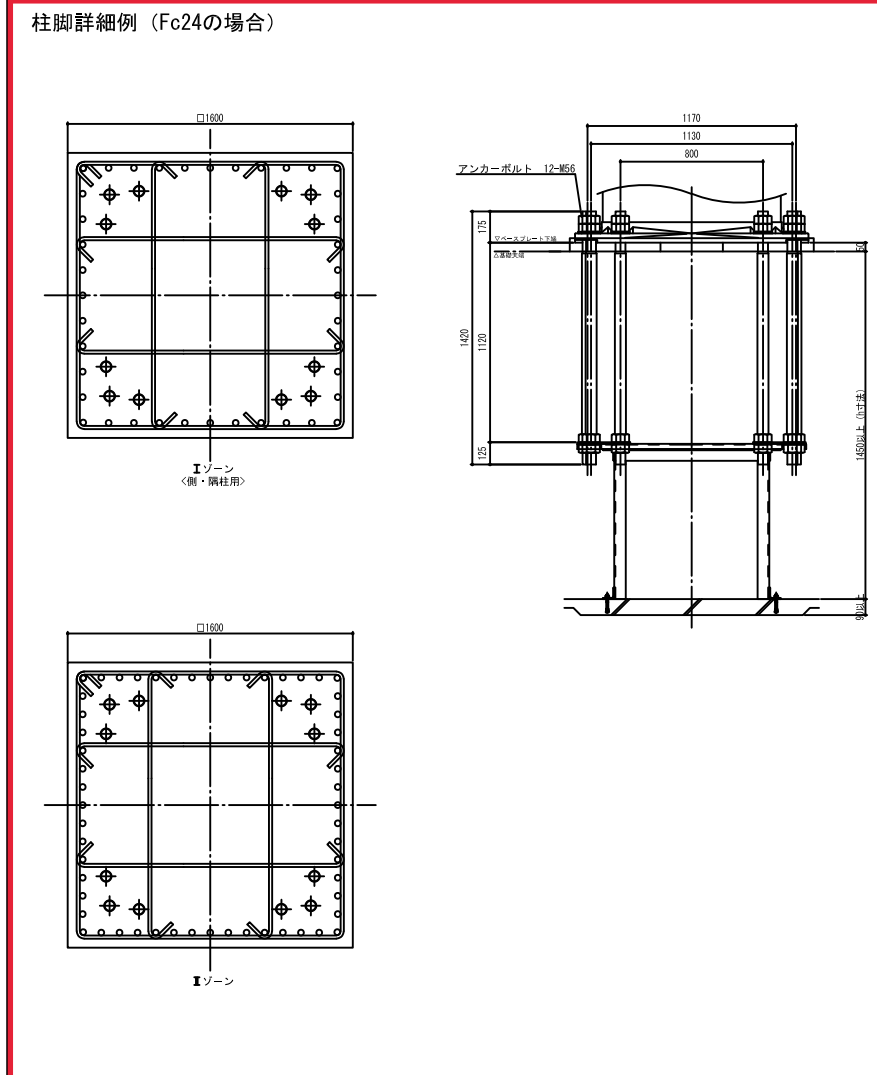
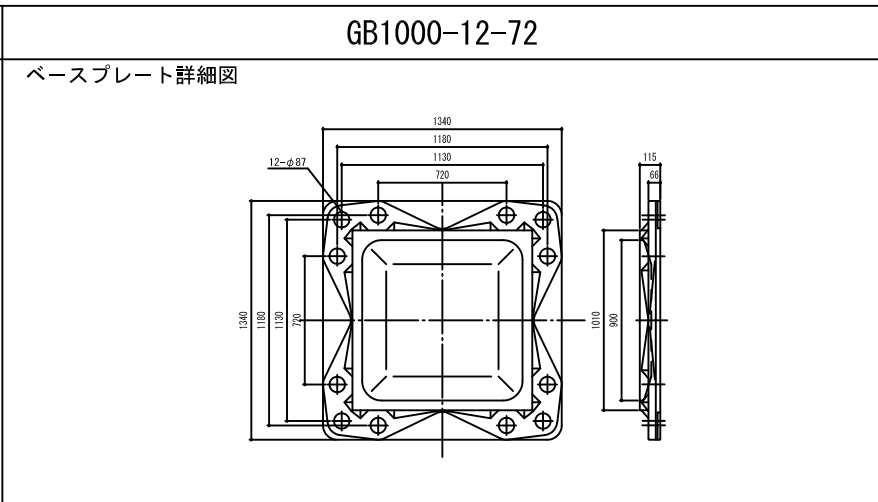
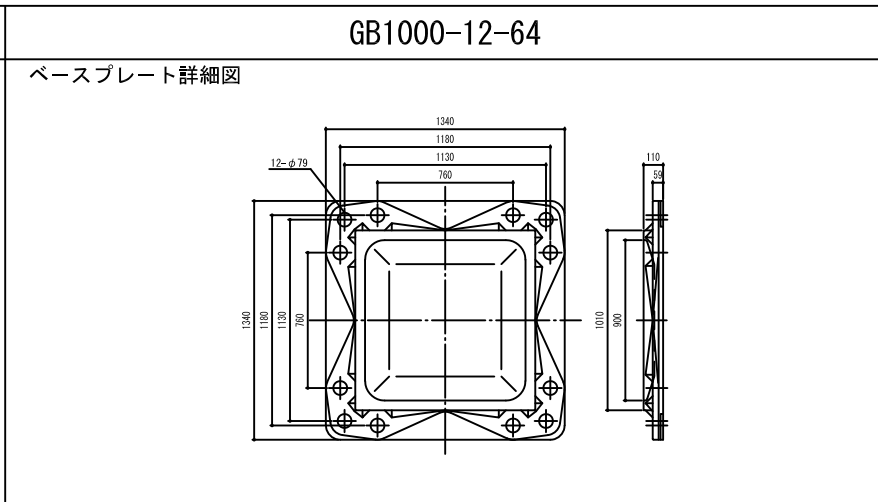
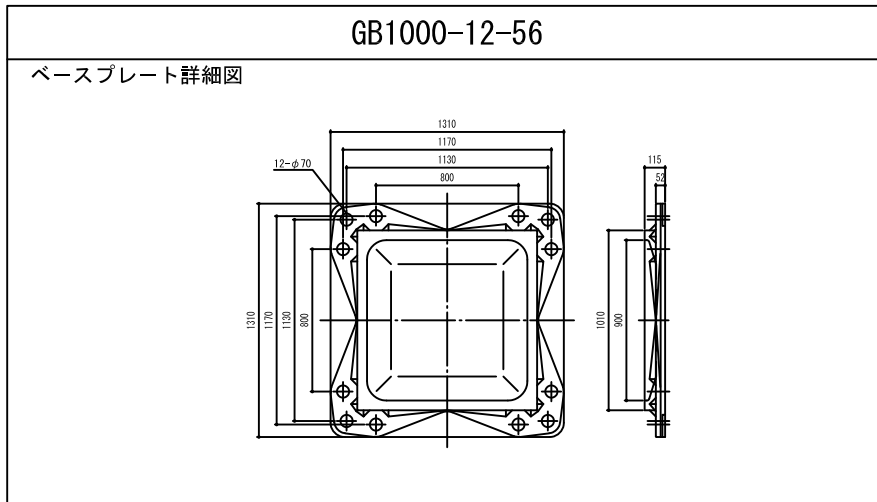
適用柱		角形鋼管柱 □950 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M64			12-M72		
	鉄筋の定着長さ(L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	1800	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130
<中柱用>	1800	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱		角形鋼管柱 □950 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M72			12-M80		
	鉄筋の定着長さ(L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	2050	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
<中柱用>	2050	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

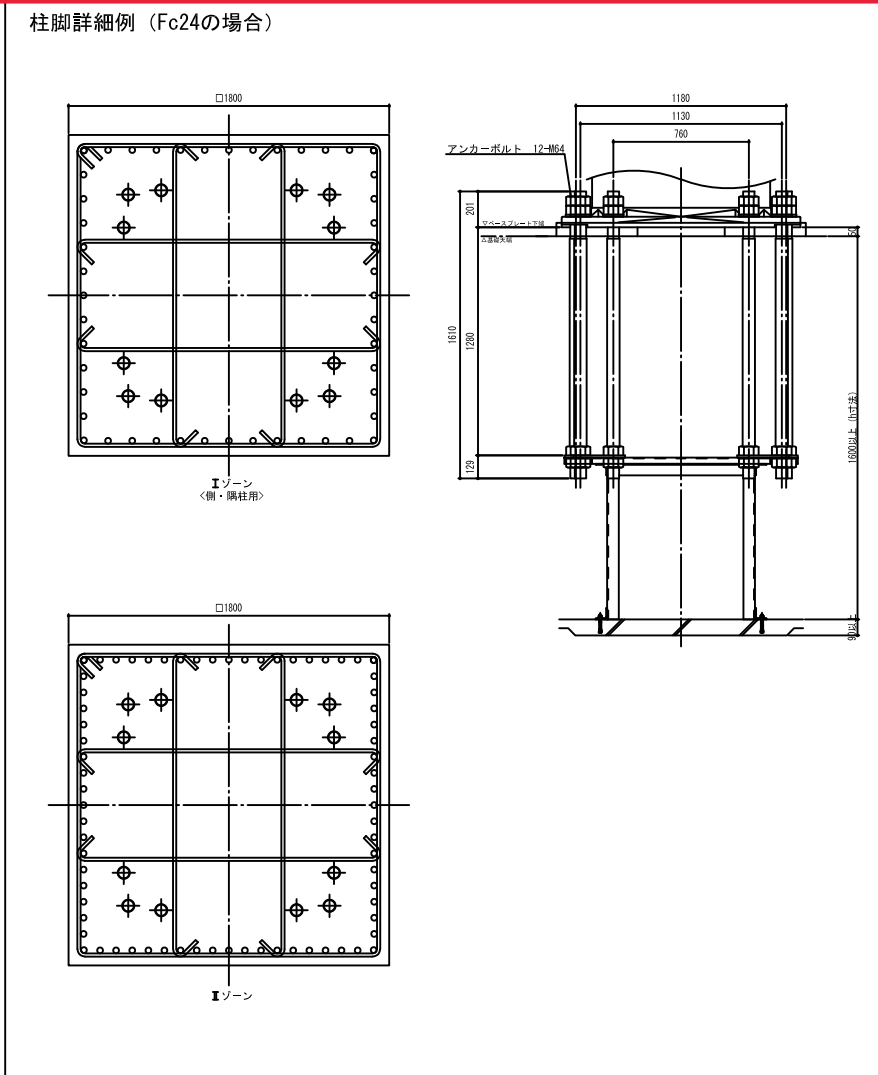
注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加



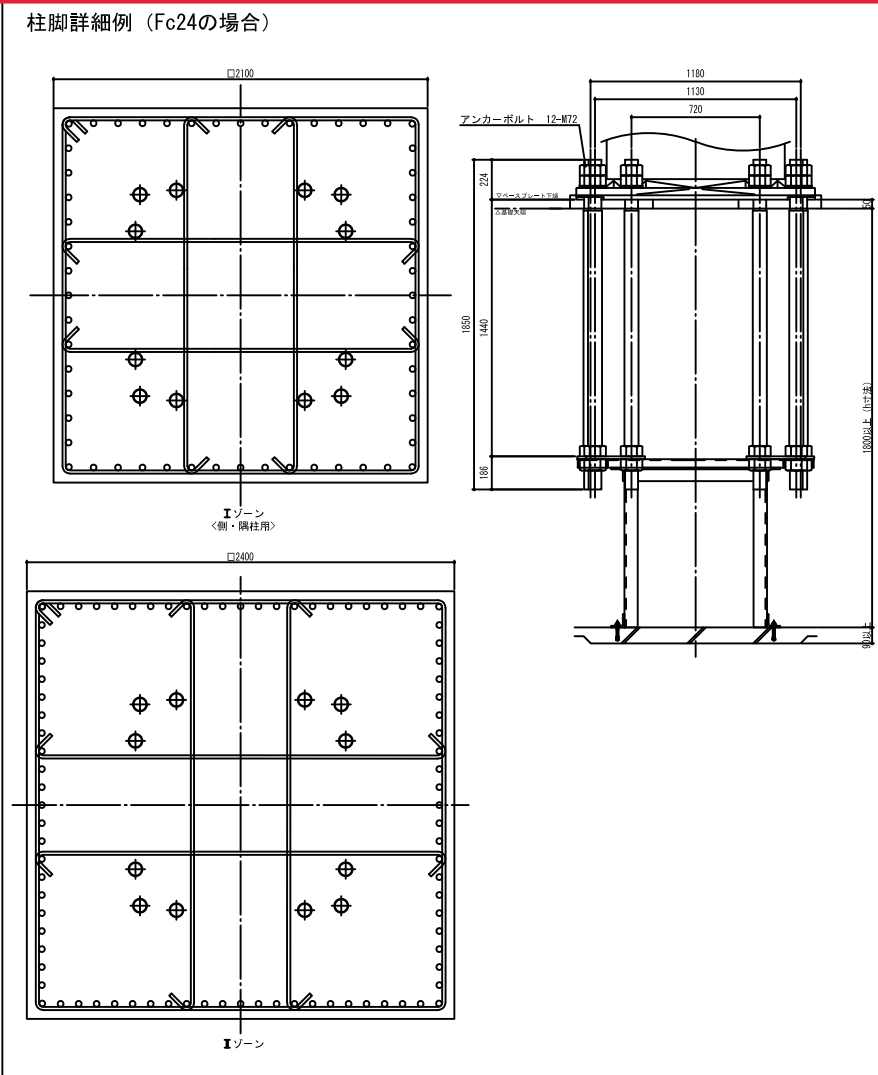
適用柱		角形鋼管柱 □1000 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M56					
	鉄筋の定常長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	1600	4φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1600	5φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	970
<中柱用>	1600	3φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1600	5φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	970

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各形式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用乗台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定常長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □1000 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M64					
	鉄筋の定常長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	1800	4φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	7φ-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130
<中柱用>	1800	4φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	7φ-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1130

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各形式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用乗台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定常長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



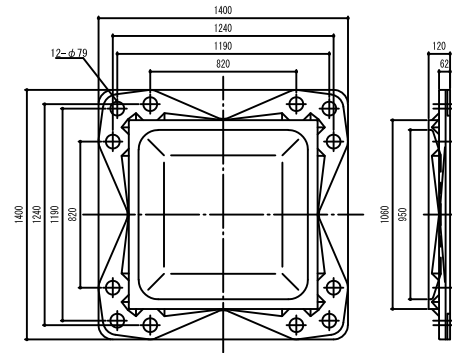
適用柱		角形鋼管柱 □1000 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M72					
	鉄筋の定常長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋
<側・隅柱用>	2100	5φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	8φ-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
<中柱用>	2100	4φ-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	8φ-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

注1) I, IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各形式の耐力図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用乗台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定常長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

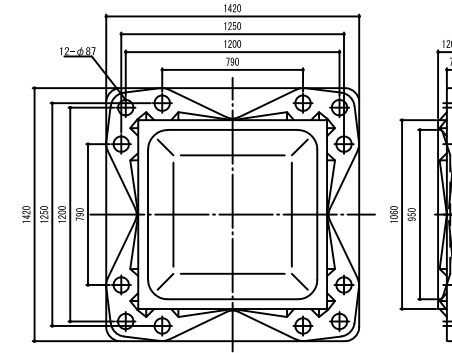
GB1050-12-64

ベースプレート詳細図

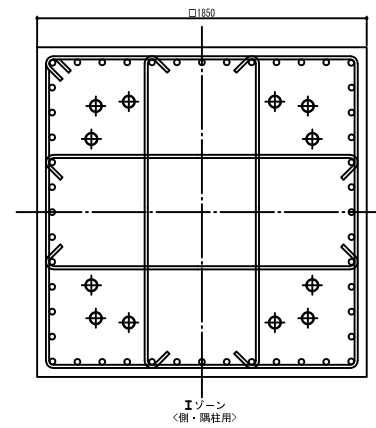


GB1050-12-72

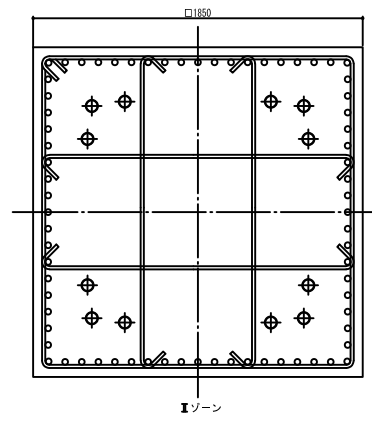
ベースプレート詳細図



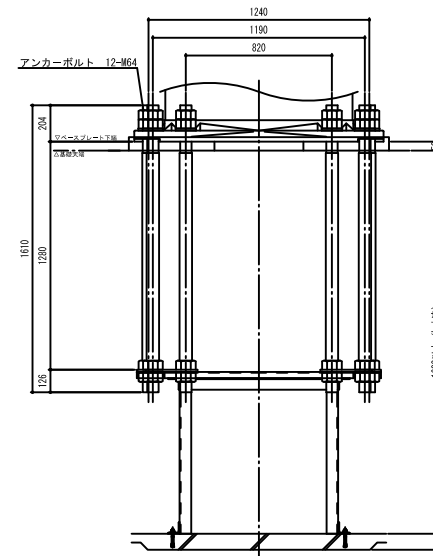
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン
〈側・隅柱用〉



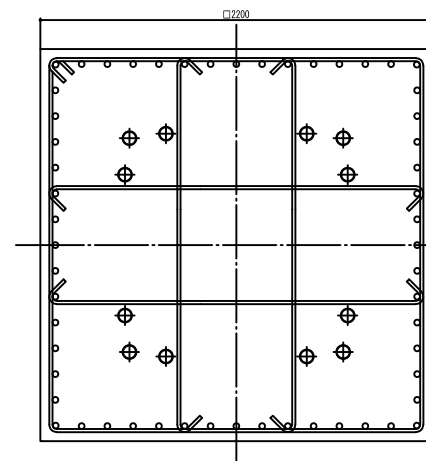
IIゾーン



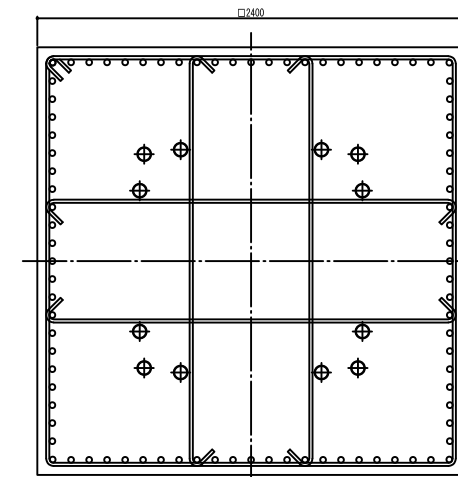
適用柱		角形鋼管柱 □1050 (板厚範囲：16~40mm)						
アンカーボルト		12-M64						
		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の 定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	1850	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120
〈中柱用〉	1850	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

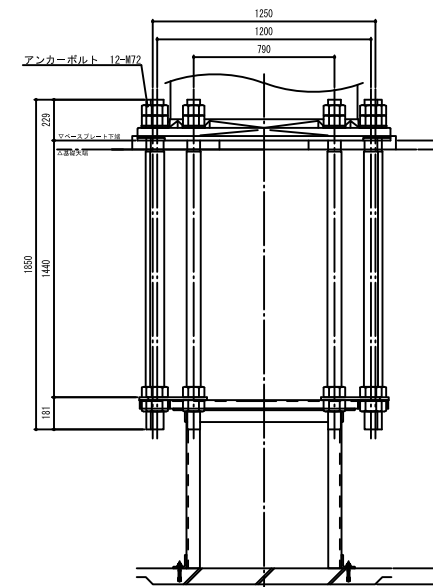
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



Iゾーン
〈側・隅柱用〉



IIゾーン



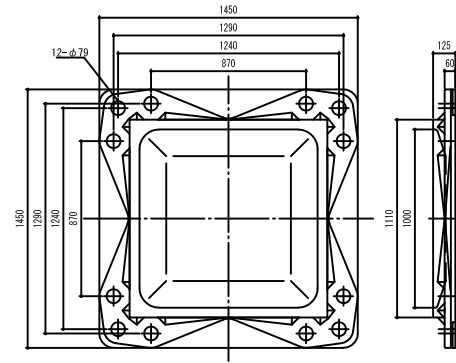
適用柱		角形鋼管柱 □1050 (板厚範囲：16~40mm)						
アンカーボルト		12-M72						
		Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の 定着長さ (L)
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	2200	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
〈中柱用〉	2200	48-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

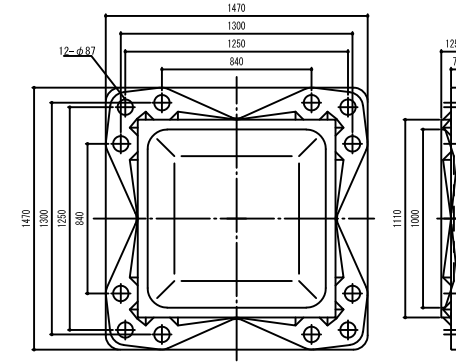
GB1100-12-64

ベースプレート詳細図

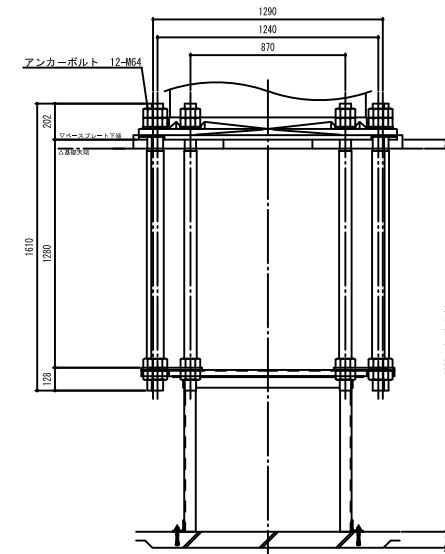
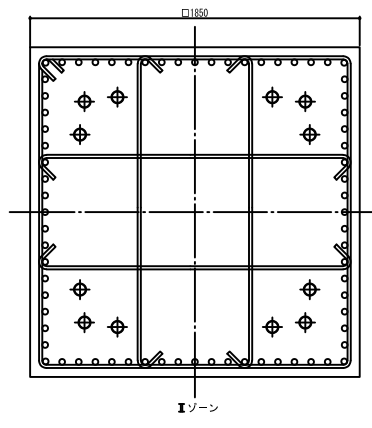
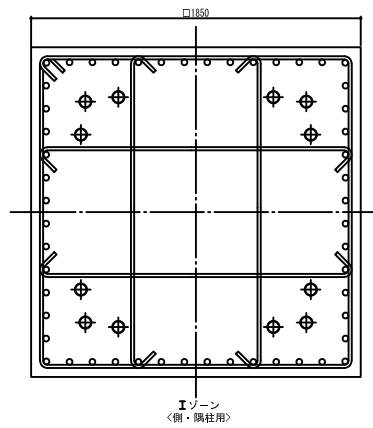


GB1100-12-72

ベースプレート詳細図



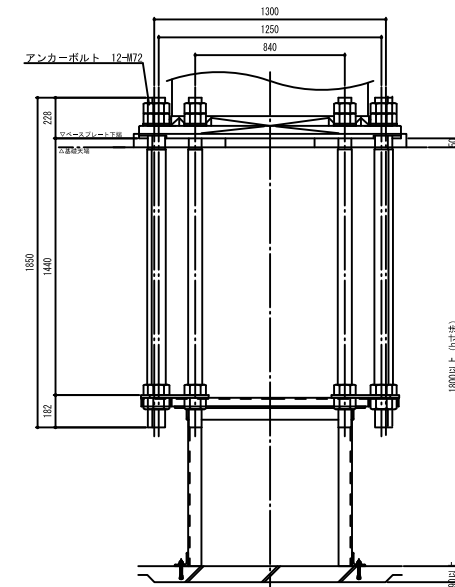
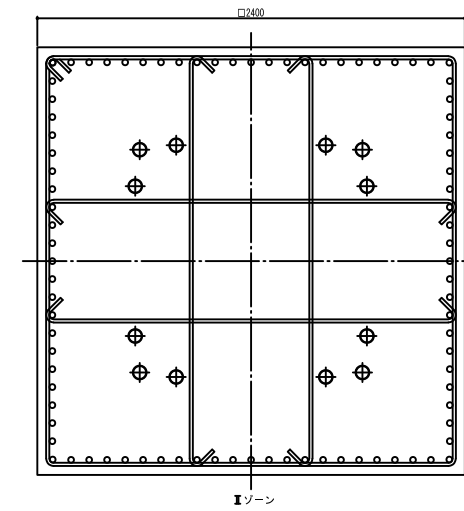
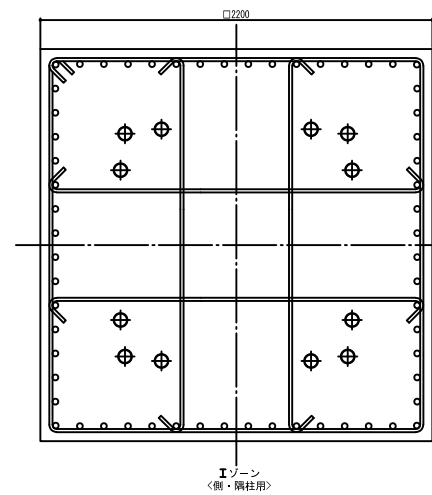
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



適用柱		角形鋼管柱 □1100 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		12-M64						
	鉄筋の定着長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン			
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	1850	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120
<中柱用>	1850	44-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	1850	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1120

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合)



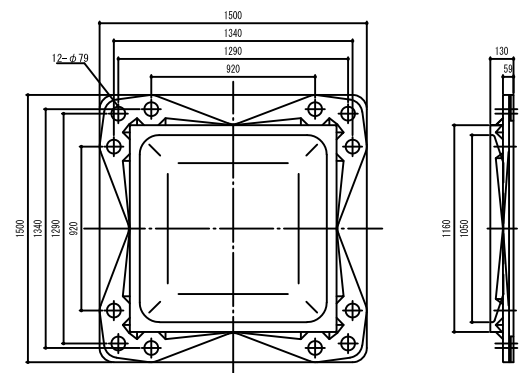
適用柱		角形鋼管柱 □1100 (板厚範囲: 16~40mm)						
アンカーボルト		12-M72						
	鉄筋の定着長さ (L)	Iゾーン			IIゾーン			
		柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
<側・隅柱用>	2200	60-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
<中柱用>	2200	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	■-D16#80 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

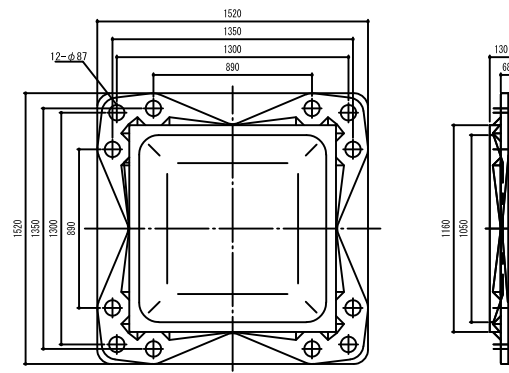
GB1150-12-64

ベースプレート詳細図

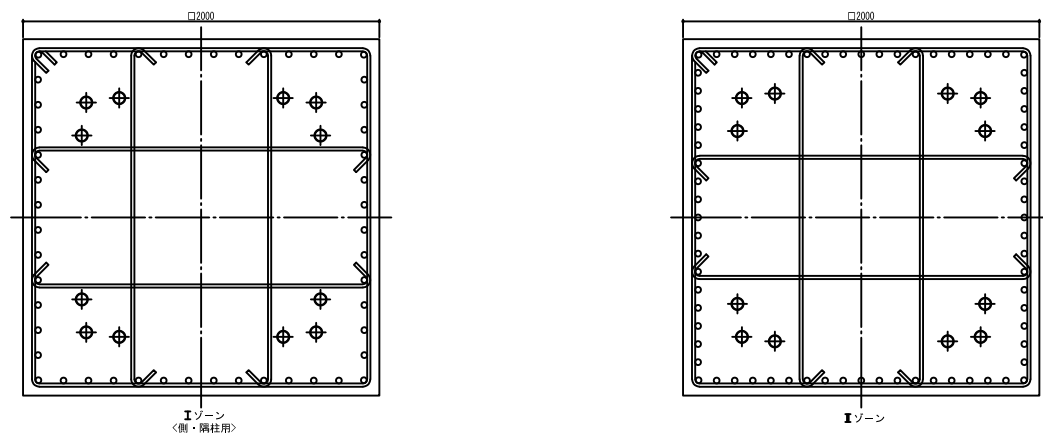


GB1150-12-72

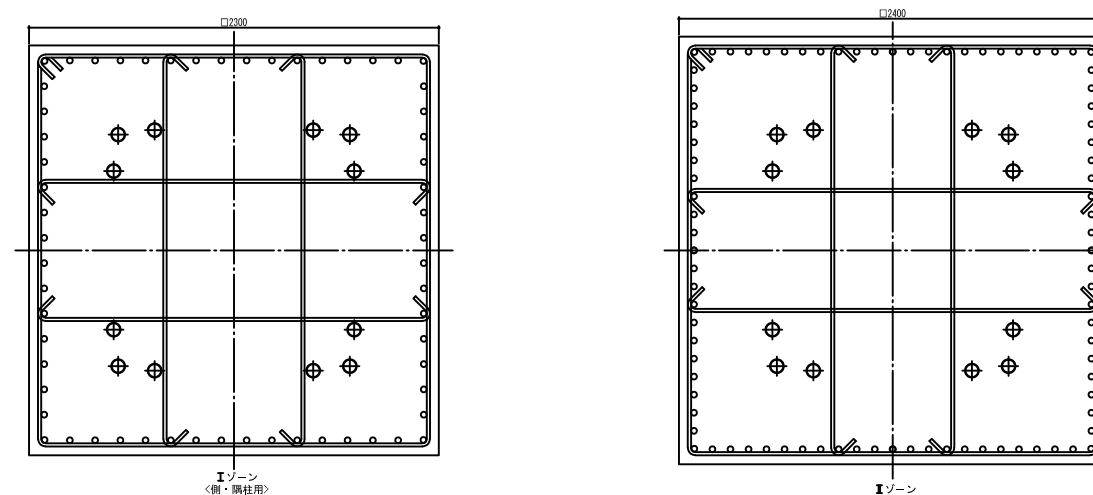
ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc24の場合)

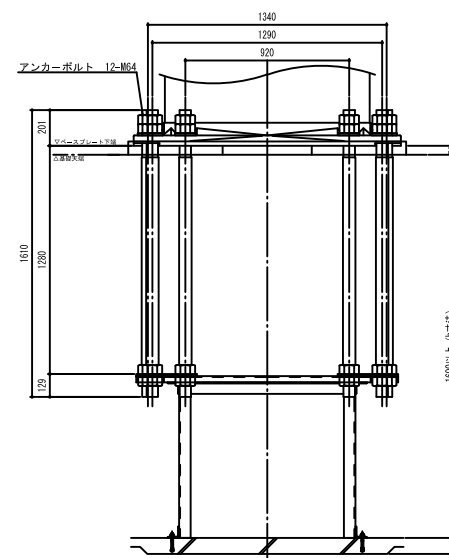


柱脚詳細例 (Fc24の場合)



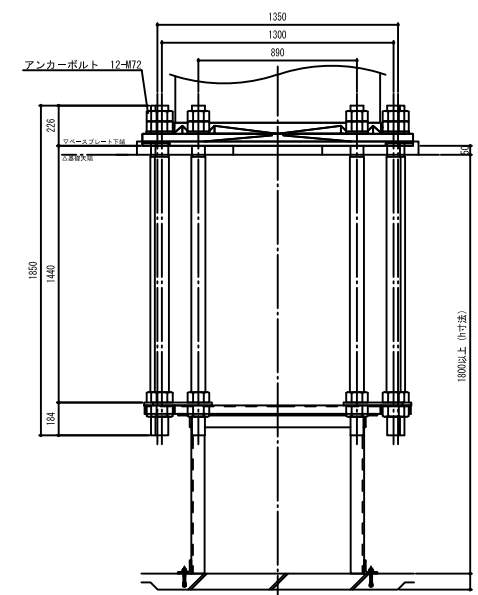
適用柱		角形鋼管柱 □1150 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M64					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	2000	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2000	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1090
<中柱用>	2000	44-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2000	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1090

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力検証を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に及び、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



適用柱		角形鋼管柱 □1150 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M72					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	2300	60-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
<中柱用>	2300	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

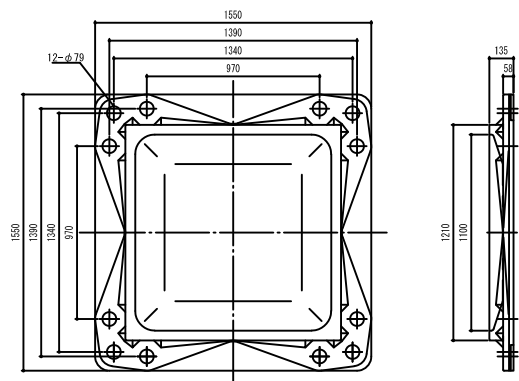
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力検証を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に及び、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

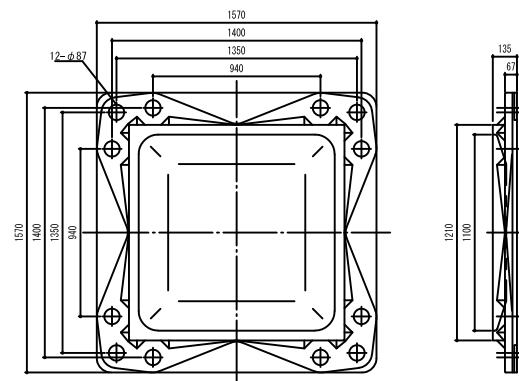
GB1200-12-64

ベースプレート詳細図

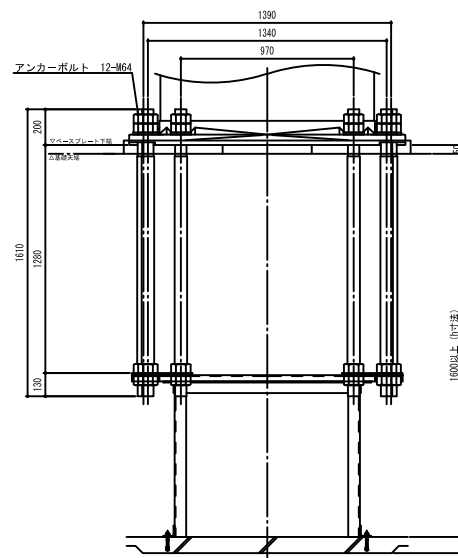
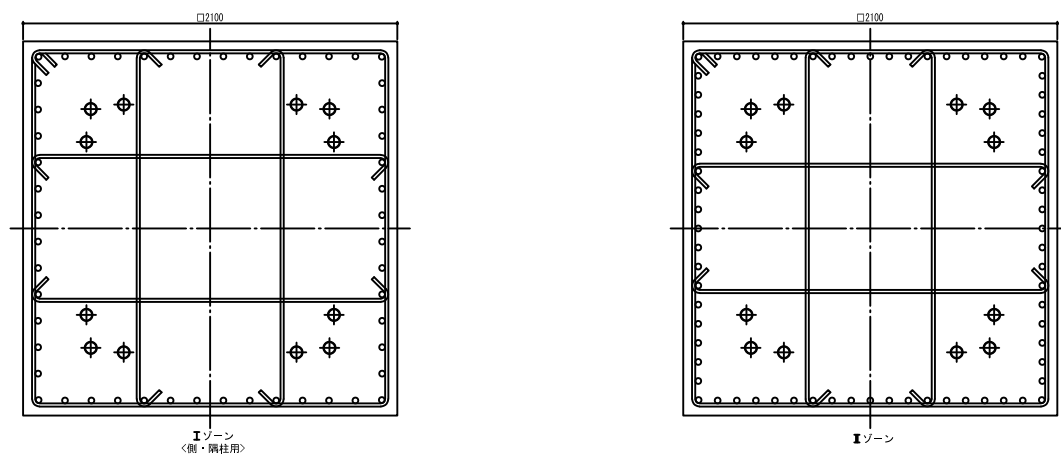


GB1200-12-72

ベースプレート詳細図



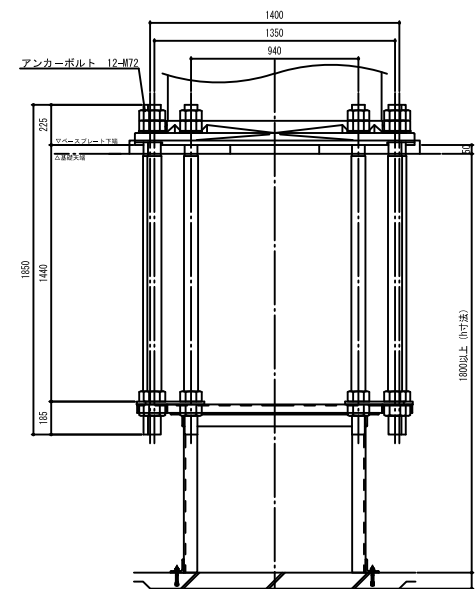
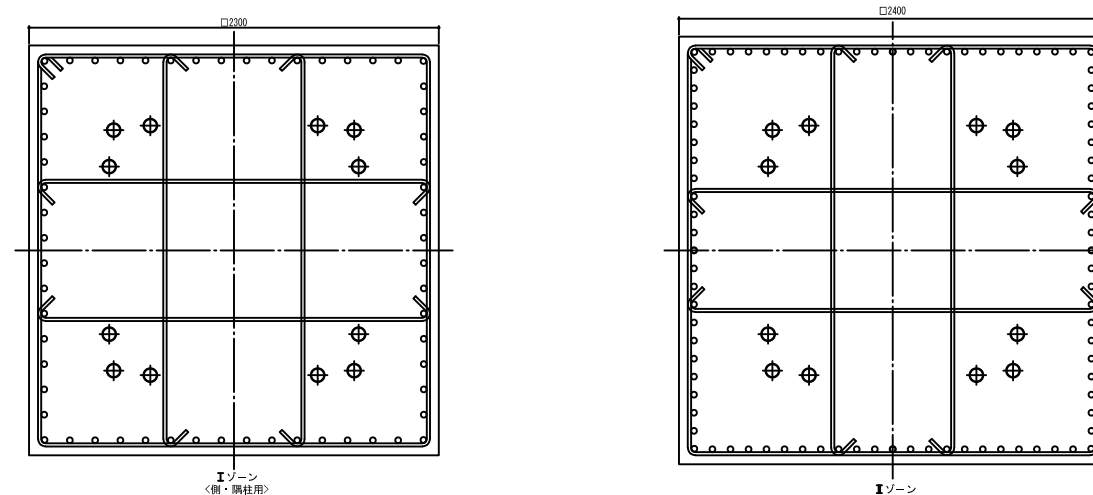
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



適用柱		角形鋼管柱 □1200 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M64					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	
		基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋		帯筋
<側・隅柱用>	2100	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2100	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1070
<中柱用>	2100	44-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2100	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1070

- 注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力性能を参照下さい。
- 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に及び、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
- 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや積の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。（上・下部共通）

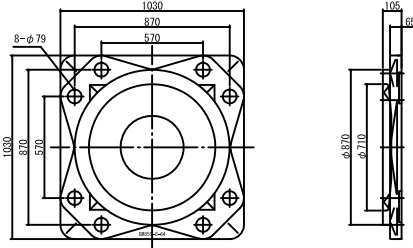
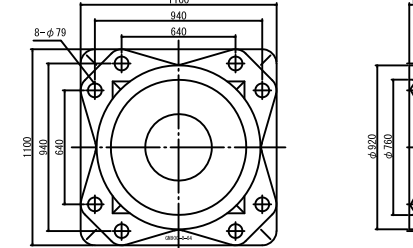
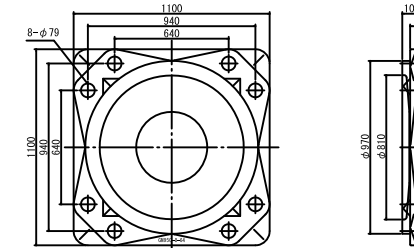
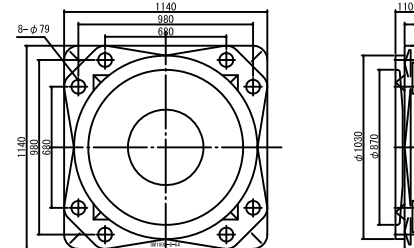
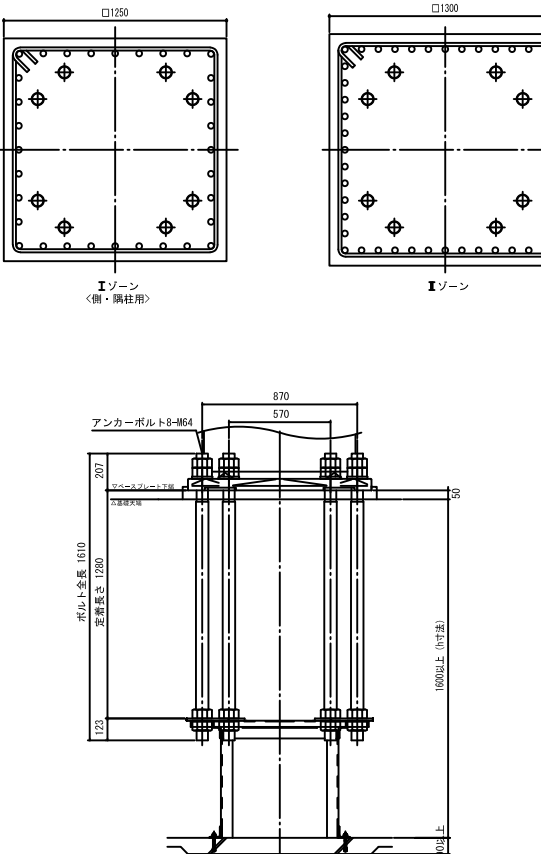
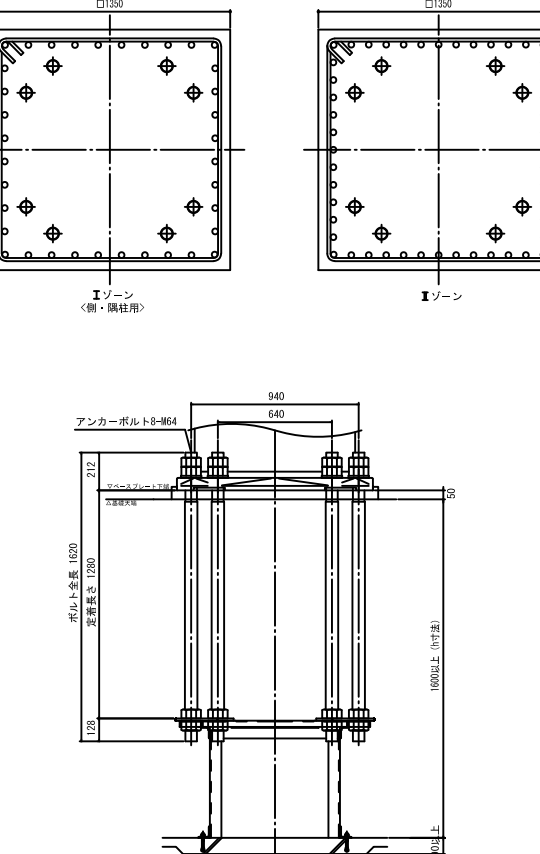
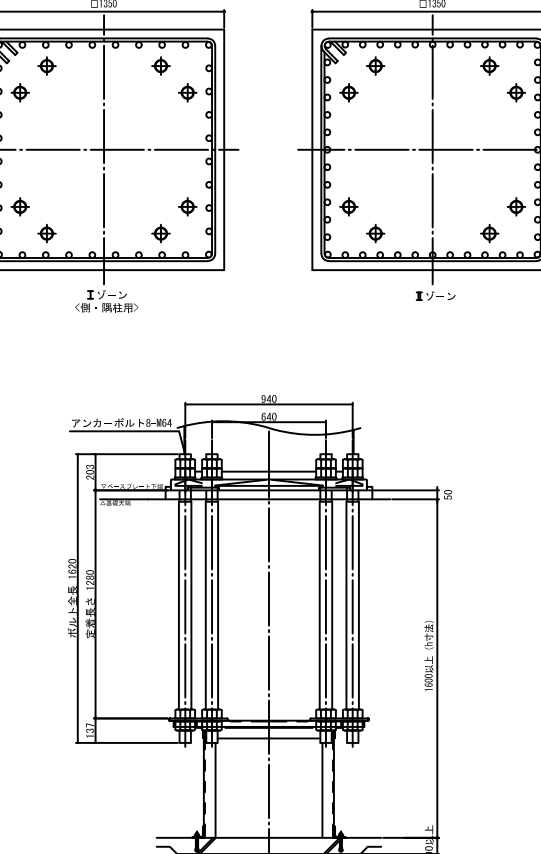
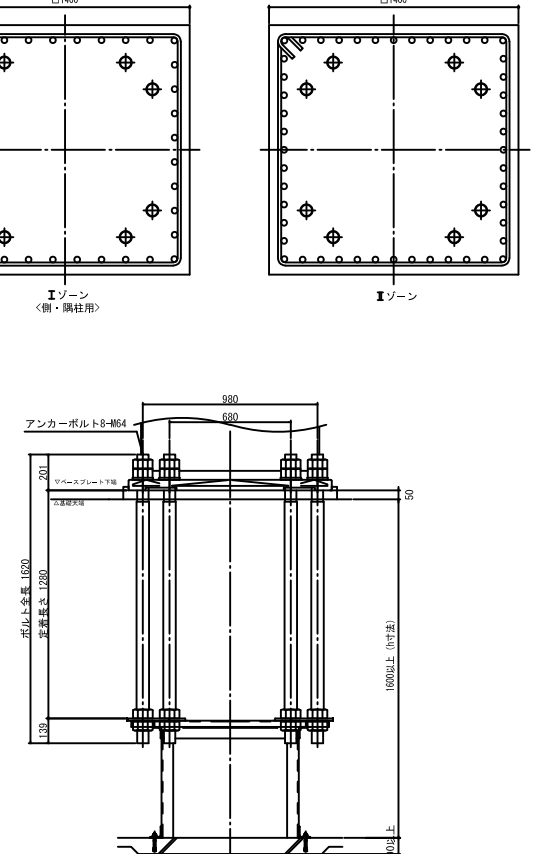
柱脚詳細例 (Fc24の場合)



適用柱		角形鋼管柱 □1200 (板厚範囲: 16~40mm)					
アンカーボルト		12-M72					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	
		基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋		帯筋
<側・隅柱用>	2300	60-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260
<中柱用>	2300	52-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1260

- 注1) I、IIゾーン分けについてはハイベスNE0設計ハンドブックの各型式の耐力性能を参照下さい。
- 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNE0設計ハンドブック第4章に及び、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注4) h寸法は鉄筋がない場合です。鉄筋がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
- 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや積の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注6) 鉄筋の定着長さは、表中の寸法以上確保して下さい。（上・下部共通）

柱脚詳細例 (Fc24の場合) を追加

GM850-8-64	GM900-8-64	GM950-8-64	GM1000-8-64																																																																																																																																																								
<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 																																																																																																																																																								
<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 																																																																																																																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ850 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1250</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1300</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ80 (SD295)</td> <td>1090</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1250</td> <td>28-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1300</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ80 (SD295)</td> <td>1090</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準拠し、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ850 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1250	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1090	<中柱用>	1250	28-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1090	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ900, φ914.4 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1350</td> <td>36-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1350</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準拠し、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ900, φ914.4 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070	<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ950 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1350</td> <td>36-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1350</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1350</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ80 (SD295)</td> <td>1070</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準拠し、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ950 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070	<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">適用柱</th> <th colspan="4">円形鋼管柱 φ1000, φ1016 (最大板厚: 40mm)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">アンカーボルト</th> <th colspan="4">8-M64</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (Lt)</th> <th colspan="2">Iゾーン</th> <th colspan="2">IIゾーン</th> </tr> <tr> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> <th>柱形</th> <th>基礎柱形主筋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><側・隅柱用></td> <td>1400</td> <td>36-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1400</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1120</td> </tr> <tr> <td><中柱用></td> <td>1400</td> <td>32-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1400</td> <td>48-D29 (SD390)</td> <td>D16φ100 (SD295)</td> <td>1120</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) I、IIゾーン分けについてはハイブスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイブスNEO設計ハンドブック第4章に準拠し、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ10φ250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		円形鋼管柱 φ1000, φ1016 (最大板厚: 40mm)				アンカーボルト		8-M64					鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	1400	36-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1120	<中柱用>	1400	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1120
適用柱		円形鋼管柱 φ850 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1250	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1090																																																																																																																																																				
<中柱用>	1250	28-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1300	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1090																																																																																																																																																				
適用柱		円形鋼管柱 φ900, φ914.4 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
適用柱		円形鋼管柱 φ950 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1350	36-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
<中柱用>	1350	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1350	48-D29 (SD390)	D16φ80 (SD295)	1070																																																																																																																																																				
適用柱		円形鋼管柱 φ1000, φ1016 (最大板厚: 40mm)																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M64																																																																																																																																																									
	鉄筋の定着長さ (Lt)	Iゾーン		IIゾーン																																																																																																																																																							
		柱形	基礎柱形主筋	柱形	基礎柱形主筋																																																																																																																																																						
<側・隅柱用>	1400	36-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1120																																																																																																																																																				
<中柱用>	1400	32-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1400	48-D29 (SD390)	D16φ100 (SD295)	1120																																																																																																																																																				

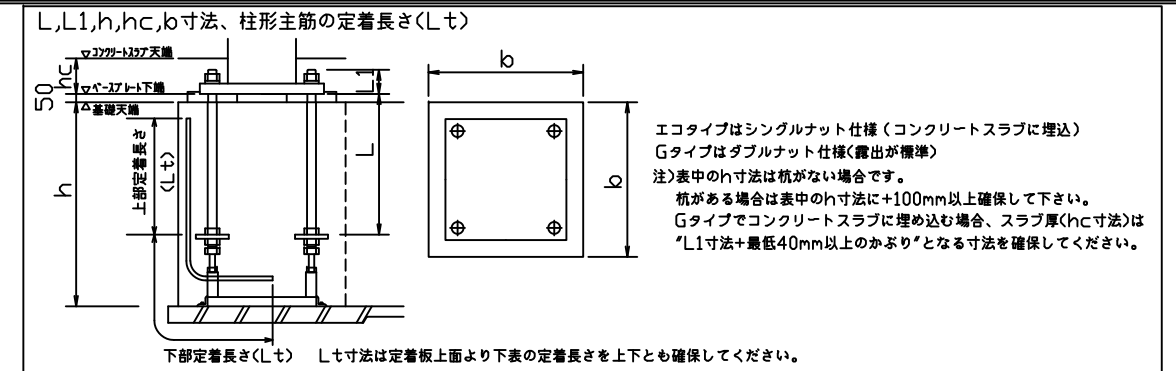
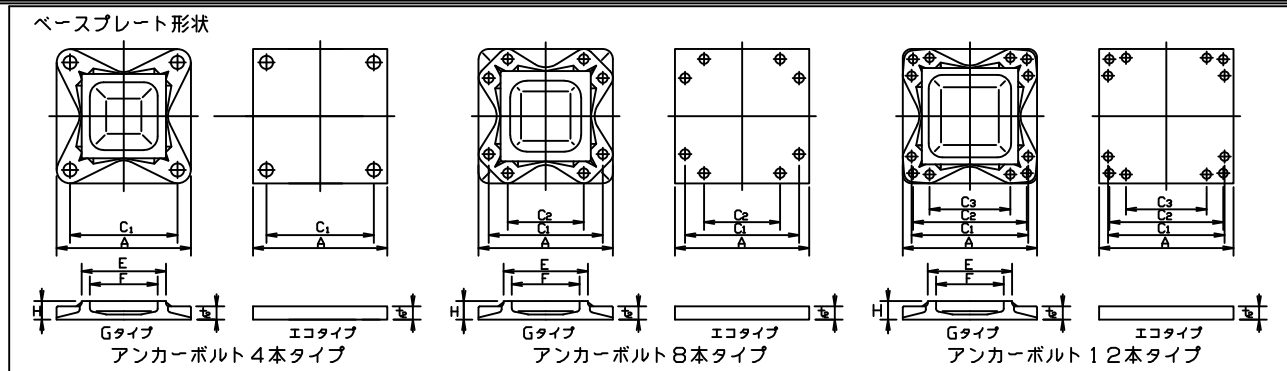
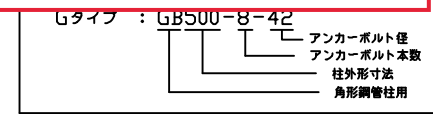
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) <角形鋼管柱用 150~550>

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠の板厚範囲を修正



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用150~550)

Table with columns for column size, height, type (Eco/G), anchor bolts, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, column, stirrups).

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。

センクシア株式会社 information including contact numbers for various regions (Tokyo, Chubu, Kansai, Chugoku, Kyushu) and website URL.

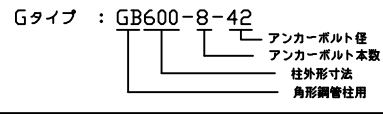
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)

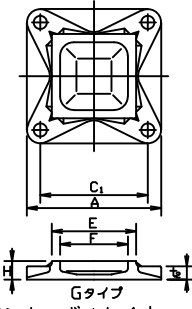
MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

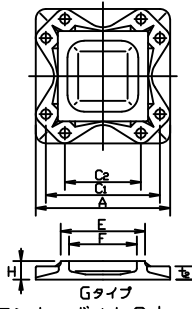
赤枠部分を追加



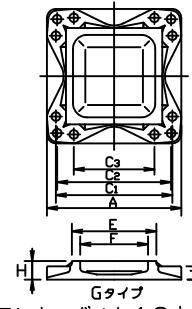
ベースプレート形状



アンカーボルト4本タイプ

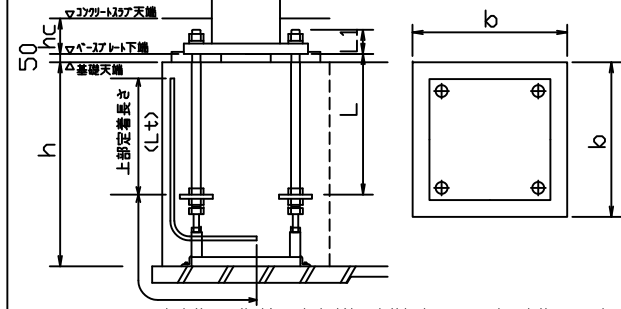


アンカーボルト8本タイプ



アンカーボルト12本タイプ

L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は'L1寸法+最低40mm以上のかぶり'となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用) 600~1200

Table with columns for column size, height, type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-section, L, L1, h, hc, b, Lt). Includes a red border around the main data area.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。注1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力範囲を参照下さい。注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上がない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10@250、D500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 東北 TEL 022-213-5595

URL https://www.senqcia.co.jp/

関西 TEL 06-6395-2133 中四国 TEL 082-240-1630 九州 TEL 092-452-0341

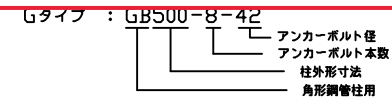
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) <角形鋼管柱用 150~550>

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

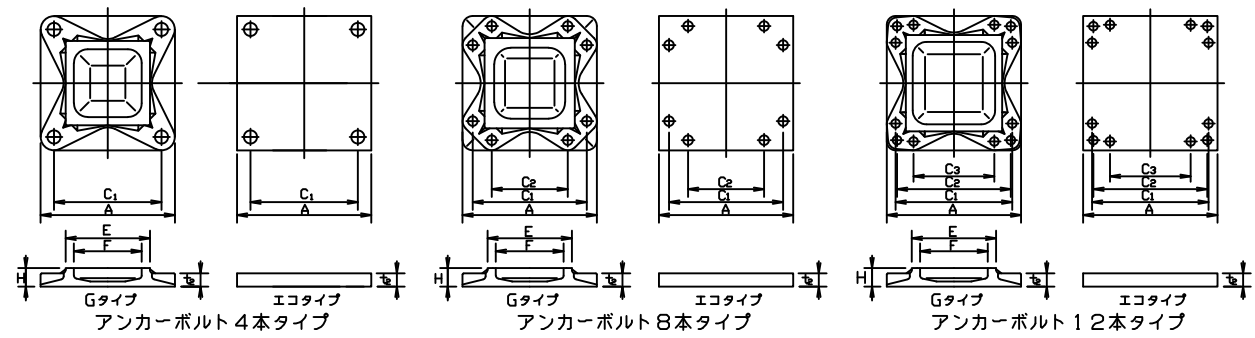
大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) BCJ評定 ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

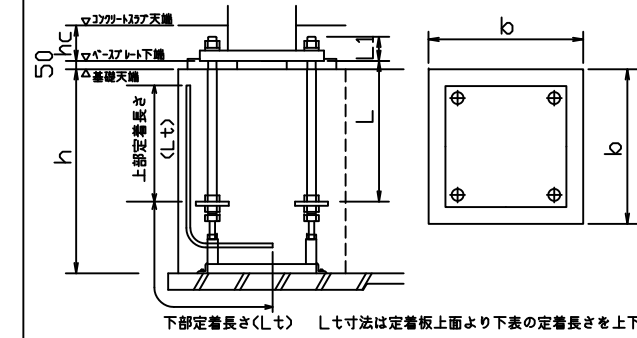
赤枠の板厚範囲を修正



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。 杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。 Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は 'L1寸法+最低40mm以上のかぶり'となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用150~550)

Table with columns for column size, height, type (Eco/G), anchor bolts, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, column diameter, main reinforcement, stirrups, anchorage length Lt).

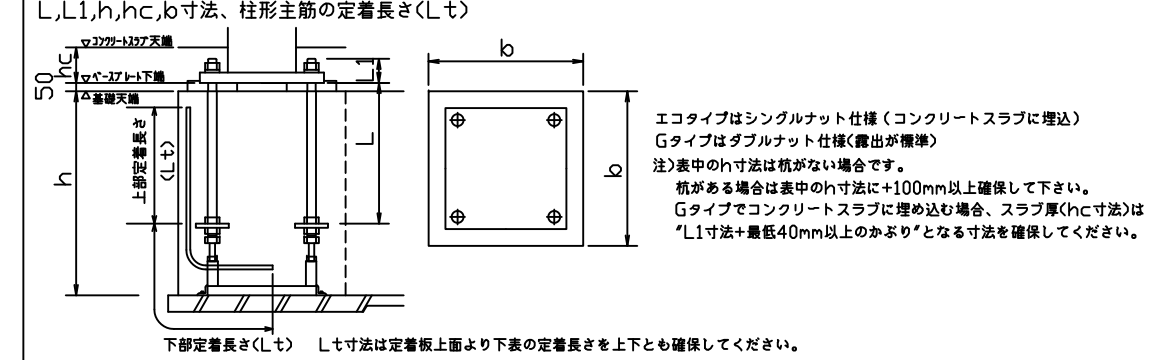
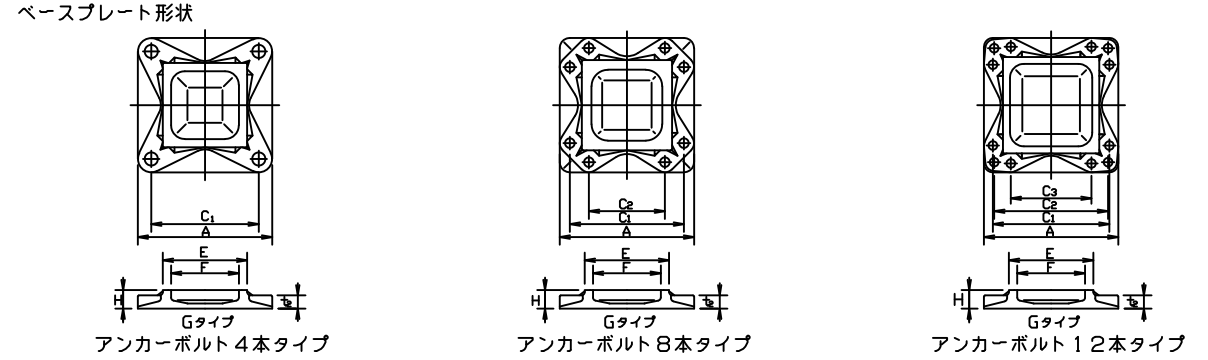
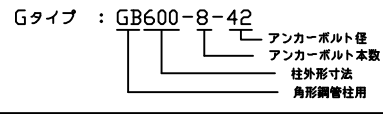
鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。 センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力範囲を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上からの場合(基礎梁端と基礎柱形が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10@250、D150以上はD13@250として算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の重量はアンカーボルト部品と板厚を合わせた重量です。

センクシア株式会社 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加



・ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用□600~□1200)

Table with columns for column size, height, type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-beam, L, L1, hc, b, main reinforcement, stirrups, etc.).

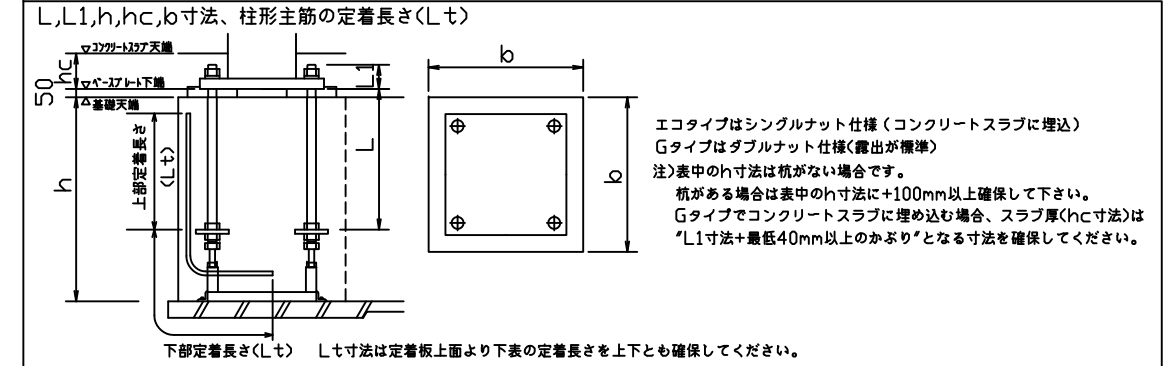
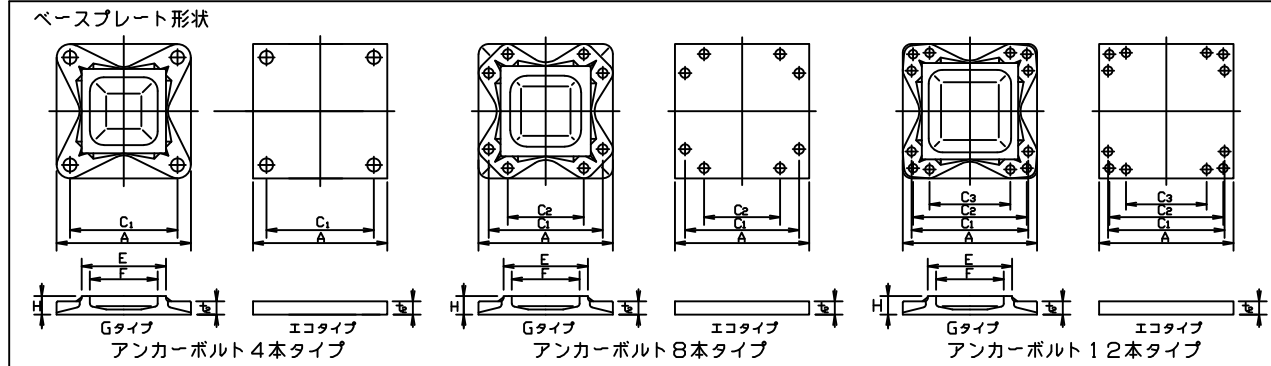
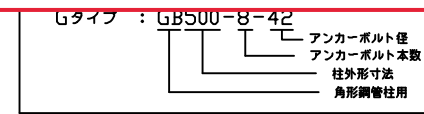
鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I・IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) ST0059 (エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠の板厚範囲を修正



・ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用φ150~φ550)

Table with columns for '採用', '適用柱', 'ハイベースNEO型式', 'アンカーボルト', '回転バネ定数', '寸法 (mm)', '質量 (kg)', 'L (mm)', 'L1 (mm)', '基礎柱形の設計例(Fc27) <側・隅柱用>', and '基礎柱形の設計例(Fc27) <中柱用(4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>'. The table lists various column sizes (φ150 to φ550) and their corresponding specifications, including reinforcement details and dimensions.

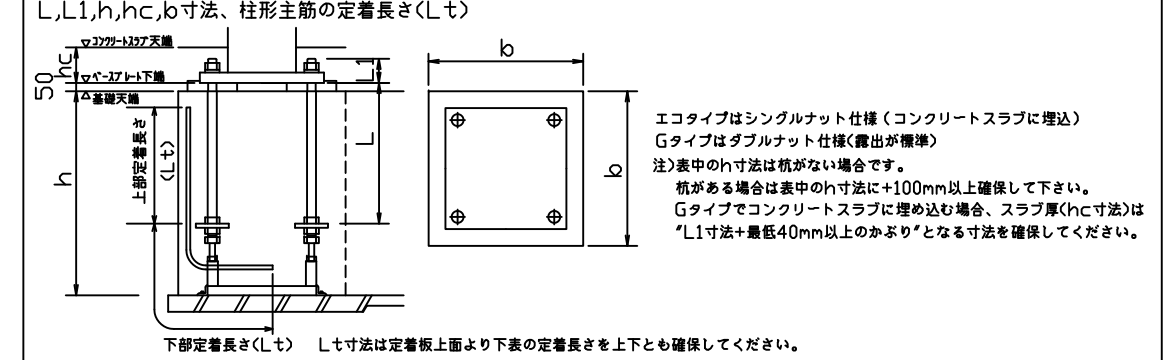
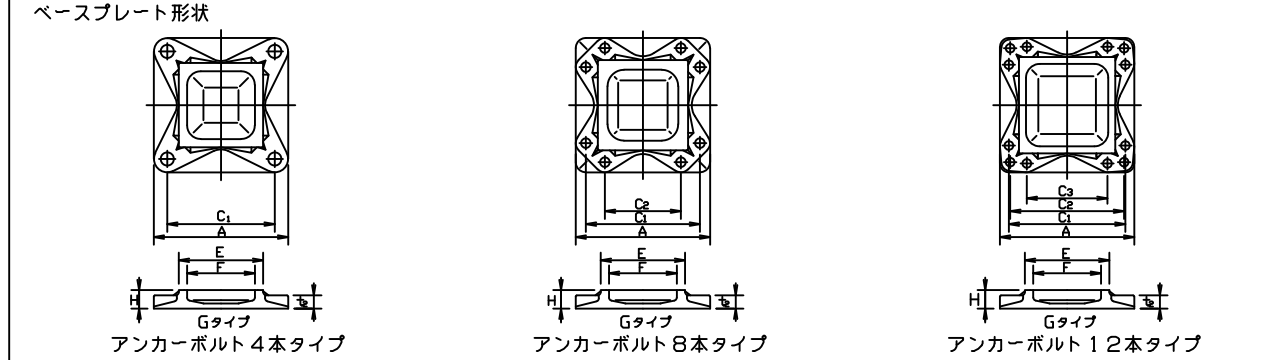
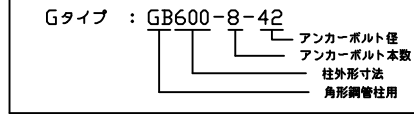
鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線を参照下さい。
注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上からの場合(基礎梁と基礎柱形が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をφ450以下はD10@250、φ500以上はD13@250として算定しています。あはら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書JASS6鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用□600~□1200)

Table with columns for column size, height, type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-section, L, L1, h, hc, b, main reinforcement, stirrups). Includes a red border around the main data area.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I・IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。 あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260

URL https://www.senqcia.co.jp/

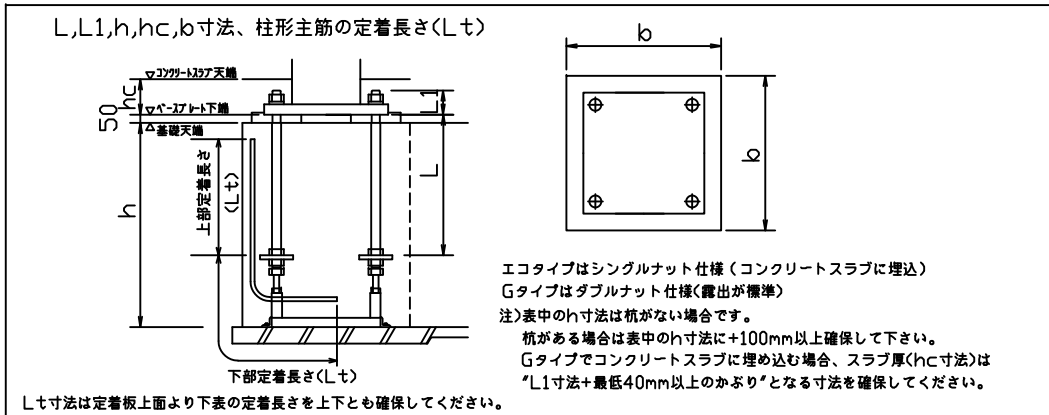
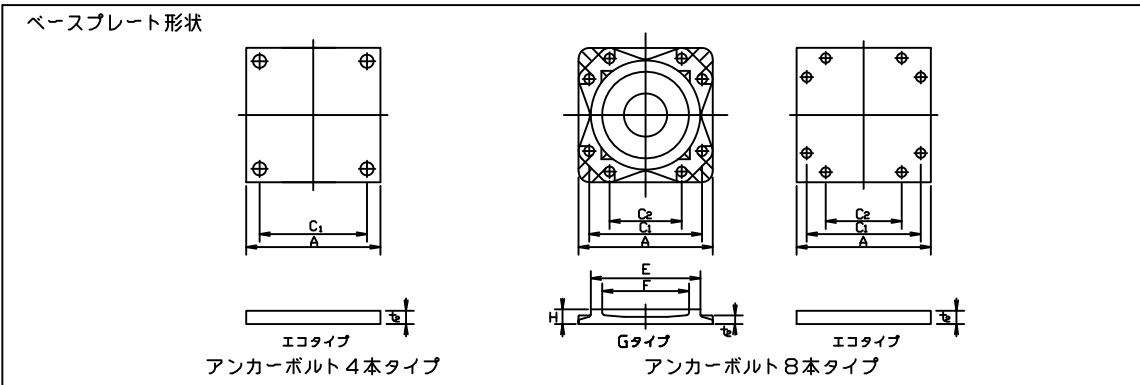
関西 TEL 06-6395-2133 中四国 TEL 082-240-1630 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058(Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
BCJ評定-ST0059(エコタイプ) 同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加

エコタイプ: EM350-8-36
Gタイプ: GM500-8-48
アンカーボルト径
アンカーボルト本数
柱外径寸法
円形鋼管柱用



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, plate type, dimensions, weight, and reinforcement details. Includes sub-tables for I-zone and II-zone reinforcement specifications.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。
注1) I、IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。上りがない場合は、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は、<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の重量はアンカーボルト部品の重量を含めた重量です。

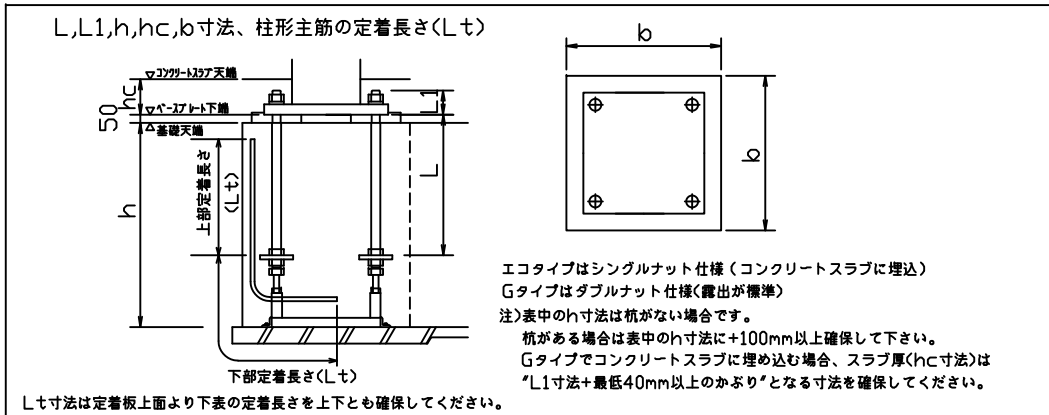
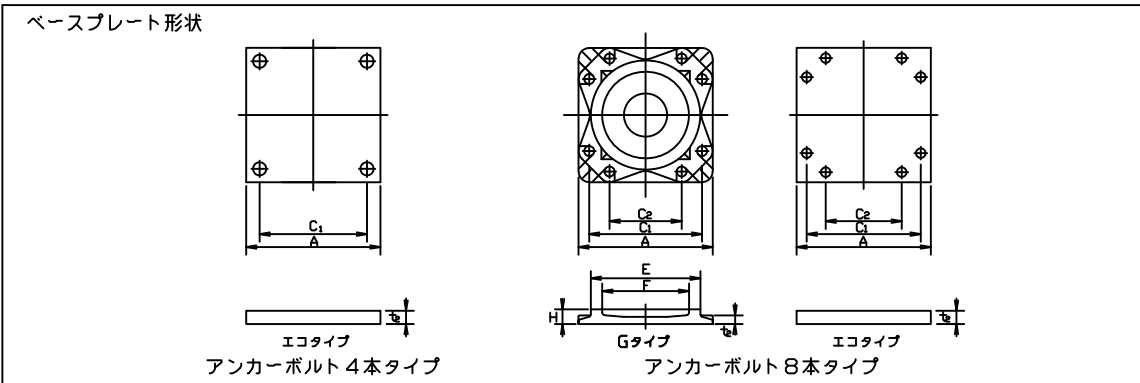
センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058(Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
BCJ評定-ST0059(エコタイプ) 同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加

エコタイプ: EM350-8-36
Gタイプ: GM500-8-48
アンカーボルト径
アンカーボルト本数
柱外径寸法
円形鋼管柱用



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, plate type, dimensions, weight, and reinforcement details. Includes a red border around the last few rows.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。上りがない場合は、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面量がこれよりも小さくなる場合は、<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の重量はアンカーボルト部品の重量を含めた重量です。

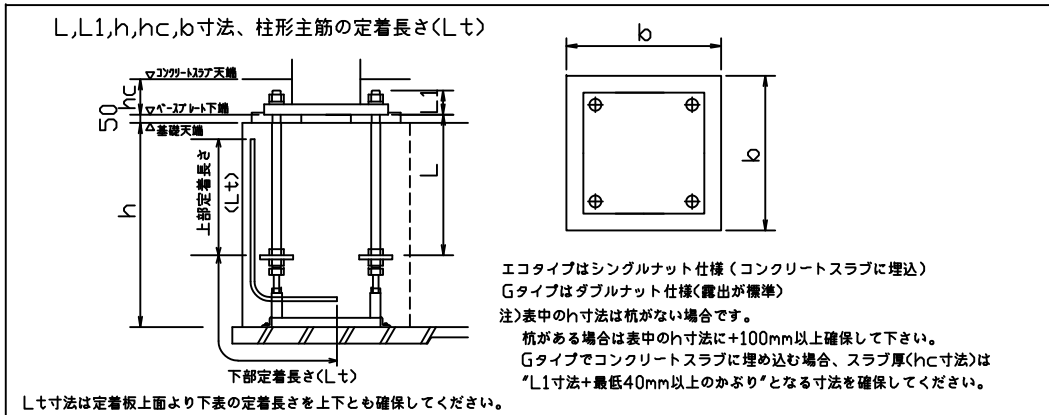
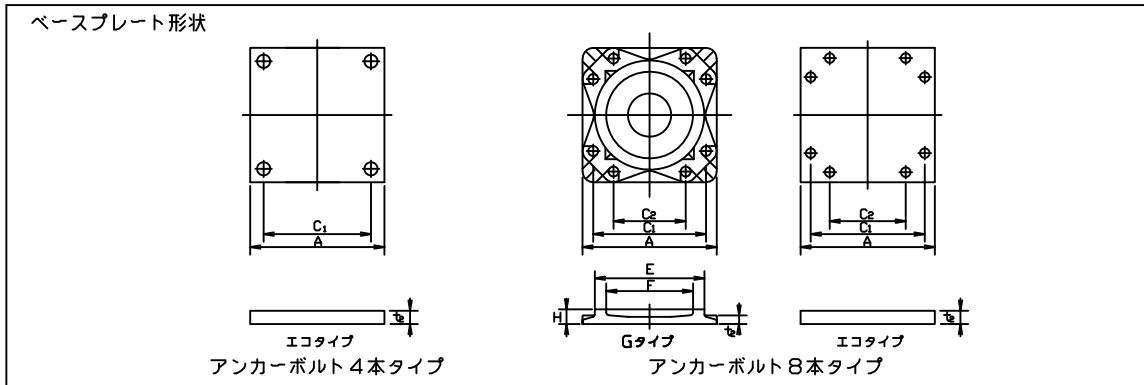
センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058(Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
BCJ評定-ST0059(エコタイプ) 同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

赤枠部分を追加

エコタイプ: EM350-8-36
Gタイプ: GM500-8-48
アンカーボルト径
アンカーボルト本数
柱外径寸法
円形鋼管柱用



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, plate type, dimensions, weight, and reinforcement details. Includes a red border around the last few rows.

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の重量はアンカーボルト部品と形板を合わせた重量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

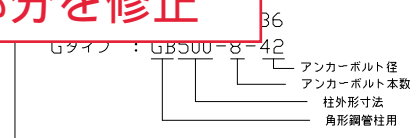
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合)

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
(ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

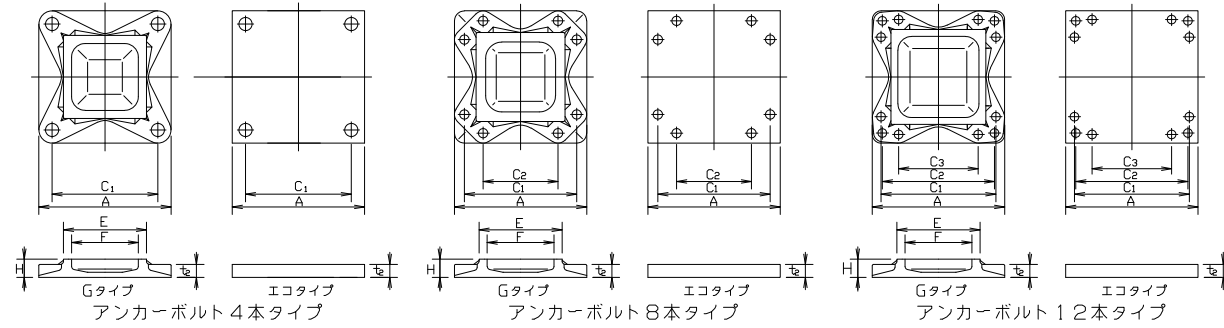
大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ)
BCJ評定-ST0059(エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

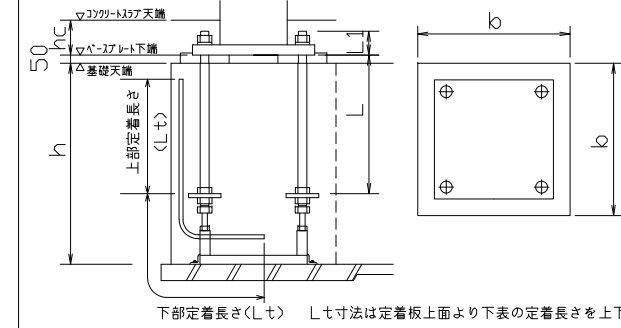
赤枠部分を修正



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(L七)



Eコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込)
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は
*L1寸法+最低40mm以上のかぶりとなる寸法を確保してください。

・ハイベースNEO工法
(角形鋼管柱用□150~□550)

Table with columns for column size, plate thickness, type (Eco/G), dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), mass (kg), and reinforcement details (I-beam, column, reinforcement). Includes a red box highlighting specific rows.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。
注 1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。
注 3) 表中の鉄筋量は重量立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を含めた質量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

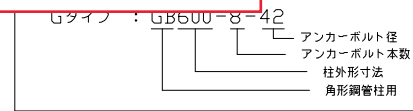
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ J 評定 BCJ 評定-ST0058 (Gタイプ) MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

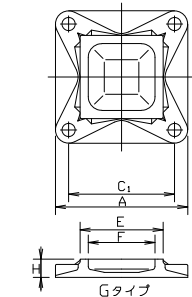
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

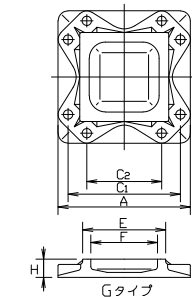
赤枠部分を修正



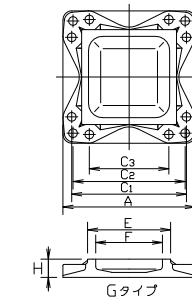
ベースプレート形状



アンカーボルト4本タイプ

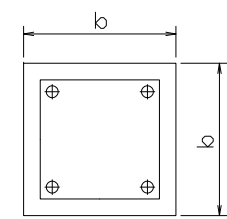
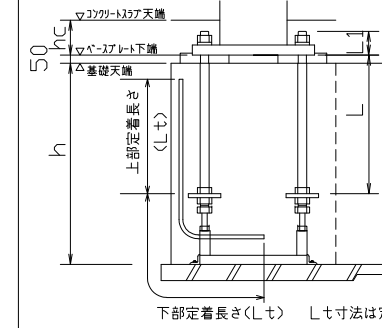


アンカーボルト8本タイプ



アンカーボルト12本タイプ

L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



Eコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は*L1寸法+最低40mm以上のかぶりとなる寸法を確保してください。

・ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用□600~□1200)

Table with columns for column size, plate range, NEO type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, te), mass (kg), L, L1, h, hc, and reinforcement details (I-zone, II-zone, reinforcement diameter, quantity).

柱サイズ□850~□1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。 柱サイズ□1050~□1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

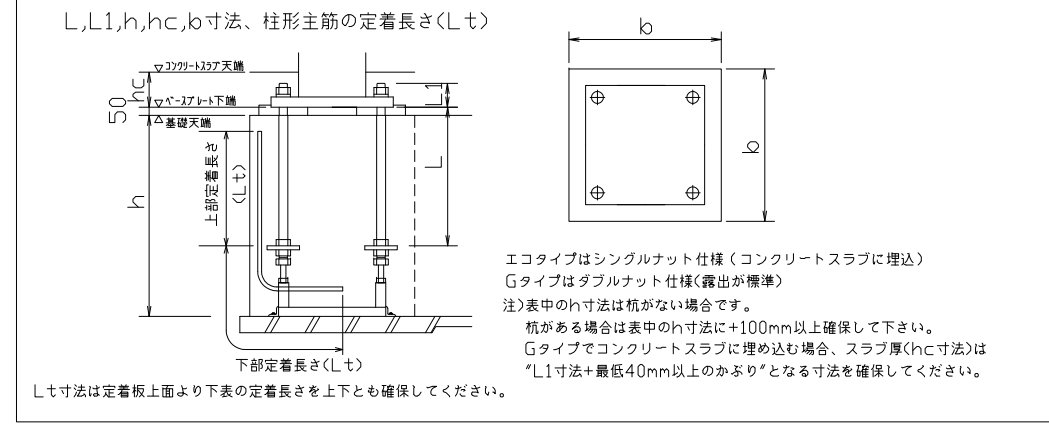
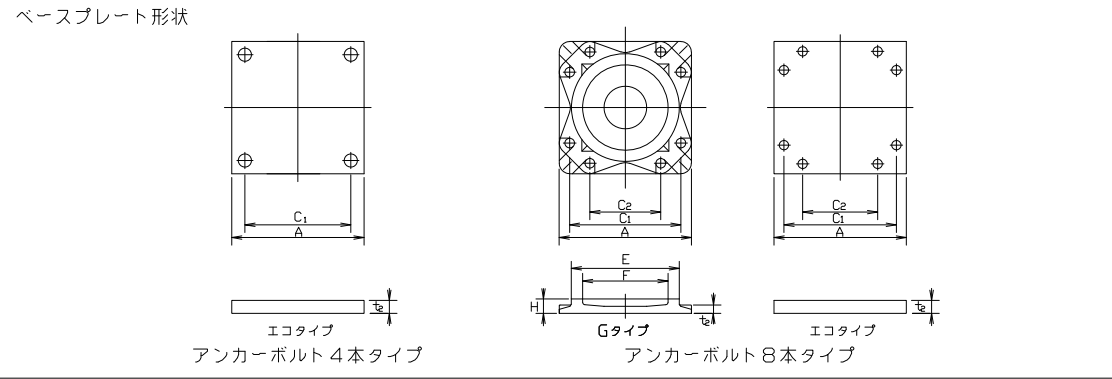
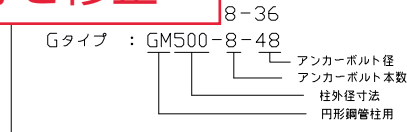
鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。 注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL https://www.senqcia.co.jp/

赤枠部分を修正



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, plate thickness, type (Eco/G), dimensions (A, C1, C2, E, F, H, t2), weight, L, L1, h, hc, and reinforcement details (I-zone, column b, main reinforcement, stirrups, Lt).

柱サイズφ850~φ1016の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。

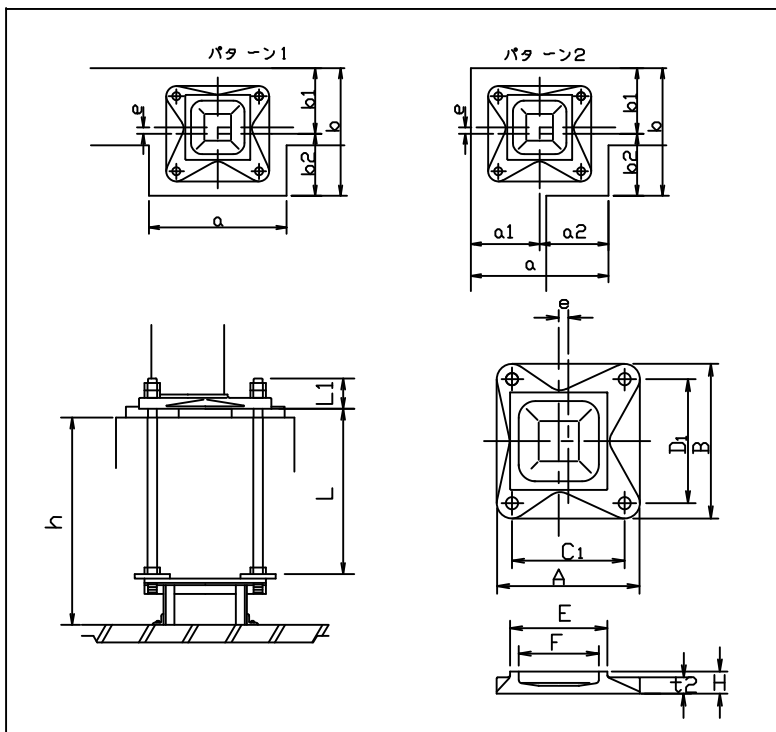
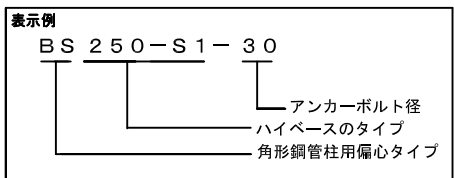
センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

URL https://www.senqcia.co.jp/

Fc21対応の内容から Fc24対応の内容に修正

スーパーハイベース工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合)

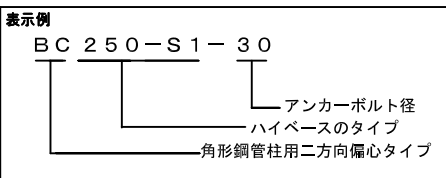
- 偏心型スーパーハイベース (角形鋼管)
- 一方向偏心型 (BSタイプ)



BS型式の基礎柱形の設計例

採用 柱番号	通用柱 サイズ	適用 板厚	ハイベース型式	偏心量 e	ばね定数 x 10 ⁵ N/m-rad	寸法 (mm)													質量 (kg)	セット 質量 (kg)	L	L ₁	h (mm)	基礎柱形の設計例											
						パターン1						パターン2						採用						柱形主筋	等筋 鉄筋量	基礎柱形主筋の定着長さ (mm)									
						a x b	b1	b2	a1	a2	b1	b2	a x b	a1	a2	b1	b2										I ゾーン	II ゾーン							
	□ 200 x 200	6 ~ 12	BS200-S1	-24	30	19.9	21.3	310	330	250	270	210	160	70	47	35	20	55	490	101	700以上	510 x 520	260	260	540 x 520	270	270	260	260	8-D16 (SD295)	16-D16 (SD295)	D13#150 (SD295)	230		

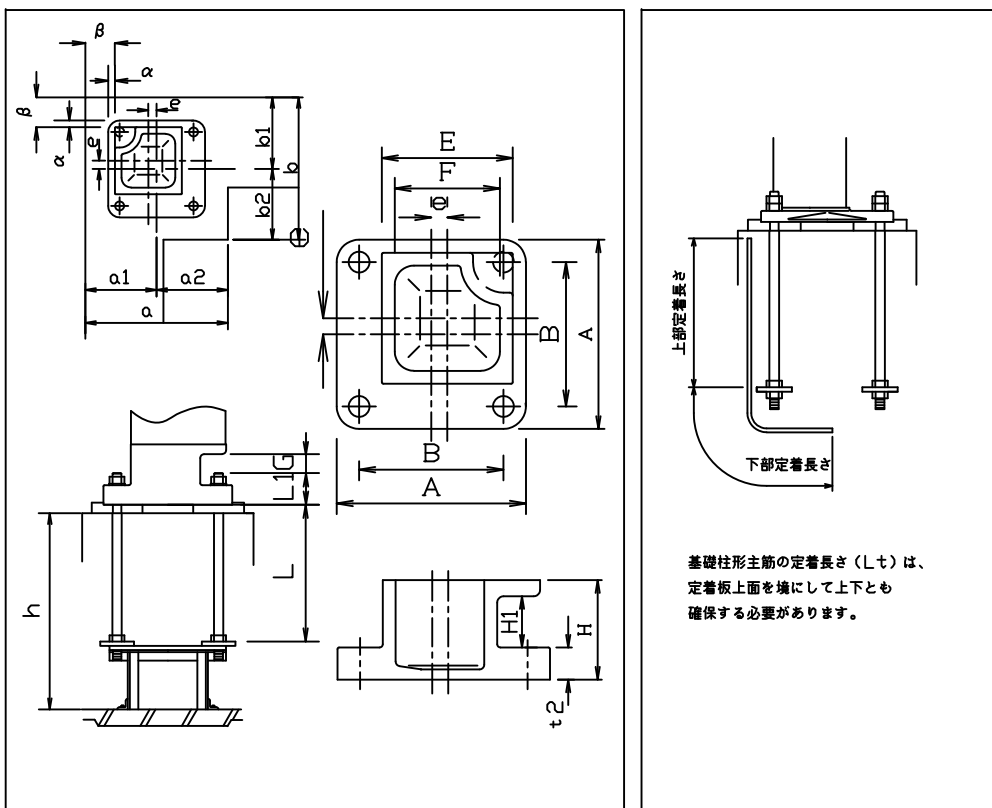
製品の質量はアンカーボルト部品と形板の1セットの質量です。
 表中に無いサイズについても対応可能です。セクシア棟に問い合わせ下さい。
 注 1) I、IIゾーンについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注 2) 基礎柱形の設計例(Fc21)の場合です。
 注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行ってください。
 注 4) 表中の寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法に100mm以上確保して下さい。



二方向偏心型 (BCタイプ)

採用 柱番号	通用柱 サイズ	適用 板厚	ハイベース型式	偏心量 e	ばね定数 x 10 ⁵ N/m-rad	寸法 (mm)													質量 (kg)	セット 質量 (kg)	L	L ₁	h (mm)	G	α	β	基礎柱形の設計例											
						パターン1						パターン2						採用									柱形主筋	等筋 鉄筋量	基礎柱形主筋の定着長さ (mm)									
						a x b	a1	a2	b1	b2	a x b	a1	a2	b1	b2	I ゾーン	II ゾーン																					
	□ 250 x 250	6 ~ 16	BC250-S1	-30	40	35.7	43.1	380	280	256	200	230	131	67	120	32	152	600	115	820以上	88	25	115	560 x 560	280	280	280	280	8-D19 (SD345)	16-D19 (SD345)	D13#150 (SD295)	380						

製品の質量はアンカーボルト部品と形板の1セットの質量です。
 表中に無いサイズについても対応可能です。セクシア棟に問い合わせ下さい。
 注 1) I、IIゾーンについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
 注 2) 基礎柱形の設計例(Fc21)の場合です。
 注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブック第4巻に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行ってください。
 注 4) 表中の寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の寸法に100mm以上確保して下さい。

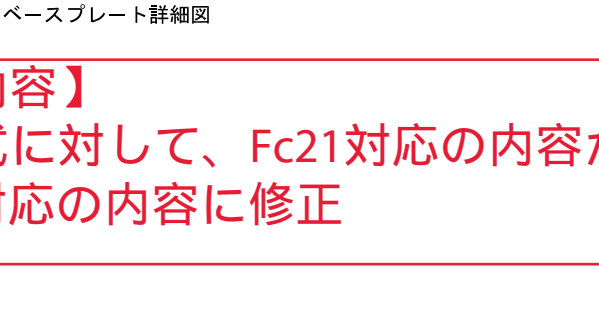
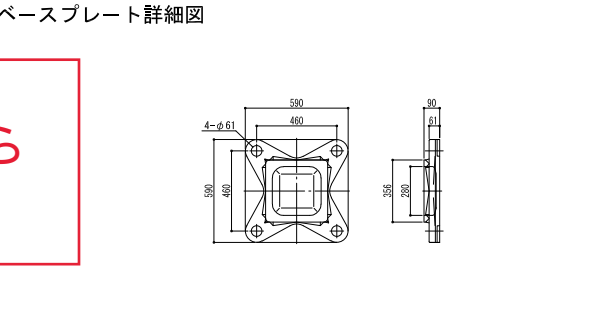
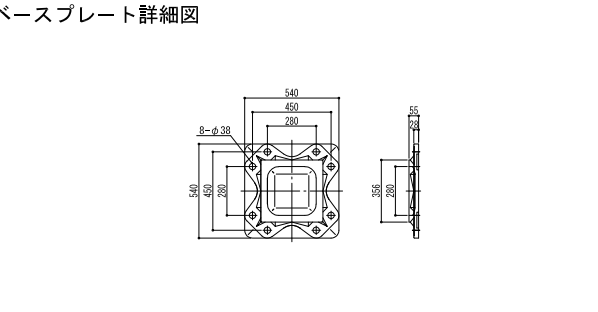
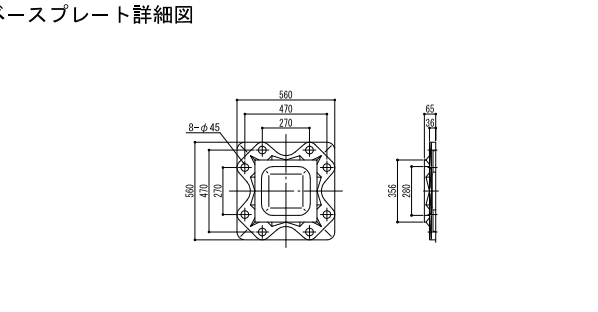
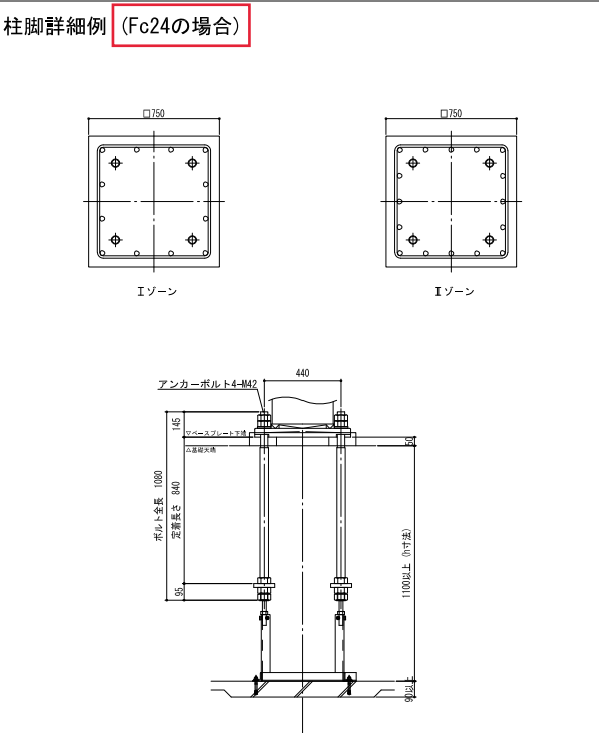
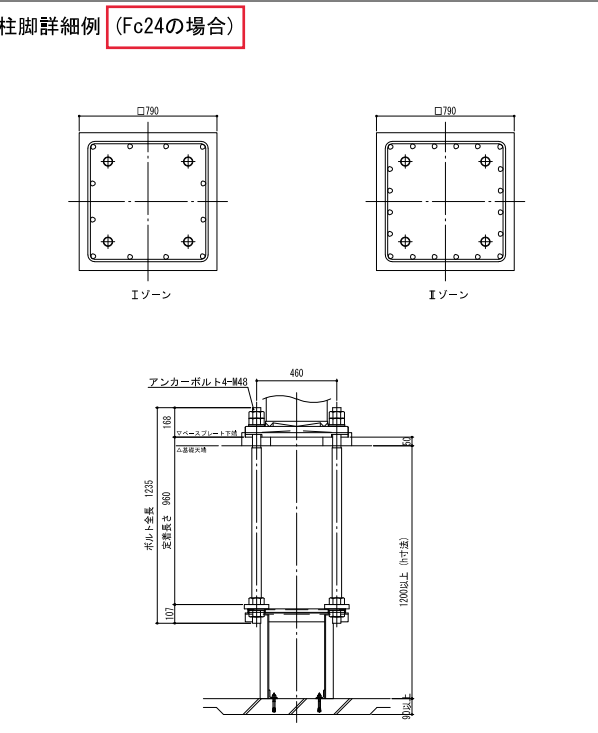
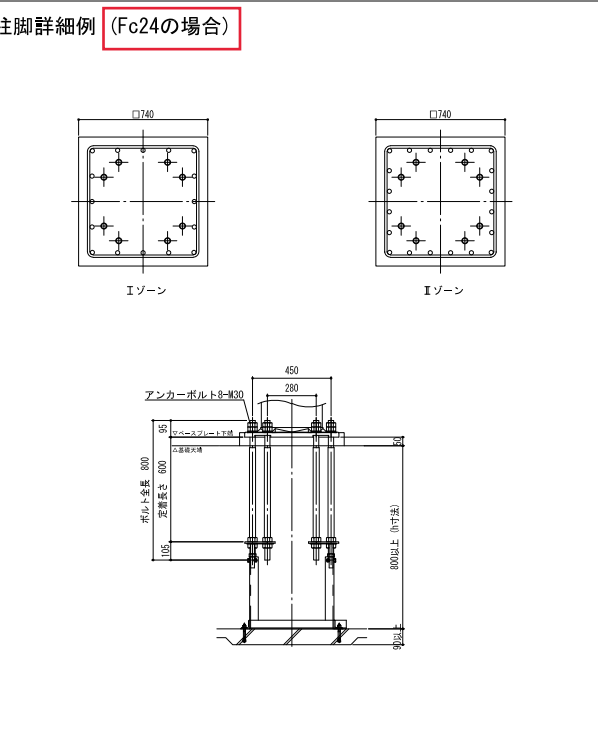
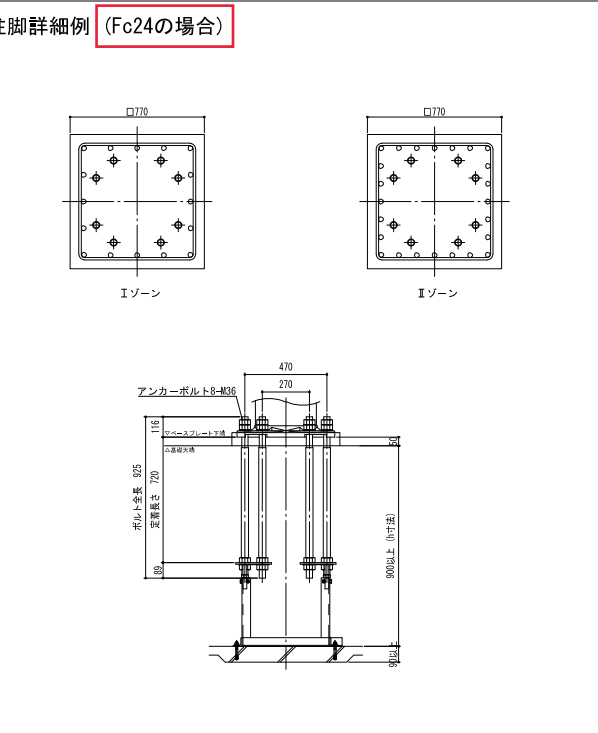


BC型式の基礎柱形の設計例

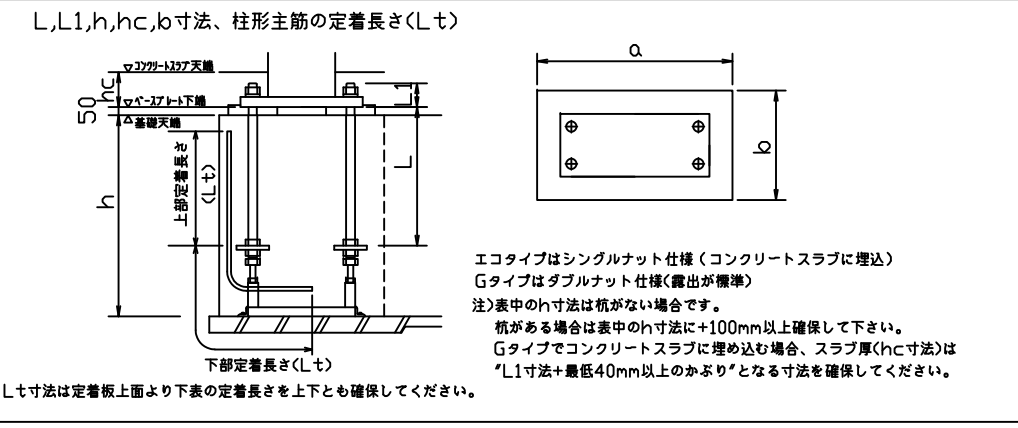
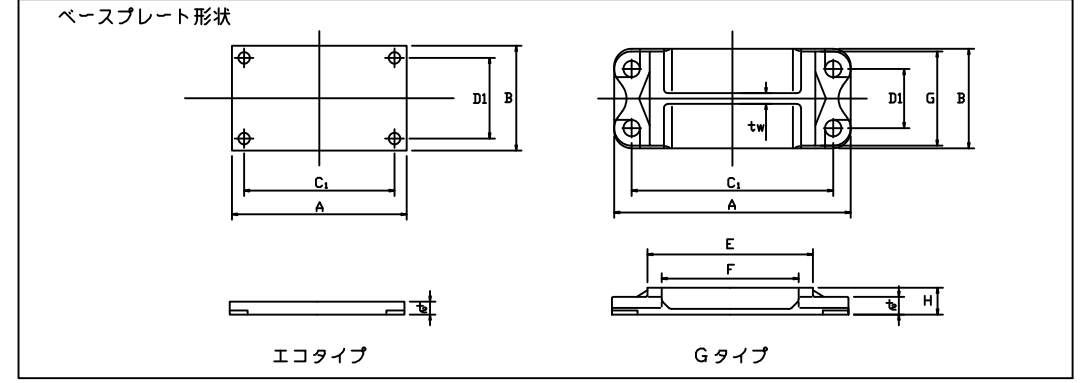
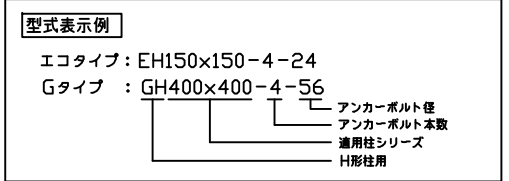
基礎柱形主筋の定着長さ

部品図：修正内容の一例を示す

【修正内容】
全型式に対して、Fc21対応の内容からFc24対応の内容に修正

GB350-4-42	GB350-4-48	GB350-8-30	GB350-8-36																																																																																																																																																																																																																																																								
<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 	<p>ベースプレート詳細図</p> 																																																																																																																																																																																																																																																								
<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 	<p>柱脚詳細例 (Fc24の場合)</p> 																																																																																																																																																																																																																																																								
<table border="1"> <tr><th colspan="2">適用柱</th><td colspan="4">角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)</td></tr> <tr><th colspan="2">アンカーボルト</th><td colspan="4">4-M42</td></tr> <tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">Iゾーン</th><th colspan="2">IIゾーン</th><th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (L)</th></tr> <tr><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th><th>帯筋</th><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th></tr> <tr><td><側・隅柱用></td><td>750</td><td>12-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>750</td><td>16-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>480</td></tr> <tr><td><中柱用></td><td>750</td><td>12-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>750</td><td>16-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>480</td></tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分についてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力補綴を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)				アンカーボルト		4-M42					Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	750	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	750	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	480	<中柱用>	750	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	750	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	480	<table border="1"> <tr><th colspan="2">適用柱</th><td colspan="4">角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)</td></tr> <tr><th colspan="2">アンカーボルト</th><td colspan="4">4-M48</td></tr> <tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">Iゾーン</th><th colspan="2">IIゾーン</th><th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (L)</th></tr> <tr><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th><th>帯筋</th><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th></tr> <tr><td><側・隅柱用></td><td>790</td><td>12-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>790</td><td>20-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>580</td></tr> <tr><td><中柱用></td><td>790</td><td>12-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>790</td><td>20-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>580</td></tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分についてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力補綴を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)				アンカーボルト		4-M48					Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	790	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	790	20-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	580	<中柱用>	790	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	790	20-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	580	<table border="1"> <tr><th colspan="2">適用柱</th><td colspan="4">角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)</td></tr> <tr><th colspan="2">アンカーボルト</th><td colspan="4">8-M30</td></tr> <tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">Iゾーン</th><th colspan="2">IIゾーン</th><th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (L)</th></tr> <tr><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th><th>帯筋</th><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th></tr> <tr><td><側・隅柱用></td><td>740</td><td>16-D22 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>740</td><td>20-D22 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>470</td></tr> <tr><td><中柱用></td><td>740</td><td>16-D22 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>740</td><td>20-D22 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>470</td></tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分についてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力補綴を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)				アンカーボルト		8-M30					Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	740	16-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	740	20-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	470	<中柱用>	740	16-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	740	20-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	470	<table border="1"> <tr><th colspan="2">適用柱</th><td colspan="4">角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)</td></tr> <tr><th colspan="2">アンカーボルト</th><td colspan="4">8-M36</td></tr> <tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">Iゾーン</th><th colspan="2">IIゾーン</th><th rowspan="2">鉄筋の定着長さ (L)</th></tr> <tr><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th><th>帯筋</th><th>柱形</th><th>基礎柱形主筋</th></tr> <tr><td><側・隅柱用></td><td>770</td><td>16-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>770</td><td>24-D25 (SD345)</td><td>D13#100 (SD295)</td><td>560</td></tr> <tr><td><中柱用></td><td>770</td><td>16-D25 (SD345)</td><td>D13#150 (SD295)</td><td>770</td><td>24-D25 (SD345)</td><td>D13#100 (SD295)</td><td>560</td></tr> </table> <p>注1) I、IIゾーン分についてはハイベスNEO設計ハンドブックの各型式の耐力補綴を参照下さい。 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベスNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋断面積がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。 注4) 寸法は鉄筋がない場合は、柱がある場合は表中の寸法+100mm以上確保して下さい。 注5) アンカーボルト設置用床台は一例です。アンカーボルトサイズや柱の有無など諸条件により形状が異なります。 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)</p>	適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)				アンカーボルト		8-M36					Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	<側・隅柱用>	770	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	770	24-D25 (SD345)	D13#100 (SD295)	560	<中柱用>	770	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	770	24-D25 (SD345)	D13#100 (SD295)	560																																																																																												
適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)																																																																																																																																																																																																																																																									
アンカーボルト		4-M42																																																																																																																																																																																																																																																									
	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)																																																																																																																																																																																																																																																						
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形		基礎柱形主筋																																																																																																																																																																																																																																																					
<側・隅柱用>	750	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	750	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	480																																																																																																																																																																																																																																																				
<中柱用>	750	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	750	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	480																																																																																																																																																																																																																																																				
適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)																																																																																																																																																																																																																																																									
アンカーボルト		4-M48																																																																																																																																																																																																																																																									
	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)																																																																																																																																																																																																																																																						
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形		基礎柱形主筋																																																																																																																																																																																																																																																					
<側・隅柱用>	790	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	790	20-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	580																																																																																																																																																																																																																																																				
<中柱用>	790	12-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	790	20-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	580																																																																																																																																																																																																																																																				
適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)																																																																																																																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M30																																																																																																																																																																																																																																																									
	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)																																																																																																																																																																																																																																																						
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形		基礎柱形主筋																																																																																																																																																																																																																																																					
<側・隅柱用>	740	16-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	740	20-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	470																																																																																																																																																																																																																																																				
<中柱用>	740	16-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	740	20-D22 (SD345)	D13#150 (SD295)	470																																																																																																																																																																																																																																																				
適用柱		角形鋼管柱 □350 (板厚範囲：9~25mm)																																																																																																																																																																																																																																																									
アンカーボルト		8-M36																																																																																																																																																																																																																																																									
	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)																																																																																																																																																																																																																																																						
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形		基礎柱形主筋																																																																																																																																																																																																																																																					
<側・隅柱用>	770	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	770	24-D25 (SD345)	D13#100 (SD295)	560																																																																																																																																																																																																																																																				
<中柱用>	770	16-D25 (SD345)	D13#150 (SD295)	770	24-D25 (SD345)	D13#100 (SD295)	560																																																																																																																																																																																																																																																				
<p>基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形外面基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th></th></tr> <tr><td>D22</td><td>300~610</td><td>360~610</td><td>420~610</td><td>480~610</td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>300~610</td><td>370~610</td><td>440~610</td><td>510~610</td><td></td></tr> <tr><td>D29</td><td>300~610</td><td>380~610</td><td>460~610</td><td>540~610</td><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形中心基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th></th></tr> <tr><td>D22</td><td>240~480</td><td>300~480</td><td>360~480</td><td>420~480</td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>250~480</td><td>320~480</td><td>390~480</td><td>460~480</td><td></td></tr> <tr><td>D29</td><td>260~480</td><td>340~480</td><td>420~480</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>注1) 上記柱主筋について、柱主筋○はIゾーンの場合の配筋量です。 設計上、IIゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。 注2) *がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり幅寸法は変更できません。</p>	柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	2	3	4	5		D22	300~610	360~610	420~610	480~610		D25	300~610	370~610	440~610	510~610		D29	300~610	380~610	460~610	540~610		柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	2	3	4	5		D22	240~480	300~480	360~480	420~480		D25	250~480	320~480	390~480	460~480		D29	260~480	340~480	420~480			<p>基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形外面基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th></th></tr> <tr><td>D22</td><td>340~600</td><td>400~600</td><td>460~600</td><td>520~600</td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>340~600</td><td>410~600</td><td>480~600</td><td>550~600</td><td></td></tr> <tr><td>D29</td><td>340~600</td><td>420~600</td><td>500~600</td><td>580~600</td><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形中心基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th></th></tr> <tr><td>D22</td><td>240~430</td><td>300~430</td><td>360~430</td><td>420~430</td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>250~430</td><td>320~430</td><td>390~430</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>D29</td><td>260~430</td><td>340~430</td><td>420~430</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>注1) 上記柱主筋について、柱主筋○はIゾーンの場合の配筋量です。 設計上、IIゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。 注2) *がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり幅寸法は変更できません。</p>	柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	2	3	4	5		D22	340~600	400~600	460~600	520~600		D25	340~600	410~600	480~600	550~600		D29	340~600	420~600	500~600	580~600		柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	2	3	4	5		D22	240~430	300~430	360~430	420~430		D25	250~430	320~430	390~430			D29	260~430	340~430	420~430			<p>基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形外面基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th></th></tr> <tr><td>D19</td><td>360~550</td><td>420~550</td><td>480~550</td><td>540~550</td><td></td></tr> <tr><td>D22</td><td>360~550</td><td>420~550</td><td>480~550</td><td>540~550</td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>360~550</td><td>430~550</td><td>500~550</td><td></td><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形中心基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th></th></tr> <tr><td>D19</td><td>240~360</td><td>300~360</td><td>360~360</td><td>+520</td><td></td></tr> <tr><td>D22</td><td>240~360</td><td>300~360</td><td>360</td><td>+520</td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>250~360</td><td>320~360</td><td>+520</td><td>+520</td><td></td></tr> </table> <p>注1) 上記柱主筋について、柱主筋○はIゾーンの場合の配筋量です。 設計上、IIゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。 注2) *がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり幅寸法は変更できません。</p>	柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	3	4	5	6		D19	360~550	420~550	480~550	540~550		D22	360~550	420~550	480~550	540~550		D25	360~550	430~550	500~550			柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	2	3	4	5		D19	240~360	300~360	360~360	+520		D22	240~360	300~360	360	+520		D25	250~360	320~360	+520	+520		<p>基礎はり端部納まり例 (Fc24の場合)</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形外面基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th></th></tr> <tr><td>D19</td><td>380~550</td><td>440~550</td><td>500~550</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>D22</td><td>380~550</td><td>440~550</td><td>500~550</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>380~550</td><td>450~550</td><td>520~550</td><td></td><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="2">柱形中心基礎はりタイプ</th><th colspan="5">はり主筋本数</th></tr> <tr><th>はり主筋</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th></th></tr> <tr><td>D19</td><td>240~340</td><td>300~340</td><td>+540</td><td>+540</td><td></td></tr> <tr><td>D22</td><td>240~340</td><td>300~340</td><td>+540</td><td>+540</td><td></td></tr> <tr><td>D25</td><td>250~340</td><td>320~340</td><td>+540</td><td>+540</td><td></td></tr> </table> <p>注1) 上記柱主筋について、柱主筋○はIゾーンの場合の配筋量です。 設計上、IIゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。 注2) *がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり幅寸法は変更できません。</p>	柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	3	4	5	6		D19	380~550	440~550	500~550			D22	380~550	440~550	500~550			D25	380~550	450~550	520~550			柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数					はり主筋	2	3	4	5		D19	240~340	300~340	+540	+540		D22	240~340	300~340	+540	+540		D25	250~340	320~340	+540	+540	
柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																							
D22	300~610	360~610	420~610	480~610																																																																																																																																																																																																																																																							
D25	300~610	370~610	440~610	510~610																																																																																																																																																																																																																																																							
D29	300~610	380~610	460~610	540~610																																																																																																																																																																																																																																																							
柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																							
D22	240~480	300~480	360~480	420~480																																																																																																																																																																																																																																																							
D25	250~480	320~480	390~480	460~480																																																																																																																																																																																																																																																							
D29	260~480	340~480	420~480																																																																																																																																																																																																																																																								
柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																							
D22	340~600	400~600	460~600	520~600																																																																																																																																																																																																																																																							
D25	340~600	410~600	480~600	550~600																																																																																																																																																																																																																																																							
D29	340~600	420~600	500~600	580~600																																																																																																																																																																																																																																																							
柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																							
D22	240~430	300~430	360~430	420~430																																																																																																																																																																																																																																																							
D25	250~430	320~430	390~430																																																																																																																																																																																																																																																								
D29	260~430	340~430	420~430																																																																																																																																																																																																																																																								
柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	3	4	5	6																																																																																																																																																																																																																																																							
D19	360~550	420~550	480~550	540~550																																																																																																																																																																																																																																																							
D22	360~550	420~550	480~550	540~550																																																																																																																																																																																																																																																							
D25	360~550	430~550	500~550																																																																																																																																																																																																																																																								
柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																							
D19	240~360	300~360	360~360	+520																																																																																																																																																																																																																																																							
D22	240~360	300~360	360	+520																																																																																																																																																																																																																																																							
D25	250~360	320~360	+520	+520																																																																																																																																																																																																																																																							
柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	3	4	5	6																																																																																																																																																																																																																																																							
D19	380~550	440~550	500~550																																																																																																																																																																																																																																																								
D22	380~550	440~550	500~550																																																																																																																																																																																																																																																								
D25	380~550	450~550	520~550																																																																																																																																																																																																																																																								
柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数																																																																																																																																																																																																																																																									
はり主筋	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																							
D19	240~340	300~340	+540	+540																																																																																																																																																																																																																																																							
D22	240~340	300~340	+540	+540																																																																																																																																																																																																																																																							
D25	250~340	320~340	+540	+540																																																																																																																																																																																																																																																							

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (H形柱用は全てS造に適用)
<H形柱用 H150x150~H900x400



ハイベースNEO工法 (H形柱用H150x150~H900x400)

Table with columns: 採用 (柱号, 数量), ハイベースNEO型式 (エコタイプ, Gタイプ), フォーム, 回転バネ定数, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), h (mm), hc (mm), 基礎柱形の設計例 (Fc21) (Iゾーン, IIゾーン), 基礎柱形の設計例 (Fc21) (中柱用).

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。

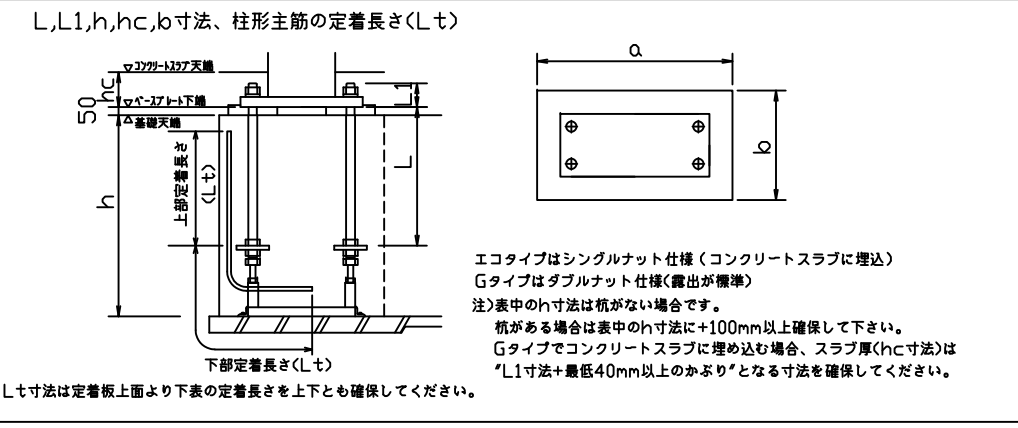
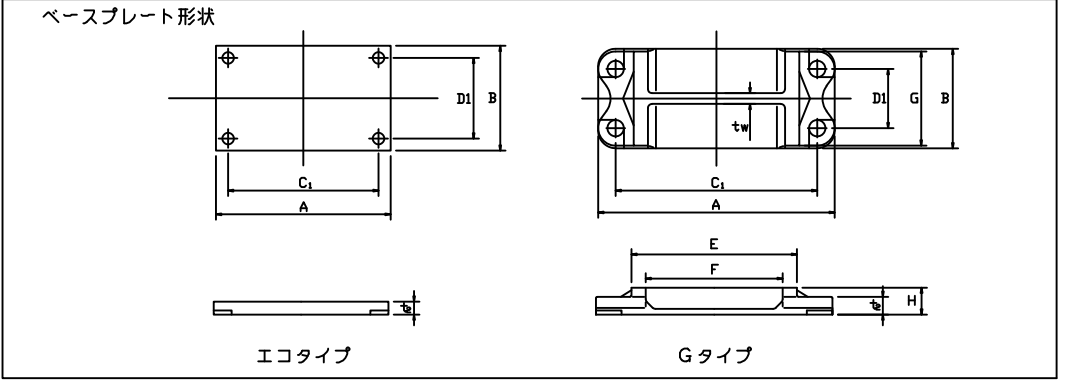
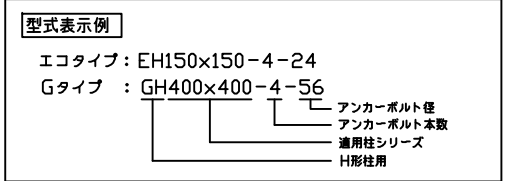
セクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

横浜 連絡先削除

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (H形柱用は全てS造に適用)
<H形柱用 H150x150~H900x400>

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042-0046(Aアンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ)
BCJ評定-ST0059(Eコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS5鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
関係JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



・ハイベースNEO工法 (H形柱用H150x150~H900x400)

Table with columns: 採用 (柱号, 数量), ハイベースNEO型式 (エコタイプ, Gタイプ), フォーム, 回転バネ定数, 寸法 (mm), 質量 (kg), L, L1, h, hc, 基礎柱形の設計例 (Fc24) (側・隅柱用), 基礎柱形の設計例 (Fc24) (中柱用).

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。
注 1) I, IIゾーンの区分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4) <中柱用>の鉄筋量は、D10@250間隔としています。あばら筋面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

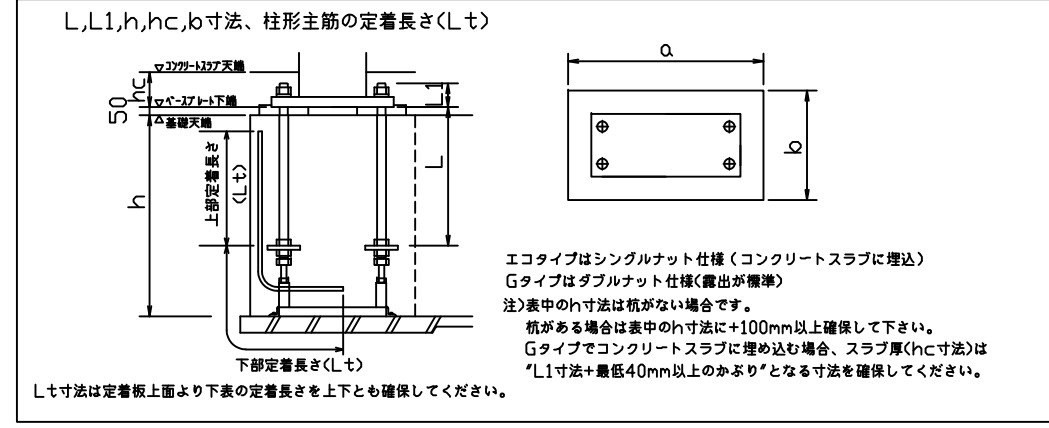
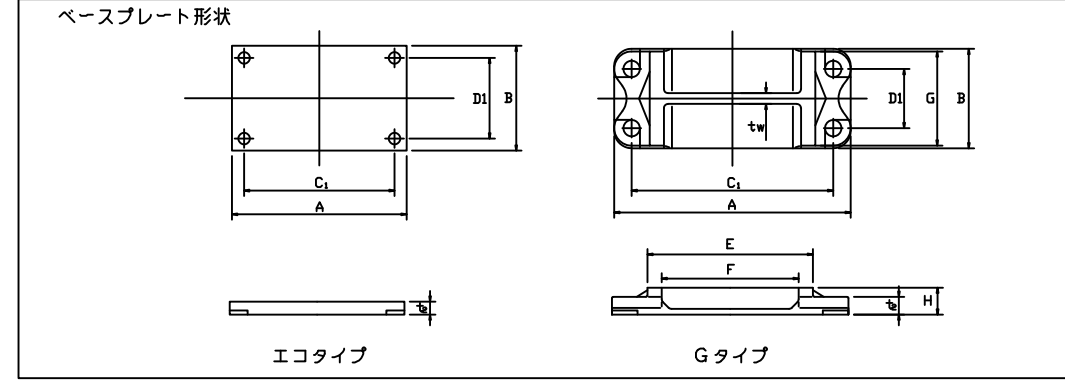
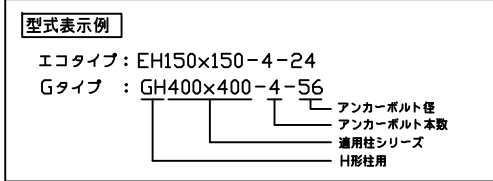
セクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

横浜 連絡先削除

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (H形柱用は全てS造に適用)
<H形柱用 H150x150~H900x400>

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042-0046(Aアンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ)
BCJ評定-ST0059(Eコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
鋼構造JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



・ハイベースNEO工法 (H形柱用H150x150~H900x400)

Table with columns: 採用 (柱号, 数量), ハイベースNEO型式 (Eタイプ, Gタイプ), フォーム, 回転バネ定数, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), 基礎柱形の設計例 (Fc27) (Iゾーン, IIゾーン), 基礎柱形の設計例 (Fc27) (中柱用).

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。
注 1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4) <中柱用>の鉄筋量は、D10@250間隔としています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

セクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

横浜 連絡先削除

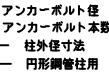
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 MCTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)

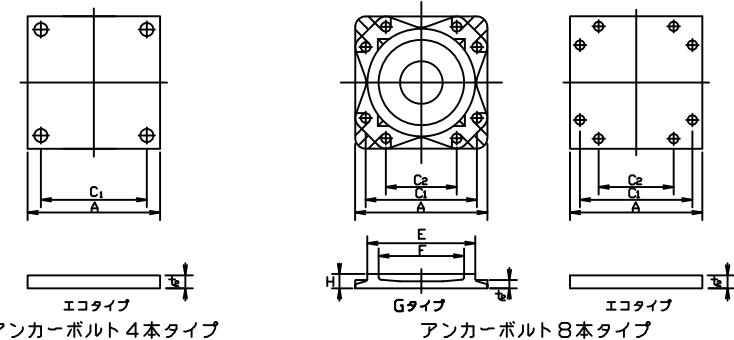
本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

型式表示例

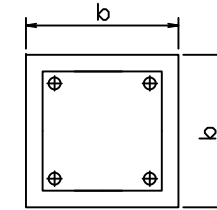
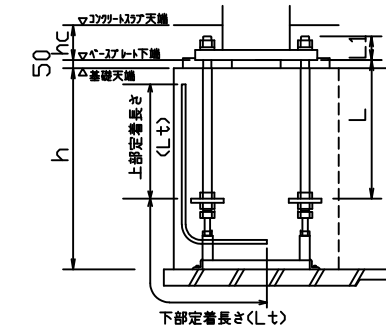
エコタイプ: EM350-8-36
Gタイプ: GM500-8-48



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込)
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は'L1寸法+最低40mm以上のかぶり'となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用 phi190.7~phi1016)

Table with 24 columns: 採用 (Column No, Quantity), 適用柱 (Column Size, Max Plate Thickness), ハイベースNEO型式 (Eco Type, G Type), アンカーボルト (Anchor Bolt), 回転パネ (Rotation Panel), 寸法 (mm) (Dimensions A, C1, C2, E, F, H, t2), 質量 (kg) (Mass of Base Plate, Parts, Total), L (mm), L1 (mm), h (mm), hc (mm), 基礎柱形の設計例(Fc21) (Design Examples for Fc21, I-zone, Reinforcement, Lt), and 基礎柱形の設計例(Fc21) (Design Examples for Fc21, I-zone, Reinforcement, Lt).

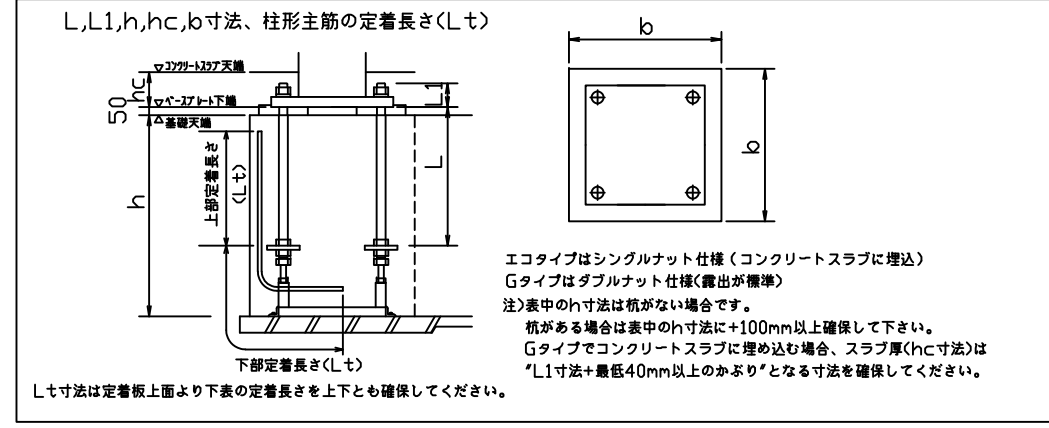
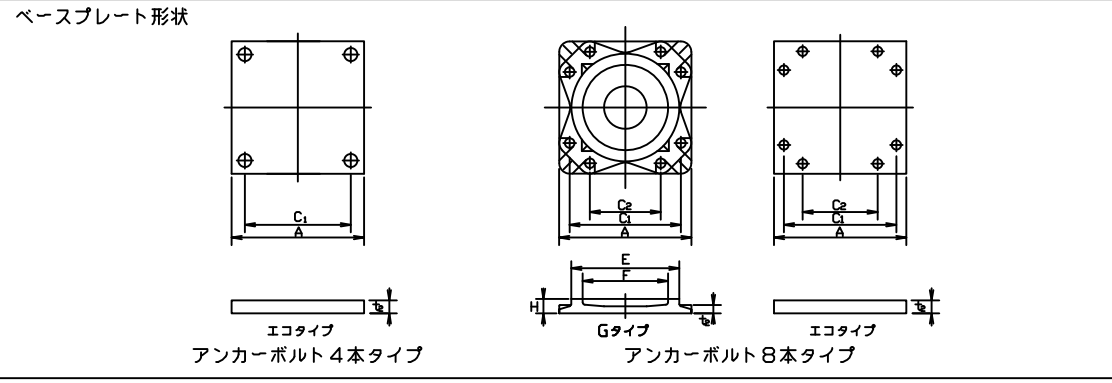
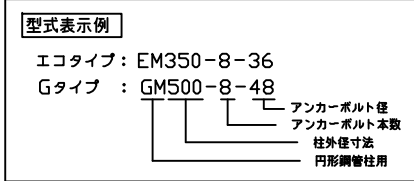
柱サイズ phi850~phi1016の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。
注 1) I,Iゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
注 2) 上記表中の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(削・隅柱用)を参照下さい。
注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を phi406.4以下はD10@250、phi450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面量がこれより小さくなる場合は(削・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

横浜 連絡先削除

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
<円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用) BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)



・ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

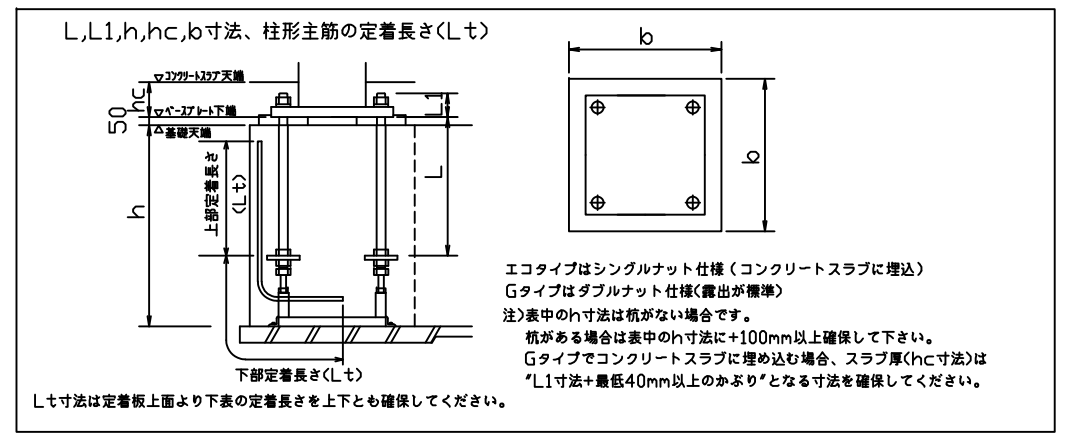
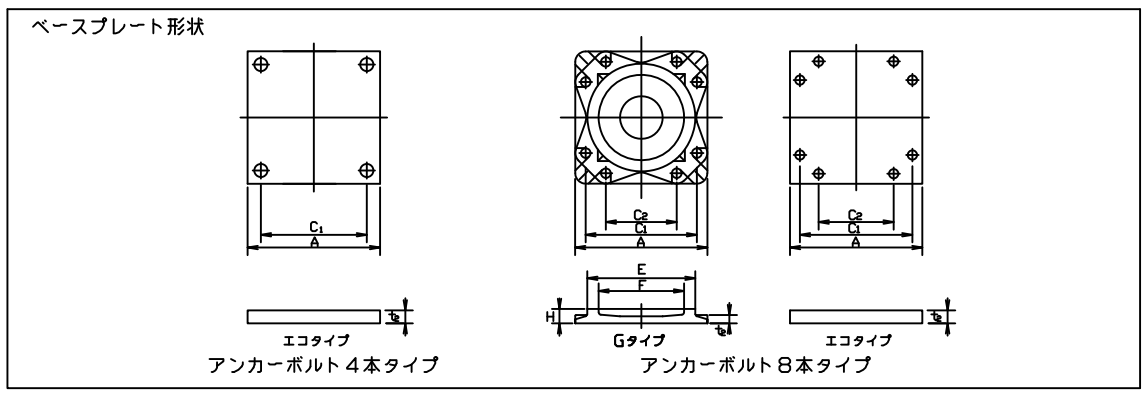
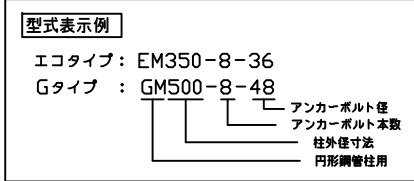
Table with columns for column size, plate type (Eco/G), dimensions (A, C1, C2, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details for different concrete strengths (Fc24). Includes a note about design examples for column sizes φ850~φ1016.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

横浜 連絡先削除

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058(Gタイプ) BCJ評定 ST0059(Eコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS5鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



・ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, height, and base plate type, and rows for various specifications. Includes a detailed table of dimensions (A, C1, C2, E, F, H, t2) and weights (kg) for different column sizes and base plate types. Also includes a table for reinforcement (I-zone and II-zone) with dimensions and reinforcement details.

柱サイズφ850~φ1016の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型の耐力確認を参照下さい。注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

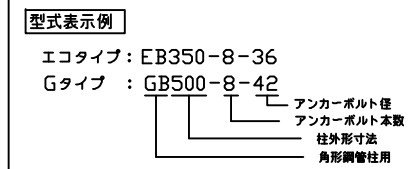
横浜 連絡先削除

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

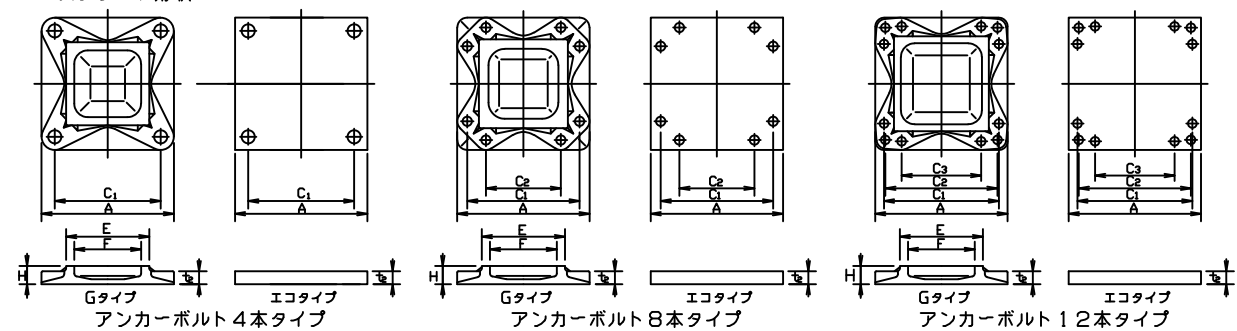
(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用) BJCJ評定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BJCJ評定-ST0058(Gタイプ) BJCJ評定-ST0059(エコタイプ)

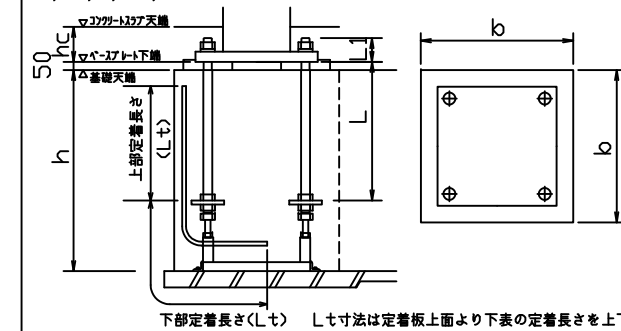
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解集JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は'L1寸法+最低40mm以上のかぶり'となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用150~550)

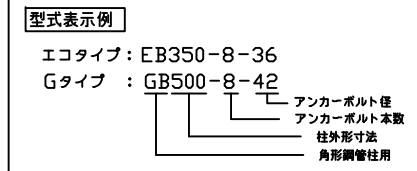
Table with columns for column size, height, type (Eco/G), dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (I-section, main bars, stirrups, etc.).

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。注1) I, IIゾーンの区分はハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を参照下さい。注3) 表中の鉄筋量は標準立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を150以下はD10@250、150以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

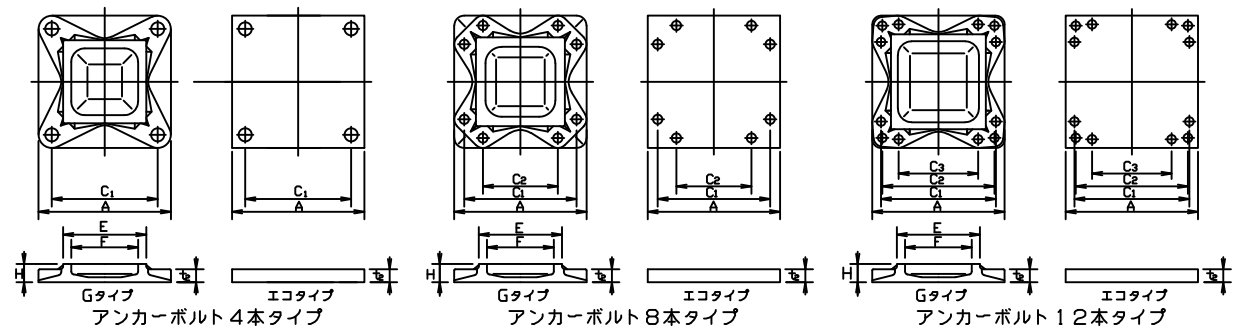
センクシア株式会社 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

横浜 連絡先削除

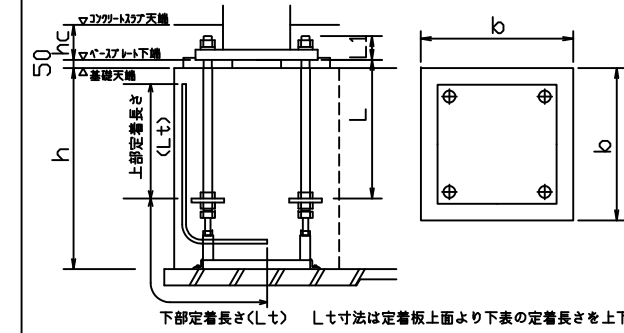
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定
<角形鋼管柱用 150~550> (ハイベースNEO工法Eコタイプは、S造に適用) BJCJ評定



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



Eコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込)
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は
「L1寸法+最低40mm以上のかぶり」となる寸法を確保してください。

・ハイベースNEO工法
(角形鋼管柱用150~550)

基礎柱形設計例(Fc24) < 側・隅柱用 >
基礎柱形設計例(Fc24) < 中柱用(4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。) >
採用 適用柱 ハイベースNEO型式
柱符号 数量 柱サイズ 板厚範囲 エコタイプ Gタイプ
寸法(mm) 質量(kg) L(mm) L1(mm)
Iゾーン Iゾーン
Iゾーン Iゾーン

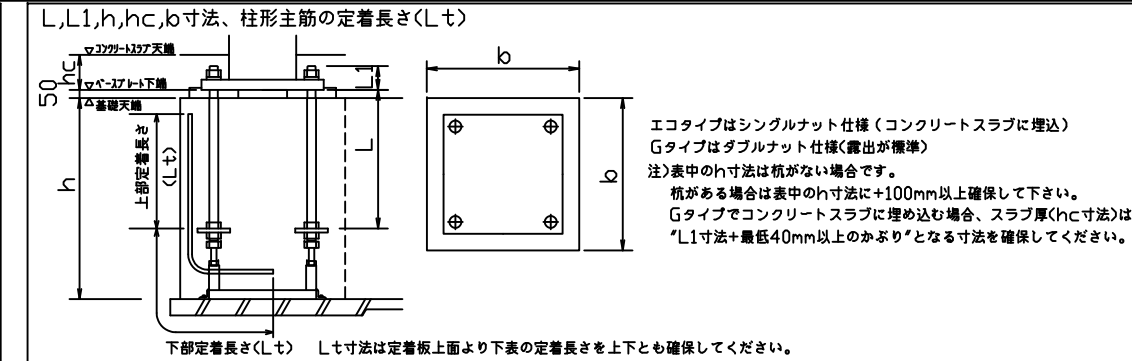
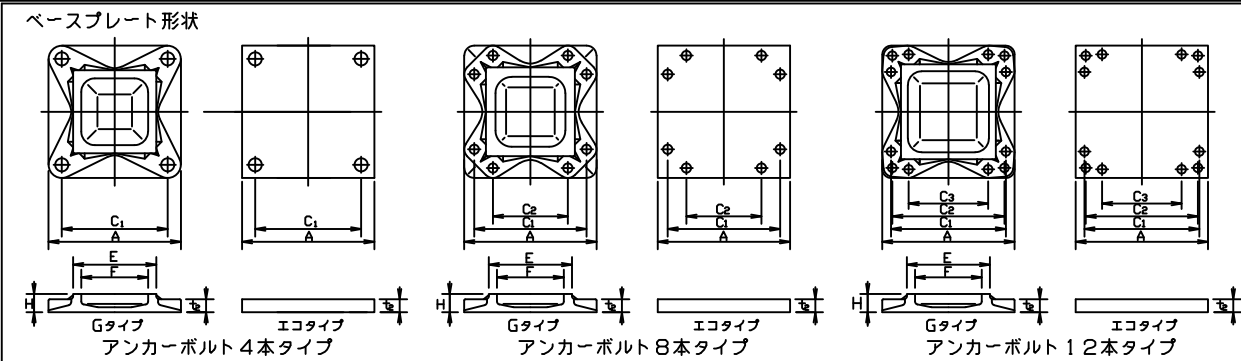
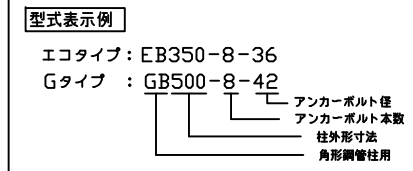
鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。
注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を参照下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎立上がりがない場合(基礎梁天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を150以下はD10@250、150以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
URL https://www.senqcia.co.jp/

横浜 連絡先削除

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定
<角形鋼管柱用 150~550> (ハイベースNEO工法Eコタイプは、S造に適用) BJCJ評定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058(Gタイプ)
BCJ評定-ST0059(Eコタイプ)
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
図解集JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



・ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用150~550)

Table with columns: 採用, 適用柱, ハイベースNEO型式, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), 基礎柱形の設計例(Fc27) <側・隅柱用>, 基礎柱形の設計例(Fc27) <中柱用>. Includes detailed specifications for various column sizes and reinforcement details.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。 センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I, IIゾーンの区分はハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を参照下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎梁上がりがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を150以下はD10@250、150以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

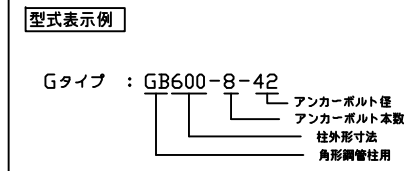
センクシア株式会社 URL https://www.senqcia.co.jp/
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

横浜 連絡先削除

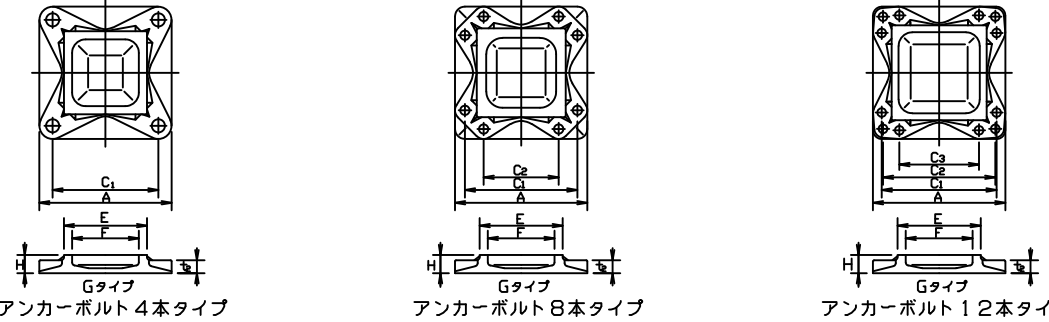
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)

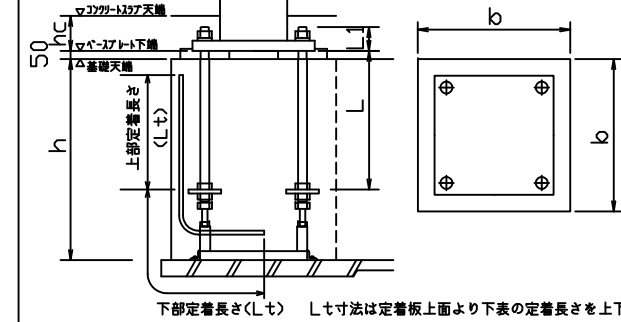
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解集JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は"L1寸法+最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用) 600~1200

Table with columns for column size, height, type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, te), weight, L, L1, h, hc, and reinforcement details (main bars, stirrups, etc.).

柱サイズ850~1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。 柱サイズ1050~1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10@250、D500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面量がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

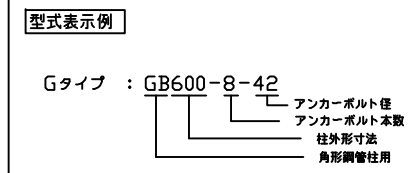
センクシア株式会社 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

横浜 連絡先削除

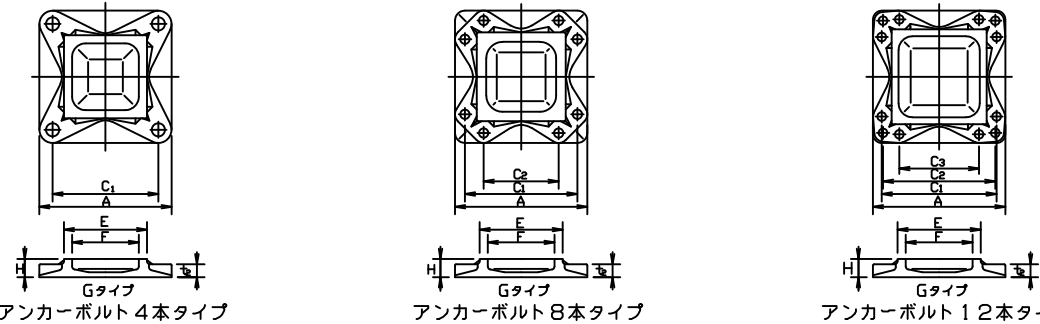
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)

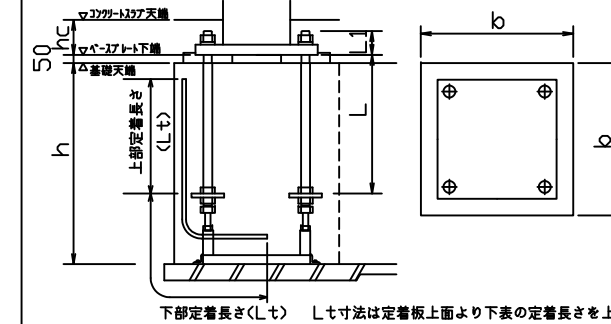
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解集JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は"L1寸法+最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用) 600~1200

Table with columns for column size, plate thickness, column type (Eco/G), dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, and reinforcement details (main bars, stirrups, anchorage length Lt). It provides design examples for various column sizes from 600mm to 1200mm.

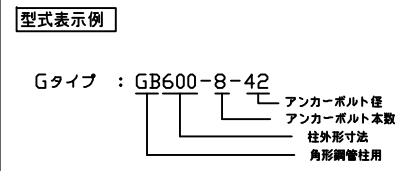
柱サイズ850~1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。 柱サイズ1050~1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎梁立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10@250、D500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面量がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

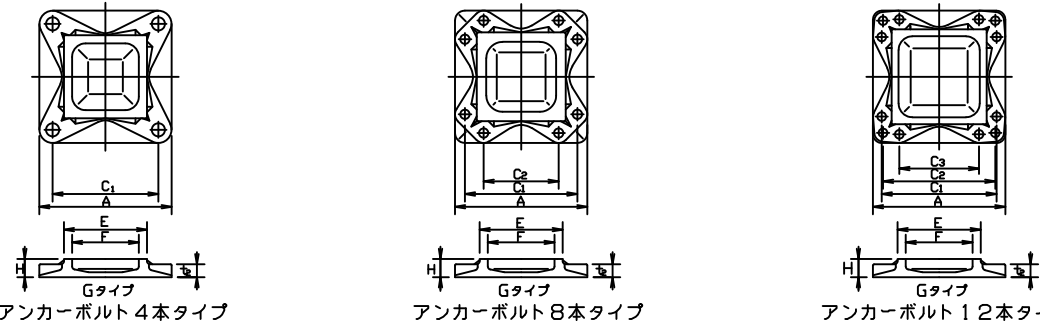
センクシア株式会社 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

横浜 連絡先削除

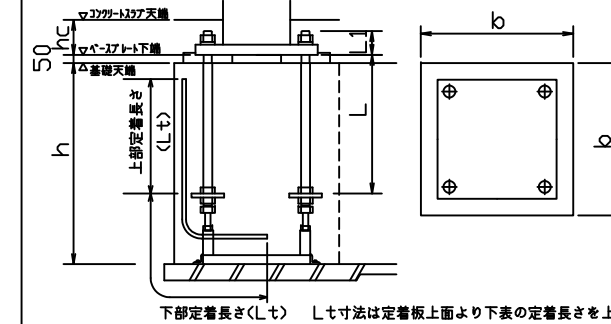
ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BJCJ評定 BJCJ評定-ST0058 (Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・図解集JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ベースプレート形状



L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様(コンクリートスラブに埋込) Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準) 注)表中のh寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は「L1寸法+最低40mm以上のかぶり」となる寸法を確保してください。

ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用) 600~1200

Table with columns for column size (柱サイズ), plate thickness (板厚範囲), Eco-type (エコタイプ), G-type (Gタイプ), dimensions (寸法), weight (質量), and reinforcement details (基礎柱形の設計例). The table lists specifications for various column sizes from 600mm to 1200mm.

柱サイズ850~1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。 柱サイズ1050~1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。 注1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。 注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。 注3) 表中の鉄筋量は基礎梁が立ち上がりがない場合(基礎梁天端と基礎柱天端が一致する場合)の設計例です。立ち上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。 注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ450以下はD10@250、φ500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。 注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630 東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

横浜 連絡先削除

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 MSLT-0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート)
大臣認定 MBLT-0042~0046 (アンカー用ボルトセット)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (Eコタイプ)

本法工法は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・附録 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136 TMCP調	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	-	メートル並目	メートル並目	メートル並目	-	-
備考	SN490B 板厚40mm以下 板厚40mm超	SN490相当 板厚40mm以下 板厚40mm超 降伏比 70%以下	-	強度区分5	SM490A	SS400

Eコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

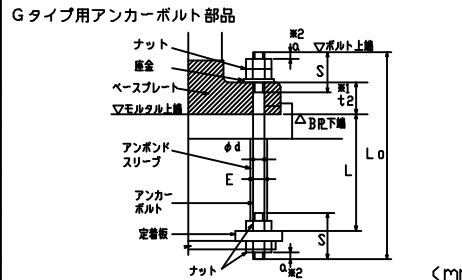
Gタイプ (G B型、GM型、GH型)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490b HCW490s1 (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	-	メートル並目	メートル並目	-	-
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5 降伏比 (Eコタイプ) 降伏比 (Gタイプ)	SM490A	SS400

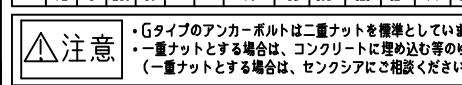
※1 国土交通大臣認定 (MSLT-0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル
後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル **追加**
※ センクシアが供給するものに限る
中心塗部分モルタル 〇無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
〇強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり
コンクリート 〇日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
〇設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$
鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。



ねじの種類	軸径	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金					
		軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ				
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	35	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	160	16	720	920	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	45	185	18	840	1040	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	220	22	960	1240	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	55	240	24	1120	1440	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	280	28	1280	1640	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	290	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125



ねじの種類	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ孔径	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87

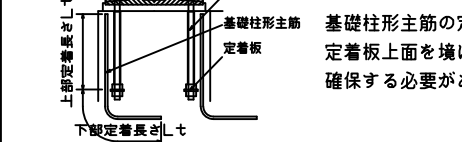
ねじの種類	4本タイプ用				8本タイプ用				12本タイプ用				
	長さ	外径	内径	厚さ	長さ	外径	内径	厚さ	長さ	外径	内径	厚さ	
M24	16	70	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M30	16	90	33	9	180	65	33	-	-	-	-	-	-
M36	19	100	39	9	215	75	39	-	-	-	-	-	-
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45	-	-
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52	-	-
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60	-	-
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68	-	-
M72	-	-	-	16	380	145	76	16	375	145	76	-	-

ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照してください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法

各 部 名 称	寸 法	備 考
中心塗部分モルタルの厚さ (t _m)	標準寸法 t _m =50mm	許容範囲 30 ≤ t _m ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e _m)	e _m ≥ 30mm	許容範囲 e _m ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (L_t) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

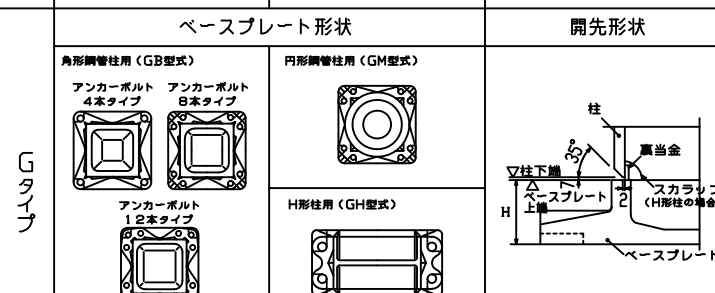
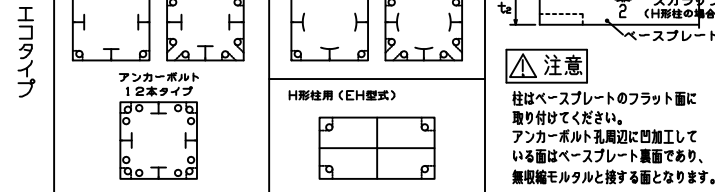
1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系490N/mm ² 級高強度鋼用 (JIS Z3211、BJIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm ² 級高強度鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上

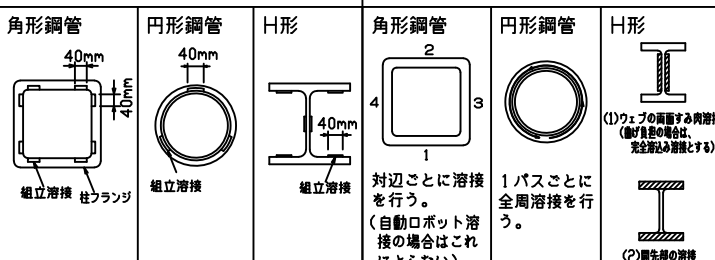
※高強度柱材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考

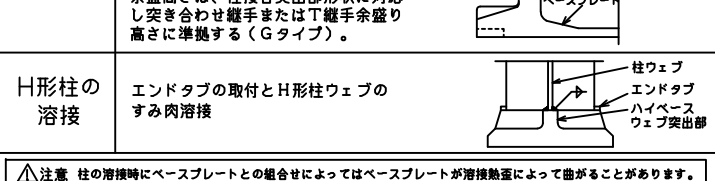


3. 組立溶接 4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般

予 熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余 盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってならかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。



6. 検 査

方 法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の 補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

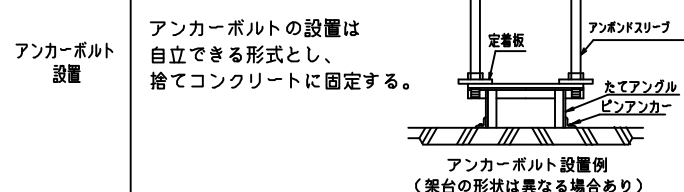
△注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がる場合があります。

現場施工

1. 捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

2. 墨出し 3. アンカーボルト搬入 (#) 4. アンカーボルト据付 (#)



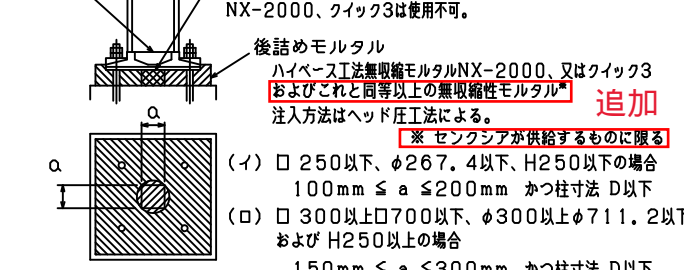
アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。

アンカーボルト設置精度の 目標値	平面 アンカーボルト A±e (形板芯にて検査)	レベル 基準高さよりの誤差eh -3mm ≤ eh ≤ 10mm
------------------	-----------------------------------	--

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み 6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗部分モルタル施工



中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方

アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締付けを行う。	9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#)
9~10. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	10. アンカーボルト締付 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差 ±0°)

11. モルタル注入枠取り外し
施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社 URL https://www.senqcia.co.jp/		△注意 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)	
本社 TEL 03-4214-1932	関東 TEL 027-322-9411	関西 TEL 06-6395-2133	2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
札幌 TEL 011-708-1177	中部 TEL 052-582-3356	中四国 TEL 082-240-1630	3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
東北 TEL 022-213-5595	北陸 TEL 076-233-5260	九州 TEL 092-452-0341	4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。			

横浜 連絡先削除

スーパーハイベース工法設計施工標準

大臣認定 MSTL-0180 (ハイベース)
MBLT-0042~0046 (アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術規程、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法・スーパーハイベース工法設計ハンドブックに準拠する。

(本工法は、S造およびCFT構造に適用)

設計

1. 材質

(1) ハイベース・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ハイベース	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106 #2	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	腐食比70%以下	※3 鋼板厚(2mm以下) 鋼線径(2mm以下)	SM490A	SS400

※1 鋼土質認定取得(MSTL-0180) ※2 鋼土質認定取得(MBLT-0042-0046) ※3 M72相当品

(2) ハイベース下面のモルタル

後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3 およびこれと同等以上の無収縮性モルタル* *セクシアが供給するものに限る	追加
中心塗り部分モルタル	0無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。) 0強度はこれに接するコンクリートの強度以上	

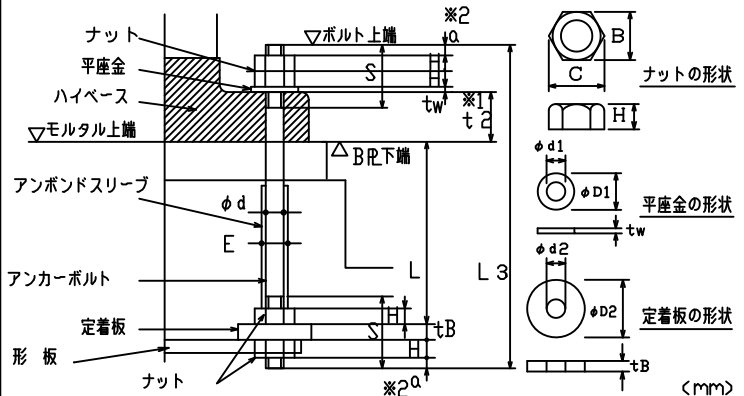
(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	0日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート。 0設計基準強度は、 $F_c=18\sim36\text{ N/mm}^2$ 以上
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ハイベース外形寸法の0.065倍(0.1倍)以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

注意 ボルト本数はハイベースの型式によって異なります。

型式	C1・S1	S2・M2・L2・X2・WX2	S3・M3・L3
ボルト本数	4	8	12
形状例			

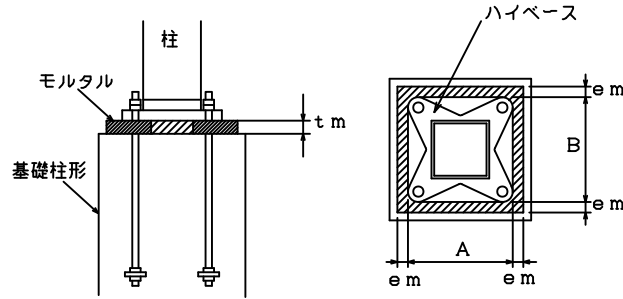


ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ	ナット(一種)		平座金	定着板								
	ねじ径	長さ		全長	外径		厚さ	外径	厚さ						
M24	24	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44	16	27	70
M30	30	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56	16	33	90
M36	36	150(130)	16	720	955(925)	41	29	55	64	6	37	66	19	39	100
M42	42	165(155)	18	840	1100(1080)	48	34	65	75	9	43	78	22	45	120
M48	48	190(175)	22	960	1270(1235)	54	38	75	87	9	50	92	25	52	140
M56	56	210(185)	24	1120	1470(1420)	62	45	85	98	9	58	105	28	60	160
M64	64	230(200)	28	1280	1660(1610)	70	51	95	110	12	66	115	32	68	180
M72	72	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125	36	76	200

※1 t2はハイベース台座厚さを示し、ハイベース型式によって変わります。
※2 a寸法は、ハイベース台座の厚さによって多少変動しますが、本数値以上確保下さい。
※3 ()内は、BC型の数値を示します。 ※BC型はシングルナット仕様とする。

注意 アンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも通用可能です。
一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置をお願いします。
(一重ナットとする場合は、セクシアにご相談下さい。)

3. 基礎柱形部の標準納まり



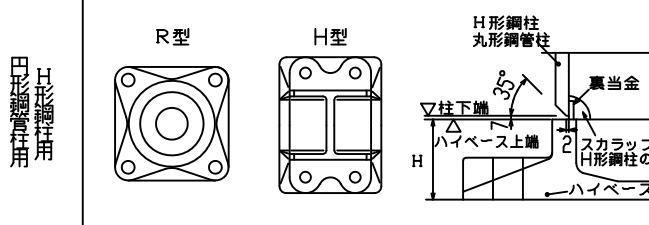
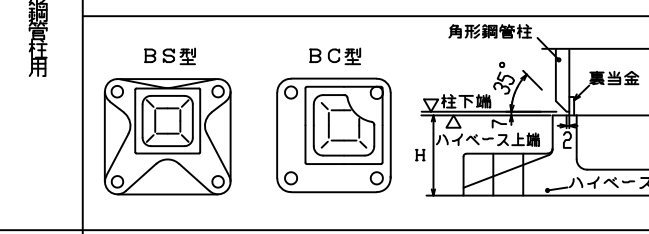
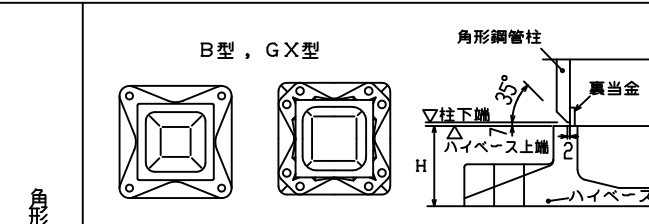
各部名称	寸法制限	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ(t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅(e)	e ≥ 30mm	許容範囲 e ≥ 25mm

工場加工

1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系490N/mm ² 級高強度鋼用(JIS Z3211、旧JIS Z3212)相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm ² 級高強度鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ(JIS Z3312)相当以上

※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。
2. ハイベースの鉄骨柱への取付け(柱端部に開先を設ける。)
※柱とハイベースの溶接は、完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる 注意 開先形状は参考



セクシア株式会社

本社	TEL 03-4214-1932
札幌	TEL 011-708-1177
東北	TEL 022-213-5595
関東	TEL 027-322-9411
中部	TEL 052-582-3356
北陸	TEL 076-233-5260
関西	TEL 06-6395-2133
中国	TEL 082-240-1630
九州	TEL 092-452-0341

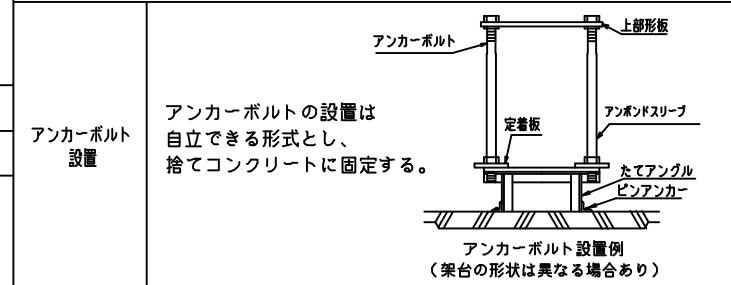
注意 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、アンカーボルトの締付け、これらの施工は、セクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務づけられています。)
2. 本資料以外の施工方法で行った場合、スーパーハイベースの性能が発揮できなくなります。

本社に変更
横浜 連絡先削除

現場施工

(#): セクシアの担当範囲

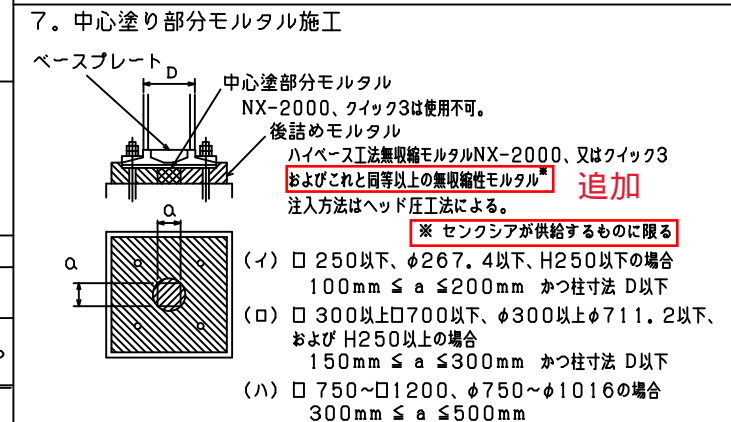
- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入(#)
- アンカーボルト据付(#)



アンカーボルト設置精度の目標値	平面	レベル

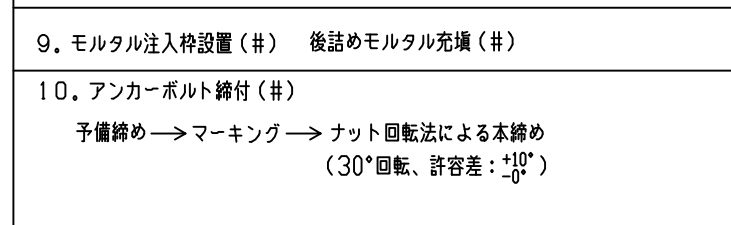
基準高さよりの誤差 $eh - 3\text{mm} \leq eh \leq 10\text{mm}$

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
6. 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。
7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方
9. モルタル注入枠設置(#)
後詰めモルタル充填(#)
10. アンカーボルト締付(#)
予備締め → マーキング → ナット回転法による本締め
(30°回転、許容差: +10°)
11. モルタル注入枠取り外し



施工完了後、スーパーハイベース工法のチェックシートに工事記録を記載する。

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用) 2019/7

大臣認定 MSLL-0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート)
 MBLT-0042~0046 (アンカー用ボルトセット)
 BCJ認定 ST0058 (Gタイプ)
 BCJ認定 ST0059 (エコタイプ)

本工法的设计・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書 同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
JIS G3136	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超 降伏比70%以下	—	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
JIS G3136	HCW490b HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比70%以下	—	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSLL-0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)
 ※3 M7.2は軸目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル: ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3

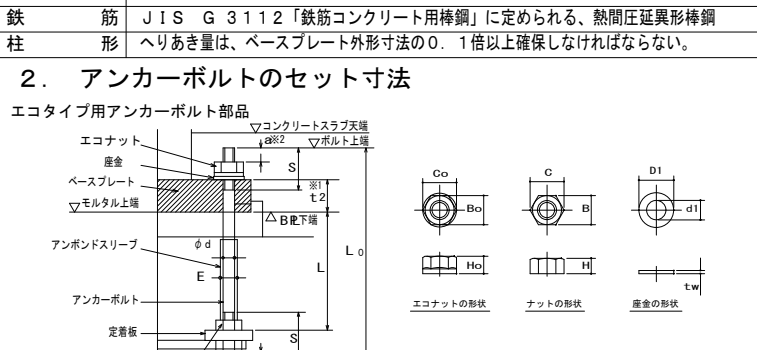
中心塗部分モルタル: ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。)
 ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c=18\sim36N/mm^2$
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱 形: ヘリき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法



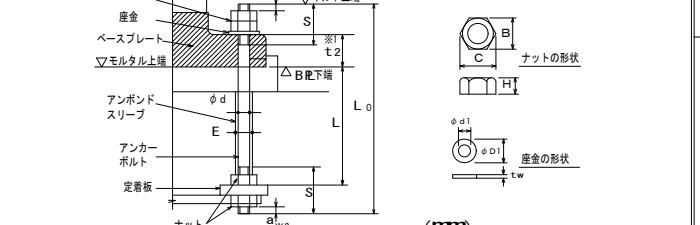
定着板 (エコタイプ、Gタイプ共通)

ねじの呼び	4本タイプ用				8本タイプ用				12本タイプ用			
	厚さ	外径	内径	長さ	厚さ	外径	内径	長さ	厚さ	外径	内径	長さ
M24	16	70	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—
M30	16	90	33	9	180	65	33	—	—	—	—	—
M36	19	100	39	9	215	75	39	—	—	—	—	—
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45	—
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52	—
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60	—
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68	—
M72	—	—	—	16	380	145	76	16	375	145	76	—

ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。

注意: エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変動する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品

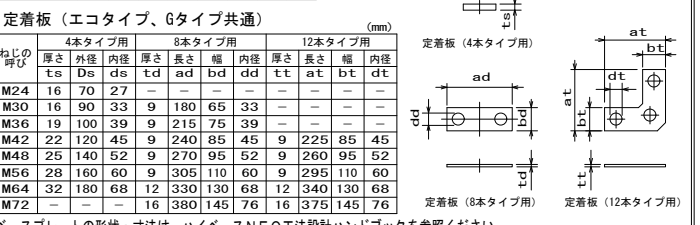


ねじの呼び	アンカーボルト			アンボンドスリーブ			ナット			座金			
	軸径	ねじピッチ	余長	全長	外径	高さ	外径	高さ	厚さ	内径	外径		
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	150	16	720	925	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	185	18	840	1080	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	215	22	960	1235	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	255	24	1120	1420	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	290	28	1280	1610	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	330	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

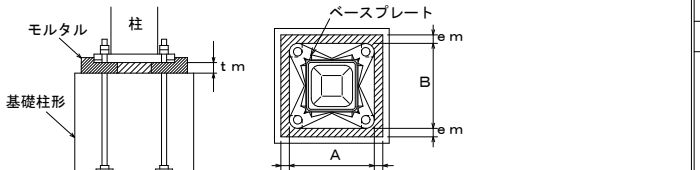
注意: ・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込み等のゆるみ止め処置が必要です。(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M56	M64	M72
エコタイプ孔径	38	44	50	57	—	—	—
Gタイプ孔径	—	38	45	53	61	70	79

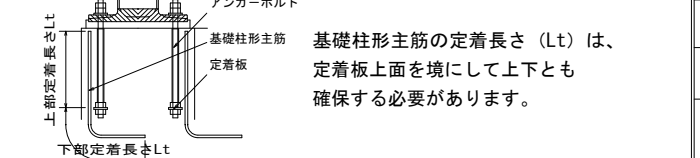


3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t m)	標準寸法 t m=50mm	許容範囲 30 ≤ t m ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e m)	e m ≥ 30mm	許容範囲 e m ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



センクシア株式会社 URL: https://www.senqia.co.jp/

本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133 中四国 TEL 082-240-1630
 東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356

工場加工

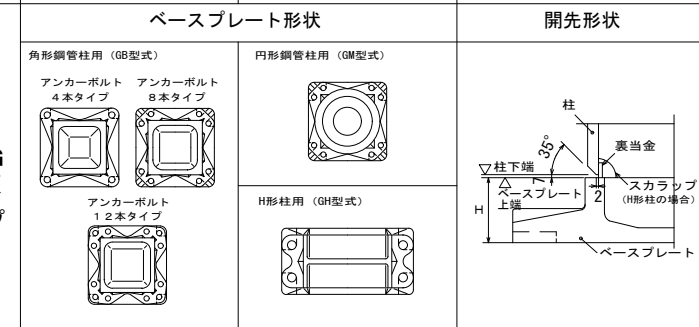
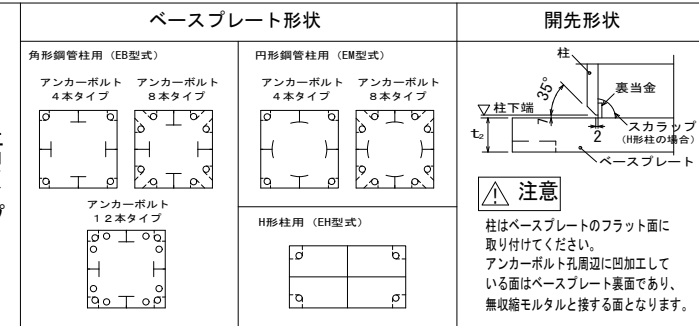
1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系 490N/mm ² 級高張力鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm ² 級高張力鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上

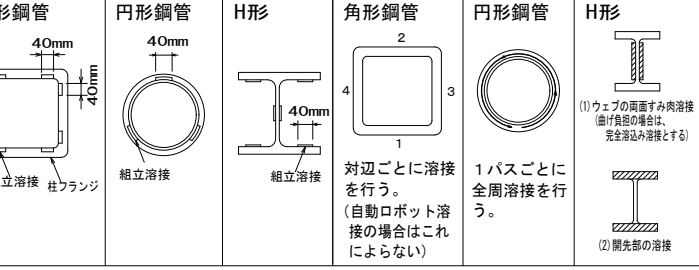
※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

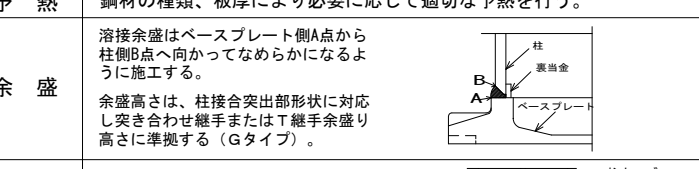
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接 ※開先形状は参考



3. 組立溶接



4. 本溶接の手順



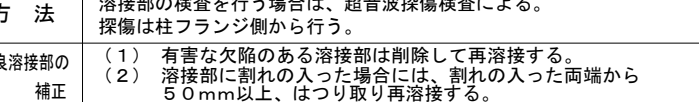
5. 溶接施工一般

予熱: 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

余盛: 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。

余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

H形柱の溶接



6. 検査

方法: 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。

不良溶接部の補正: (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

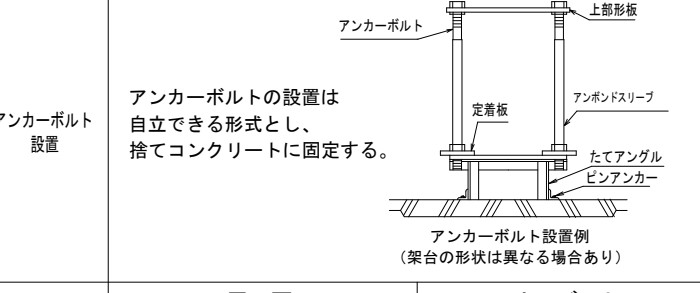
現場施工 (#): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設: 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

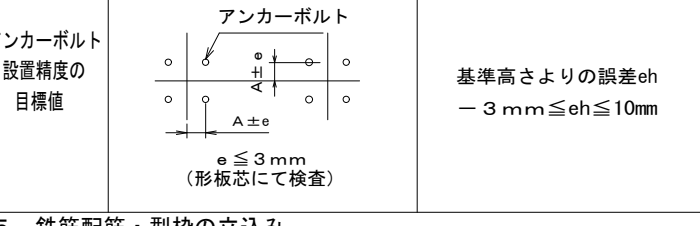
2. 墨出し

3. アンカーボルト搬入 (#)

4. アンカーボルト据付 (#)



アンカーボルト設置精度の目標値

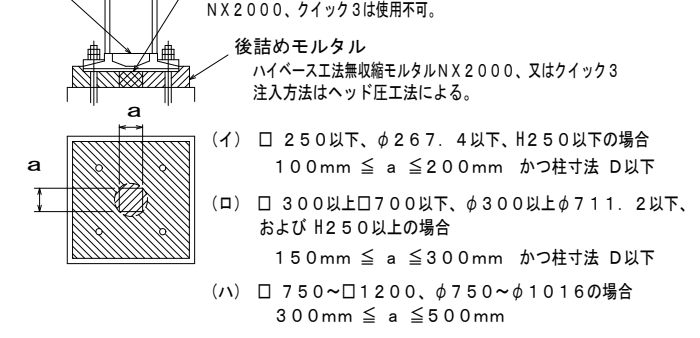


5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。追加

7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生: 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方

アンカーボルト締付: アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (#): 後詰めモルタル充填 (#)

10. アンカーボルト締付 (#): 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差: ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

注意: 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。) 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。 3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちすぎずやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。 4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

スーパーハイベース工法設計施工標準

(本工法は、S造およびCFR構造に適用)

2019/7

大臣認定 MSL-0180 (ハイベース)
MBLT-0042~0046 (アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書
同解説 JASS 6 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法・スーパーハイベース工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ハイベース・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ハイベース	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106 (六角ナット)	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	鋼材規格 (二重ナット) 鋼材規格 (一重ナット)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSL-0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046) ※3 M72は縦目ねじ

(2) ハイベース下面のモルタル

後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
中心塗り部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。) ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

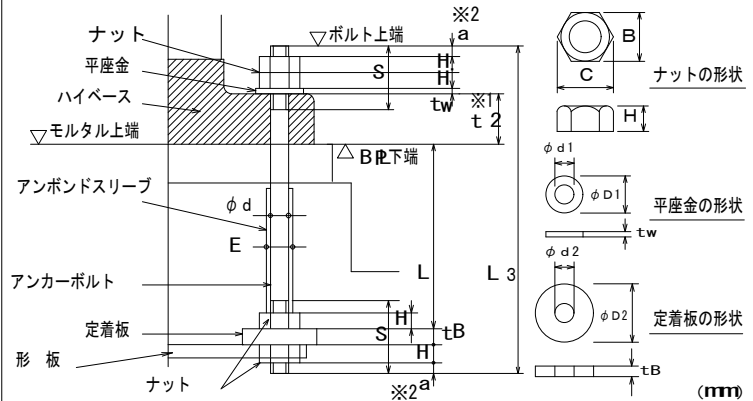
(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート。 ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$ 以上
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼 へりあき量は、ハイベース外形寸法の0.065倍 (0.1倍) 以上 確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

【注意】 ボルト本数はハイベースの型式によって異なります。

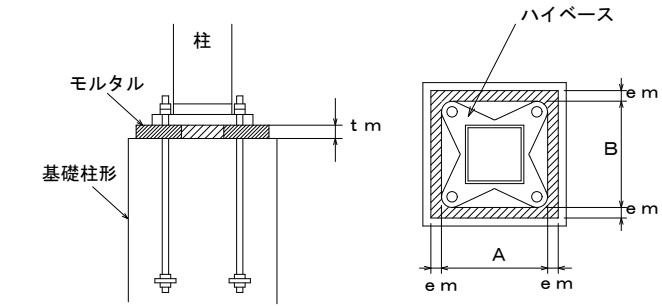
型式	C1・S1	S2・M2・L2・X2・WX2	S3・M3・L3
ボルト本数	4	8	12
形状例			



ねじの呼び	アンカーボルト		ナット (一種)	平座金	定着板											
	軸径	長さ														
φd	P	S1	a	L	L3	E	H	B	C	tw	φd1	φD1	tB	φd2	φD2	
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44	16	27	70
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56	16	33	90
M36	36	4	150 (130)	16	720	955 (925)	41	29	55	64	6	37	66	19	39	100
M42	42	4.5	165 (155)	18	840	1110 (1090)	48	34	65	75	9	43	78	22	45	120
M48	48	5	190 (175)	22	960	1270 (1235)	54	38	75	87	9	50	92	25	52	140
M56	56	5.5	210 (185)	24	1120	1470 (1420)	62	45	85	98	9	58	105	28	60	160
M64	64	6	230 (200)	28	1280	1660 (1610)	70	51	95	110	12	66	115	32	68	180
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125	36	76	200

※1 t2 はハイベース台座厚さを示し、ハイベース型 式によって変わります。
 ※2 a 寸法は、ハイベース台座の厚さによって多少変動しますが、本数値以上確保下さい。
 ※3 () 内は、BC型の数値を示します。
 ※BC型はシングルナット仕様とする。
 ・アンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
 【注意】 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置をお願いします。
 ・一重ナットとする場合は、センクシアにご相談下さい。

3. 基礎柱形部の標準納まり



各部分名称	寸法制限	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t m)	標準寸法 t m=50mm	許容範囲 30 ≤ t m ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e m)	e m ≥ 30mm	許容範囲 e m ≥ 25mm

工場加工

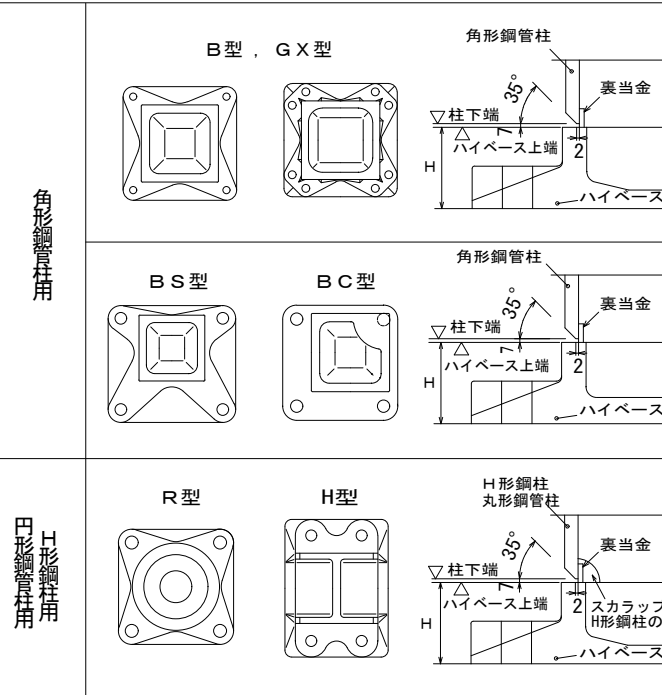
1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系 490N/mm ² 級高張力鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び 490N/mm ² 級高張力鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上

※高強度柱材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ハイベースの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける。)

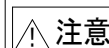
※ 柱とハイベースの溶接は、完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる 【注意】 開先形状は参考



センクシア株式会社

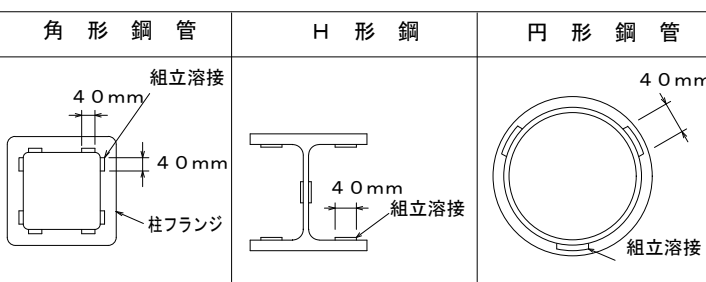
東京 TEL 03-4214-1932
 札幌 TEL 011-708-1177
 東北 TEL 022-213-5595
 関東 TEL 027-322-9411
 横浜 TEL 03-4214-1945
 中部 TEL 052-582-3356
 北陸 TEL 076-233-5260
 関西 TEL 06-6395-2133

中四国 TEL 082-240-1630
 九州 TEL 092-452-0341

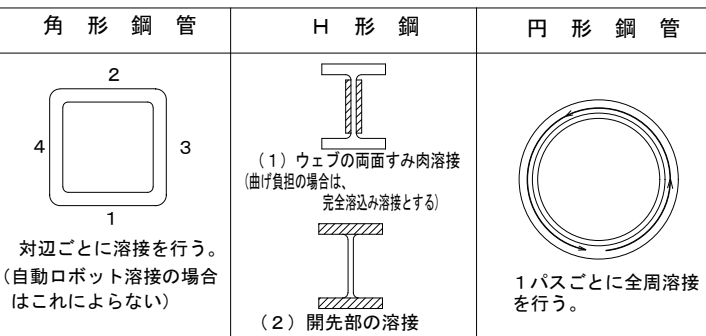


【注意】 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、アンカーボルトの締付け、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務づけられています。)
 2. 本資料以外の施工方法で行った場合、スーパーハイベースの性能が発揮できなくなります。

3. 組立溶接

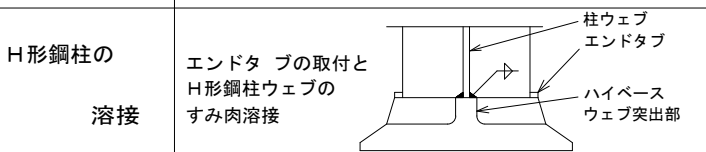
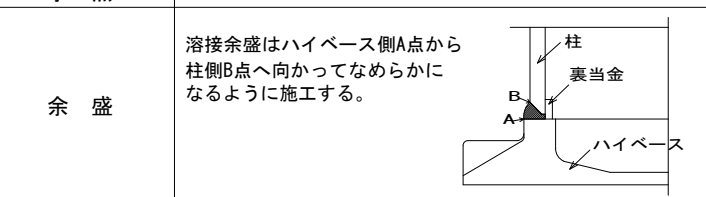


4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

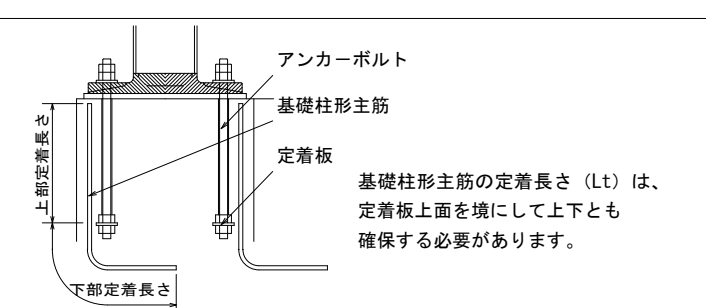


6. 検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査によつてよい。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

基礎柱形の設計

1. 基礎柱形主筋の定着長さ

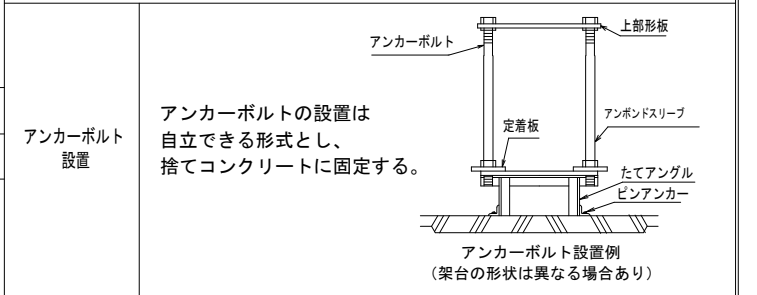


URL <https://www.senqcia.co.jp/>

現場施工

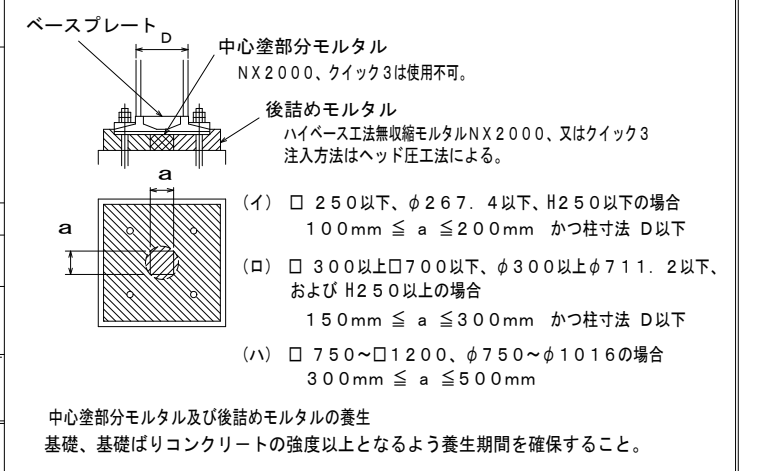
(#): センクシアの担当範囲

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (#)
- アンカーボルト据付 (#)



	平面	レベル
アンカーボルト設置精度の目標値		基準高さよりの誤差 eh -3mm ≤ eh ≤ 10mm

- 鉄筋配筋・型枠の立込み
- 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。 追加
- 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方

9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#)

10. アンカーボルト締付 (#)

予備締め → マーキング → ナット回転法による本締め (30° 回転、許容差 ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、スーパーハイベース工法のチェックシートに工事記録を記載する。

2019/06

MSTL-0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042~0046 (アンカー用ベースプレート)
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (Eコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
解説書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイバースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

BCJ評定 設計

1. 材質 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

Table with 7 columns: ベースプレート, アンカーボルト, エコナット, ナット, 座金, 定着板. Rows include specifications like JIS G3136, HAB, JIS B1181, JIS G3106, JIS G3101.

Table with 7 columns: ベースプレート, アンカーボルト, ナット, 座金, 定着板. Rows include specifications like HCW490b, HAB, JIS B1181, JIS G3106, JIS G3101.

後詰めモルタル ハイバース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
中心塗部分モルタル O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。)

(2) ベースプレート下面のモルタル
コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

2. アンカーボルトのセット寸法

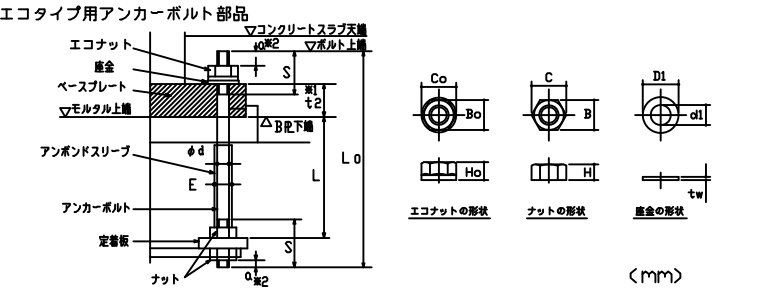


Table with 7 columns: アンカーボルト, アンボンドスリプ, エコナット, ナット, 座金. Rows include specifications for different sizes like M24, M30, M36, M42, M48, M56, M64, M72.

注意
・Eコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品

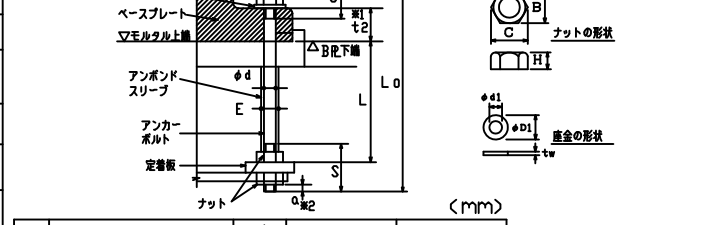


Table with 7 columns: アンカーボルト, アンボンドスリプ, ナット, 座金. Rows include specifications for different sizes like M24, M30, M36, M42, M48, M56, M64, M72.

注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
・一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。

Table with 7 columns: アンカーボルト, アンボンドスリプ, ナット, 座金. Rows include specifications for different sizes like M24, M30, M36, M42, M48, M56, M64, M72.

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)
Gタイプ孔径 - 38 45 53 61 70 79 87

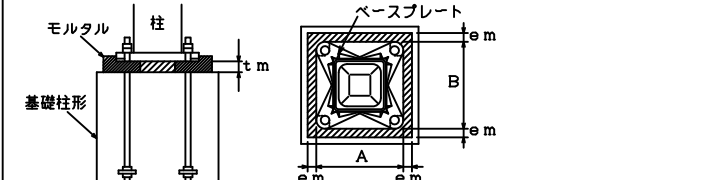
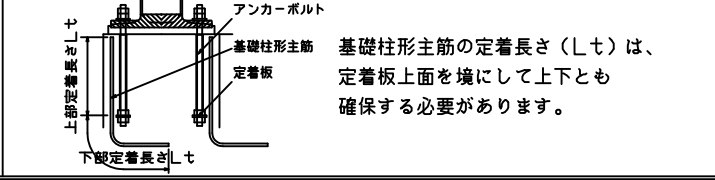


Table with 3 columns: 各部名称, 寸法, 備考. Rows include specifications for mortar thickness and base plate width.

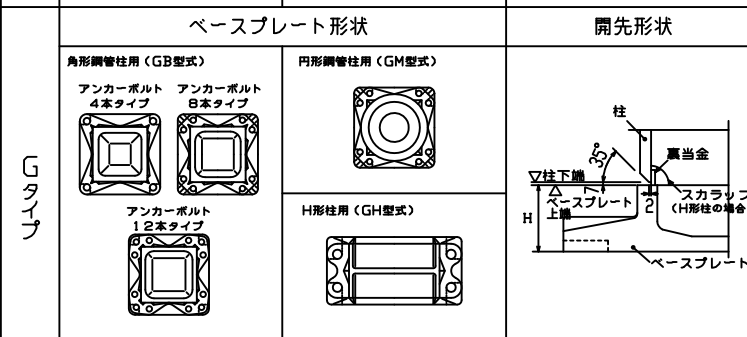
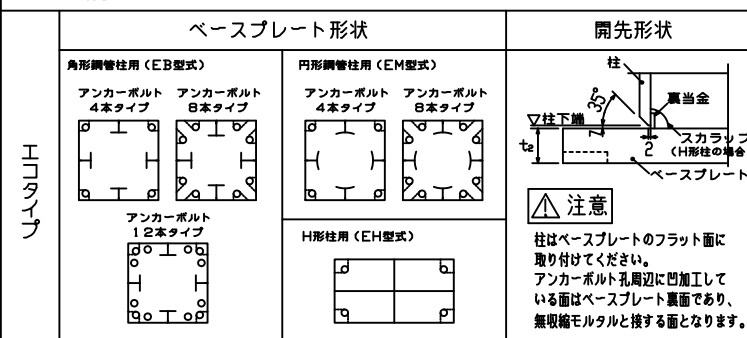
3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



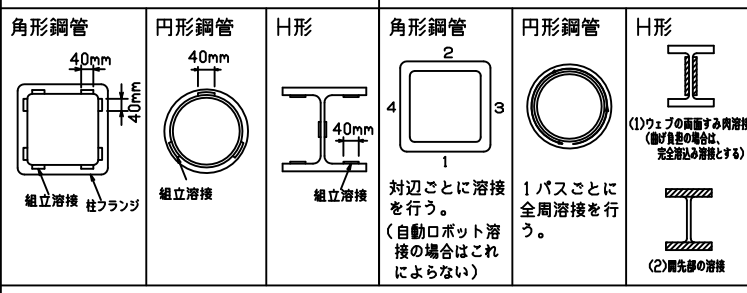
注意
・アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)

工場加工

1. 溶接材料
被覆アーク溶接 低水素系490N/mm2 級高強度鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び490N/mm2 級高強度鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上
※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイバースの強度ランクの高い方に適合した溶接材料を使用する。
2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



3. 組立溶接 4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

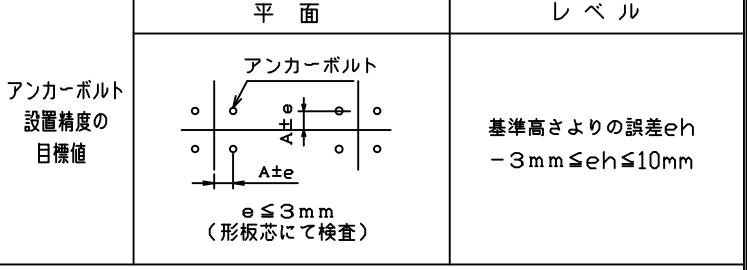
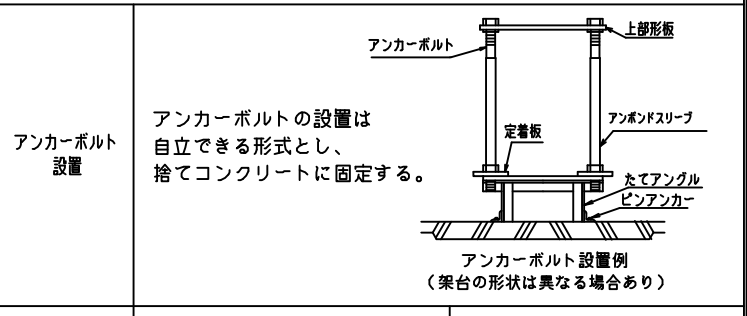
注意
柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がる場合があります。

6. 検査

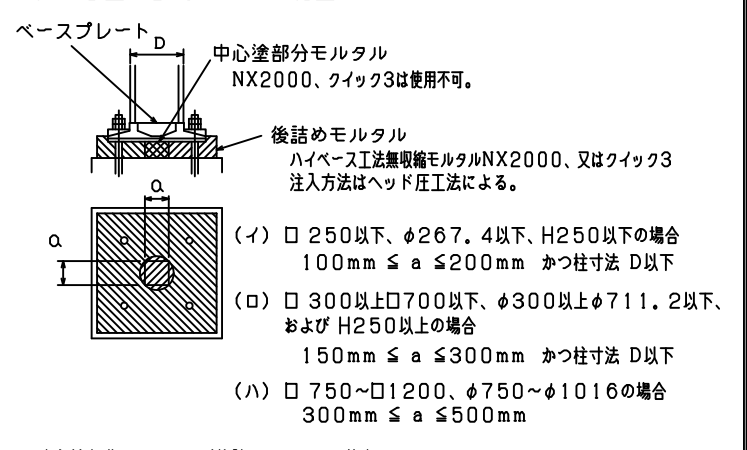
方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

現場施工 (#): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
2. 墨出し
3. アンカーボルト搬入 (#)
4. アンカーボルト据付 (#)



5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
6. 基礎コンクリート打設
7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH型式 GH型式

8. 鉄骨建方

アンカーボルト締付
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (#)

後詰めモルタル充填 (#)
アンカーボルト締付確認 (#)
ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。

10. アンカーボルト締付 (#)

予備締め
マーキング
ナット回転法による本締め (30°回転、許容差: +10°)

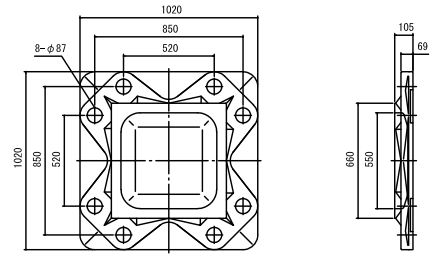
11. モルタル注入枠取り外し
施工完了後、ハイバースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社
電話番号変更
本社 TEL 03-4214-1932
関東 TEL 027-322-9411
北陸 TEL 076-233-5260
九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177
横浜 TEL 03-4214-1945
関西 TEL 06-6395-2133
東京 TEL 022-213-5595
中部 TEL 052-582-3356
中四国 TEL 082-240-1630
URL https://www.senqcia.co.jp/

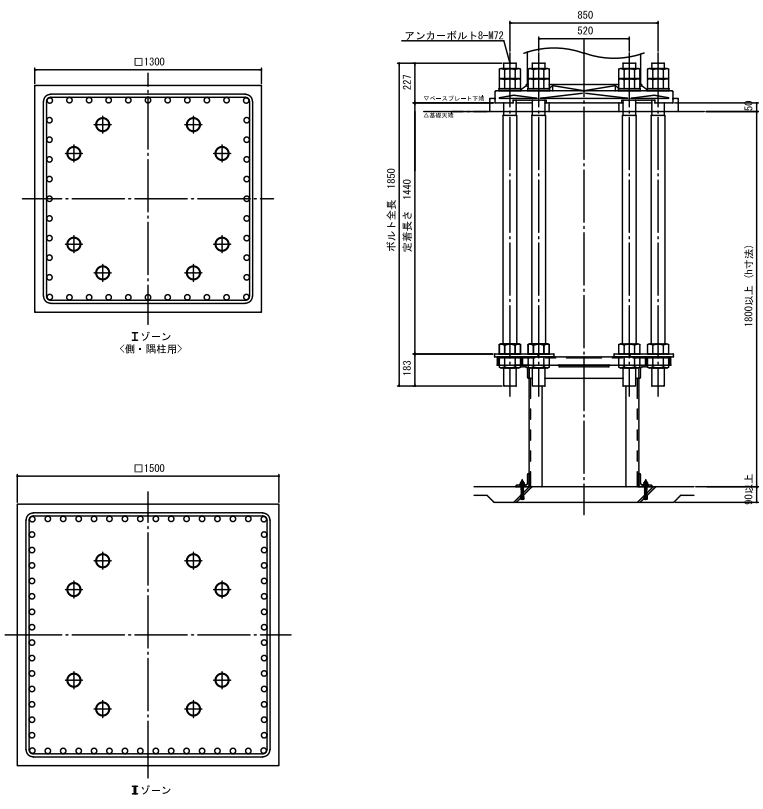
注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)

GB650-8-72

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc21の場合)

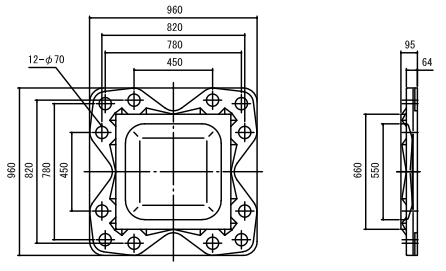


適用柱		角形鋼管柱 □650 (板厚範囲: 12~40mm)					
アンカーボルト		8-M72					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1300	40-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1500	60-D29 (SD390)	D16H75 (SD295)	1340
<中柱用>	1300	36-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1500	60-D29 (SD390)	D16H75 (SD295)	1340

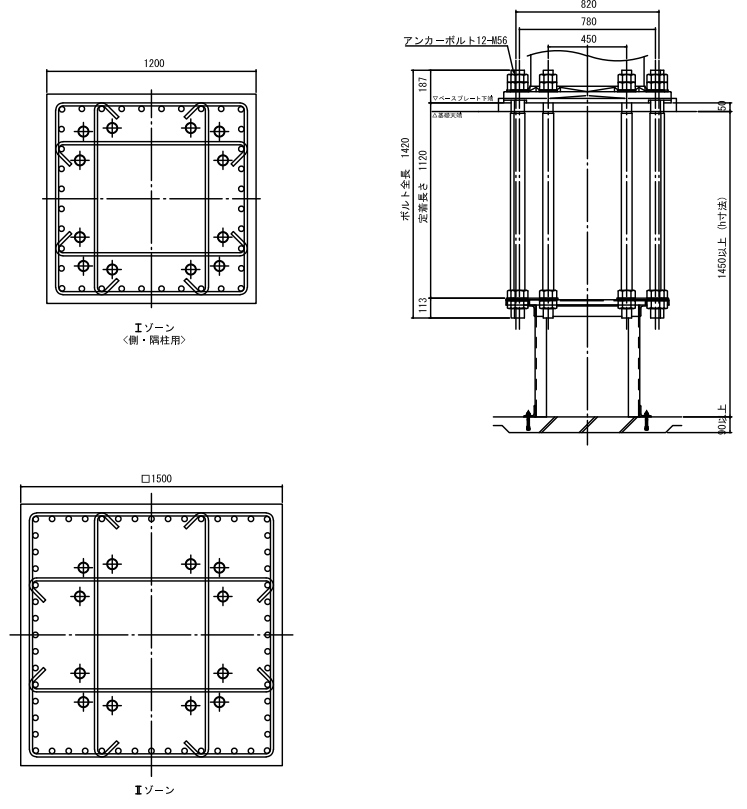
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13H250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

GB650-12-56

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc21の場合)

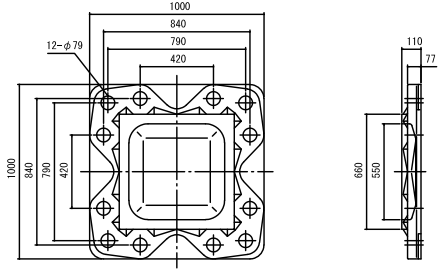


適用柱		角形鋼管柱 □650 (板厚範囲: 12~40mm)					
アンカーボルト		12-M56					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1200	36-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1030
<中柱用>	1200	28-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1030

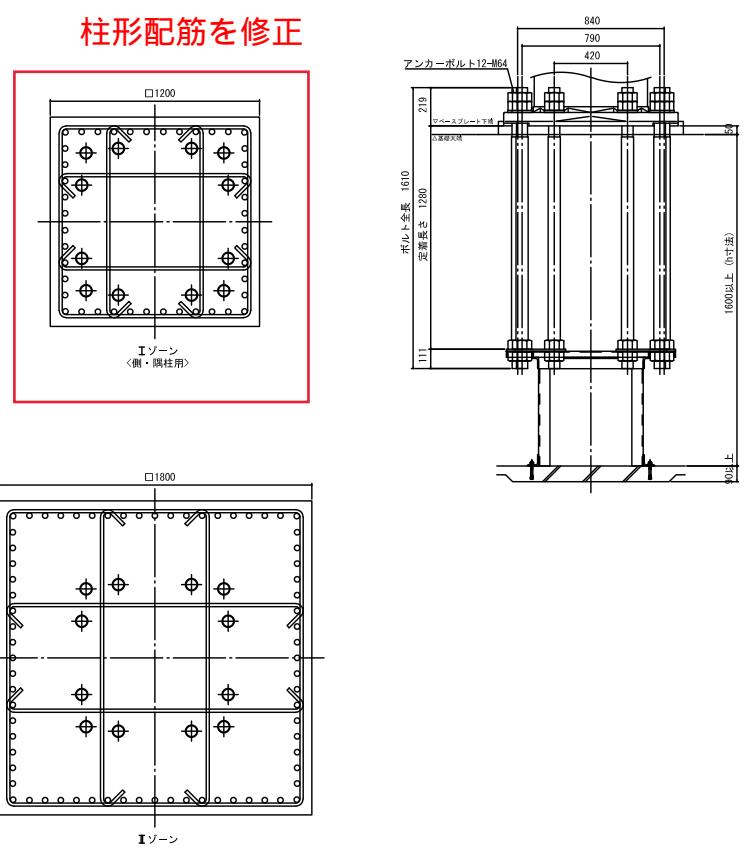
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13H250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

GB650-12-64

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc21の場合)

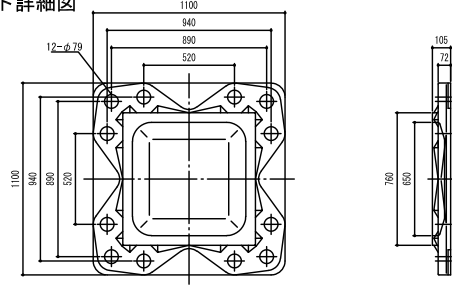


適用柱		角形鋼管柱 □650 (板厚範囲: 12~40mm)					
アンカーボルト		12-M64					
	柱形	Iゾーン		IIゾーン		鉄筋の定着長さ (L)	
		基礎柱形主筋	帯筋	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1200	44-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	D16H80 (SD295)	1190
<中柱用>	1200	36-D29 (SD390)	D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	D16H80 (SD295)	1190

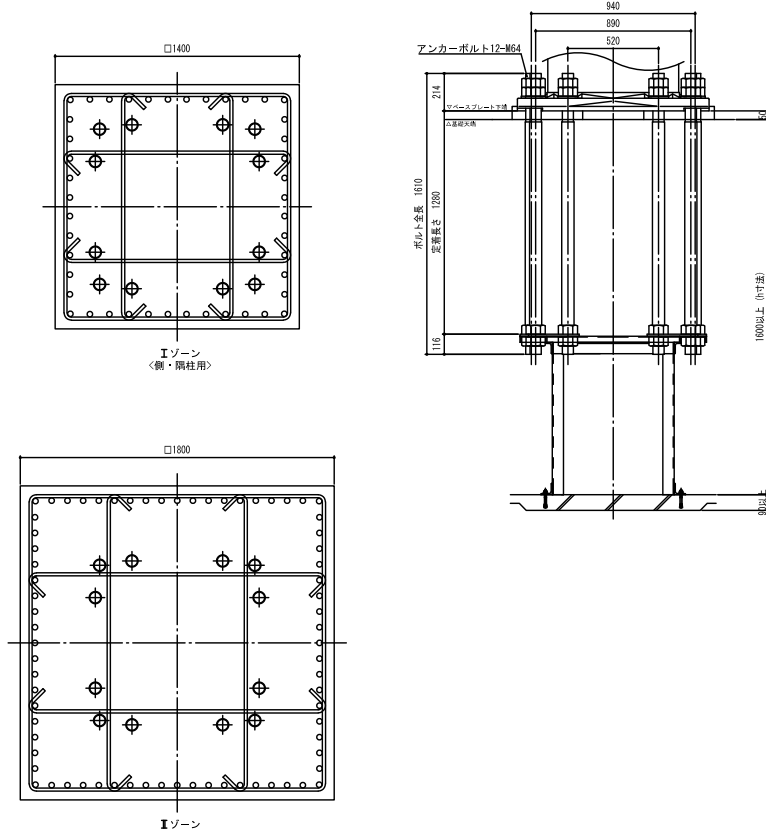
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13H250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

GB750-12-64

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc21の場合)

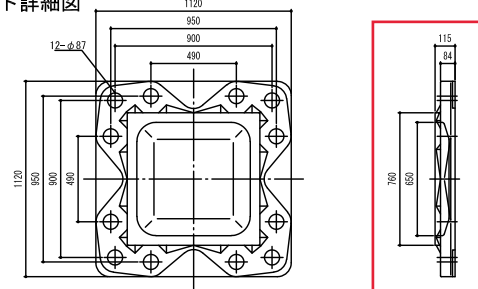


適用柱		角形鋼管柱 □750 (板厚範囲: 16~40mm)				鉄筋の 定着長さ (L _d)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋 帯筋	柱形	基礎柱形主筋 帯筋	
12-M64	<側・隅柱用>	1400	44-D29 (SD390) ■-D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390) ■-D16H80 (SD295)	1190
	<中柱用>	1400	36-D29 (SD390) ■-D16H100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390) ■-D16H80 (SD295)	1190

注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13H250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用兼台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さL_dは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

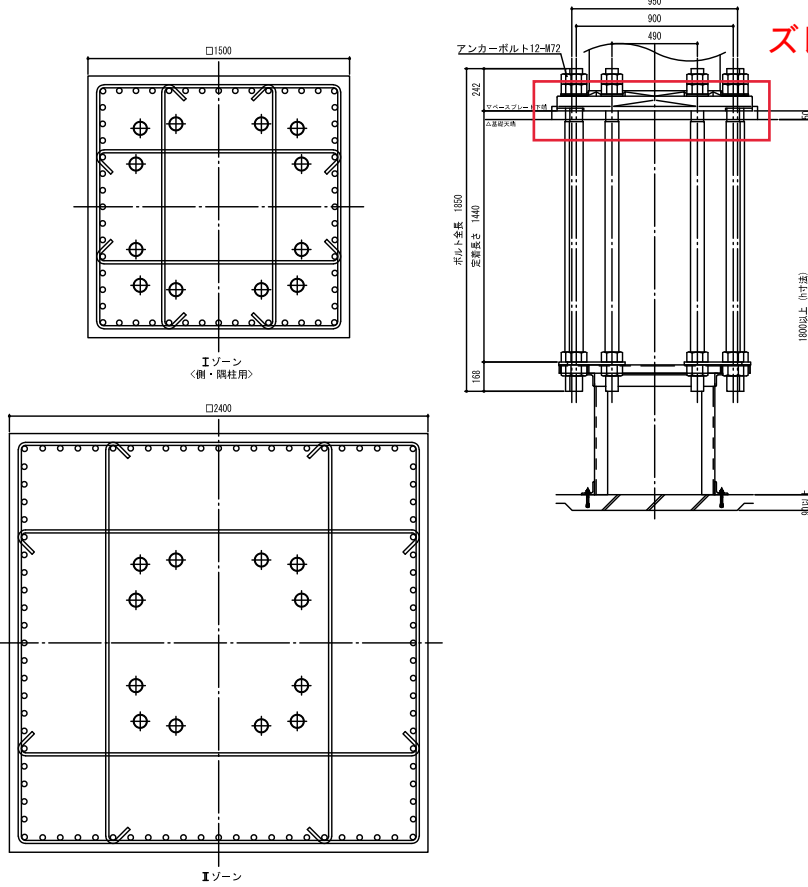
GB750-12-72

ベースプレート詳細図



ズレを修正

柱脚詳細例 (Fc21の場合)



ズレを修正

適用柱		角形鋼管柱 □750 (板厚範囲: 16~40mm)				鉄筋の 定着長さ (L _d)
アンカーボルト		Iゾーン		IIゾーン		
		柱形	基礎柱形主筋 帯筋	柱形	基礎柱形主筋 帯筋	
12-M72	<側・隅柱用>	1500	56-D29 (SD390) ■-D16H100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390) ■-D16H80 (SD295)	1340
	<中柱用>	1500	48-D29 (SD390) ■-D16H100 (SD295)	2400	88-D29 (SD390) ■-D16H80 (SD295)	1340

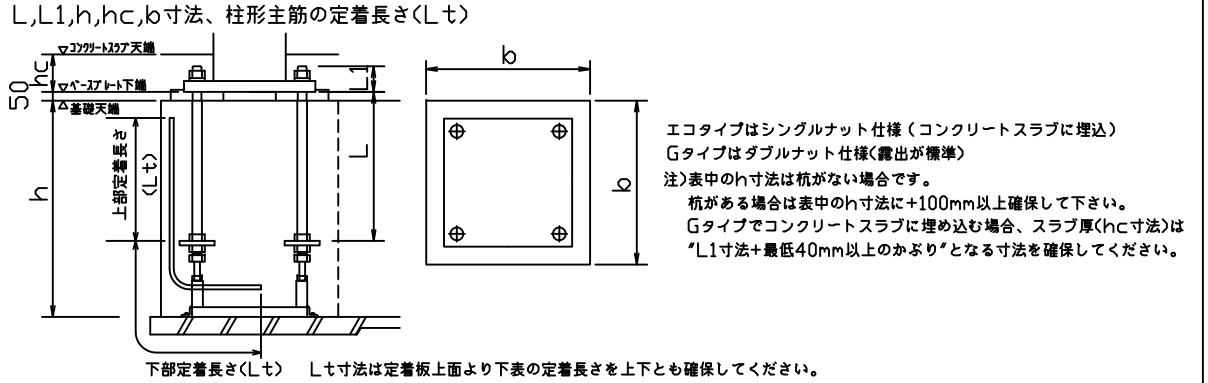
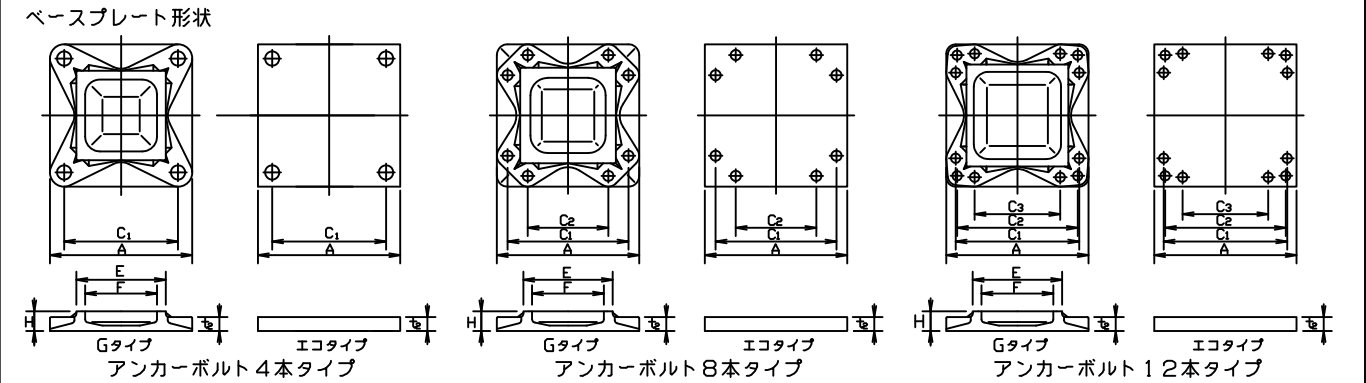
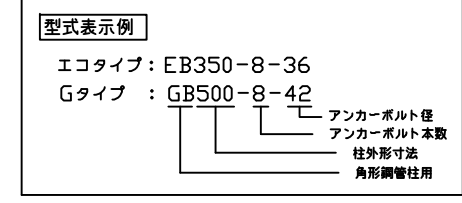
注1) I、IIゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13H250として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用兼台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さL_dは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用口150~口550)

Table with columns for column size, plate thickness, type (Eco/G), dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, L, L1, h, hc, and reinforcement details (I-section, main reinforcement, stirrups, Lt).

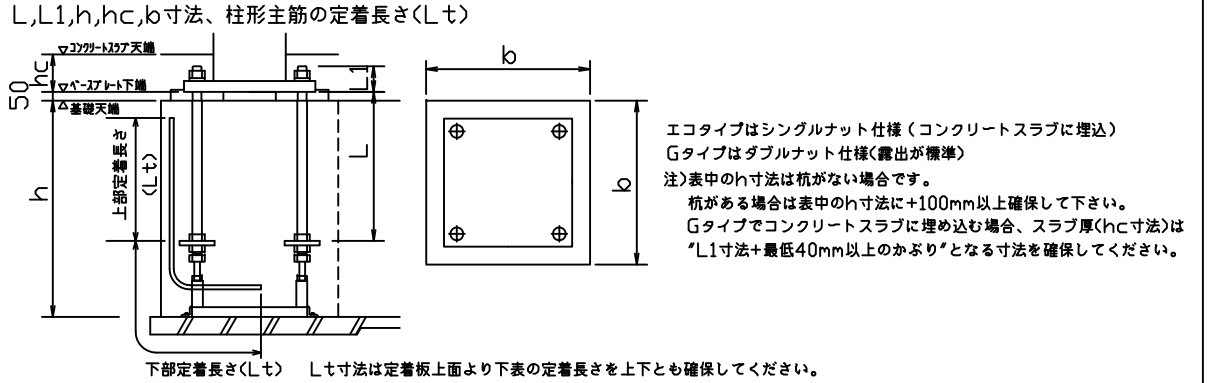
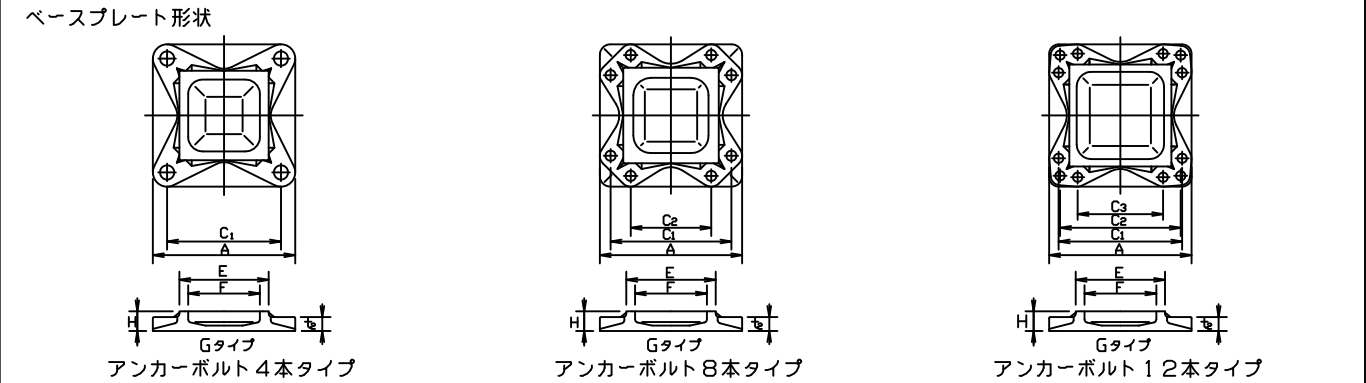
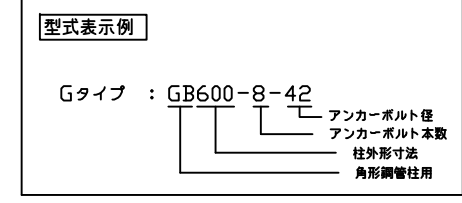
鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。

センクシア株式会社 電話番号変更 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ評価 BCJ評価-ST0058 (Gタイプ) MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用) 600~1200

Table with columns: 採用, 適用柱, ハイベースNEO型式, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), 基礎柱形の設計例 (Fc21) < 側・隅柱用 >, 基礎柱形の設計例 (Fc21) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付けられる場合のみを示す。) >. Includes detailed specifications for various column sizes and types.

柱サイズ850~1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認して下さい。
柱サイズ1050~1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注 1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力図を参照下さい。
注 2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。
注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のある筋をD10@250、D500以上はD13@250として算定しています。
あばら筋断面がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 電話番号変更
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 BCLJ評定
<角形鋼管柱用 150~550> (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用) BCLJ評定

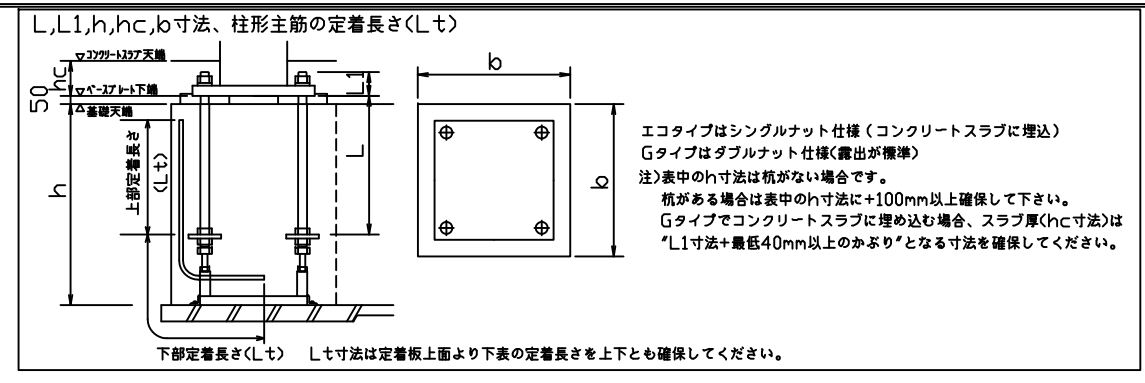
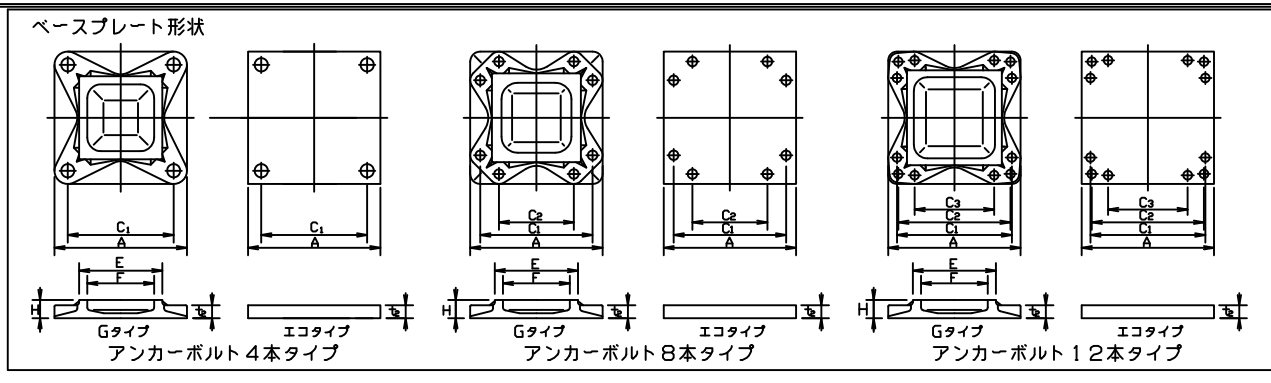
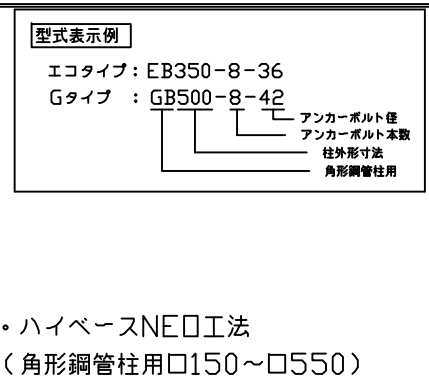


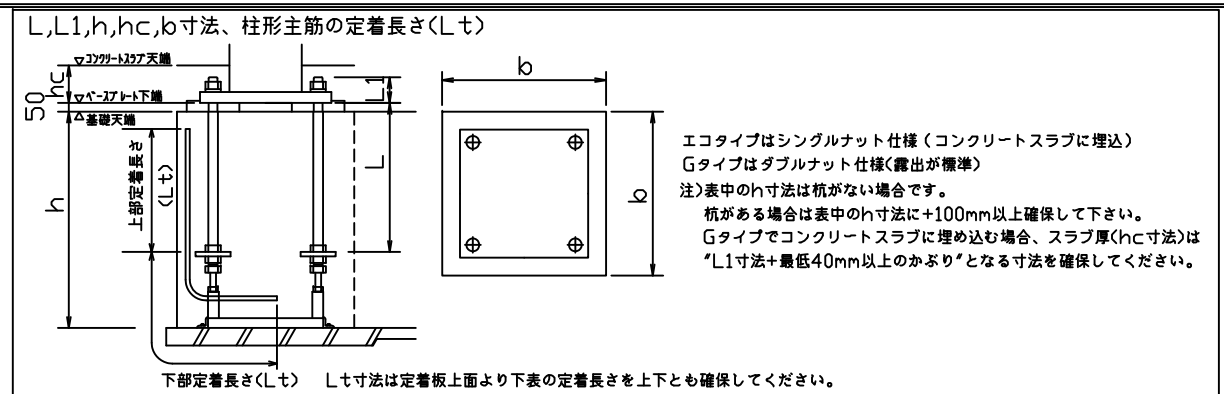
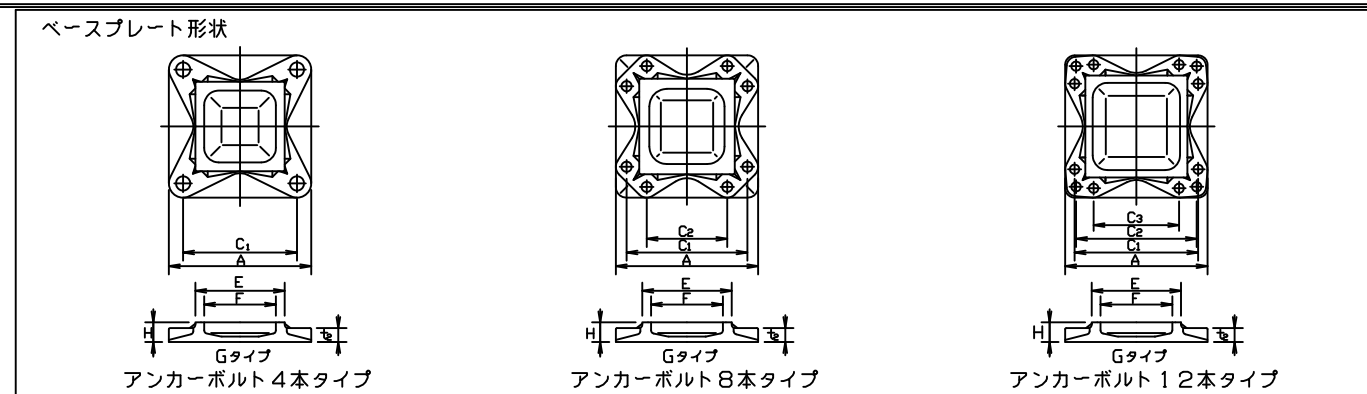
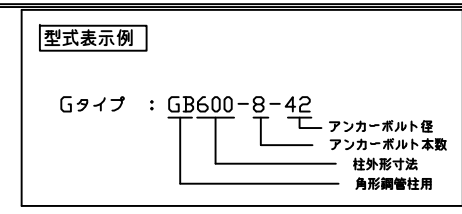
Table with columns: 採用, 適用柱, ハイベースNEO型式, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), 基礎柱形の設計例 (Fc24) <側・隅柱用>, 基礎柱形の設計例 (Fc24) <中柱用>. Includes detailed specifications for various column sizes and reinforcement details.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。
セクシア株式会社 電話番号変更 URL https://www.senqcia.co.jp/
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630

ハイベースNEC工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEC工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEC工法設計ハンドブックに準拠する。



ハイベースNEC工法 (角形鋼管柱用口600~口1200)

Table with columns for column size, plate size, G-type, dimensions (A, C1, C2, C3, E, F, H, t2), weight, L, L1, h, hc, and reinforcement details (I-zone, main reinforcement, stirrups, Lt).

柱サイズ口850~口1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。柱サイズ口1050~口1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。

センクシア株式会社 電話番号変更 URL: https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

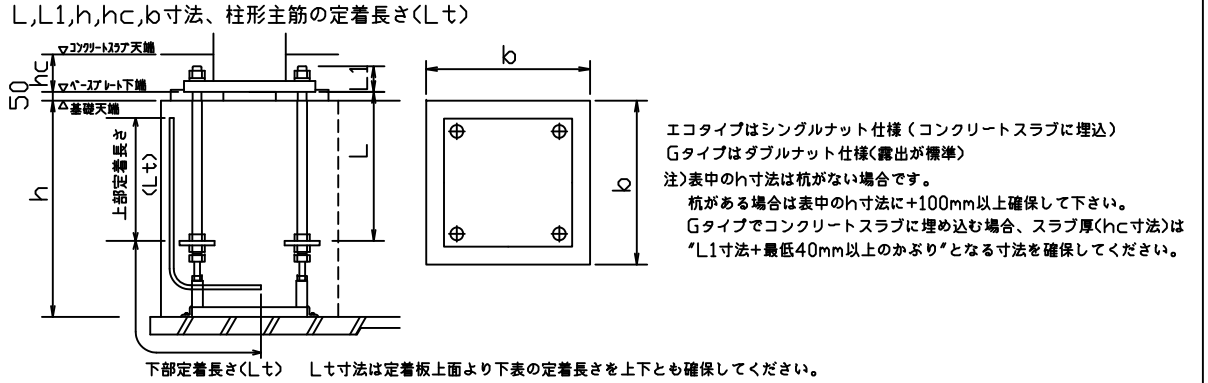
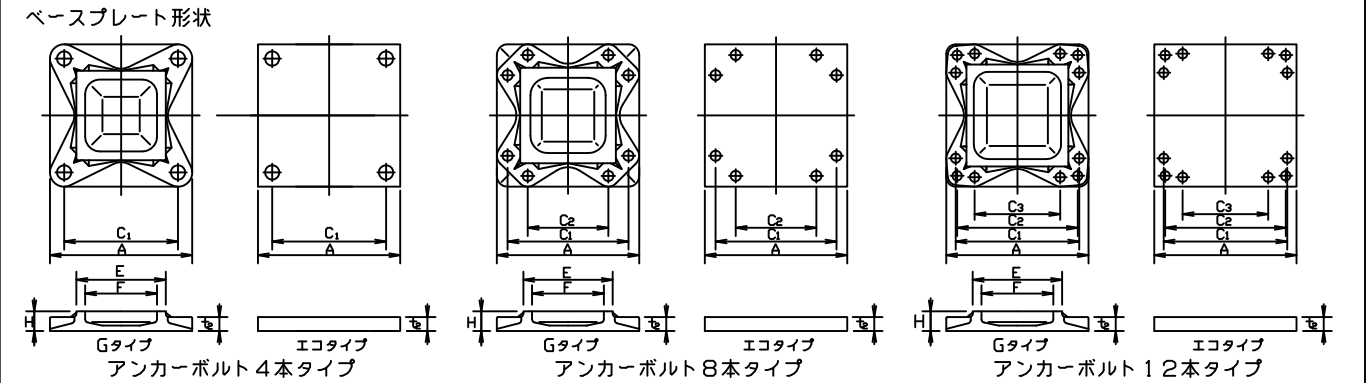
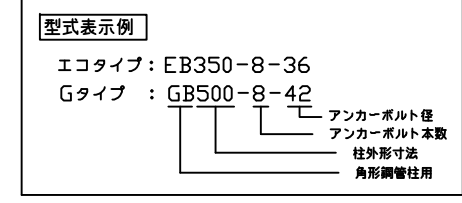
(ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用)

BCJ評定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ハイベースNEO工法 (角形鋼管柱用口150~口550)

Table with columns: 採用, 適用柱, ハイベースNEO型式, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), 基礎柱形の設計例 (Fc27) < 側・隅柱用 >, 基礎柱形の設計例 (Fc27) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。) >. Includes detailed specifications for various column sizes and reinforcement details.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注 1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。
注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のある筋を口450以下はD10@250、口500以上はD13@250として算定しています。
あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

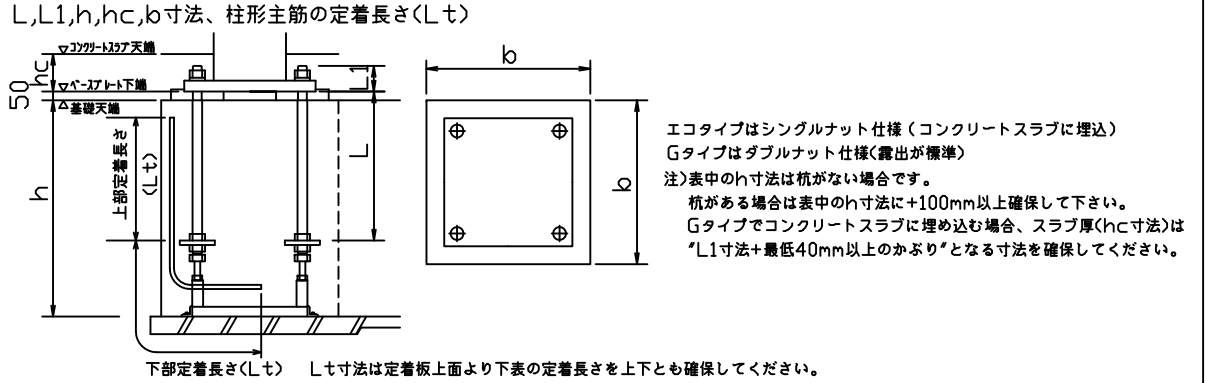
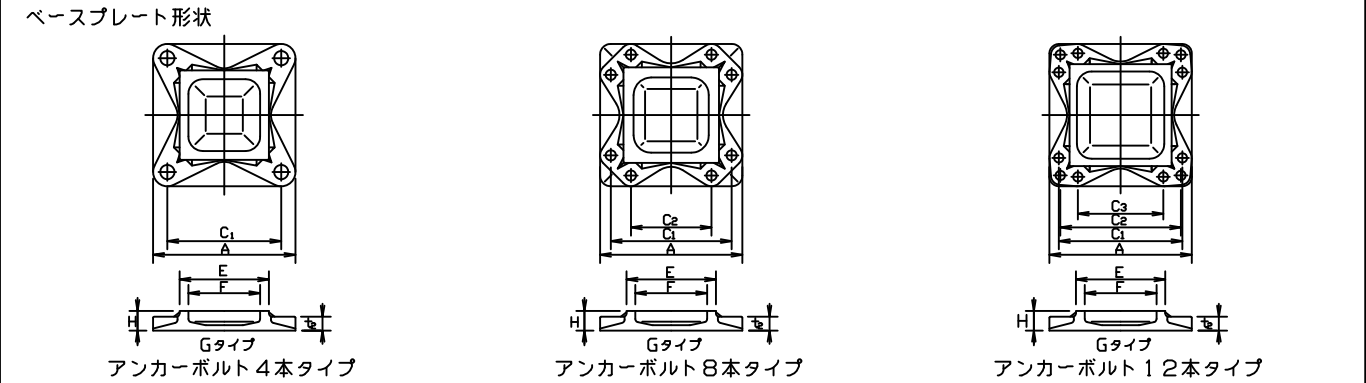
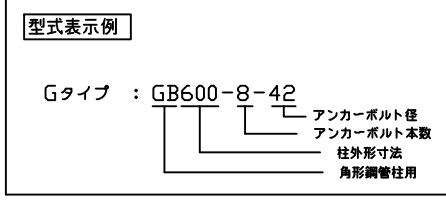
センクシア株式会社 電話番号変更
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEC工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEC工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042~0046(アンカーボルト)

BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEC工法設計ハンドブックに準拠する。



ハイベースNEC工法 (角形鋼管柱用) 600~1200

Table with columns: 採用, 適用柱, ハイベースNEC型式, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), 基礎柱形の設計例 (Fc27) < 側・隅柱用 >, 基礎柱形の設計例 (Fc27) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。) >. Includes detailed specifications for various column sizes and types.

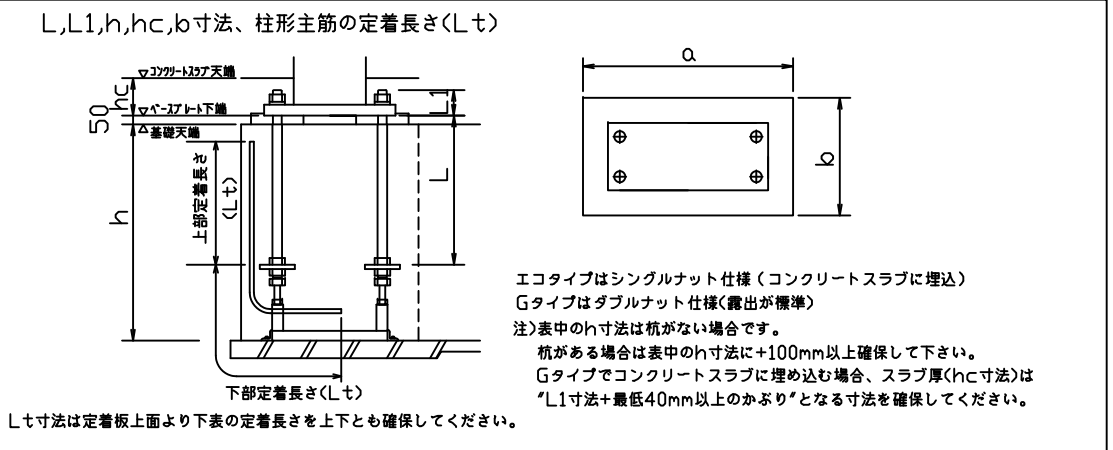
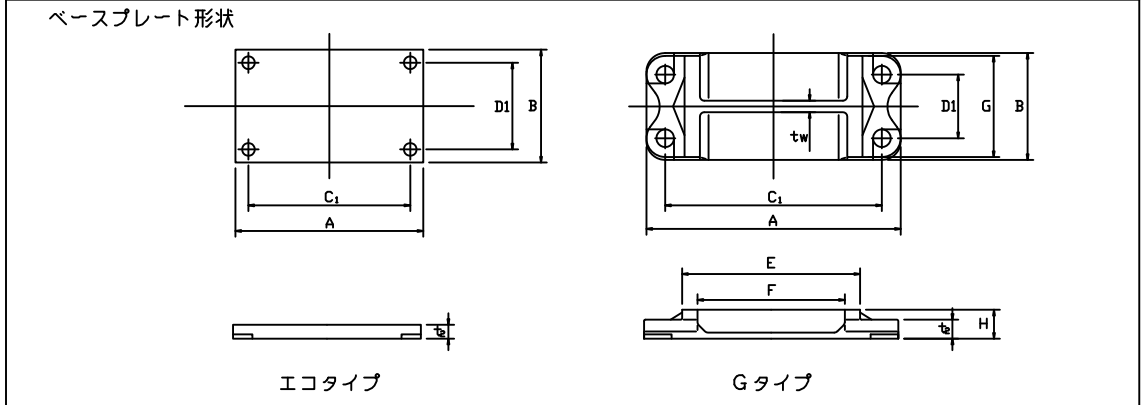
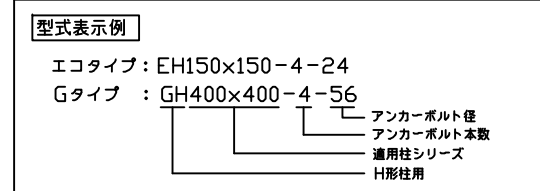
柱サイズ850~1000の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。
柱サイズ1050~1200の基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。 表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注 1) I, IIゾーンの設計についてはハイベースNEC工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。
注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEC工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10@250、D500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面がこれより小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 電話番号変更
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
URL https://www.senqcia.co.jp/

ハイベースNEC工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (H形柱用は全てS造に適用) <H形柱用 H150x150~H900x400

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ) BCJ評定-ST0059(Eコタイプ)
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEC工法設計ハンドブックに準拠する。



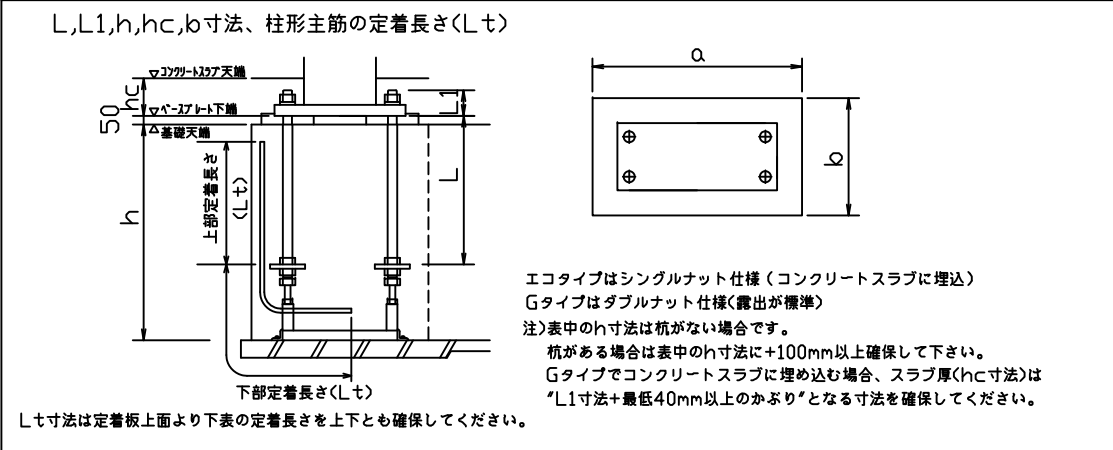
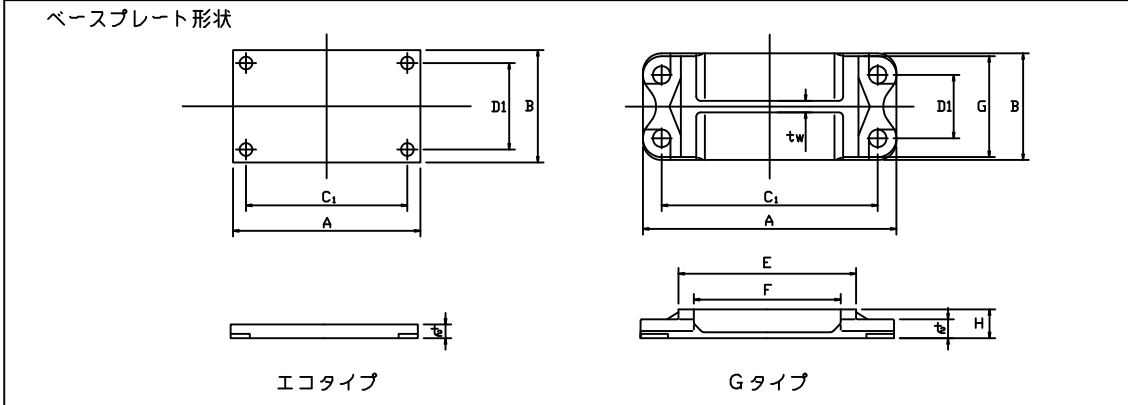
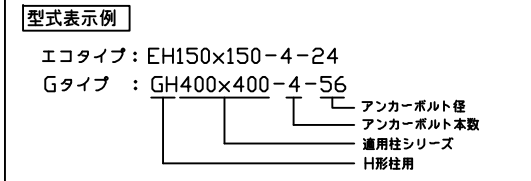
・ハイベースNEC工法 (H形柱用H150x150~H900x400)

Table with columns for column type, dimensions (mm), weight (kg), and reinforcement details. It is divided into sections for '基礎柱形の設計例(Fc21) <側・隅柱用>' and '基礎柱形の設計例(Fc21) <中柱用(4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>'.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I, IIゾーンの区分についてはハイベースNEC工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りがない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEC工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、D10@250算定しています。あばら筋断面量がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社 電話番号変更
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1932 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
URL https://www.senqcia.co.jp/

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEC工法設計ハンドブックに準拠する。



・ハイベースNEC工法 (H形柱用H150x150~H900x400)

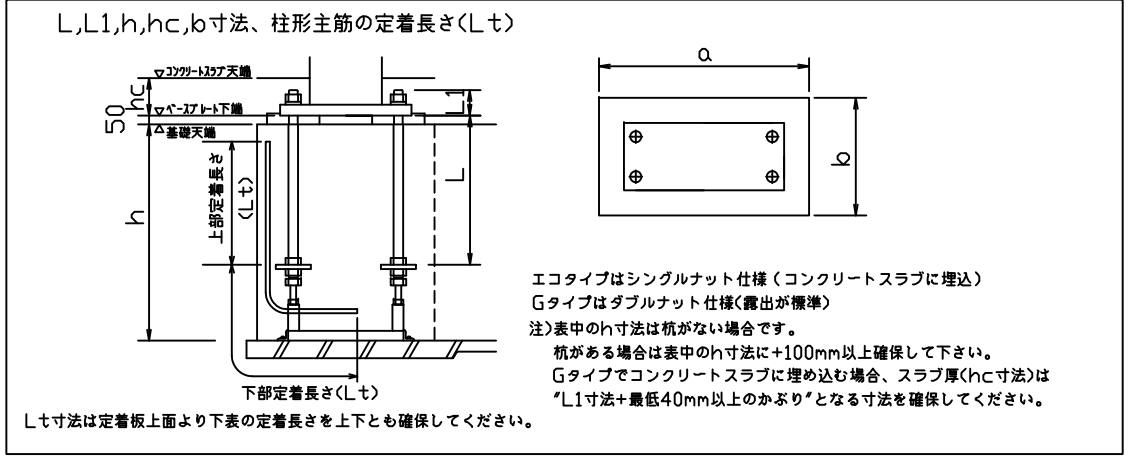
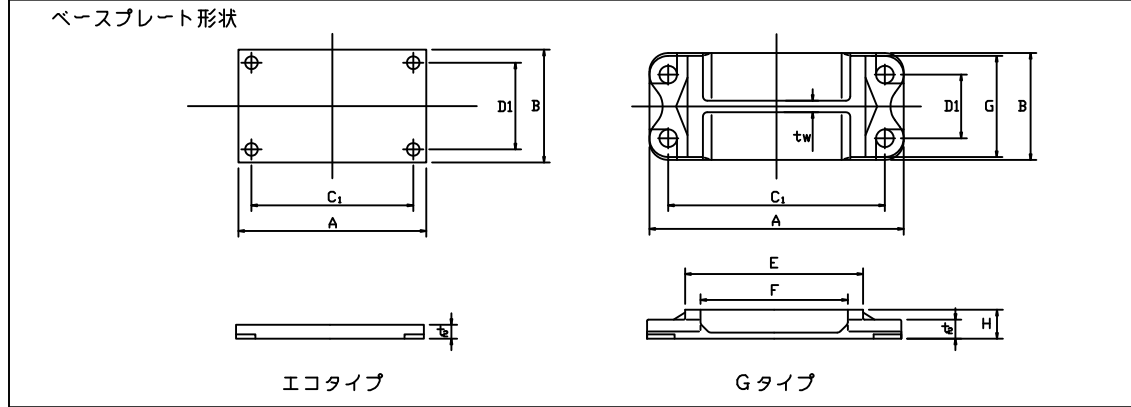
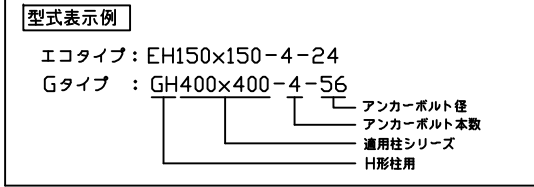
Table with columns for column size, type, dimensions, weight, and reinforcement details. Includes sub-tables for '基礎柱形設計例(Fc24) <側・隅柱用>' and '基礎柱形設計例(Fc24) <中柱用(4方向から基礎梁が取り付けられる場合のみを示す)>'.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアに問い合わせ下さい。

セクシア株式会社 電話番号変更 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (H形柱用は全てS造に適用) <H形柱用 H150x150~H900x400

大臣認定 MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058(Gタイプ) BCJ評定-ST0059(Eコタイプ)
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



・ハイベースNEO工法 (H形柱用H150x150~H900x400)

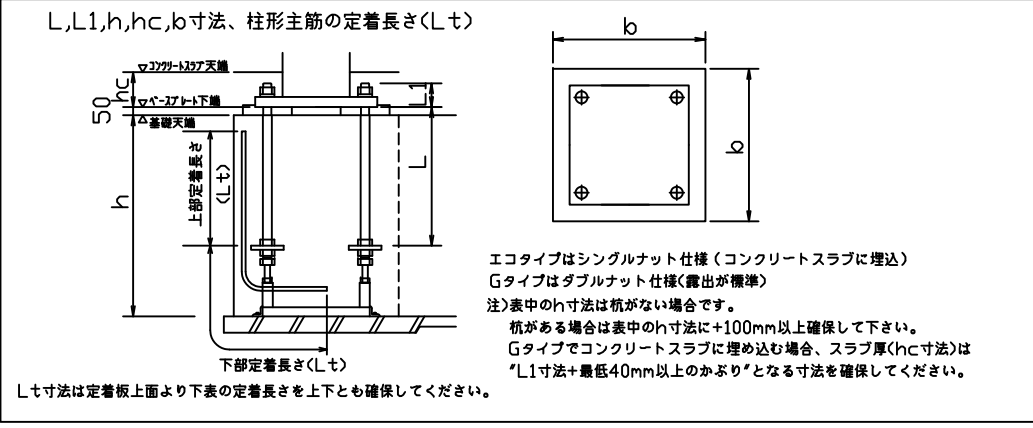
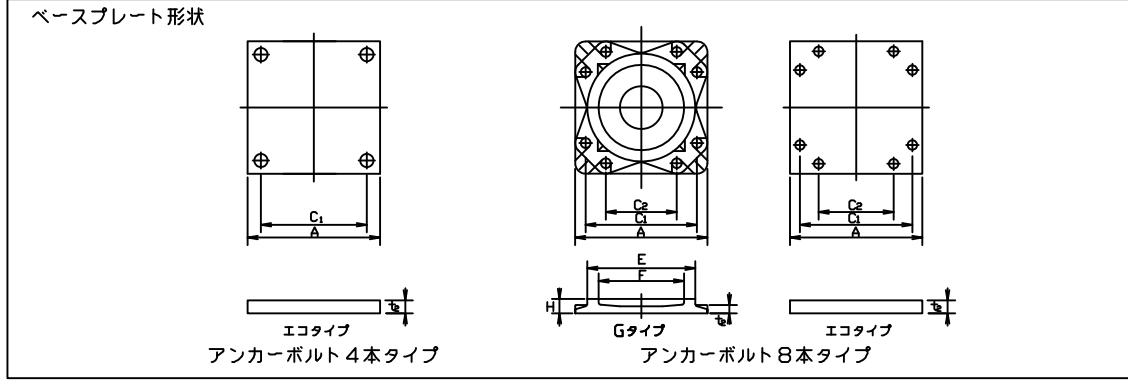
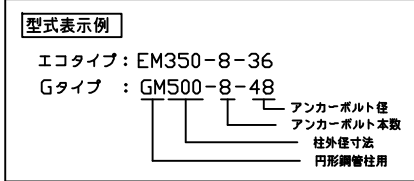
Table with columns for column type, dimensions (mm), weight (kg), and reinforcement details. It includes sub-tables for '基礎柱形の設計例(Fc27) <側・隅柱用>' and '基礎柱形の設計例(Fc27) <中柱用(4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>'.

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。
注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注4) <中柱用>の鉄筋量は、D10@250算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

セクシア株式会社 電話番号変更
URL: https://www.senqcia.co.jp/
本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630

ベースNE〇工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNE〇工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定
 〈円形鋼管柱用 φ190.7~φ1016〉 (ハイベースNE〇工法エコタイプは、S造に適用) BCJ評定

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBL T-0042~0046(アンカーボルト)
 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) 本工法的设计・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNE〇工法設計ハンドブックに準拠する。
 BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)



・ハイベースNE〇工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

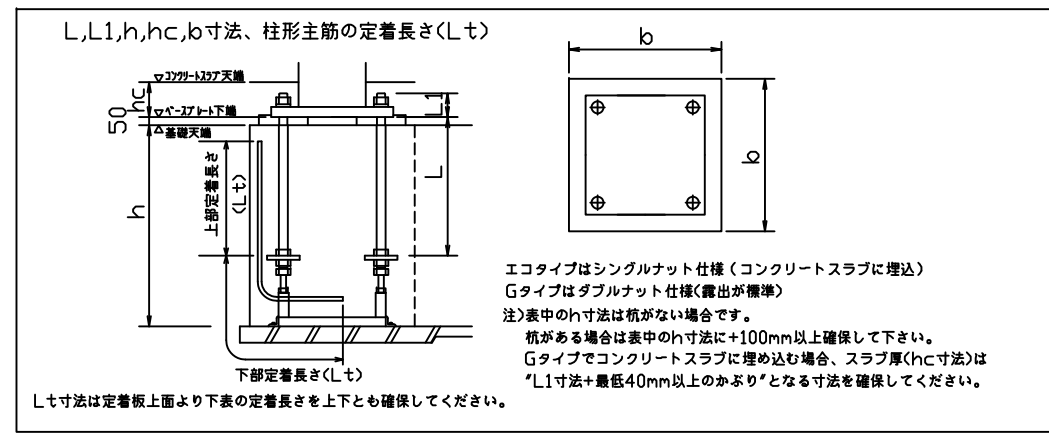
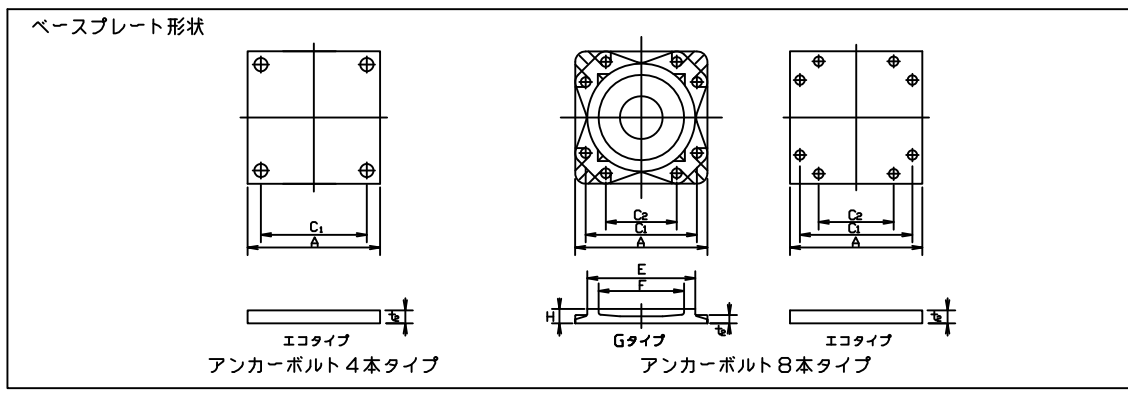
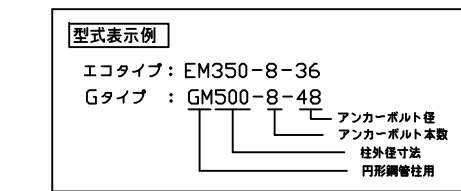
採用	適用柱		ハイベースNE〇型式		アンカーボルト	回転バネ定数 X10^9(N・m/rad)	寸法 (mm)								質量 (kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎柱形の設計例(Fc21) < 割・隅柱用 >				基礎柱形の設計例(Fc21) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>										
							A	C1	C2	E	F	H	t2	ベースプレート	部品	セット質量	h(mm)			hc(mm)	Iゾーン		Iゾーン		鉄筋の定着長さ Lt(mm)	Iゾーン		Iゾーン		鉄筋の定着長さ Lt(mm)				
	φ190.7	8.2	EM190-4-24	4-M24	13.8	290	210	-	-	-	-	32	22	14	36	400	87	600以上	130	500	8-D16	D13E150	500	16-D16	D13E150	210	500	8-D16	D13E150	500	16-D16	D13E150	210	
	φ216.3	12.7	EM216-4-24	4-M24	19.9	310	230	-	-	-	-	32	25	14	39	400	87	600以上	130	520	8-D16	D13E150	520	16-D16	D13E150	210	520	8-D16	D13E150	520	16-D16	D13E150	210	
	φ267.4	16	EM250-4-24	4-M24	28.4	370	290	-	-	-	-	32	35	14	49	400	87	600以上	130	570	8-D16	D13E150	570	16-D16	D13E150	200	570	8-D16	D13E150	570	16-D16	D13E150	200	
	φ300	16	EM300-4	4-M24	38.3	420	340	-	-	-	-	32	45	15	60	400	87	600以上	130	620	8-D19	D13E150	620	12-D19	D13E150	200	620	8-D19	D13E150	620	12-D19	D13E150	200	
	φ318.5			4-M30	61.0	430	340	-	-	-	-	40	59	23	82	400	110	600以上	150	620	12-D19	D13E150	620	16-D19	D13E150	290	620	12-D19	D13E150	620	16-D19	D13E150	290	
	φ350	19	EM350-4-30	4-M30	65.1	420	330	-	-	-	-	32	45	23	68	400	102	600以上	150	620	12-D19	D13E150	620	16-D19	D13E150	290	620	12-D19	D13E150	620	16-D19	D13E150	290	
	φ355.6			8-M30	86.3	500	410	240	-	-	-	40	79	50	129	600	110	800以上	150	700	16-D22	D13E150	700	20-D22	D13E150	510	700	16-D22	D13E150	700	20-D22	D13E150	510	
	φ400	22	EM400-8	8-M30	119	540	450	280	-	-	-	40	92	51	143	600	110	800以上	150	740	16-D22	D13E150	740	20-D22	D13E150	490	740	12-D22	D13E150	740	20-D22	D13E150	490	
				8-M36	148	560	470	270	-	-	-	48	119	81	200	720	125	900以上	170	770	16-D25	D13E150	800	24-D25	D13E100	570	770	12-D25	D13E150	800	24-D25	D13E100	570	
				8-M42	194	610	500	280	-	-	-	60	176	127	303	840	150	1100以上	190	810	20-D25	D13E100	850	32-D25	D13E100	730	810	20-D25	D13E100	850	32-D25	D13E100	730	
	φ450	22	EM450-8	8-M30	146	580	490	320	-	-	-	40	106	51	157	600	110	800以上	150	780	16-D22	D13E150	780	20-D22	D13E150	480	780	12-D22	D13E150	780	20-D22	D13E150	480	
				8-M36	182	600	510	310	-	-	-	48	136	81	217	720	125	900以上	170	810	16-D25	D13E100	810	24-D25	D13E100	570	810	12-D25	D13E100	810	24-D25	D13E100	570	
				8-M42	249	650	540	320	-	-	-	60	199	127	326	840	150	1100以上	190	850	20-D25	D13E100	850	32-D25	D13E100	730	850	16-D25	D13E100	850	32-D25	D13E100	730	
	φ500	25	EM500-8	8-M36	231	640	550	350	-	-	-	48	155	82	237	720	125	900以上	170	850	16-D25	D13E100	850	24-D25	D13E100	550	850	12-D25	D13E100	850	24-D25	D13E100	550	
				8-M42	301	700	590	370	-	-	-	60	231	128	359	840	150	1100以上	190	900	20-D25	D13E100	900	32-D25	D13E100	710	900	20-D25	D13E100	900	32-D25	D13E100	710	
				GM500-8	-48	8-M48	405	710	580	330	518	390	90	57	229	207	436	960	164	1200以上	-	950	24-D25	D16E100	950	40-D25	D16E100	770	950	20-D25	D16E100	950	40-D25	D16E100
	φ550	25	EM550-8	8-M56	470	740	600	320	-	-	-	69	282	308	590	1120	192	1350以上	-	950	32-D25	D16E100	1100	52-D25	D16E100	990	950	28-D25	D16E100	1100	52-D25	D16E100	990	
				8-M36	269	680	590	320	-	-	-	48	175	82	257	720	125	900以上	170	900	20-D25	D13E100	900	24-D25	D13E100	540	900	16-D25	D13E100	900	24-D25	D13E100	540	
				8-M42	350	740	630	410	-	-	-	60	258	128	386	840	150	1100以上	190	950	20-D25	D13E100	950	32-D25	D13E100	700	950	20-D25	D13E100	950	32-D25	D13E100	700	
	φ600	40	GM600-8	8-M48	468	740	610	360	568	430	85	54	244	208	452	960	161	1200以上	-	950	28-D25	D16E100	950	40-D25	D16E100	770	950	24-D25	D16E100	950	40-D25	D16E100	770	
				8-M56	543	770	630	350	-	-	-	100	65	301	310	611	1120	188	1350以上	-	1000	32-D25	D16E100	1100	52-D25	D16E100	990	1000	28-D25	D16E100	1100	52-D25	D16E100	990
				8-M36	421	700	610	410	-	-	-	70	36	192	85	277	720	116	900以上	-	950	20-D25	D16E100	950	24-D25	D16E100	470	950	16-D25	D16E100	950	24-D25	D16E100	470
	φ650	40	GM650-8	8-M48	563	780	650	400	620	480	85	52	273	210	483	960	159	1200以上	-	1000	28-D25	D16E100	1000	40-D25	D16E100	760	1000	24-D25	D16E100	1000	40-D25	D16E100	760	
				8-M64	747	850	690	390	-	-	-	110	75	408	449	857	1280	217	1600以上	-	1100	32-D29	D16E100	1150	48-D29	D16E80	1180	1100	28-D29	D16E100	1150	48-D29	D16E80	1180
				8-M48	661	820	690	440	670	530	90	52	316	211	527	960	159	1200以上	-	1050	28-D25	D16E100	1050	40-D25	D16E100	750	1050	24-D25	D16E100	1050	40-D25	D16E100	750	
	φ700	40	GM700-8	8-M64	846	880	720	420	-	-	110	71	432	451	883	1280	213	1600以上	-	1100	32-D29	D16E100	1150	48-D29	D16E80	1180	1100	28-D29	D16E100	1150	48-D29	D16E80	1180	
				8-M48	750	850	720	470	720	570	80	48	330	212	542	960	155	1200以上	-	1050	32-D25	D16E100	1050	40-D25	D16E100	750	1050	28-D25	D16E100	1050	40-D25	D16E100	750	
				8-M64	958	920	760	460	-	-	-	105	70	471	453	924	1280	212	1600以上	-	1150	32-D29	D16E100	1150	48-D29	D16E80	1180	1150	28-D29	D16E100	1150	48-D29	D16E80	1180
	φ750	40	GM750-8	8-M48	865	890	760	510	770	620	85	48	381	214	595	960	155	1300以上	-	1100	24-D29	D16E100	1100	28-D29	D16E100	770	1100	20-D29	D16E100	1100	28-D29	D16E100	770	
				8-M64	1100	960	800	500	-	-	-	110	69	527	455	982	1280	211	1600以上	-	1200	32-D29	D16E100	1200	48-D29	D16E80	1170	1200	28-D29	D16E100	1200	48-D29	D16E80	1170
				8-M48	961	920	790	540	820	660	90	45	426	215	641	960	152	1300以上	-	1150	24-D29	D16E100	1150	28-D29	D16E100	760	1150	20-D29	D16E100	1150	28-D29	D16E100	760	
	φ800	40	GM800-8	8-M64	1240	990	830	530	-	-	100	66	550	456	1006	1280	208	1600以上	-	1200	32-D29	D16E100	1200	48-D29	D16E80	1170	1200	28-D29	D16E100	1200	48-D29	D16E80	1170	
				8-M48	961	920	790	540	-	-	-	100	66	550	456	1006	1280	208	1600以上	-	1200	32-D29	D16E100	1200	48-D29	D16E80	1170	1200	28-D29	D16E100	1200	48-D29	D16E80	1170
				GM850-8-64	8-M64	1410	1030	870	570	870	710	105	65	616	459	1075	1280	207	1600以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	φ900	40	GM900-8-64	8-M64	1660	1100	940	640	920	760	105	70	734	462	1196	1280	212	1600以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	φ950	40	GM950-8-64	8-M64	1750	1100	940	640	970	810	105	61	735	462	1197	1280	203	1600以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	φ1000	40	GM1000-8-64	8-M64	1970	1140	980	680	1030	870	110	59	827	465	1292	1280	201	1600以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

柱サイズφ850~φ1016の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。
 注 1) I, Iゾーン分けについてはハイベースNE〇工法設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。
 注 2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<割・隅柱用>を参照下さい。
 注 3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎頂天端と基礎柱形天端が一設する場合)の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNE〇工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注 4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあはら筋をφ406.4以下はD10E250、φ450以上はD13E250として算定しています。あはら筋断面量がこれよりも小さくなる場合は<割・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注 5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

セクシア株式会社 電話番号変更 URL <https://www.senqcia.co.jp/>
 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133
 東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 MSLT-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定 ST0058 (Gタイプ) ST0059 (Eタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS5鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



・ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for column size, height, base plate type, dimensions (A, C1, C2, E, F, H, t2), weight (kg), L (mm), L1 (mm), h (mm), hc (mm), and reinforcement details (I-section, column size, main reinforcement, stirrups, embedding length Lt).

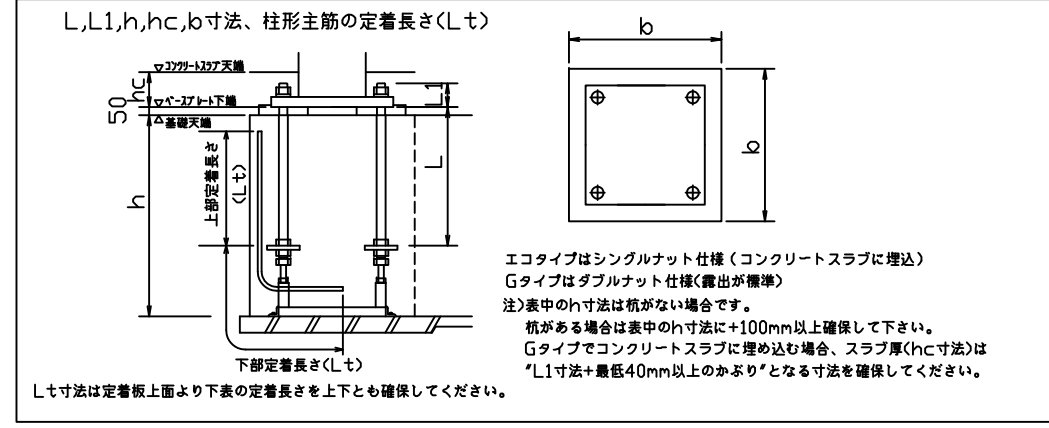
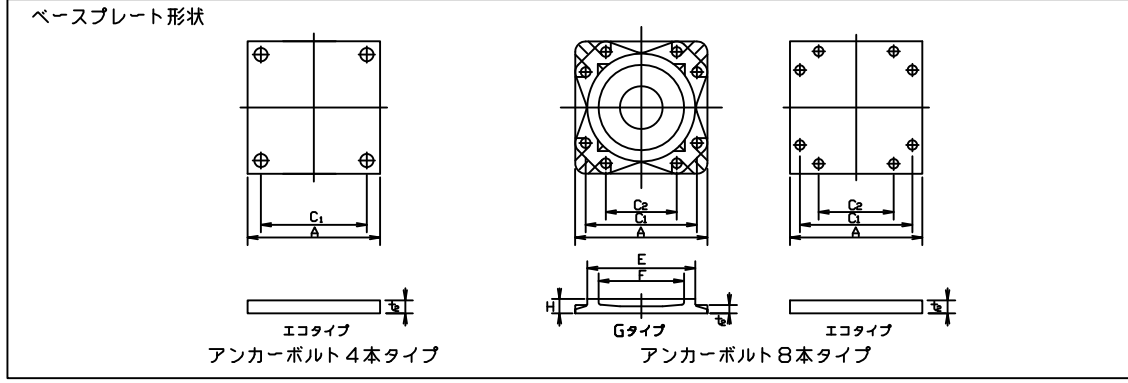
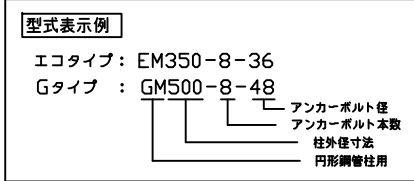
柱サイズφ850~φ1016の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。注1) I, IIゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。注2) 上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。注3) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎埋込天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。注4) (中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

セクシア株式会社 電話番号変更 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133 東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc27の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用) 大臣認定 (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用)

MSTL-0404,0180(Gタイプ用ベースプレート) MBLT-0042~0046(アンカーボルト) BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) BCJ評定-ST0059 (エコタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。



ハイベースNEO工法 (円形鋼管柱用φ190.7~φ1016)

Table with columns for 採用, 適用柱, ハイベースNEO型式, 寸法 (mm), 質量 (kg), L (mm), L1 (mm), 基礎柱形の設計例(Fc27) < 側・隅柱用 >, 基礎柱形の設計例(Fc27) < 中柱用 >. Includes a note box: 柱サイズφ850~φ1016の基礎柱形の設計例は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セクシアにお問い合わせ下さい。注1) I,Iソーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力確認を参照下さい。注2) 上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付けられた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。注3) 表中の鉄筋量は基礎立上がりがない場合(基礎埋込型と基礎柱形天端が一設する場合)の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに準じ、日本建築学会等の標準・指針に準拠した設計を行って下さい。注4) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をφ406.4以下はD10@250、φ450以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。注5) 部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

セクシア株式会社 電話番号変更 URL https://www.senqcia.co.jp/ 本社 TEL 03-4214-1932 関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133 東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630

スーパーハイベース工法設計施工標準

(本工法は、S造およびCFT構造に適用)

2019/6

大臣認定 MSTL-0180 (ハイベース)
 MBLT-0042~0046 (アンカーボルト)
 BCJ評定 BCJ評定-ST0058

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書・JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
 附解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法・スーパーハイベース工法設計施工標準に準拠する。

設計

1. 材質

(1) ハイベース・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ハイベース	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106 #2	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	腐食比 70%以下	※3 鋼線鉄(ナット)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042-0046) ※3 M72は鋼線鉄

(2) ハイベース下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3

中心塗り部分モルタル
 ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可)
 ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

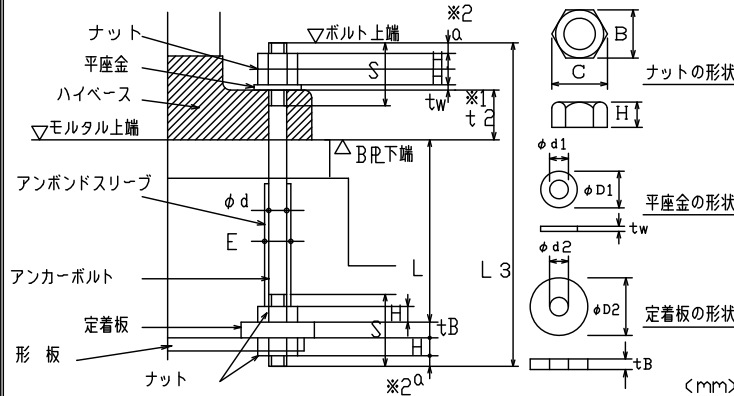
(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート。 ○設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$ 以上
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ハイベース外形寸法の0.065倍(0.1倍)以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

【注意】ボルト本数はハイベースの型式によって異なります。

型式	C1・S1	S2・M2・L2・X2・WX2	S3・M3・L3
ボルト本数	4	8	12
形状例			

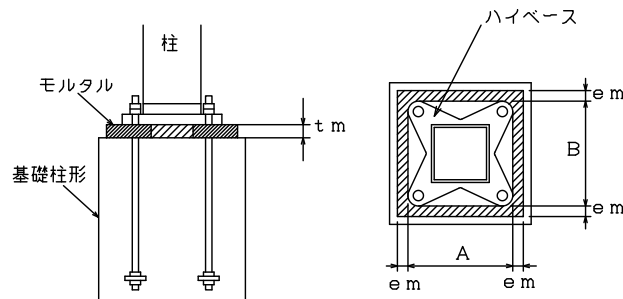


ねじの呼び	アンカーボルト			アンボンドスリーブ	ナット(一種)			平座金		定着板					
	軸径	長さ	余長		外径	高さ	対角距離	厚	内径	外径	厚	内径	外径		
φd	P	S1	a	L	L3	E	H	B	C	tw	φd1	φD1	tB	φd2	φD2
M24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44	16	27	70
M30	35	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56	16	33	90
M36	4	150(130)	16	720	955(925)	41	29	55	64	6	37	66	19	39	100
M42	45	165(155)	18	840	1100(1080)	48	34	65	75	9	43	78	22	45	120
M48	5	190(175)	22	960	1270(1235)	54	38	75	87	9	50	92	25	52	140
M56	55	210(185)	24	1120	1470(1420)	62	45	85	98	9	58	105	28	60	160
M64	6	230(200)	28	1280	1660(1610)	70	51	95	110	12	66	115	32	68	180
M72	72	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125	36	76	200

※1 t2 はハイベース台座厚さを示し、ハイベース型 式によって変わります。
 ※2 a 寸法は、ハイベース台座の厚さによって多少変動しますが、本数値以上確保下さい。
 ※3 () 内は、BC型の数値を示します。

【注意】アンカーボルトは二重ナットを標準としています。一重ナットでも通用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置をお願いします。
 ・一重ナットとする場合は、センクシアにご相談下さい。

3. 基礎柱形部の標準納まり



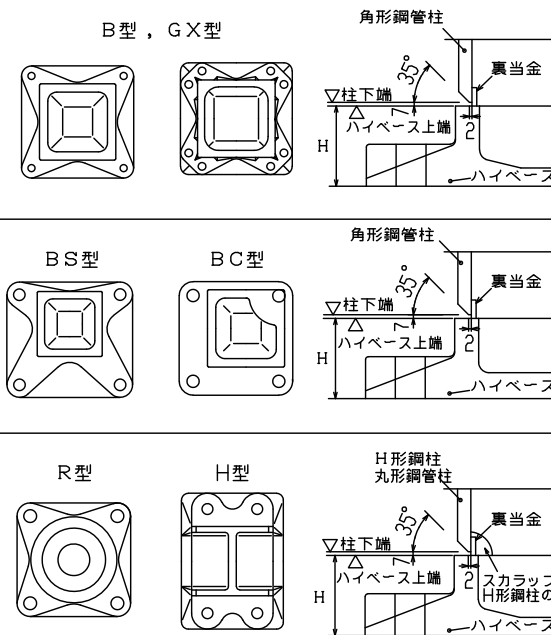
各部名称	寸法制限	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ(t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅(e)	e ≥ 30mm	許容範囲 e ≥ 25mm

工場加工

1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系490N/mm ² 級高強度鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm ² 級高強度鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上

※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。
 2. ハイベースの鉄骨柱への取付け(柱端部に開先を設ける。)
 ※柱とハイベースの溶接は、完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる



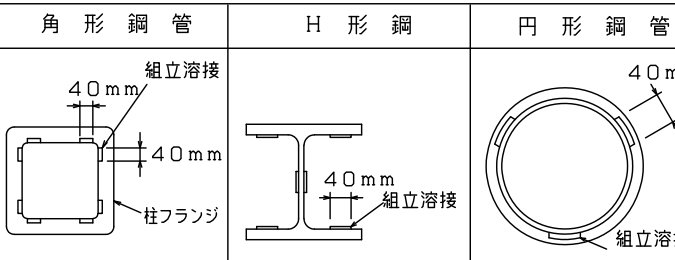
H形鋼柱用

H形鋼柱用

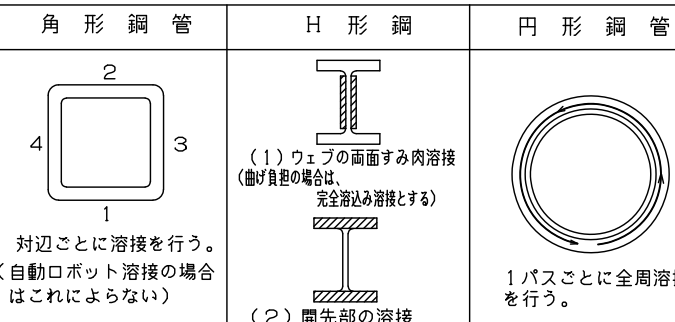
H形鋼柱用

H形鋼柱用

3. 組立溶接

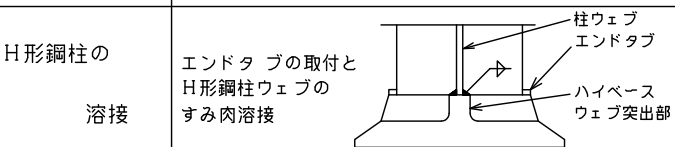
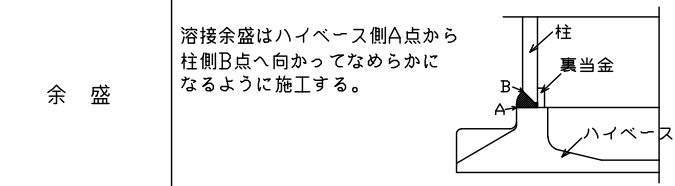


4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

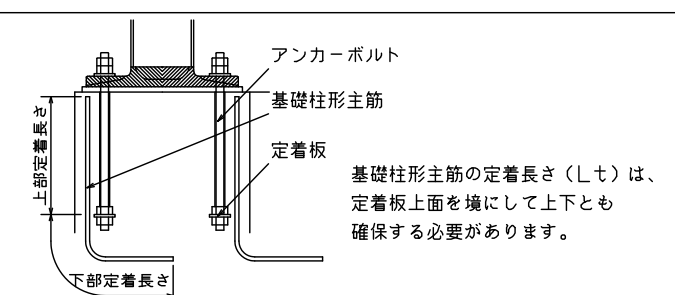


6. 検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査によってよい。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

基礎柱形の設計

1. 基礎柱形主筋の定着長さ



URL <https://www.senqcia.co.jp/>

センクシア株式会社

東京	TEL 03-4214-1932	中国国	TEL 082-240-1630
札幌	TEL 011-708-1177	九州	TEL 092-452-0341
東北	TEL 022-213-5595		
関東	TEL 027-322-9411		
横浜	TEL 03-4214-1945		
中部	TEL 052-582-3356		
北陸	TEL 076-233-5260		
関西	TEL 06-6395-2133		

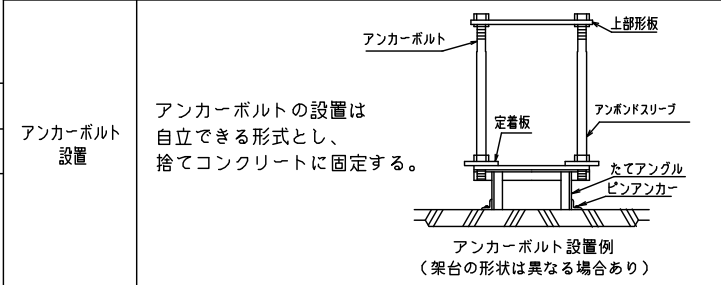
電話番号変更

【注意】アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、アンカーボルトの締付け、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務づけられています。)
 2. 本資料以外の施工方法で行った場合、スーパーハイベースの性能が発揮できなくなります。

現場施工

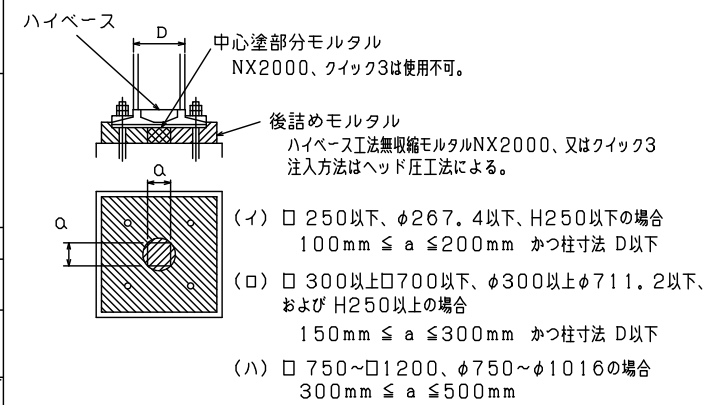
(#): センクシアの担当範囲

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入(#)
- アンカーボルト据付(#)



アンカーボルト設置精度の目標値	平面	レベル
		基準高さよりの誤差 eh $-3mm \leq eh \leq 10mm$

- 鉄筋配筋・型枠の立込み
- 基礎コンクリート打設
- 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方

- モルタル注入枠設置(#)
- 後詰めモルタル充填(#)
- アンカーボルト締付(#)

準備締め → マーキング → ナット回転法による本締め
 (30°回転、許容差: +10°/-0°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

大臣認定 MSTL-0404,0180 (Gタイプ用ベースプレート)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (Eコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
解説書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベスNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質
(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
Eコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)

Table with columns: ベースプレート, アンカーボルト, エコナット, ナット, 座金, 定着板. Rows: 規格, ねじの種類, 備考.

Table with columns: ベースプレート, アンカーボルト, ナット, 座金, 定着板. Rows: 規格, ねじの種類, 備考.

(2) ベースプレート下面のモルタル
ハイベス工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。)

(3) 基礎・基礎ばり
コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

2. アンカーボルトのセット寸法
Eコタイプ用アンカーボルト部品

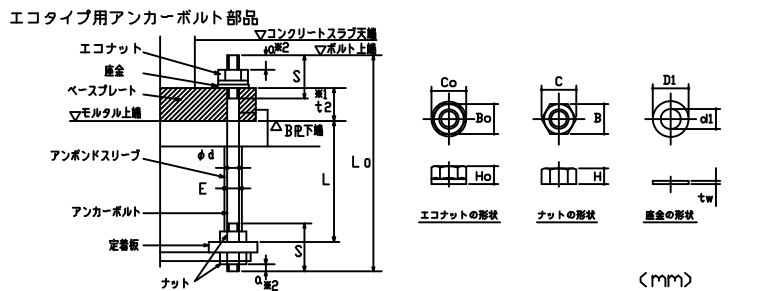


Table with columns: アンカーボルト, アンボンドスリプ, エコナット, ナット, 座金. Rows: ねじの呼び, 規格, 備考.

注意
Eコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、
ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。

センクシア株式会社
本社 TEL 03-3615-5432
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

Gタイプ用アンカーボルト部品
ナット, ベースプレート, アンボンドスリプ, アンカーボルト, 定着板

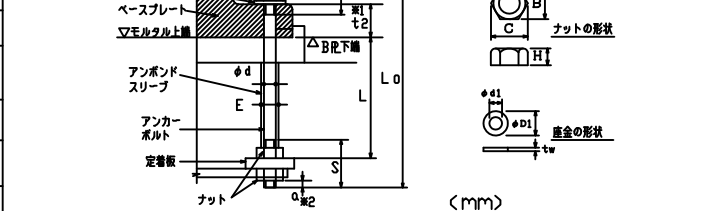
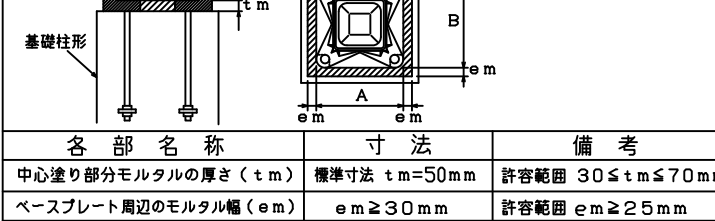


Table with columns: アンカーボルト, アンボンドスリプ, ナット, 座金. Rows: ねじの呼び, 規格, 備考.

Table with columns: ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm). Rows: ねじの呼び, エコタイプ孔径, Gタイプ孔径.

Table with columns: 定着板 (Eコタイプ, Gタイプ共通). Rows: ねじの呼び, 規格, 備考.

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法
モルタル, 柱, ベースプレート

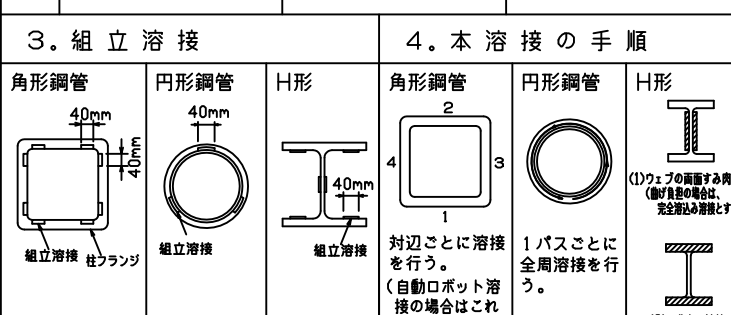
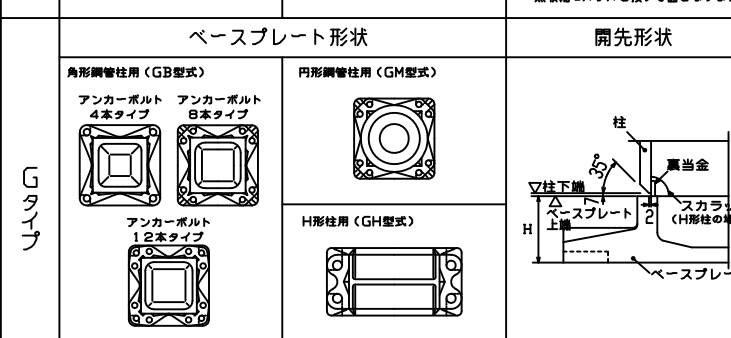
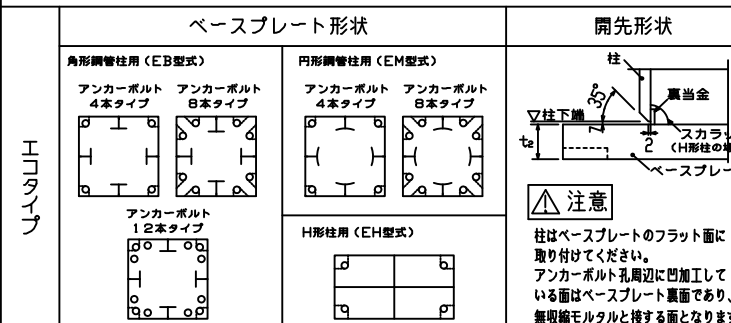


4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)
基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、
定着板上面を境にして上下とも
確保する必要があります。

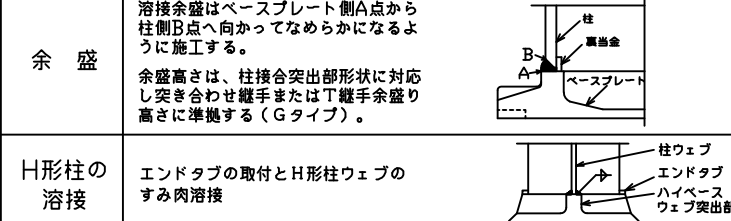
URL https://www.senqcia.co.jp/
北陸 TEL 076-233-5260
関西 TEL 06-6395-2133
中四国 TEL 082-240-1630

工場加工

1. 溶接材料 溶接材料の規定の修正
被覆アーク溶接 低水素系490N/mm2 級高強度鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び490N/mm2 級高強度鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上



5. 溶接施工一般
予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。

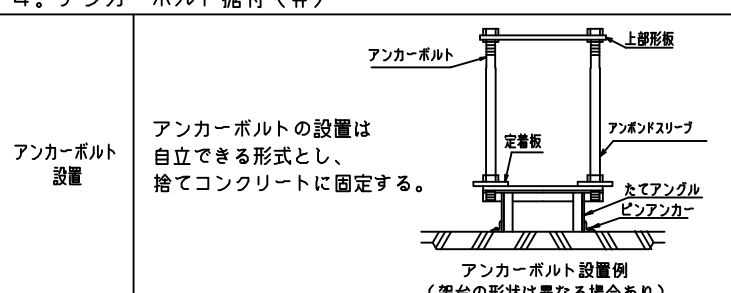


6. 検査
方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。

注意
アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。

現場施工

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
2. 墨出し
3. アンカーボルト搬入 (#)
4. アンカーボルト据付 (#)



アンカーボルト設置精度の目標値
基準高さよりの誤差 eh
-3mm ≤ eh ≤ 10mm

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
6. 基礎コンクリート打設
7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

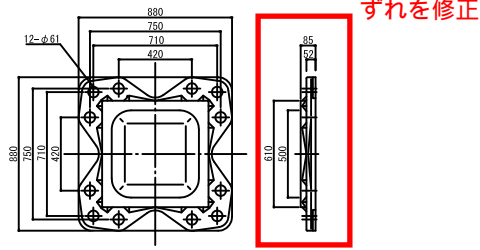
8. 鉄骨建方
アンカーボルト締付
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (#)
後詰めモルタル充填 (#)
アンカーボルト締付確認 (#)
ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。

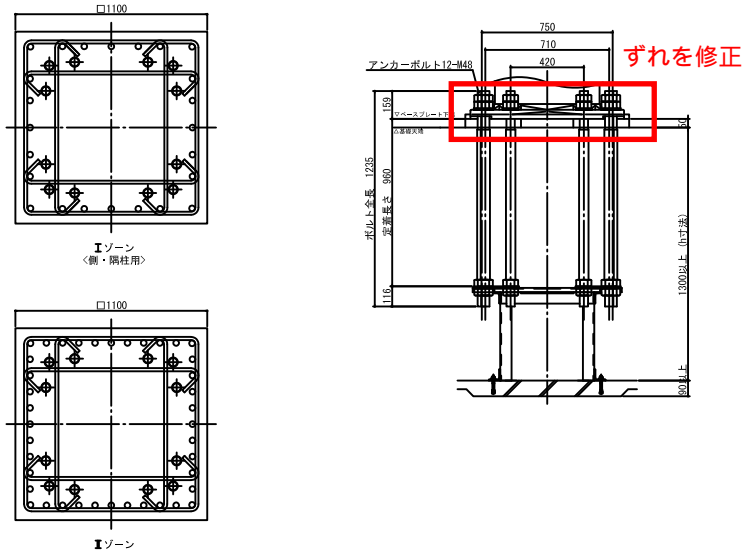
11. モルタル注入枠取り外し
施工完了後、ハイベスNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

GB600-12-48

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc21の場合)

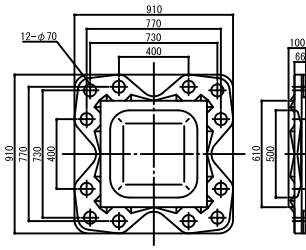


適用柱		角形鋼管柱 □600 (板厚範囲: 9~40mm)						
アンカーボルト		12-M48						
	柱形	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (L)
		基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1100	24-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	790	
<中柱用>	1100	20-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1100	40-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	790	

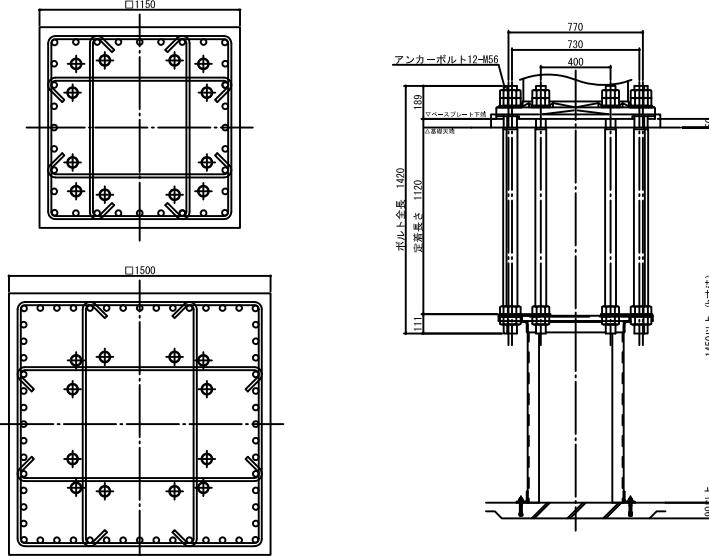
注1) I, II ゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

GB600-12-56

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc21の場合)

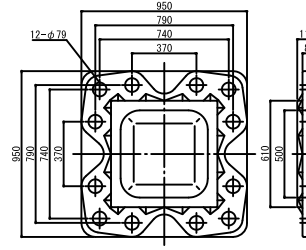


適用柱		角形鋼管柱 □600 (板厚範囲: 9~40mm)						
アンカーボルト		12-M56						
	柱形	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (L)
		基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1150	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1030	
<中柱用>	1150	28-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1500	56-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1030	

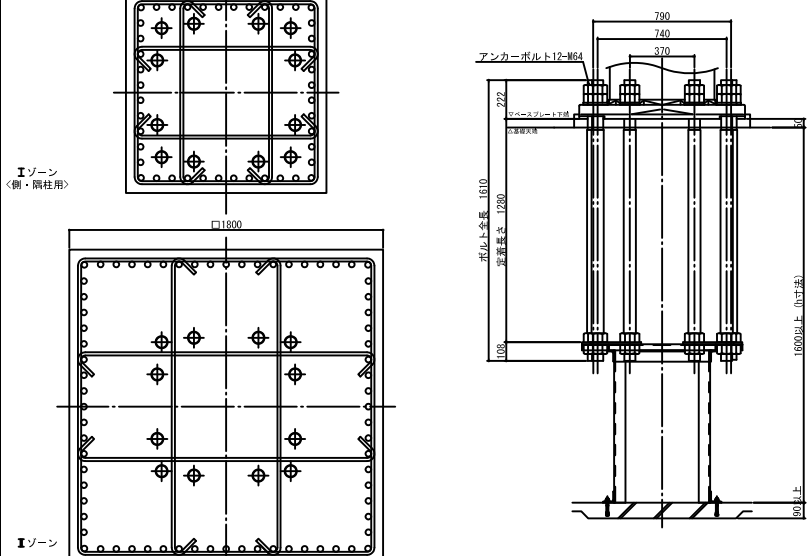
注1) I, II ゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

GB600-12-64

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例 (Fc21の場合)



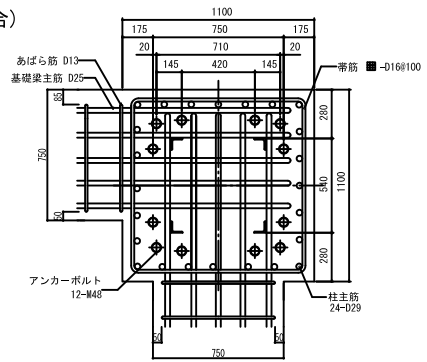
適用柱		角形鋼管柱 □600 (板厚範囲: 9~40mm)						
アンカーボルト		12-M64						
	柱形	Iゾーン			IIゾーン			鉄筋の定着長さ (L)
		基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋		
<側・隅柱用>	1150	44-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1190	
<中柱用>	1150	32-D29 (SD390)	■-D16#100 (SD295)	1800	72-D29 (SD390)	■-D16#80 (SD295)	1190	

注1) I, II ゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
 注2) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に使い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
 注3) <中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD13#250として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
 注4) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。
 注5) アンカーボルト設置用梁は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
 注6) 鉄筋の定着長さLは、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

基礎はり端部納まり例 (Fc21の場合)

柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数					
はり主筋	3	4	5	6			
D22	490~780	550~780	610~780	670~780			
D25	490~780	560~780	630~780	700~780			
D29	490~780	570~780	650~780	730~780			

柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋	2	3	4	5		
D22	240~450	300~450	360~450	420~450		
D25	250~450	320~450	390~450	*750		
D29	260~450	340~450	420~450	*750		

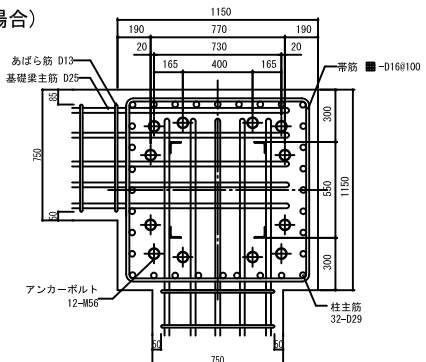


注1) 上記納まり例は I ゾーンの場合です。
 注2) *がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり幅寸法は変更できません。
 注3) 上記納まり例では中子筋を省略して作図しています。

基礎はり端部納まり例 (Fc21の場合)

柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数					
はり主筋	3	4	5	6			
D22	520~800	580~800	640~800	700~800			
D25	520~800	590~800	660~800	730~800			
D29	520~800	600~800	680~800	760~800			

柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋	2	3	4	5		
D22	240~440	300~440	360~440	420~440		
D25	250~440	320~440	390~440	*750		
D29	260~440	340~440	420~440	*750		

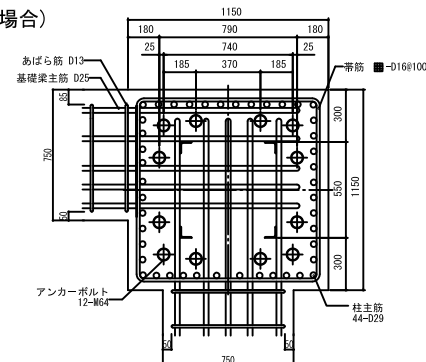


注1) 上記納まり例は I ゾーンの場合です。
 注2) *がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり幅寸法は変更できません。
 注3) 上記納まり例では中子筋を省略して作図しています。

基礎はり端部納まり例 (Fc21の場合)

柱形外面基礎はりタイプ		はり主筋本数					
はり主筋	3	4	5	6			
D22	540~780	600~780	660~780	720~780			
D25	540~780	610~780	680~780	750~780			
D29	540~780	620~780	700~780	780			

柱形中心基礎はりタイプ		はり主筋本数				
はり主筋	2	3	4	5		
D22	240~410	300~410	360~410	*750		
D25	250~410	320~410	390~410	*750		
D29	260~410	340~410	*750	*750		



注1) 上記納まり例は I ゾーンの場合です。
 注2) *がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、この基礎はり幅寸法は変更できません。
 注3) 上記納まり例では中子筋を省略して作図しています。

大臣認定 MSTL-0180 (ベースプレート)
 MBLT-0042~0046 (アンカーボルト)
 BCJ評定 BCJ評定-ST0058

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術規程、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・関係図 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法・スーパーハイベース工法設計施工ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ハイベース・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ハイベース	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット) ^{※2}	JIS G3106 ^{※2}	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	腐食比70%以下	—	SM490A	SS400

※1 鋼土質鋼材(MSTL-0180) ※2 鋼土質鋼材(MBLT-0042-0046) ※3 M72相当品

(2) ハイベース下面のモルタル **モルタル規定の修正**

後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
中心塗部分モルタル	0無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル(NX2000及びクイック3は使用不可。) 0強度はこれに接するコンクリートの強度以上

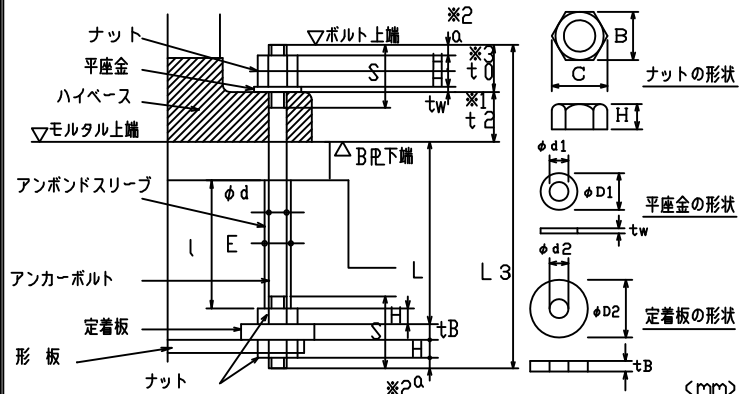
(3) 基礎・基礎ばり **コンクリート基準強度の修正**

コンクリート	0日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート」に規定する普通コンクリート。 0設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$ 以上
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱型	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.065倍(0.1倍)以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

【注意】 ボルト本数はハイベースの型式によって異なります。

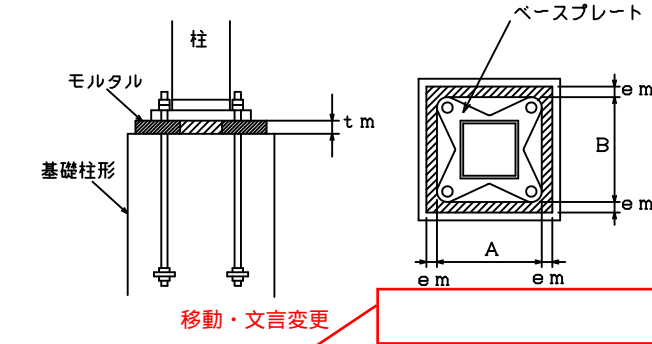
型式	C1・S1	S2・M2・L2・X2・WX2	S3・M3・L3
ボルト本数	4	8	12
形状例			



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ	ナット(一種)	平座金	定着板
	軸径	長さ				
M24	24	105	10	4	54	645
M30	30	130	13	600	6740	800
M36	36	150	16	720	8050	950(920)
M42	42	180	18	840	9560	1100(800)
M48	48	210	22	960	10770	1270(920)
M56	56	240	24	1120	12380	1470(1020)
M64	64	280	28	1280	14250	1660(1020)
M72	72	330	30	1440	158	1850

※1 t2 はハイベース台座厚さを示し、ハイベース型式によって変わります。
 ※2 a 寸法は、ハイベース台座の厚さによって多少変動しますが、本数値以上確保下さい。
 ※3 t0 は、ハイベース台座からボルト天端までの最小寸法をします。
 ※4 () 内は、B型の数値を示します。 ※B型はシングルナット仕様とする。
 ・アンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも通用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置をお願いします。
 (一重ナットとする場合は、センクシアにご相談下さい。)

3. 基礎柱形部の標準納まり



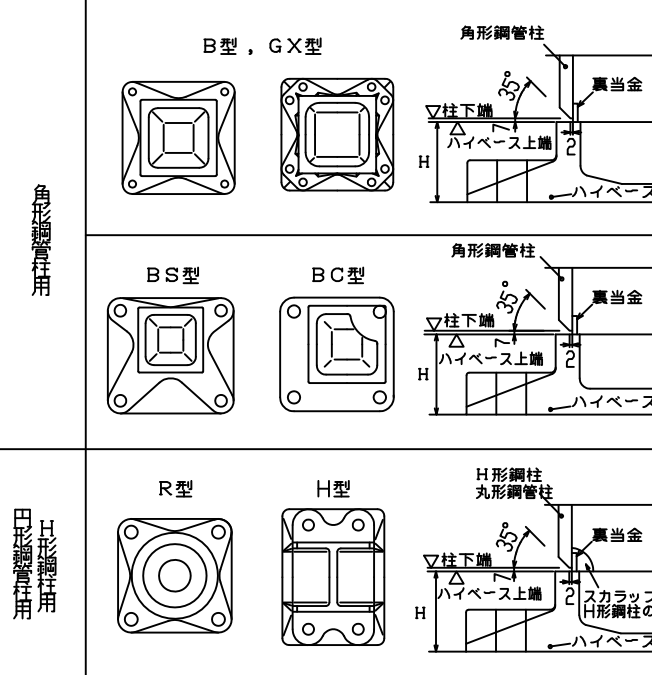
各部名称	寸法制限	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ(tm)	標準寸法 tm=50mm	許容範囲 30 ≤ tm ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅(em)	em ≥ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

工場加工

1. 溶接材料 **溶接材料の規定の修正**

被覆アーク溶接	低水素系490N/mm ² 級高強度鋼用(JIS Z3211、HJIS Z3212)相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm ² 級高強度鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ(JIS Z3312)相当以上

※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。
 2. ハイベースの鉄骨柱への取付け(柱端部に開先を設ける。)
 ※ 柱とハイベースの溶接は、完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる 【注意】 開先形状は参考



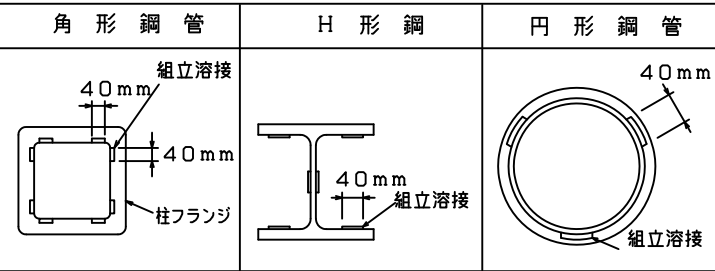
センクシア株式会社

東京 TEL 03-3615-5432
 札幌 TEL 011-708-1177
 東北 TEL 022-213-5595
 関東 TEL 027-322-9411
 中部 TEL 045-548-9881
 近畿 TEL 052-582-3356
 北陸 TEL 076-233-5260
 関西 TEL 06-6395-2133

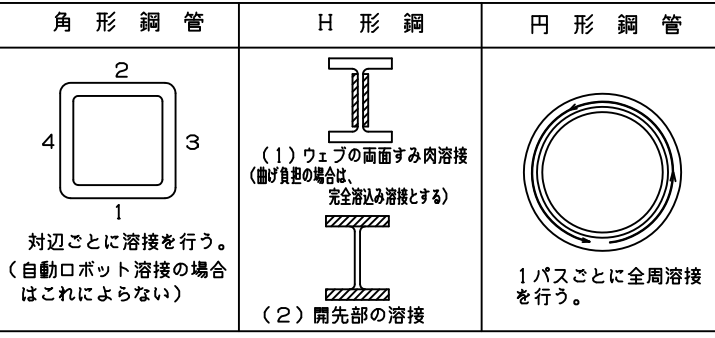
URL <https://www.senqcia.co.jp/>

【注意】 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、アンカーボルトの締め付け、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務づけられています。)
 2. 本資料以外の施工方法で行った場合、スーパーハイベースの性能が発揮できなくなります。

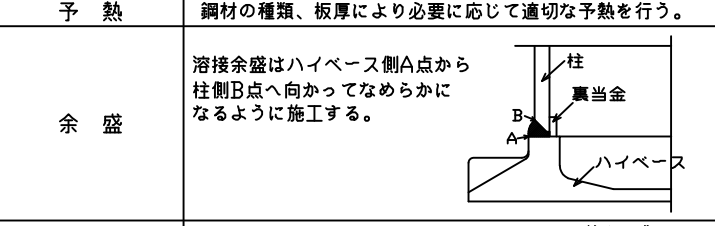
3. 組立溶接



4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般



H形鋼柱の溶接

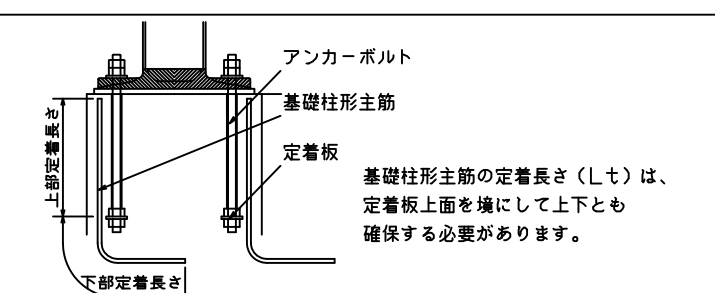


6. 検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査によってよい。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った面端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

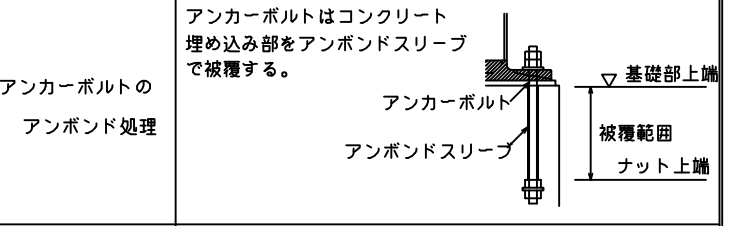
基礎柱形的设计

1. 基礎柱形主筋の定着長さ



現場施工

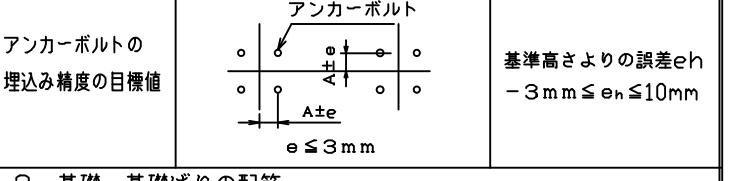
1. アンカーボルトの設置



アンカーボルトの設置



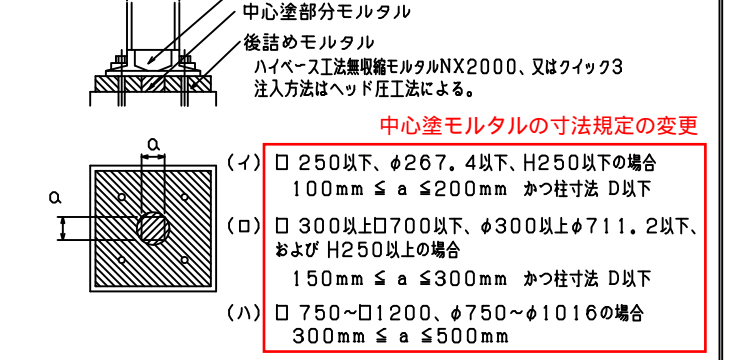
アンカーボルトの埋込み精度の目標値



2. 基礎・基礎ばりの配筋

3. コンクリートの打設

4. ハイベース下面モルタルの施工



中心塗部分モルタルの養生	普通モルタル	4日以上
	無収縮モルタル	2日以上
後詰めモルタルの養生	無収縮モルタル	アンカーボルトの締め付け後3日以上または、無収縮モルタルが基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上発現した後

5. アンカーボルトの締め付け

アンカーボルト	φ24	φ30	φ36	φ42	φ48	φ56	φ64	φ72
予備締め	20~30cmのレンチで400N程度の力で締め付ける。 ※トルクの目安 100N・m	40~50cmのレンチで400N程度の力で締め付ける。 ※トルクの目安 200N・m	70~80cmのレンチで400N程度の力で締め付ける。 ※トルクの目安 300N・m					
本締め	予備締めの状態からナットを、30°回転する。(許容差 +10°)							

予備締めが終了した段階で白ペンキ等に、ボルト・ナット・ハイベースにわたり図に示すようマーキングを施す。
 上ナットは下ナットの本締めした後40~50cmのレンチで軽く締めつける。

